

求来里の遺跡Ⅳ

— 県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(4) —

求来里平島遺跡 4 次の調査

2012年

日田市教育委員会



3号竖穴建物跡出土遺物集合写真

序 文

この報告書は、当委員会が平成17年に県営経営体育成基盤整備事業求来里地区の事業実施に伴って発掘調査を行った求来里平島遺跡4次調査の内容をまとめたものです。調査では、数多くの竪穴建物跡から成る古墳時代の集落跡が発見されました。求来里川流域では、圃場整備等の工事に伴うに調査によって、日田の古墳時代を考える上で非常に重要な地域であることが判明してきていますが、本遺跡においてもそのことを裏付ける貴重な資料を得ました。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や三芳地区の歴史解明、学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査中に多大なるご指導を賜りました熊本大学の杉井健先生をはじめ、ご協力を賜りました求来里地区圃場整備組合や地元の方々に、心から厚くお礼を申し上げます。

平成24年3月

日田市教育委員会

教育長 合原 多賀雄

例 言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成17年度に実施した求来里平島遺跡4次の発掘調査報告書である。
2. 調査は、平成17年度に県営経営体育成基盤整備事業求来里地区の事業実施に伴い、大分県日田地方振興局（現、大分県西部振興局）の委託業務として日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査にあたっては、大分県日田地方振興局耕地課（現、大分県西部振興局農林基盤部）、日田市役所農政課（現、農業振興課）、求来里地区圃場整備組合、および地元の方々のご協力を賜った。
4. 求来里平島遺跡では、過去に3度の発掘調査が実施されており、その内、日田市教育委員会が実施した平成5年度の調査を1次、平成15年度の調査を3次、大分県教育委員会が実施した平成14年度の調査を2次とし、今回を4次調査とした。
5. 発掘調査は若杉が担当した。
6. 遺構実測は若杉が行った他、雅企画有限会社に委託した。
7. 遺構写真撮影は、若杉が行い、空中写真撮影については、九州航空株式会社に委託し、その成果品を使用した。
8. 調査中は、現地にて杉井健先生（熊本大学准教授）のご指導・ご助言を賜った。
9. 石器石材については、一部を野田雅之先生（大分県地質学会会長）に肉眼観察により同定していただいた。
10. 遺物実測については、一部を若杉が行い、その他の遺物実測及び製図を雅企画有限会社に委託し、その成果品を使用した。
11. 遺構実測図の製図は雅企画有限会社に委託し、その成果品を使用した。
12. 遺物写真の撮影は国際文化財株式会社に委託し、その成果品を利用した。
13. 報告書作成にあたっては、伊藤一美・安元百合（日田市教育庁文化財保護課整理作業員）の協力を得た。
14. 挿図中の方位、文中の方位角は磁北を示す。
15. 写真図版の遺物に付した番号は、実測図番号に対応する。
16. 出土遺物および図面、写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
17. 本書の執筆・編集は若杉が行った。



本文目次

I 調査の経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 発掘作業の経過	3
(3) 整理等作業の経過	3
II 遺跡の立地と環境	5
III 調査の成果	7
(1) 調査の方法と概要	7
(2) 遺構と遺物	8
IV 総括	62

挿図目次

第1図	求来里平島遺跡調査区位置図 (1/5,000)	4	第31図	18号A竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	29
第2図	B地点全体図 (1/200)	4	第32図	18号B竪穴建物跡実測図 (1/80)	30
第3図	求来里川流域の遺跡分布図 (1/15,000)	6	第33図	18号B竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	30
第4図	A地点遺構配置図 (1/400)	7	第34図	18号C・D竪穴建物跡実測図 (1/80)	30
第5図	1号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80,1/4)	8	第35図	19号A・B・C竪穴建物跡、 カマド実測図 (1/80,1/40)	31
第6図	2号A・B竪穴建物跡、出土遺物 (1/80,1/4)	8	第36図	19号A・C竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	32
第7図	3号竪穴建物跡、カマド、 出土遺物実測図(1) (1/80,1/40,1/4・1/2)	9	第37図	20号竪穴建物跡実測図 (1/80)	32
第8図	3号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) (1/4)	10	第38図	20号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	33
第9図	3号竪穴建物跡出土遺物実測図(3) (1/4)	11	第39図	21号竪穴建物跡、カマド、 出土遺物実測図(1) (1/80,1/40,1/4)	34
第10図	4号竪穴建物跡実測図 (1/80)	12	第40図	21号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) (1/4)	35
第11図	4号竪穴建物跡カマド、 出土遺物実測図 (1/40,1/4)	12	第41図	22号A竪穴建物跡実測図 (1/80)	36
第12図	5号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/80,1/4)	13	第42図	22号A竪穴建物跡カマド、 出土遺物実測図 (1/40,1/4)	36
第13図	6号A・B竪穴建物跡実測図 (1/80)	14	第43図	22号B竪穴建物跡、カマド、 出土遺物実測図 (1/80,1/40,1/4)	37
第14図	6号B竪穴建物跡カマド実測図 (1/40)	14	第44図	22号C竪穴建物跡実測図 (1/80)	37
第15図	6号A・B竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4・1/2)	15	第45図	22号C竪穴建物跡カマド、 出土遺物実測図 (1/40,1/4)	38
第16図	7号竪穴建物跡、カマド、 出土遺物実測図 (1/80,1/40,1/4)	16	第46図	22号D竪穴建物跡実測図 (1/80)	38
第17図	8号竪穴建物跡、カマド、 出土遺物実測図 (1/80,1/40,1/4)	16	第47図	22号A・B・C・D竪穴建物跡 出土遺物実測図 (1/4)	39
第18図	9号A竪穴建物跡、カマド、 出土遺物実測図 (1/80,1/40,1/4・1/2)	17	第48図	23号A竪穴建物跡実測図 (1/80)	40
第19図	9号B竪穴建物跡 出土遺物実測図 (1/80,1/4・1/2)	18	第49図	23号A竪穴建物跡 出土遺物実測図(1) (1/4)	40
第20図	10号竪穴建物跡、 カマド実測図 (1/80,1/40)	19	第50図	23号A竪穴建物跡 出土遺物実測図(2) (1/4)	41
第21図	10号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	20	第51図	23号B竪穴建物跡、 カマド実測図 (1/80,1/40)	42
第22図	11号竪穴建物跡、カマド、 出土遺物実測図 (1/80,1/40,1/4)	21	第52図	23号B竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	43
第23図	12号竪穴建物跡、 カマド実測図 (1/80,1/40)	22	第53図	23号C竪穴建物跡、 カマド実測図 (1/80,1/40)	44
第24図	12号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	22	第54図	23号C竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	45
第25図	13号竪穴建物跡、カマド、 出土遺物実測図 (1/80,1/40,1/4)	23	第55図	23号A・B・C竪穴建物跡 出土遺物実測図 (1/4・1/6)	45
第26図	14号竪穴建物跡、 出土遺物実測図 (1/80,1/4)	24	第56図	24号A・B竪穴建物跡、カマド、24号A竪穴建物跡 出土遺物実測図 (1/80,1/40,1/4)	46
第27図	16号竪穴建物跡、 出土遺物実測図 (1/80,1/4)	25	第57図	24号B竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	47
第28図	17号A・B・C竪穴建物跡、 カマド実測図 (1/80,1/40)	26	第58図	24号A・B竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	47
第29図	17号A・B・C竪穴建物跡 出土遺物実測図 (1/4)	27	第59図	25号竪穴建物跡実測図 (1/80)	48
第30図	18号A竪穴建物跡、 カマド実測図 (1/80,1/40)	28	第60図	25号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)	48
			第61図	26号竪穴建物跡、カマド、 出土遺物実測図 (1/80,1/40,1/4)	49
			第62図	27号竪穴建物跡実測図 (1/80)	49

第63図	27号竪穴建物跡 出土遺物実測図(1/4・1/6).....	50	第69図	土坑、ピット、グリッド一括 出土遺物実測図(1/4).....	57
第64図	1・2・4・5掘立柱建物跡、 出土遺物実測図(1/80,1/4).....	51	第70図	出土玉類・土製品・ 石製品実測図(1/1・1/2).....	58
第65図	3号掘立柱建物跡実測図(1/100).....	52	第71図	出土石器実測図(1)(1/1・1/3).....	59
第66図	土坑実測図(1)(1/40).....	54	第72図	出土石器実測図(2)(2/3).....	60
第67図	土坑実測図(2)(1/40・1/60).....	56	第73図	出土石器実測図(3)(2/3).....	61
第68図	ピット実測図(1/10).....	56	第74図	出土石器実測図(4)(2/3).....	62

本文写真目次

写真1	発掘作業風景.....	4
-----	-------------	---

表目次

第1表	求来里川流域における古墳時代建物跡変遷表.....	64
第2～10表	出土土器観察表(1)～(9).....	65～73
第11表	出土土製品・石製品・玉類観察表.....	73
第12表	出土石器観察表.....	74

写真図版目次

巻頭写真図版	3号竪穴建物跡出土遺物集合写真	写真図版19	上	21号竪穴建物跡発掘状況(南から)
写真図版1	上 A地点調査区全景(南から)	中	21号竪穴建物跡遺物出土状況	
	下 調査区全景(北東から)	下	21号竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	
写真図版2	上 1号竪穴建物跡発掘状況(東から)	写真図版20	上	21号竪穴建物跡カマド遺物出土状況(南から)
	中 3号竪穴建物跡発掘状況(西から)	中	22号A竪穴建物跡発掘状況(南から)	
	下 3号竪穴建物跡カマド発掘状況(西から)	下	22号A竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	
写真図版3	上 3号竪穴建物跡カマド発掘状況(西から)	写真図版21	上	22号A竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)
	中 3号竪穴建物跡遺物出土状況	中	22号B竪穴建物跡発掘状況(南から)	
	下 4号竪穴建物跡発掘状況(南から)	下	22号B竪穴建物跡カマド遺物出土状況	
写真図版4	上 4号竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	写真図版22	上	22号C竪穴建物跡発掘状況(東から)
	中 5号竪穴建物跡発掘出土状況(北から)	中	22号C竪穴建物跡カマド発掘状況(東から)	
	下 5号竪穴建物跡遺物出土状況	下	22号D竪穴建物跡発掘状況(西から)	
写真図版5	上 6号A・B竪穴建物跡発掘状況(南から)	写真図版23	上	23号A竪穴建物跡発掘状況(南から)
	中 6号A竪穴建物跡遺物出土状況	中	23号A竪穴建物跡遺物出土状況	
	下 6号B竪穴建物跡発掘状況(東から)	下	23号B竪穴建物跡遺物出土状況(西から)	
写真図版6	上 7号竪穴建物跡発掘状況(南西から)	写真図版24	上	23号B竪穴建物跡カマド発掘状況(西から)
	中 7号竪穴建物跡カマド発掘状況(南西から)	中	23号B竪穴建物跡カマド遺物出土状況	
	下 7号竪穴建物跡遺物出土状況	下	23号C竪穴建物跡発掘状況(南から)	
写真図版7	上 8号竪穴建物跡発掘状況(南から)	写真図版25	上	23号C竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)
	中 8号竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	中	23号C竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	
	下 9号A竪穴建物跡発掘状況(西から)	下	23号C竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	
写真図版8	上 9号A竪穴建物跡カマド発掘状況(西から)	写真図版26	上	24号A竪穴建物跡発掘状況(北西から)
	中 9号A竪穴建物跡遺物出土状況	中	24号A竪穴建物跡カマド発掘状況(北西から)	
	下 9号B竪穴建物跡発掘状況(東から)	下	24号A竪穴建物跡遺物出土状況	
写真図版9	上 10号竪穴建物跡発掘状況(西から)	写真図版27	上	24号A・B竪穴建物跡発掘状況(南から)
	中 10号竪穴建物跡カマド発掘状況(西から)	中	24号B竪穴建物跡カマド遺物出土状況	
	下 10号竪穴建物跡カマド発掘状況(西から)	下	25号竪穴建物跡発掘状況(南から)	
写真図版10	上 10号竪穴建物跡遺物出土状況	写真図版28	上	26号竪穴建物跡発掘状況(南から)
	中 11号竪穴建物跡発掘状況(南から)	中	26号竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	
	下 11号竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	下	26号竪穴建物跡カマド遺物出土状況	
写真図版11	上 11号竪穴建物跡カマド遺物出土状況	写真図版29	上	27号竪穴建物跡発掘状況(にしから)
	中 12号竪穴建物跡発掘状況(南から)	中	27号竪穴建物跡遺物出土状況	
	下 12号竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	下	1号掘立柱建物跡発掘状況(南西から)	
写真図版12	上 12号竪穴建物跡遺物出土状況	写真図版30	上	2号掘立柱建物跡発掘状況(南東から)
	中 13号竪穴建物跡発掘状況(南西から)	中	3号掘立柱建物跡発掘状況(南西から)	
	下 13号竪穴建物跡カマド発掘状況(南西から)	下	4号掘立柱建物跡発掘状況(東から)	
写真図版13	上 13号竪穴建物跡遺物出土状況	写真図版31	上	5号掘立柱建物跡発掘状況(南から)
	中 14号竪穴建物跡発掘状況(南西から)	中	1号土坑発掘状況(北から)	
	下 14号竪穴建物跡遺物出土状況	下	2号土坑発掘状況(南東から)	
写真図版14	上 16号竪穴建物跡発掘状況(南東から)	写真図版32	上	3号土坑発掘状況(東から)
	中 16号竪穴建物跡カマド発掘状況(南東から)	中	4号土坑発掘状況(南西から)	
	下 17号A・B・C竪穴建物跡発掘状況(南東から)	下	5号土坑発掘状況(北東から)	
写真図版15	上 17号A・B・C竪穴建物跡発掘状況(南から)	写真図版33	上	6号土坑発掘状況(南から)
	中 17号A竪穴建物跡カマド発掘状況(南西から)	中	7号土坑発掘状況(東から)	
	下 17号A竪穴建物跡カマド遺物出土状況	下	8号土坑発掘状況(東から)	
写真図版16	上 18号A竪穴建物跡発掘状況(南から)	写真図版34	上	9号土坑発掘状況(東から)
	中 18号A竪穴建物跡カマド発掘状況(南から)	中	10号土坑発掘状況(北から)	
	下 18号A竪穴建物跡遺物出土状況	下	10号土坑遺物出土状況	
写真図版17	上 18号B竪穴建物跡発掘状況(西から)	写真図版35	上	11号土坑発掘状況(北から)
	中 18号C竪穴建物跡発掘状況(東から)	下	B地点全景(西から)	
	下 19号A・B・C竪穴建物跡発掘状況(西から)	写真図版36～56	出土遺物	
写真図版18	上 19号A竪穴建物跡カマド発掘状況(西から)			
	中 19号B・C竪穴建物跡発掘状況(東から)			
	下 20号竪穴建物跡発掘状況(北から)			

I 調査の経過

(1) 調査に至る経緯

県営経営体育成基盤整備事業求来里地区全体の調査に関する経緯については、『求来里の遺跡Ⅰ』に記述しているため、ここでは割愛し、求来里平島遺跡4次調査の経緯について述べる。

求工区内に所在する本遺跡の発掘調査については、大分県日田地方振興局耕地課（現大分県西部振興局農林基盤部、以下県耕地課）の事業の進捗に合わせて、当初平成17年度前半に着手する予定としていた。しかし、ほ場整備工事と平行して行われる求来里川の河川工事の残土をほ場に使用することとしていたが、諸事情により、河川工事が平成18年度以降にずれ込んだ。これにより、今回の対象地の工事にも遅れが生じ、稲の作付けを行うことになったことから、調査の着手も稲刈り後の秋以降にずれ込んだ。

また、調査対象となる箇所については、予備調査の結果や工事の設計高などから3箇所を予定としていた（北から旧E・F・G区、第1図）。その後の県耕地課協議により、G区については盛土保存されることになったことから、調査対象から除外した。

以上の経過により平成17年11月21日に大分県日田地方振興局と委託契約を取り交わし、平成18年3月24日までの予定で調査に着手した（発掘調査の経過については、後述する）。

なお、発掘作業と整理等作業の体制は以下のとおりである。（職名は当時のまま）

平成17年度

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 諫山康雄（日田市教育委員会教育長）

調査統括 後藤 清（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務 高倉隆人（日田市教育庁文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）

伊藤京子（同専門員）若杉竜太（同主任）中村邦宏（同主事補）

調査担当 若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主任）

調査員 土居和幸（日田市教育庁文化財保護課副主幹）

今田秀樹 行時桂子 渡邊隆行（以上、同主任）矢羽田幸宏（同主事補）

発掘作業員 足立米子 穴井正利 安藤一枝 諫元正隆 石谷アサカ 梅木忠臣 荻隈マサ子 梶原シゲ子

河津信義 河津モリ 河部松子 北澤幾子 小下一 五島絹代 財津勲子 財津高子 定賀和子

高倉美津子 高倉美利 高野瞳 谷口芳枝 中島カズ子 藤本弥八 松間敦子 本松シヅエ

森本絹子 吉長利夫

調査補助員 杉野貴幸 豊田沙和美 中川照美

整理作業員 朝倉眞佐子 穴井トヨ子 石松裕美 伊藤一美 井上とし子 宇野富子 鍛冶谷節子 梶原ヒトエ

川原君子 黒川舞 佐藤みちこ 武石和美 田中静香 中原琴枝 聖川暢子 平川優子 安元百合

吉田千津子

指導者 杉井 健（熊本大学助教授）

来訪者 小田富士雄（福岡大学名誉教授）下村 智（別府大学教授）玉川剛司（別府大学講師）

平成18年度

調査主体 日田市教育委員会
調査責任者 諫山康雄（日田市教育委員会教育長）
調査統括 後藤 清（日田市教育庁文化財保護課長）
調査事務 高倉隆人（日田市教育庁文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）
田中正勝 伊藤京子（同専門員） 若杉竜太（同主任） 中村邦宏（同主事補）
整理担当 若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主任）
調査員 今田秀樹 行時桂子 渡邊隆行（以上、日田市教育庁文化財保護課主任）
矢羽田幸宏（同主事）
整理指導者 河野一隆（九州国立博物館） 丸山康晴（春日市教育委員会）
整理補助員 杉野貴幸 中川照美
整理作業員 朝倉眞佐子 穴井トヨ子 石松裕美 伊藤一美 井上とし子 宇野富子 鍛冶谷節子 川原君子
黒木千鶴子 坂口豊子 佐藤みちこ 武石和美 田中静香 中原琴枝 聖川楊子 平川優子
安元百合 吉田千津子

平成19年度

調査主体 日田市教育委員会
調査責任者 諫山康雄（日田市教育委員会教育長、～平成19年8月）
合原多賀雄（同教育長、平成19年9月～）
調査統括 梶原孝史（日田市教育庁文化財保護課長、～平成19年9月）
原田文利（同文化財保護課長、平成19年10月～）
調査事務 井上正一郎（日田市教育庁文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）
田中正勝 伊藤京子（同専門員） 塚原美保（同主査） 若杉竜太（同主任）
整理担当 若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主任）
調査員 今田秀樹（日田市教育庁文化財保護課主査）
行時桂子 渡邊隆行（以上、同主任） 矢羽田幸宏（同主事）
整理作業員 黒木千鶴子 佐藤みちこ 武石和美 中川照美 中原琴枝 坂口豊子

平成21年度

調査主体 日田市教育委員会
調査責任者 合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）
調査統括 原田文利（日田市教育庁文化財保護課長）
調査事務 北村 羊（日田市教育庁文化財保護課主幹兼埋蔵文化財係長）
河津美広（同専門員） 塚原美保（同主査） 若杉竜太（同主任）
整理担当 若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主任）
調査員 今田秀樹 行時桂子（以上、日田市教育庁文化財保護課主査）
渡邊隆行（同主任） 矢羽田幸宏（同主事）
整理作業員 石松裕美 佐藤みちこ 武石和美 中川照美 中原琴枝 平川優子

平成23年度

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 合原多賀雄（日田市教育委員会教育長）

調査統括 財津隆之（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務 土居和幸（日田市教育庁文化財保護課埋蔵文化財係長）

華藤善紹 井上和泉 若杉竜太（以上、同主査）

報告書担当 若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主査）

調査員 行時桂子 渡邊隆行（以上、日田市教育庁文化財保護課主査） 上原翔平（同主事）

(2) 発掘作業の経過

発掘作業は平成17年12月21日に着手した。以下、その経過を記す。

平成17年12月21日 重機搬入、表土剥ぎ開始。

平成18年 1月11日 作業員による遺構検出及び一部遺構掘下げ開始

1月16日 基準点測量実施

1月18日 遺構実測開始

1月23日 遺構検出終了

2月9日 福岡大学小田富士雄名誉教授来訪

2月10日 別府大学下村智教授、玉川剛司講師来訪

3月14日 熊本大学杉井助教現地指導

3月21日 空中写真撮影実施

3月24日 器材整理、撤収し、調査終了

また、B地点（旧E区）については、隣接する農道建設に伴う1次調査において、集落の存在が確認されていたことから、予備調査は行わずに調査対象としていた。そこで、調査は対象地にあったビニールハウス撤去後の平成18年2月22日に着手し、表土剥ぎを行った。しかし、既に大きく削平を受けており、黄褐色粘質土の地山のみが検出され、遺構・遺物は確認されなかったことから調査区の測量のみを行って、調査を終了した（第2図図版35）。

(3) 整理等作業の経過

整理等作業は、調査実施中の平成17年度より着手し、平成18年度以降も実施し、以下の内容で各年度の委託契約を締結した。

平成18年度 平成18年4月10日～平成19年1月31日 整理等作業

平成19年度 平成19年5月1日～平成20年2月29日 整理等作業

平成21年度 平成21年5月1日～平成22年3月19日 整理等作業

平成19年度までに遺物の復元までをほぼ終了し、平成21年度は、他の遺跡とともに求来里地区報告書作成事業として、契約を一本化した。この年度は一部の遺物の復元の見直しや石膏による補強等を実施し、遺物の実測・製図・写真撮影及び遺構製図について、委託業務を実施した。

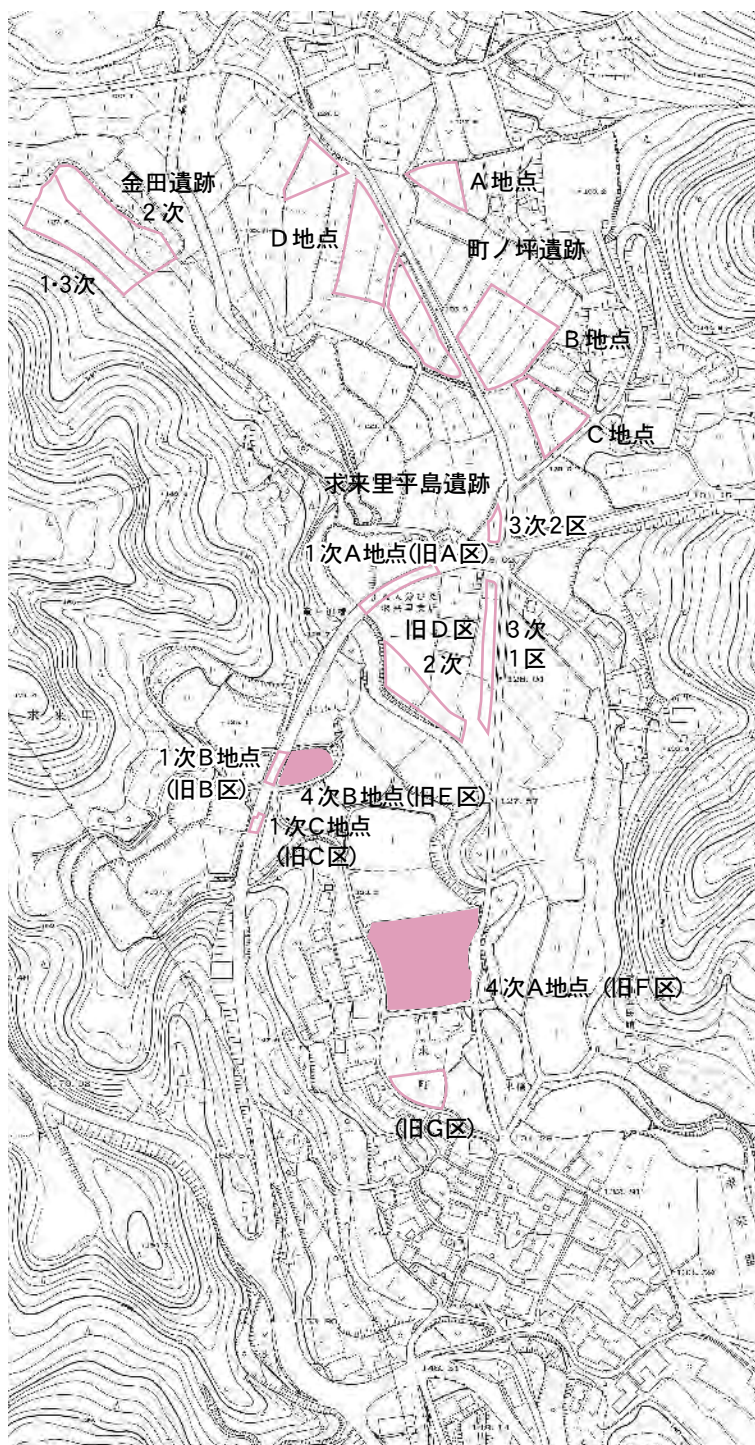
また、遺物を観察していくにあたり、良好なセット関係が伺える一括資料や日田盆地内では出土例がなかった黒色処理を施した模倣坏など、資料的な価値が高いと判断できる遺物が多数あり、これらについては熊本大学・杉井准教授に実見いただき、指導を受けた。この他土師器等で器面の剥落等で脆くなっている遺物については、

バインダー処理を施した。

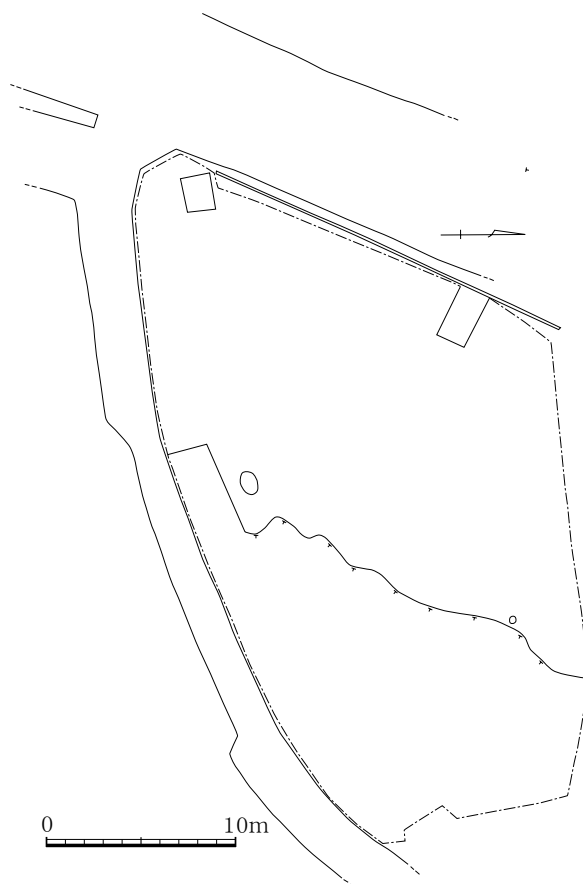
平成23年度の報告書作成に伴う整理作業及び報告書の刊行について、平成21年度で当該事業が終了したことにより、事業者側からの予算措置がなくなったため、市の単独事業である埋蔵文化財発掘調査報告書作成事業により予算化し、事業を実施した。

また、発掘調査、整理等作業にあたり、前述の指導者・来訪者の方々のほかに、次の方々にも有益なご教示・ご指導を頂き、お世話になった（敬称略・五十音順）。

池ノ上宏 木村龍生 重藤輝行 田中裕介 橋本達也 原俊一 柳沢一男 吉田和彦



第1図 求来里平島遺跡調査区位置図 (1/5,000)



第2図 B地点全体図 (1/400)



写真1 発掘作業風景

II 遺跡の位置と環境

求来里平島遺跡の所在する求来里地区は盆地の東部に位置し、天瀬町馬原を源とする求来里川により形成された沖積地が狭い谷状の地形を呈している。求来里川は大きく蛇行を繰り返しながら、北西方向に流れ、遺跡の北約2kmの地点で有田川と合流する。

求来里地区及び求来里川流域では、ほ場整備事業に伴って行われた発掘調査の他にも、道路建設や河川改修による発掘調査が行われている。ここでは、それらの遺跡を中心に求来里川流域の遺跡を概観していく。

求来里平島遺跡の北西側約600mの台地裾には、弥生時代中期から終末期にかけての集落が確認された小西遺跡⁽⁴⁾がある。小西遺跡の南側には求来里川を挟んで金田遺跡⁽²⁾と町ノ坪遺跡⁽³⁾が存在する。金田遺跡では弥生時代中期後半から古墳時代後期の集落、町ノ坪遺跡では古墳時代中期から後期の集落が確認された。この2遺跡ともに古墳時代中期の集落では朝倉産の初期須恵器や朝鮮半島系土器が出土しており、地床炉からカマド導入期の集落変遷が伺える。

求来里平島遺跡の南側には弥生時代・古墳時代の包蔵地である着来遺跡⁽⁵⁾がある。着来遺跡の東側、求来里川が形成する谷の最奥部には縄文時代前期を中心とした包含層、古墳時代後期～終末期の集落や中世の墓地が確認された名里遺跡⁽⁶⁾が存在する。

一方、谷の北側には町野原台地が広がり、台地一帯は旧石器時代・縄文時代・古墳時代の包蔵地である町野原遺跡⁽⁷⁾が存在する。また、台地の南東側に円墳の亀ノ甲古墳⁽⁸⁾、さらに台地から西側に派生し、小西遺跡背後にあたる丘陵上には、横穴式石室を主体とし、3基の円墳からなるガニタ古墳群^(10~12)がある。

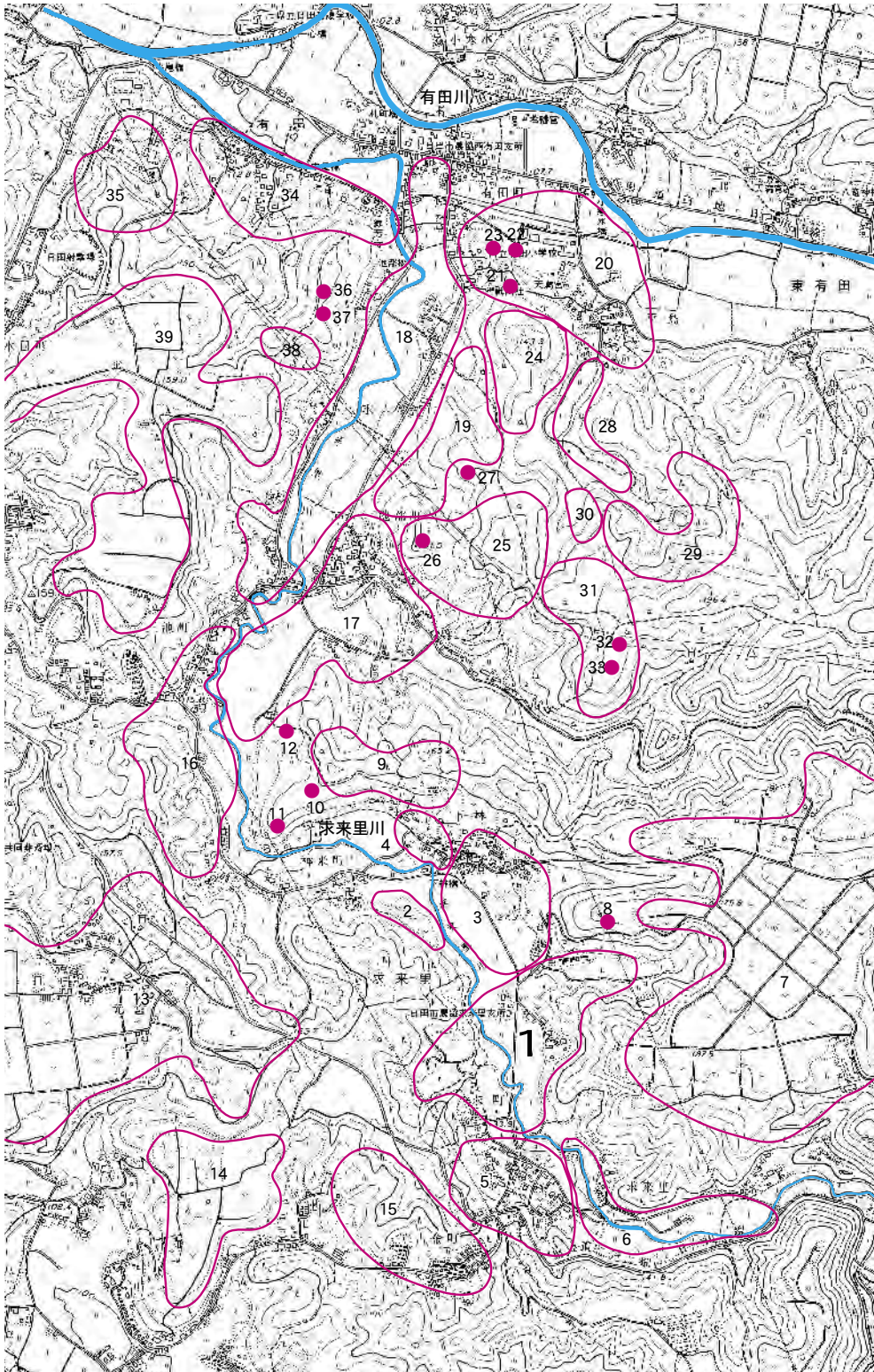
また、谷南側の元宮原台地上には弥生時代後期の甕棺墓・石棺墓や古墳時代後期の石蓋土坑墓、中世の塚と笠塔婆などが見つかった元宮遺跡⁽¹³⁾が存在する。弥生時代～古墳時代にかけての墓地は、求来里川流域に展開する同時期の集落との関係を想起させる。

さらに、求来里地区から求来里川を下流に下った有田地区でも、沖積地及び周辺の丘陵上に多くの遺跡がみられる。小西遺跡の西約600mの丘陵上には古墳時代の集落や古代の土坑墓が見つかった馬形遺跡⁽¹⁶⁾がある。さらに下流の沖積地及び微高地上には、縄文時代晩期の埋甕や平安時代の竪穴遺構が確認された森ノ元遺跡⁽¹⁷⁾や弥生時代の墓地や古墳時代の集落、300枚を超える六道銭が埋納された土坑墓が確認された尾漕遺跡⁽¹⁸⁾が存在する。また、求来里川右岸の台地上には、弥生時代から古墳時代にかけての集落や近世墓群が見つかった祇園原遺跡⁽²⁴⁾、古墳時代から古代を中心とする集落が確認された長迫遺跡⁽¹⁹⁾、古墳時代後期の横穴式石室を主体とする塔ノ本1号墳⁽²¹⁾などが存在する。一方、左岸の台地上には古墳時代の土坑墓・石蓋土坑墓・石棺墓などが確認された大迫遺跡⁽³⁸⁾や3基の円墳からなる中尾古墳群^(36・37)が存在する。

(参考文献)

- 若杉竜太編『平成15年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2004
渡邊隆行編『平成16年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2005
今田秀樹編『平成17年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2007
矢羽田幸宏編『平成18年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2008
土居和幸・行時志郎・永田裕久編『会所宮遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第11集 日田市教育委員会 1996
松下桂子編『牧原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第12集 日田市教育委員会 1997
村上久和・友岡信彦・染矢和徳編『日田条里遺跡群・佐寺横穴墓群・大迫遺跡・白岩遺跡・下綾垣遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 大分県教育委員会 1997
行時志郎編『森ノ元遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第13集 日田市教育委員会 1998
土居和幸・行時志郎・永田裕久編『馬形遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第16集 日田市教育委員会 1998
友岡信彦・松本康弘『佐寺原遺跡・尾漕遺跡群・有田塚ヶ原古墳群』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(9) 大分県教育委員会 1998
村上久和・原田昭一編『尾漕遺跡』大分県文化財調査報告書第112輯 大分県教育委員会 2000
若杉竜太編『平島遺跡D地点 塔ノ本古墳 祇園原遺跡2次 長迫遺跡C地点 長迫遺跡D地点 尾漕遺跡6次』日田市埋蔵文化財調査報告書第28集 日田市教育委員会 2001
渡邊隆行編『大波羅遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第29集 日田市教育委員会 2001
行時志郎編『尾漕遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第30集 日田市教育委員会 2001

土居和幸編『求来里平島遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第38集 日田市教育委員会 2003
 若杉竜太編『日田条里飛矢地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第40集 日田市教育委員会 2003
 若杉竜太編『日田条里大原地区』日田市埋蔵文化財調査報告書第47集 日田市教育委員会 2004
 行時桂子編『尾漕2号墳』日田市埋蔵文化財調査報告書第69集 日田市教育委員会 2006
 若杉竜太・矢羽田幸宏編『上井手遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第76集 日田市教育委員会 2007
 行時桂子編『求来里平島遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第77集 日田市教育委員会 2007
 行時桂子編『祇園原遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第81集 日田市教育委員会 2007
 矢羽田幸宏編『上井手遺跡3次』日田市埋蔵文化財調査報告書第86集 日田市教育委員会 2008
 行時桂子編『祇園原遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第87集 日田市教育委員会 2008
 田中裕介・原田昭一・松本康弘編『求来里平島遺跡D区、求来里名里遺跡A区1次調査区、金田遺跡1次調査区、金田遺跡3次調査区』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第31集 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2008
 若杉竜太『求来里の遺跡Ⅲ 小西遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第91集 2010



- 1 求来里平島遺跡
- 2 金田遺跡
- 3 町ノ坪遺跡
- 4 小西遺跡
- 5 着来遺跡
- 6 名里遺跡
- 7 町野原遺跡
- 8 亀ノ甲古墳
- 9 倉迫遺跡
- 10 ガニタ2号墳
- 11 ガニタ2号墳
- 12 ガニタ2号墳
- 13 元宮遺跡
- 14 東寺原遺跡
- 15 古金遺跡
- 16 馬形遺跡
- 17 森ノ元遺跡
- 18 尾漕遺跡
- 19 長迫遺跡
- 20 平島遺跡
- 21 塔ノ本1号墳
- 22 塔ノ本2号墳
- 23 塔ノ本3号墳
- 24 祇園原遺跡
- 25 狐迫遺跡
- 26 尾漕1号墳
- 27 尾漕2号墳
- 28 石ヶ迫遺跡
- 29 平島横穴墓群
- 30 クビリ遺跡
- 31 有田塚ヶ原遺跡
- 32 ツカヶ原1墳
- 33 ツカヶ原2墳
- 36 中尾1号墳
- 37 中尾2号墳
- 38 大迫遺跡
- 39 中尾原遺跡

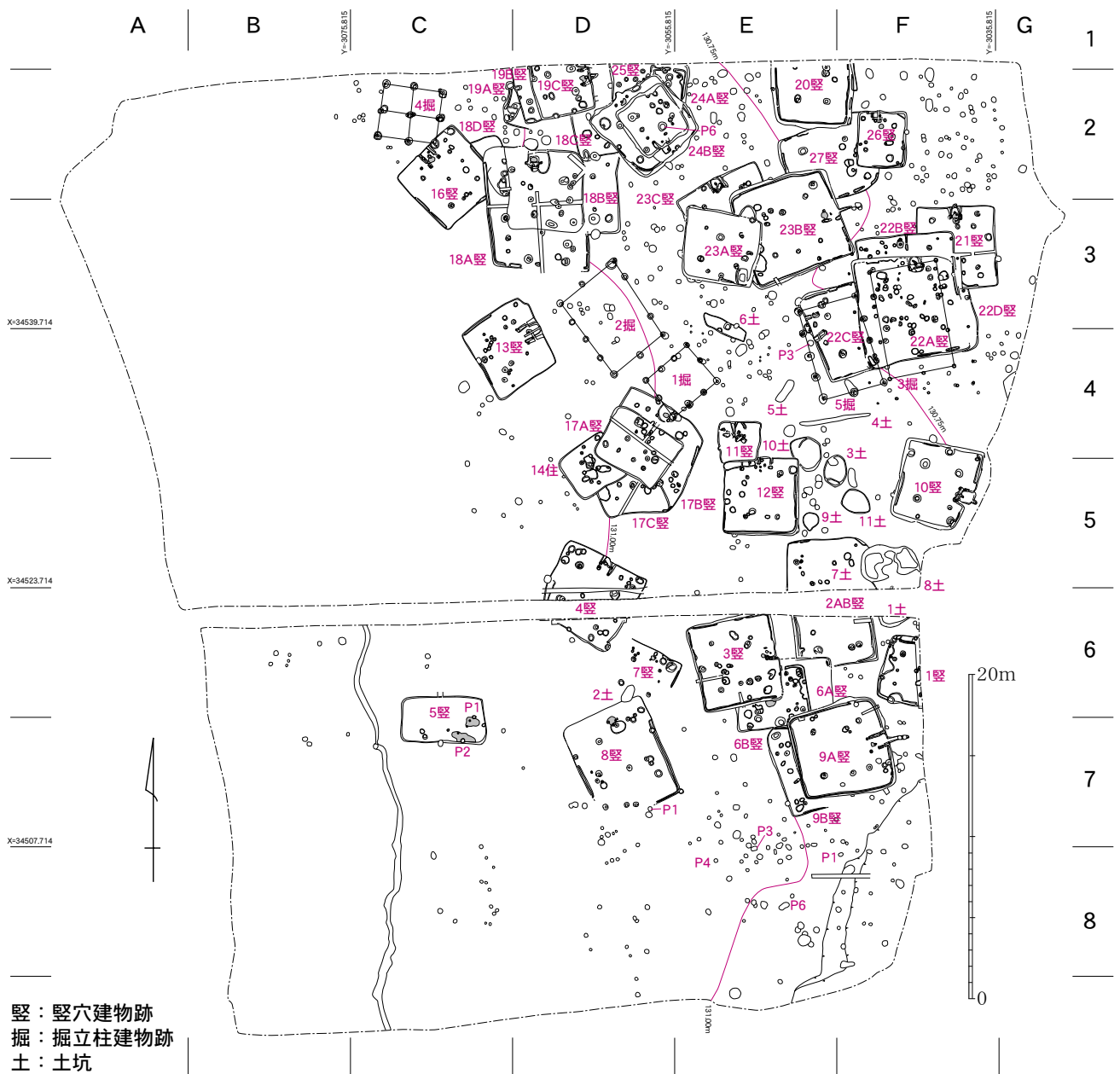
第3図 求来里川流域の遺跡分布図 (1/15,000)

III 調査の成果

(1) 調査の方法と概要

A地点の調査では、機械による表土除去後、南側から北側へ向かって遺構検出を行った。その際、旧水田の境界にはコンクリートブロックが存在していたが、これを除去すると双方に跨る遺構を損なう恐れがあったことから、撤去は行わなかった。なお、本文中ではこのコンクリートブロックを境にして、便宜的に北側調査区・南側調査区としている。遺構の検出状況については、古墳時代の竪穴建物跡を中心に多くが確認されたが、山側にあたる西側では遺構はほとんど存在せず、大部分が東側に存在していた。こうした状況から、東側は後世の削平を受けていた可能性も想定できる。なお、遺物は土師器・須恵器を中心にコンテナケース25箱分が出土した。

また、調査区内を10m×8mのグリッドに分け、西から東へA～G、北から南へ1～9とし、遺物の取り上



第4図 A地点遺構配置図(1/400)

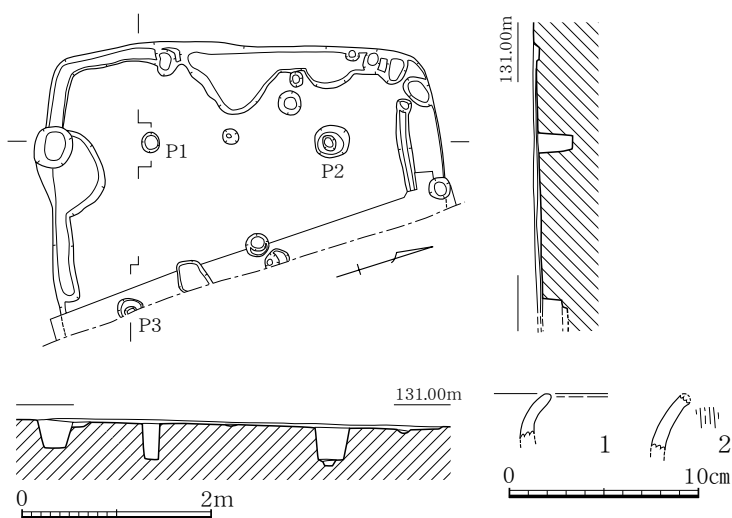
げやピット番号を付すのに利用している。なお、竪穴建物跡のうち、15号竪穴建物跡については、調査中に竪穴建物跡ではないと判断したことから、欠番とし、出土した遺物については、グリッド一括とした。また、6号A竪穴建物跡・6号B竪穴建物跡など、同一番号の建物を細分しているものがあるが、遺物が何れの建物から出土したか不明な場合は、6号竪穴建物跡出土としている。

(2) 遺構と遺物

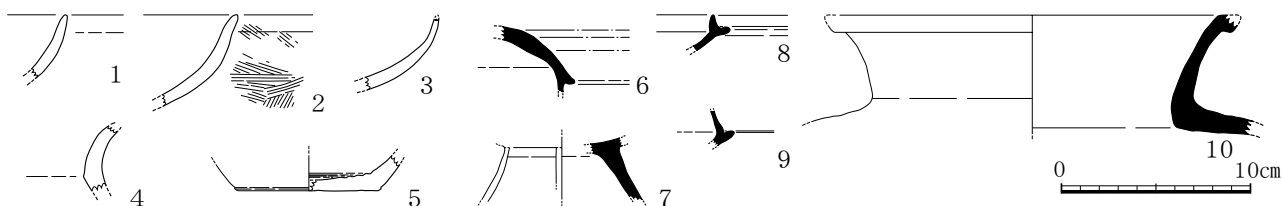
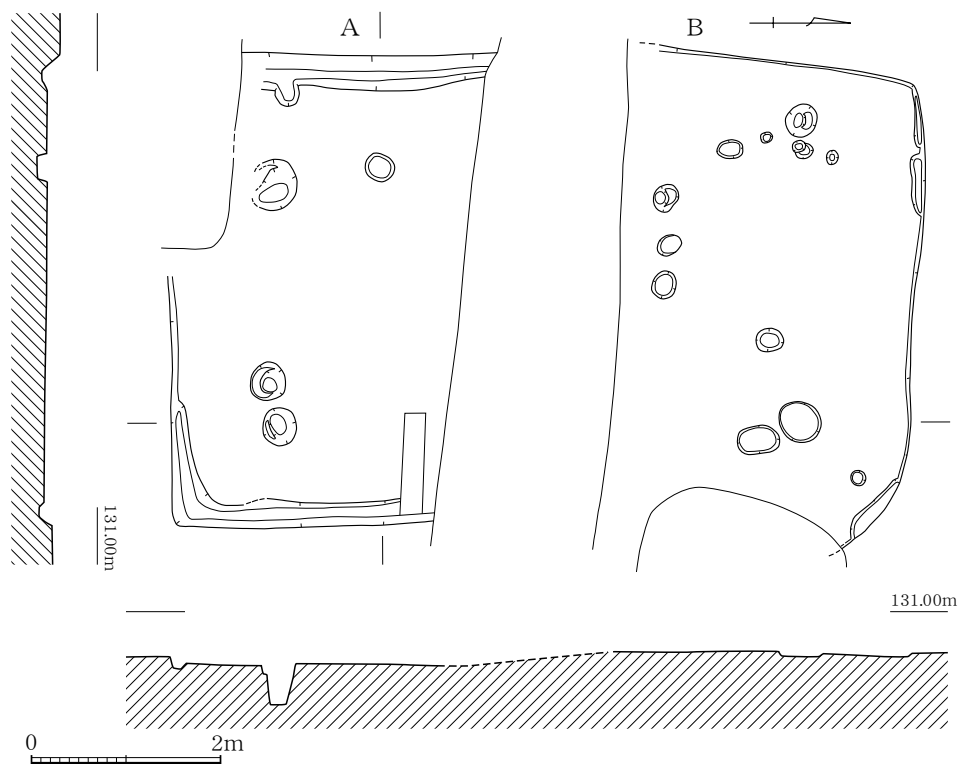
1. 竪穴建物跡

竪穴建物跡は調査区の西側及び南側の一部を除き、42軒検出された。多い部分で5～6軒切りあって確認されたが、単独で存在する竪穴建物跡も数軒あった。

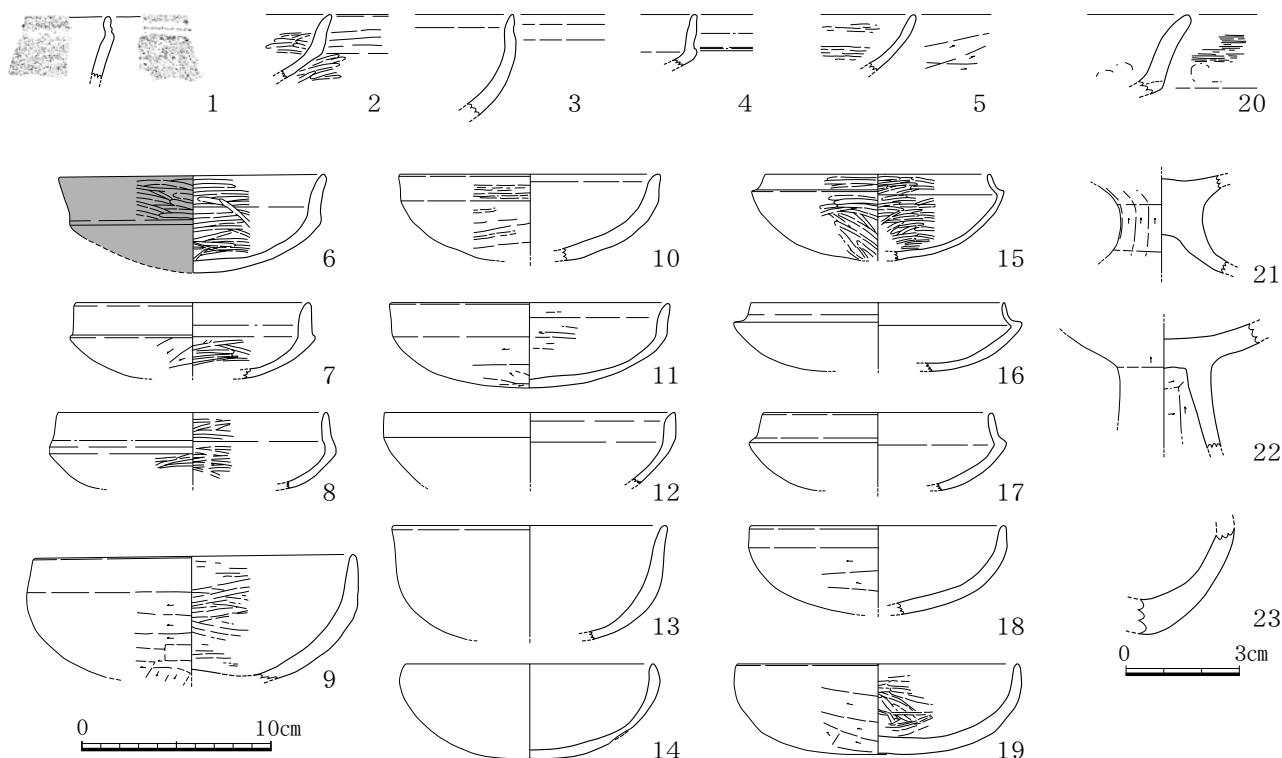
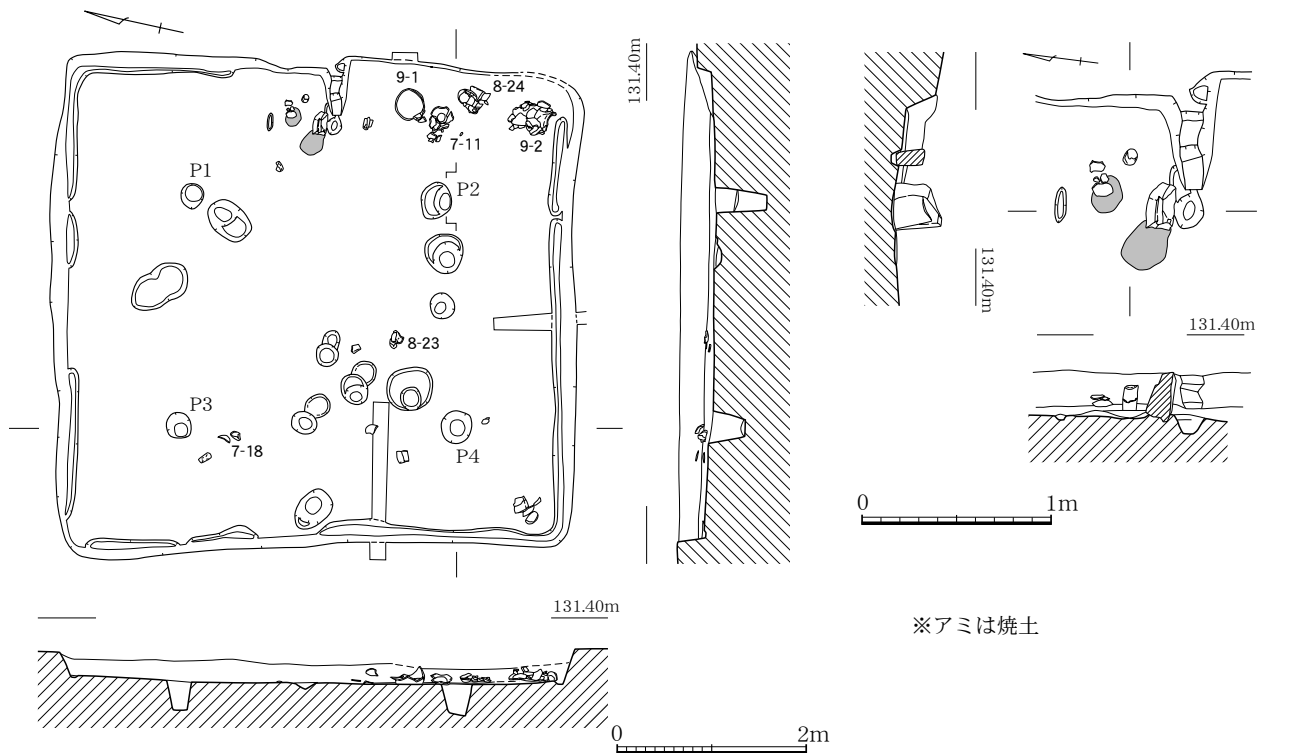
また、出土遺物については、諸般の事情により、実測図と観察表のみの掲載とし、本文中では触れていない。



第5図 1号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4)



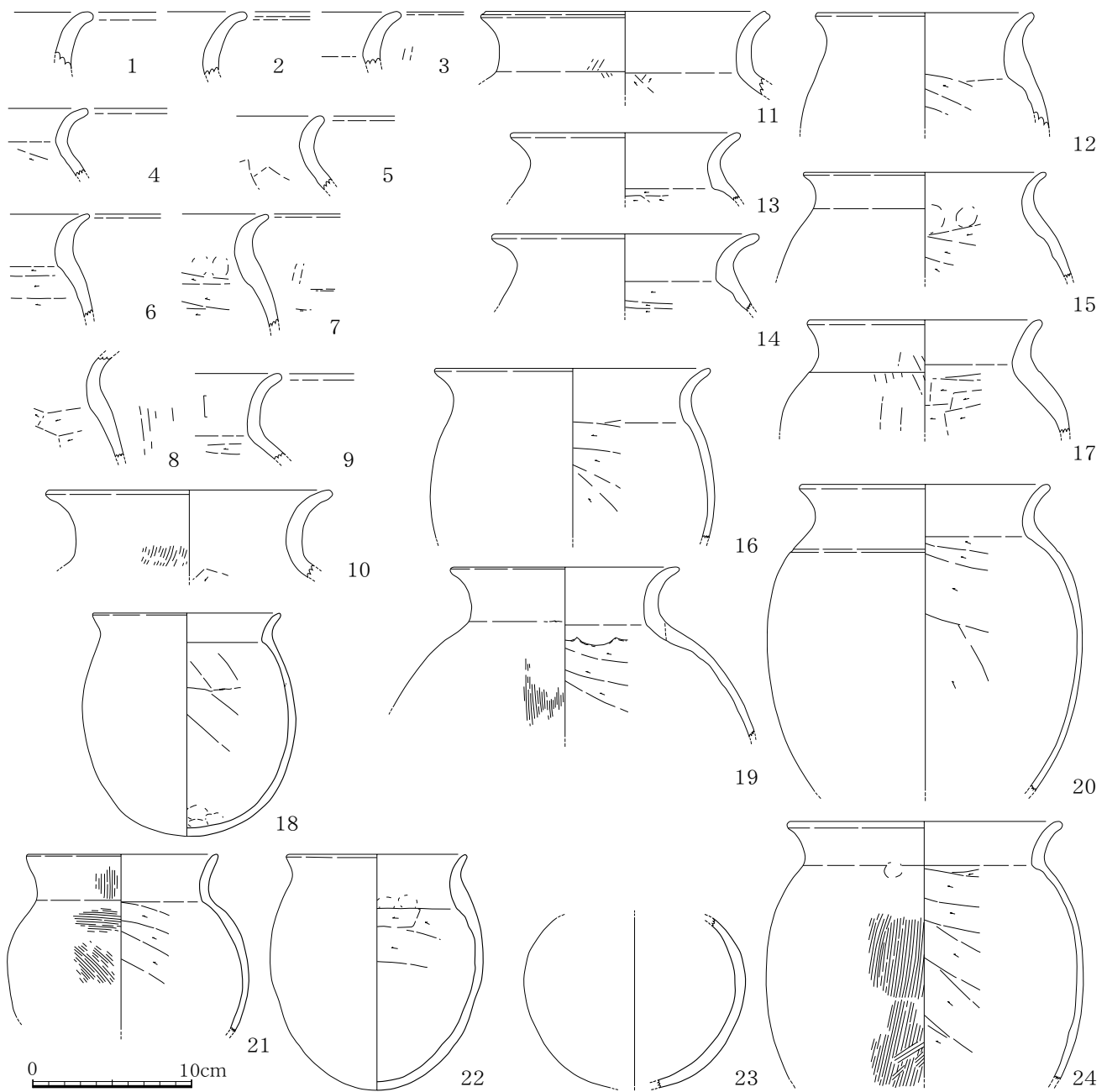
第6図 2号A・B竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4)



第7図 3号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図(1) (1/80、1/40、1/4・23のみ1/2)

1号竪穴建物跡 (第5図 図版2)

この建物跡は南側調査区南東側の壁際で確認された。平面形は方形を呈するとみられるが、東側は調査区外へ広がる。規模は南北軸約2.9m、南壁側で約4.15m、床面までの深さは約5cmを測る。また、床面の三方には壁際溝が掘りこまれ、西壁側には土坑状の落ち込みがある。床面に確認されたピットのうち、P1～P3の3本が

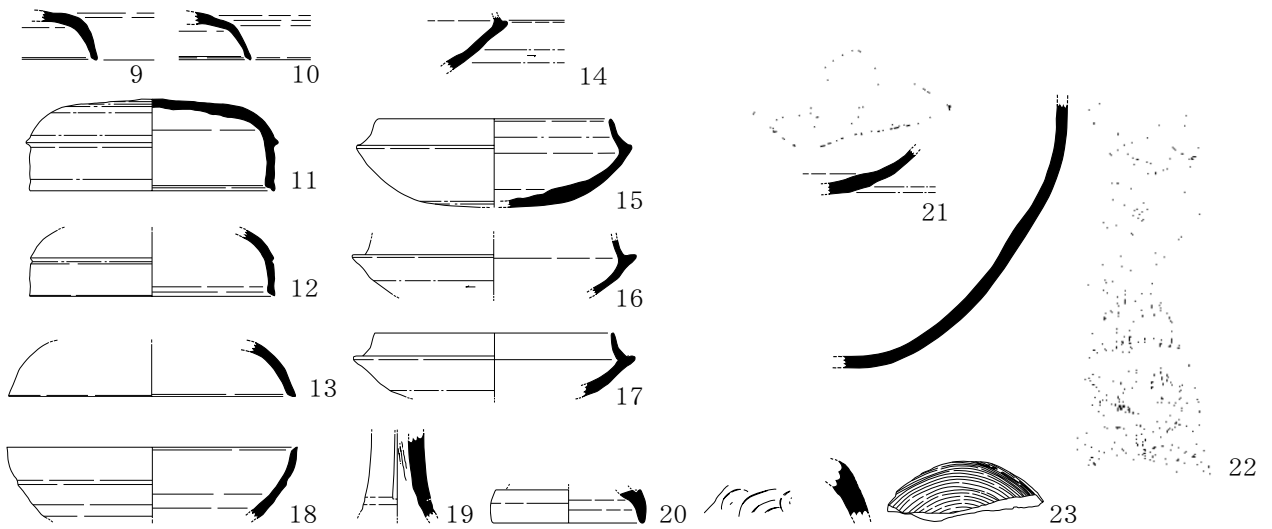
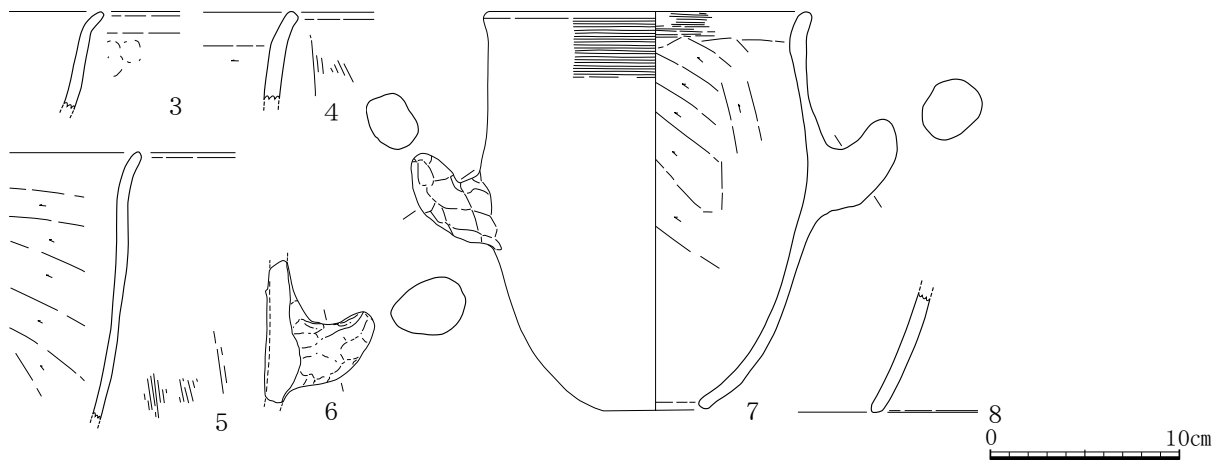
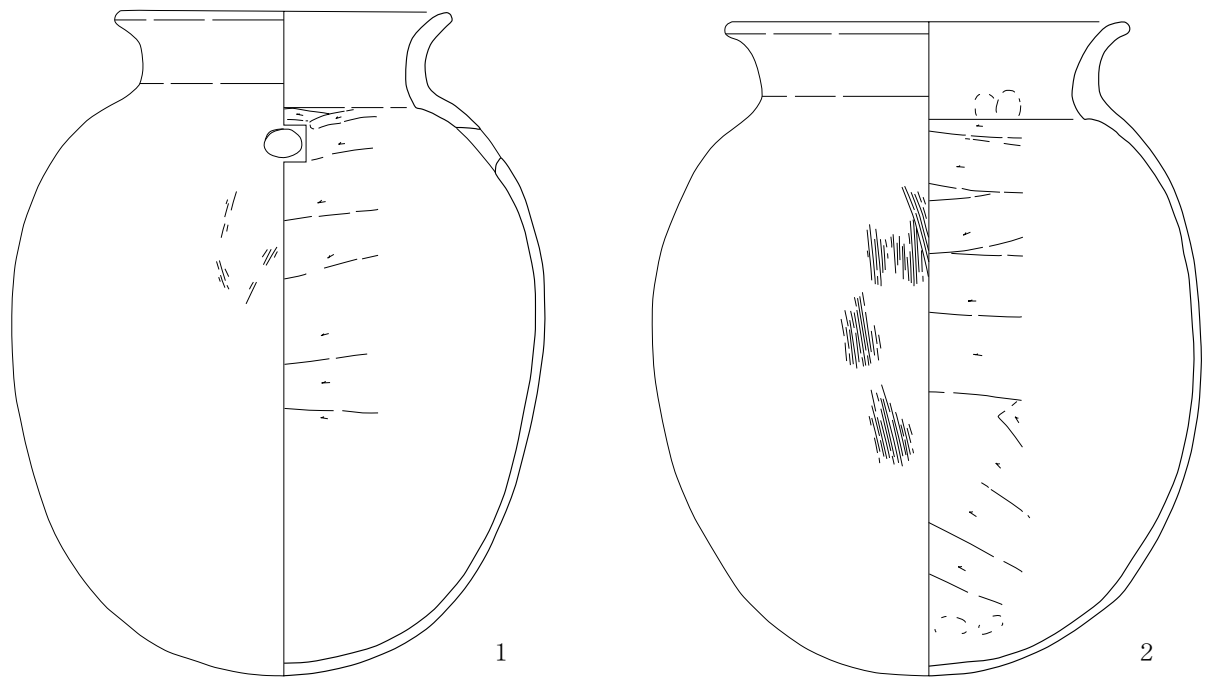


第8図 3号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) (1/4)

主柱穴になると考えられ、位置関係から北東側に1本存在すると考えられる。床面からの深さは30~40cmである。この他、壁際にはカマドは確認されず、床面にも炉跡及びその痕跡を窺わせるような焼土・炭は検出されなかった。遺物は、土師器甕が出土した。

2号A・B竪穴建物跡 (第6図)

1号竪穴建物跡の北西側に隣接して確認されたこの建物跡については、当初、北側調査区との境界にあたるコンクリートブロックを挟んで、1軒の建物跡として考えていた。しかし、建物跡の規模などの検討をしていく中で、軸がややずれていることや、床面のレベルが異なること、南側で見られた壁周溝が北側ではみられないことから、1軒の建物跡とするにはやや無理があると判断し、切り合い関係にある2軒の建物跡とした。そこで南側

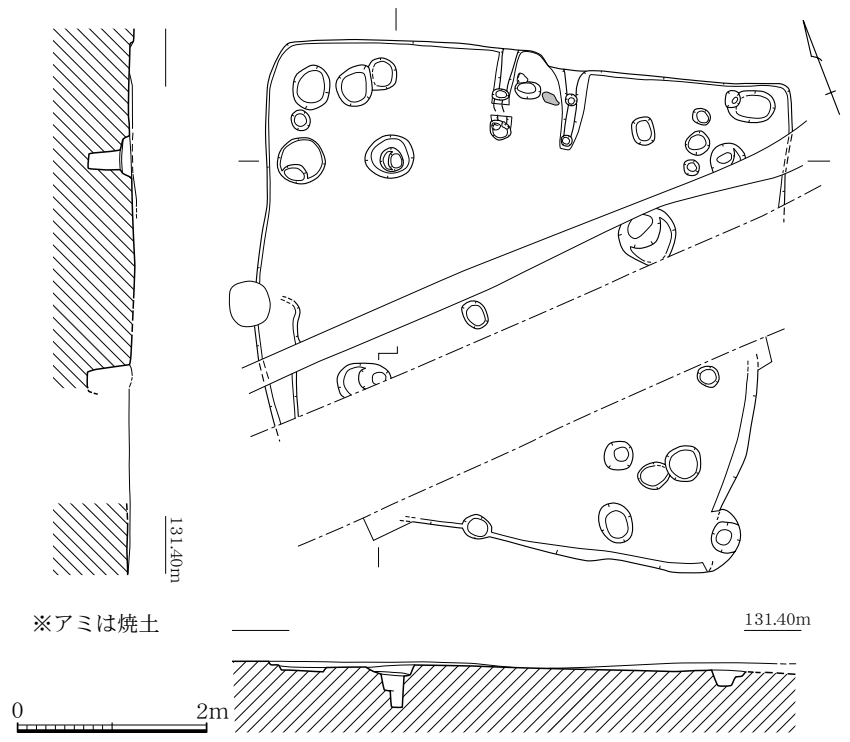


第9图 3号竖穴建物跡出土遺物実測図(3) (1/4)

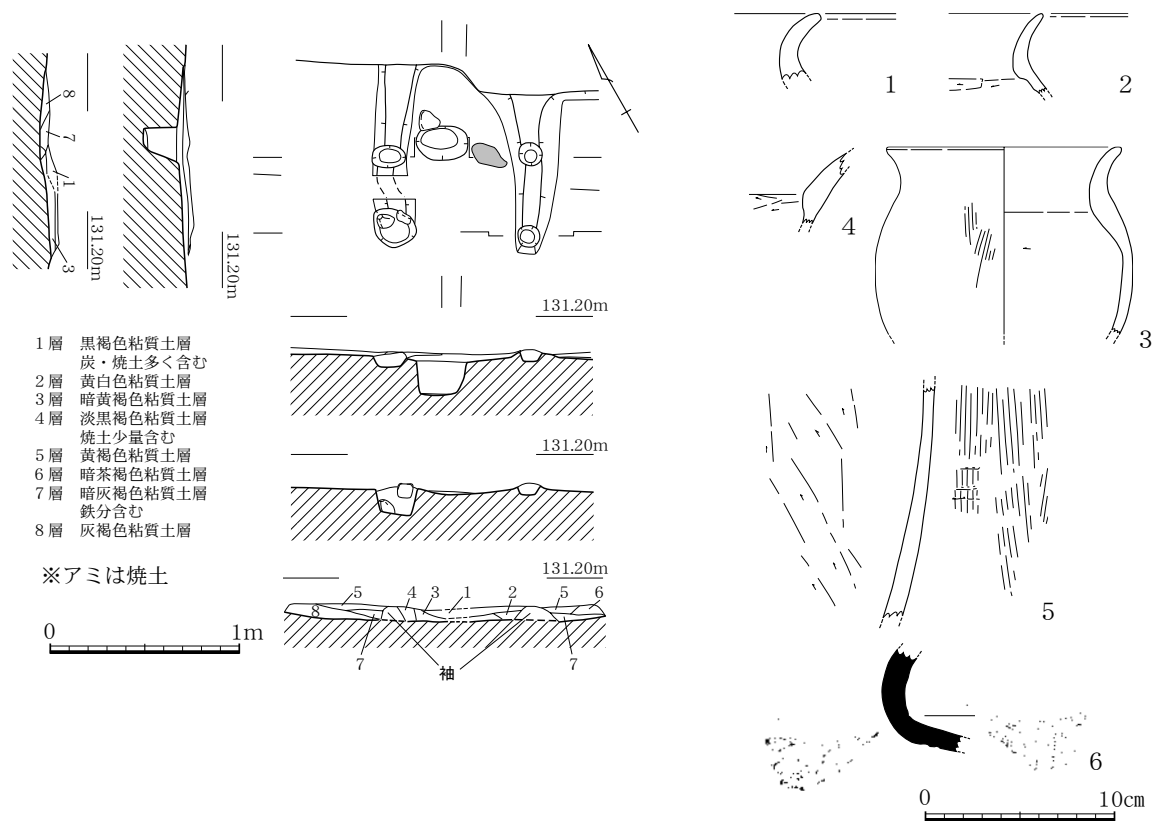
を2号A竪穴建物跡、北側を2号B竪穴建物跡とする。

2号A竪穴建物跡は南西側で6号A竪穴建物跡と切り合う。平面形は方形を呈し、規模は東西軸約5.0m、南北軸約3.2m + α 、床面までの深さは約15cmを測る。床面には東・西側と南側の一部に壁際溝が掘られる他、4基のピットが確認され、最も深いもので約40cmを測る。ただ、これらのピットのうち、主柱穴になりうるものがあるかは判断できなかった。

2号B竪穴建物跡は北東側を8号土坑に切られる。平面形は方形を呈し、規模は東西軸約4.9m、南北軸約2.9m + α 、床面までの深さは約10cmを測る。床面には北側の一部に壁際溝、ピットが10数個確認できた。ただ、これらのピットは2号A竪穴建物跡と同様



第10図 4号竪穴建物跡実測図 (1/80)

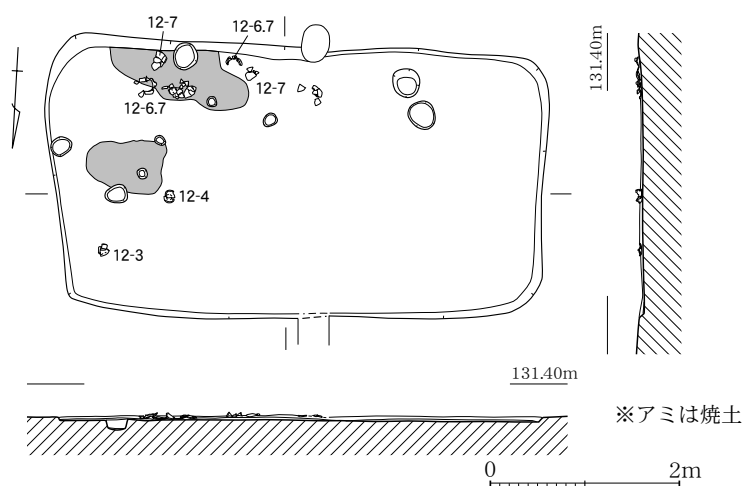


第11図 4号竪穴建物跡カマド (1/40)、出土遺物実測図 (1/4)

に主柱穴と判断できるものはなかった。

また、両建物跡とも炉の痕跡を示すような、焼土・炭は確認されなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏蓋・坏身・高坏・甕、土師質土器皿が出土している。

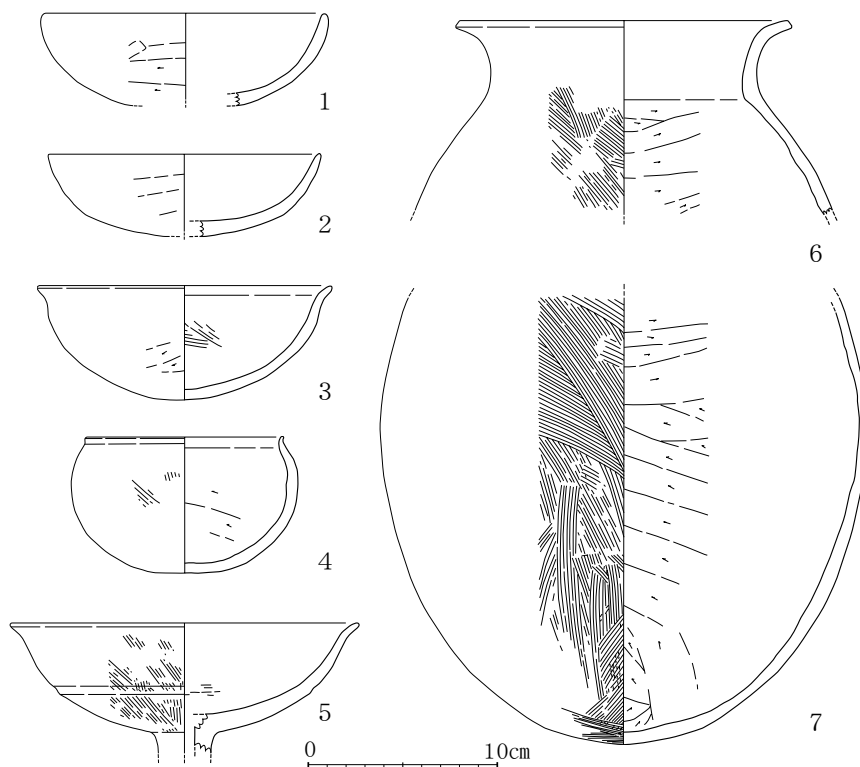


3号竖穴建物跡

(第7～9図 図版2・3)

この建物跡は、2号A竖穴建物跡の西側で確認され、6号AB竖穴建物跡と切り合う。平面形は方形を呈し、規模は東西軸約5.5m、南北軸約5.0m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約40cmを測る。床面には四周に壁際溝が掘られ、ピットが10個以上確認された。ピットのうち、その位置関係や深さから、P1～P4の4本を主柱穴と判断した。なお、ピットの深さは床面から30～50cmを測る。

また、カマドは西壁中央付近に付設される。右袖および袖石、支脚は確認されたが、左袖は残っていなかった。ただし、袖石の抜き取り痕とみられるピットが確認された。カマドの寸法



第12図 5号竖穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4)

は右袖が約62cm、袖石の抜き取り痕から推定される左袖の長さは約65cm、袖間の幅は袖石側で約44cmを測る。袖の内側と右袖石付近には火床面がみられ、石製の支脚が直立した状態で確認された。また、左袖が残っていなかったことから、なんらかの祭祀行為を行った可能性がある。

遺物は、床面およびやや浮いた状態で、土師器坏・高坏・甕・甗、須恵器坏身・坏蓋・高坏等が多く出土した。

4号竖穴建物跡 (第10・11図 図版3・4)

この建物跡は調査区中央付近、北側調査区と南側調査区に跨って確認され、位置的に7号竖穴建物跡を切る可能性がある。平面形は方形を呈し、北西-南東軸約5.5m、北東-南西軸約5.1m、床面までの深さは最も残り

の良い部分で約10cmを測る。床面には、ピットが10数個確認されたが、位置関係や深さなどから、P1～P4の4本が支柱穴になると判断した。

カマドは北壁中央付近に付設される。両袖及び袖石の抜き取り痕が確認された。カマドの寸法は右袖が約81cm、左袖が約97cm、袖間の幅は奥壁側は約55cm、袖石側で約53cmを測る。袖の内側には、支脚の抜き取り痕とみられるピット及びその右側に火床面を検出した。また、土層観察の結果、祭祀行為を行った痕跡は確認することはできなかった。

遺物は、土師器甕・甑、須恵器甕が出土している。

5号竪穴建物跡 (第12図 図版4)

この建物跡は南側調査区の西側で単独で確認された。平面形は長方形を呈し、東西軸約5.1m、南北軸約2.9m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約5cmを測る。床面にはピットが数個確認されたが、柱穴になりうるようなピットは確認できなかった。また、東隅及び南東隅では床面に焼土が確認されたが、明確にカマドとなるような痕跡は確認されず、地床炉であった可能性も考えられる。

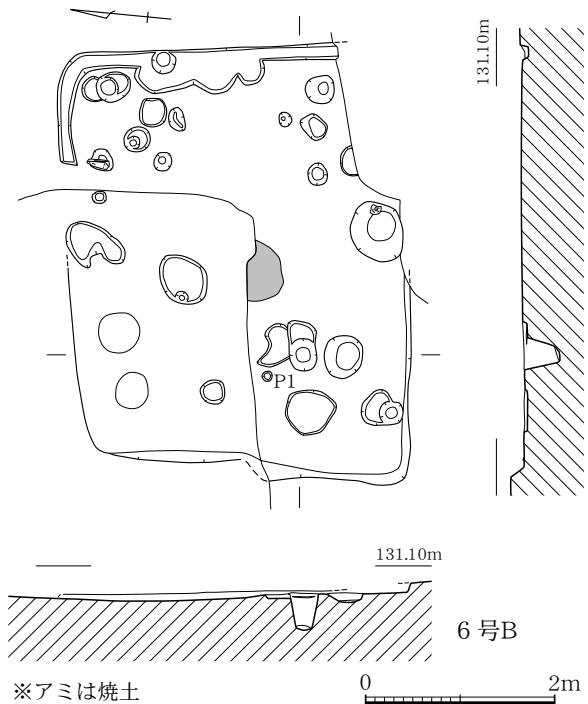
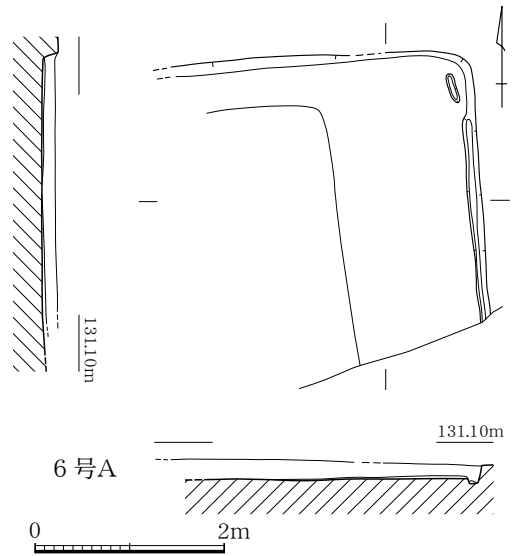
遺物は、土師器杯・椀・高杯・甕が出土している。

6号A竪穴建物跡 (第13・15図 図版5)

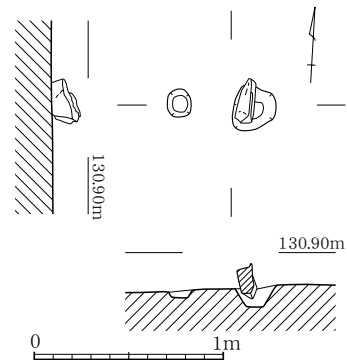
この建物跡は南側調査区の3号竪穴建物跡の南東側で確認され、3号竪穴建物跡と切り合い、6号B竪穴建物跡を切る。他の建物跡との切り合いから、北側と東側の壁しか残っていなかったが、平面形は方形を呈するとみられる。確認された部分の規模は、北壁側で約3.1m、東壁側で約2.7mである。床面にはピットは確認されなかったが、東壁側には壁際溝が掘り込まれていた。

6号B竪穴建物跡 (第13～15図 図版5)

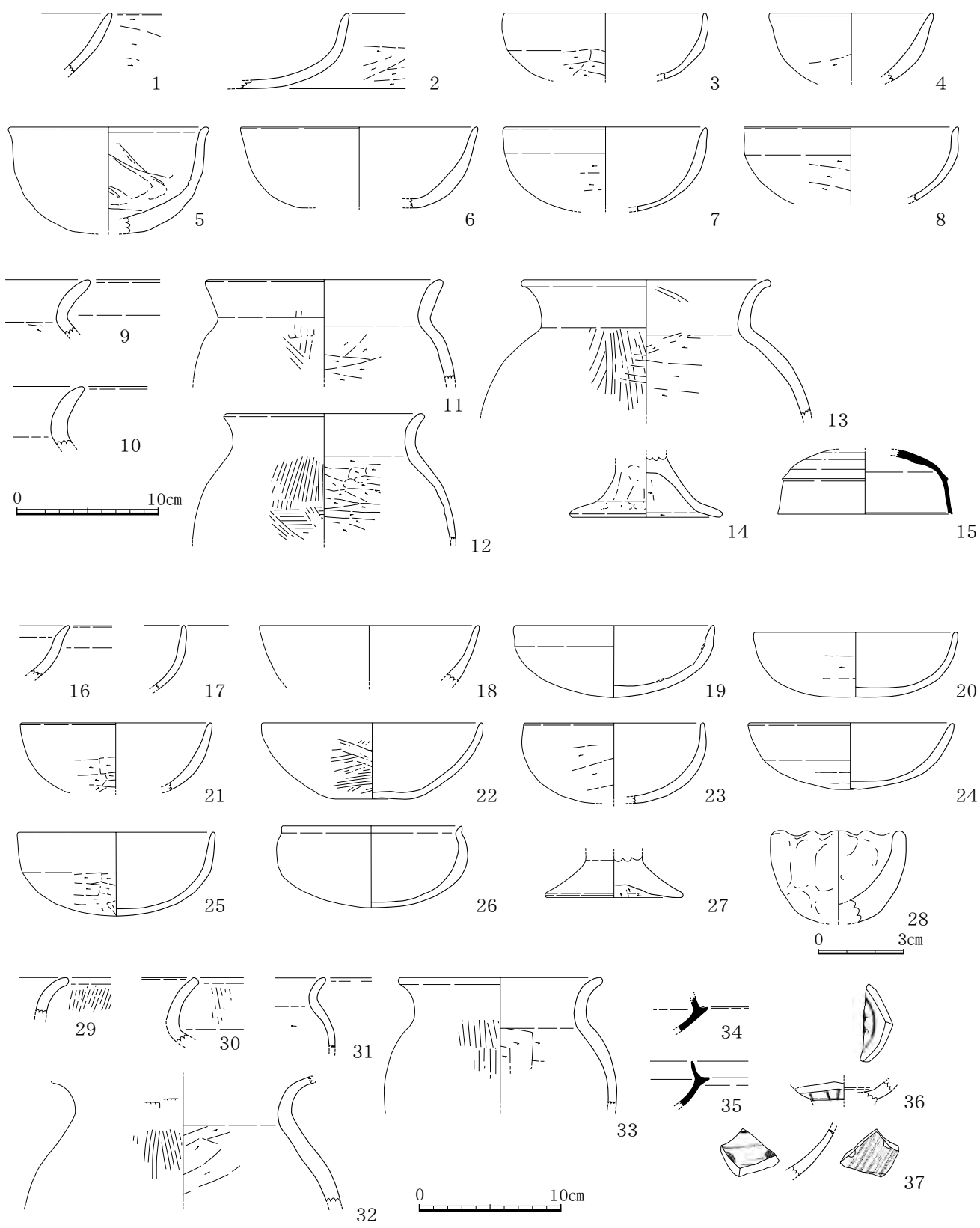
この建物跡は6号A竪穴建物跡とほぼ同じ位置で確認され、これを切り、3号、9号A・B竪穴建物跡と切り合う。平面形は他の建物跡と切り合いがあるものの、長方形を呈することがわかる。規模は東西軸約4.6m、南北軸約3.6m、床面までの深さは最も残りの良い部分で10cmを測る。床面にはピットが10数個確認されたが、確実に支柱穴となるようなピットは確認できなかった。ただし、P1が床面からの深さが40cmあり、支柱穴になる可能性はある。



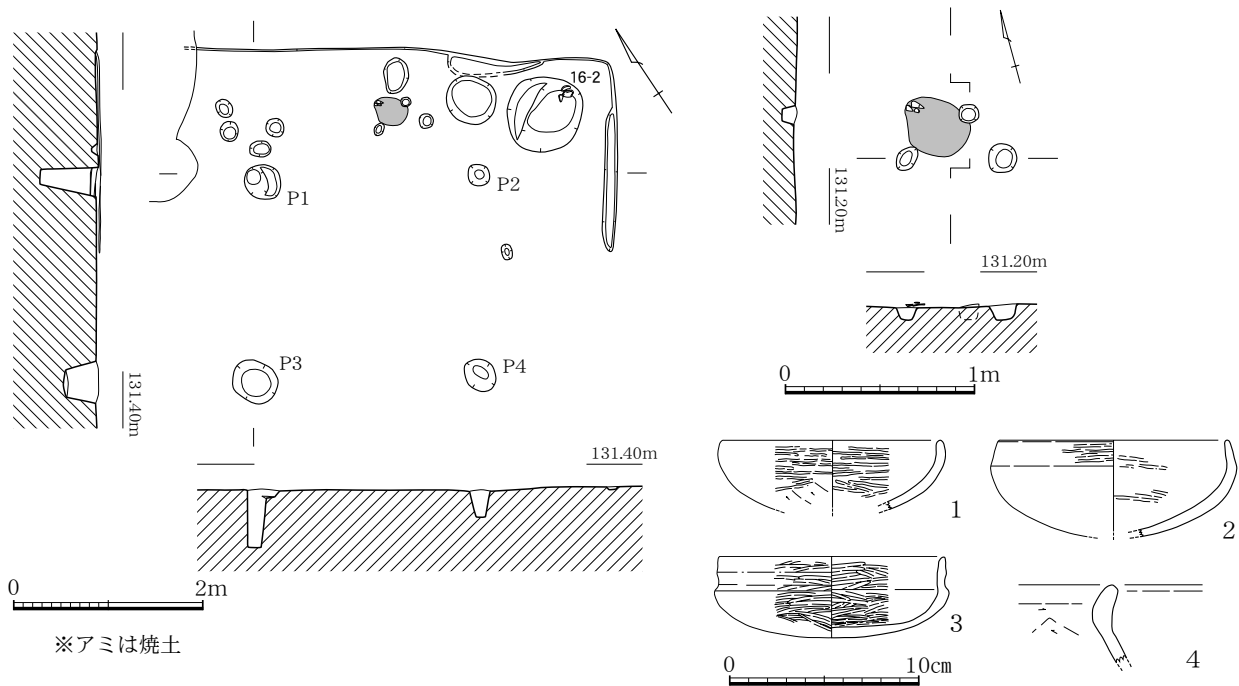
第13図 6号A・B竪穴建物跡実測図 (1/80)



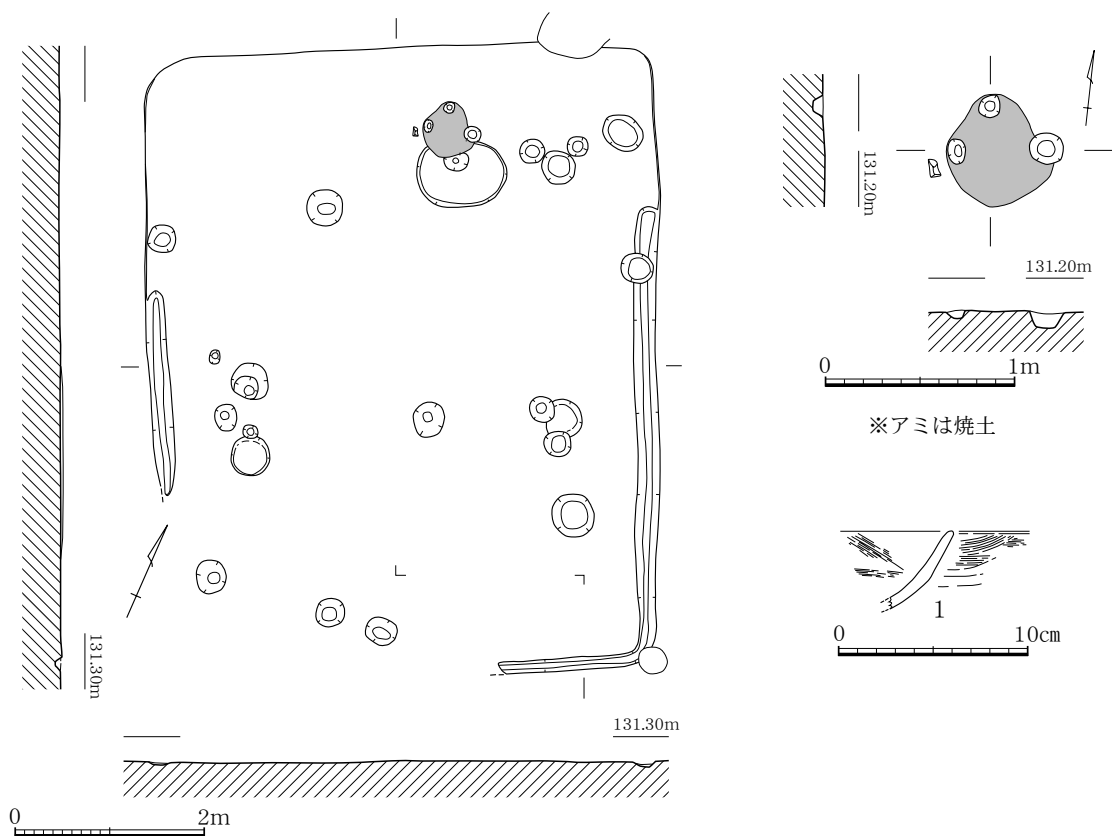
第14図 6号B竪穴建物跡カマド実測図 (1/40)



第15図 6号A・B 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4・28のみ1/2)

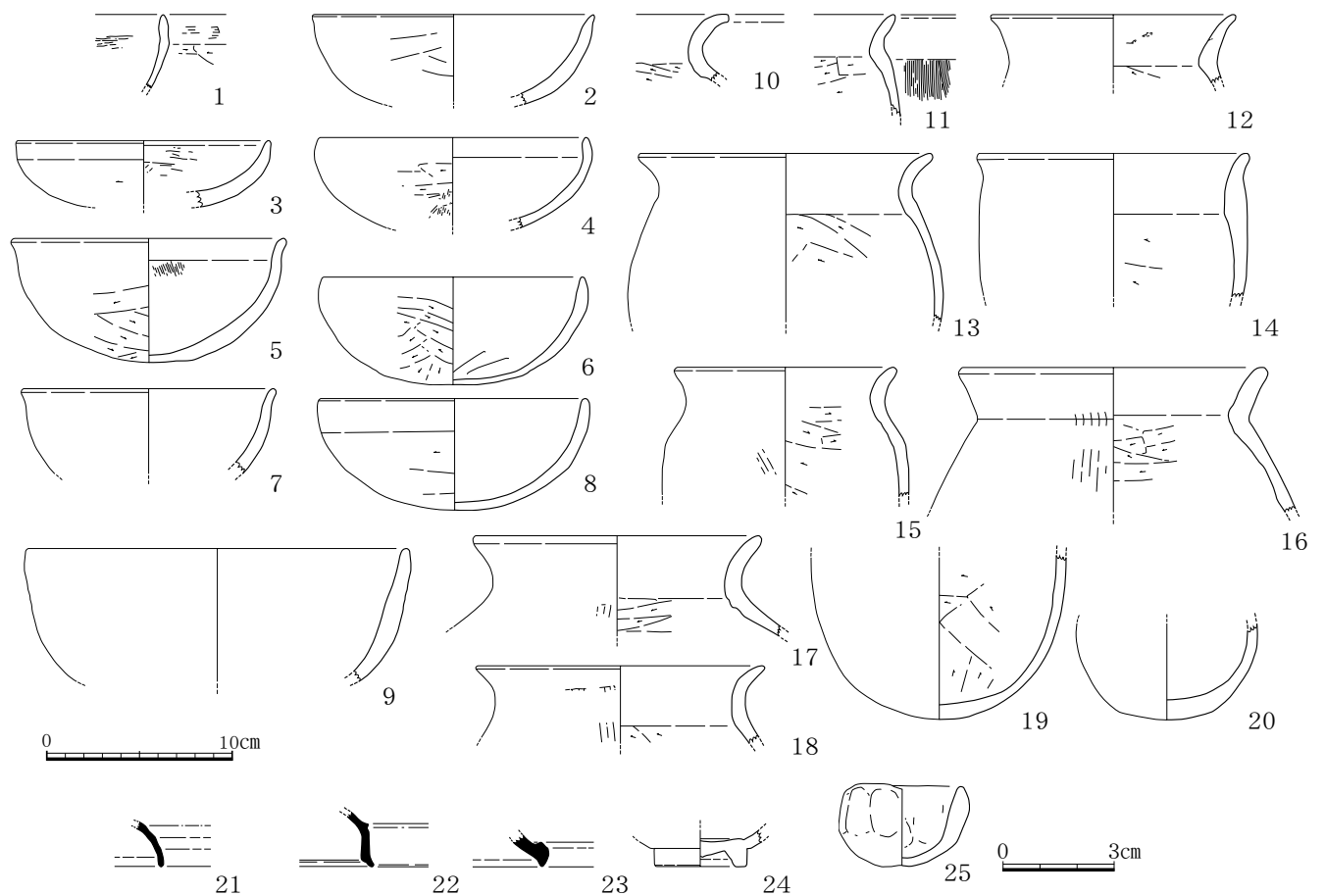
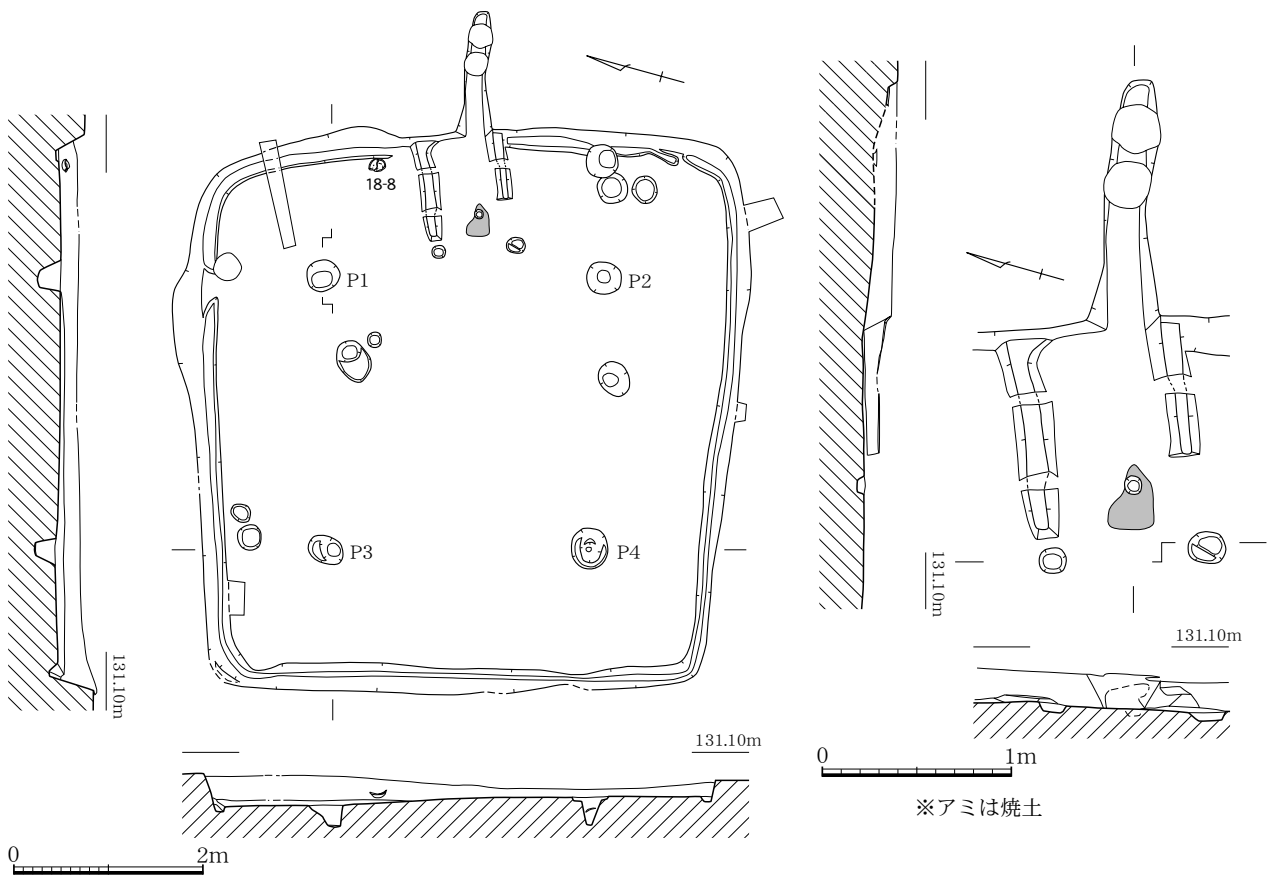


第16図 7号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4)

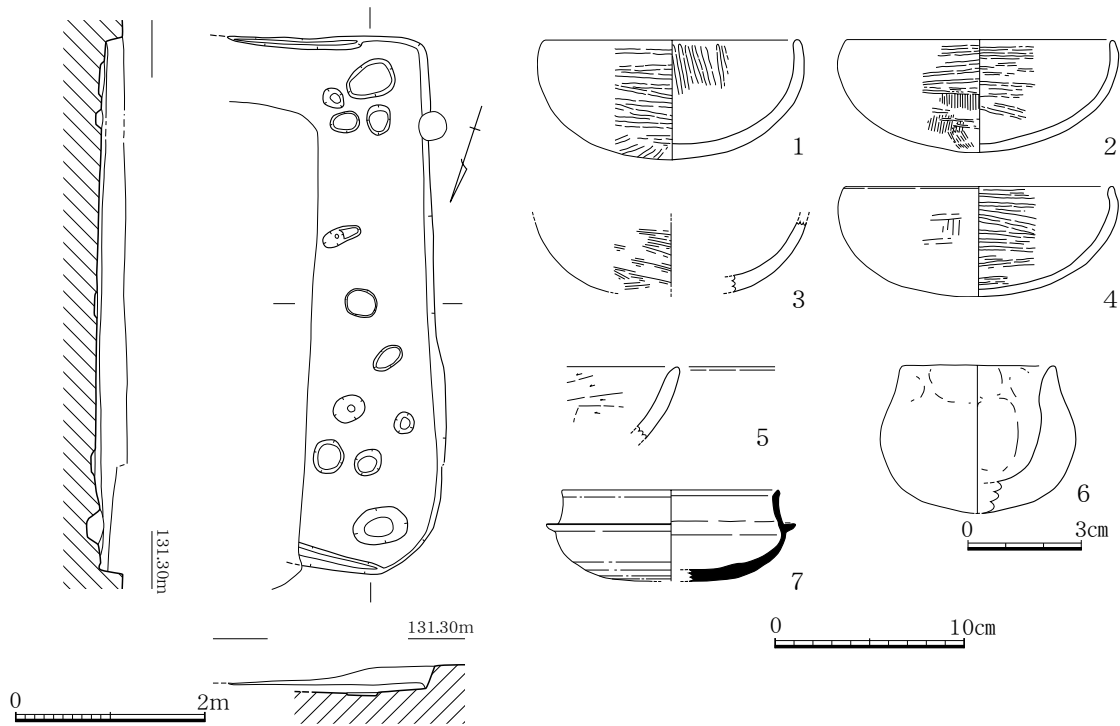


第17図 8号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4)

また、北側壁の東寄りには、石がほぼ直立したピットが確認されたが、カマドの袖石の可能性はある。なお、この2軒の出土遺物については、調査時に切り合いが判断できなかった部分もあり、遺物が混在していることから、一括して図示することにする。



第18図 9号A竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4・25のみ1/2)



第19図 9号B 竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4・6のみ1/2）

7号竪穴建物跡（第16図 図版6）

この建物跡は、南側調査区の3号竪穴建物跡と4号竪穴建物跡との間で確認されている。ほぼ床面まで削平を受けているため、北側と東側の一部で壁のラインや壁際溝が確認された程度であり、その状況から4・8号竪穴建物跡、2号土坑に切られていることが分かる。平面形については、方形を呈すると思われるが、規模は不明である。また、深さについても前述のとおり、削平を受けており、不明である。床面には10個ほどのピットが確認され、そのうち、P1～P4の4本が主柱穴になると考えられる。なお、床面からの深さは30～60cmを測る。また、北側壁からP3、P4までの距離は約3.8mとなる。

また、北側の壁際では焼土とピット数個が確認されたことから、カマドと判断した。ただ、ピットと焼土の位置関係から、どれが袖石などの抜き取り痕になるかは判断できず、規模については不明である。

遺物は、土師器杯・甕が出土している。

8号竪穴建物跡（第17図 図版7）

この竪穴建物跡は7号竪穴建物跡の南側で確認され、7号竪穴建物跡を切り、2号土坑に切られる。7号竪穴建物跡と同様に床面まで削平を受けているが、壁際溝や壁のラインが確認された部分から、平面形は長方形を呈し、規模は北西－南東軸約6.7m、北東－南西軸約5.4mを測る。また、床面には20個ほどのピットが確認されたが、主柱穴と判断できるものはなかった。

また、北側の壁から約80cm内側には焼土と支脚・袖石の抜き取り痕とみられるピットが確認され、カマドと判断した。その寸法は、袖石の抜き取り痕間で約35cmを測る。なお、袖は削平を受けていたため、長さや奥壁側の幅などは不明である。

遺物は、土師器杯が出土している。

9号A 竪穴建物跡（第18図 図版7・8）

この竪穴建物跡は南側調査区の東側で確認され、9号B 竪穴建物跡を切り、6号A B 竪穴建物跡と切り合う。

平面形は方形を呈し、規模は東西軸約5.9m、南北軸約5.4m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約35cmを測る。床面には四周に壁際溝が掘られ、ピットが10個以上確認された。ピットのうち、その位置関係や深さから、P1～P4の4本を支柱穴と判断した。なお、ピットの深さは床面から25～50cmを測る。

カマドは東壁中央付近に付設され、煙道が壁の外に伸びる。左袖及び右袖の一部は残っていたが、袖石、支脚は既になく、抜き取り痕とみられるピットが確認された。また、袖の内側には火床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約117cm、右袖が約75cm残存し、袖石の抜き取り痕から推定される長さは約116cm、袖間の幅は奥壁側で約73cm、袖石側で約65cmを測る。また、煙道を含めた長さは約234cmとなる。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏蓋などが出土した。

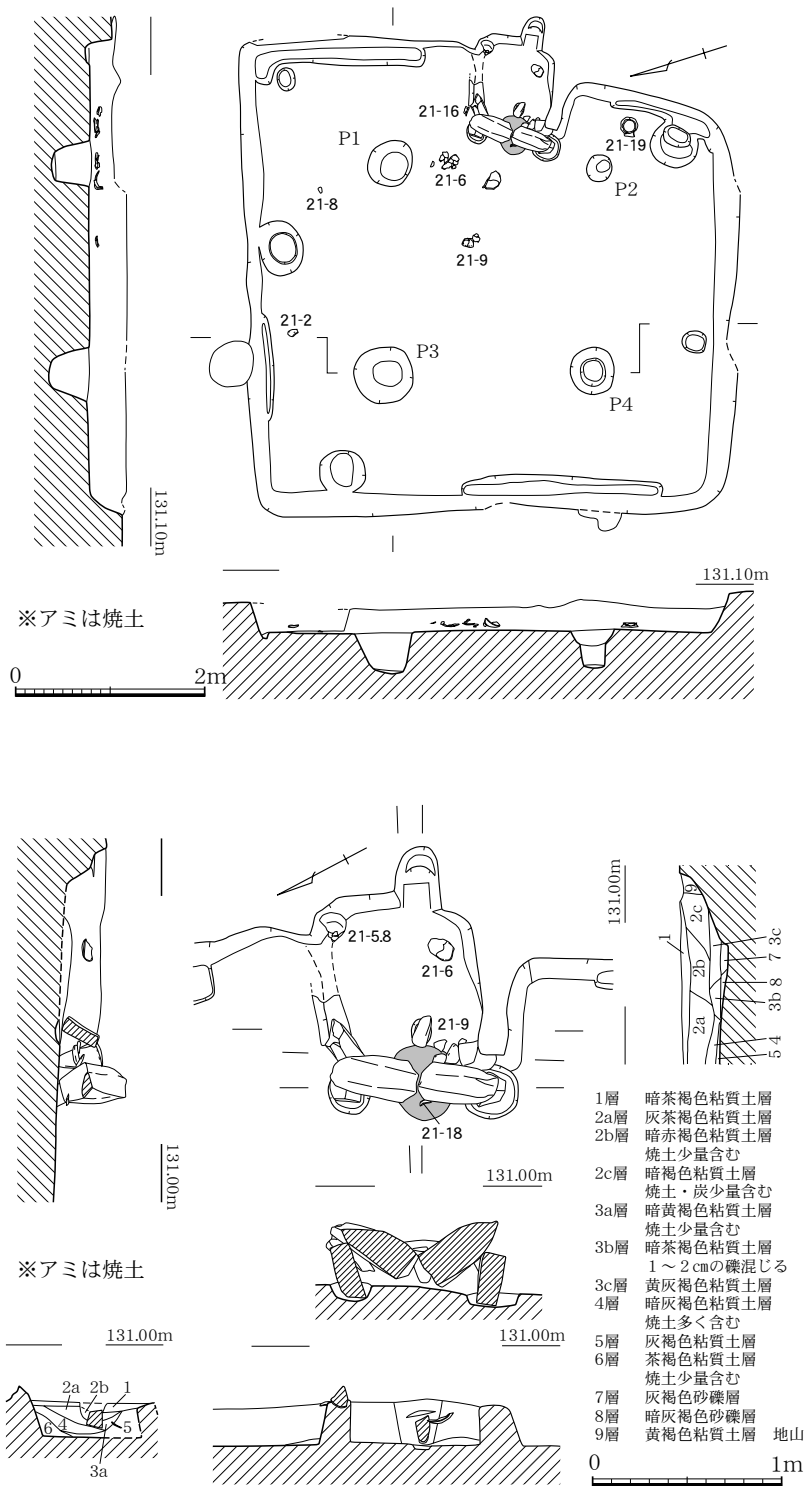
9号B 竪穴建物跡

(第19図 図版8)

この竪穴建物跡は南側調査区の東側で確認、9号A竪穴建物跡に切れ、6号A B竪穴建物跡と切り合う。平面形は残存している西壁と南北の壁の一部から方形を呈することが分かる。規模は南北軸

で約5.7m、南壁で約2.0m残る。床面までの深さは、最も残りのよい部分で約25cmを測る。床面には南北側で壁際溝、10個ほどのピットが掘り込まれているが、支柱穴と判断できるものはなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏身などが出土した。

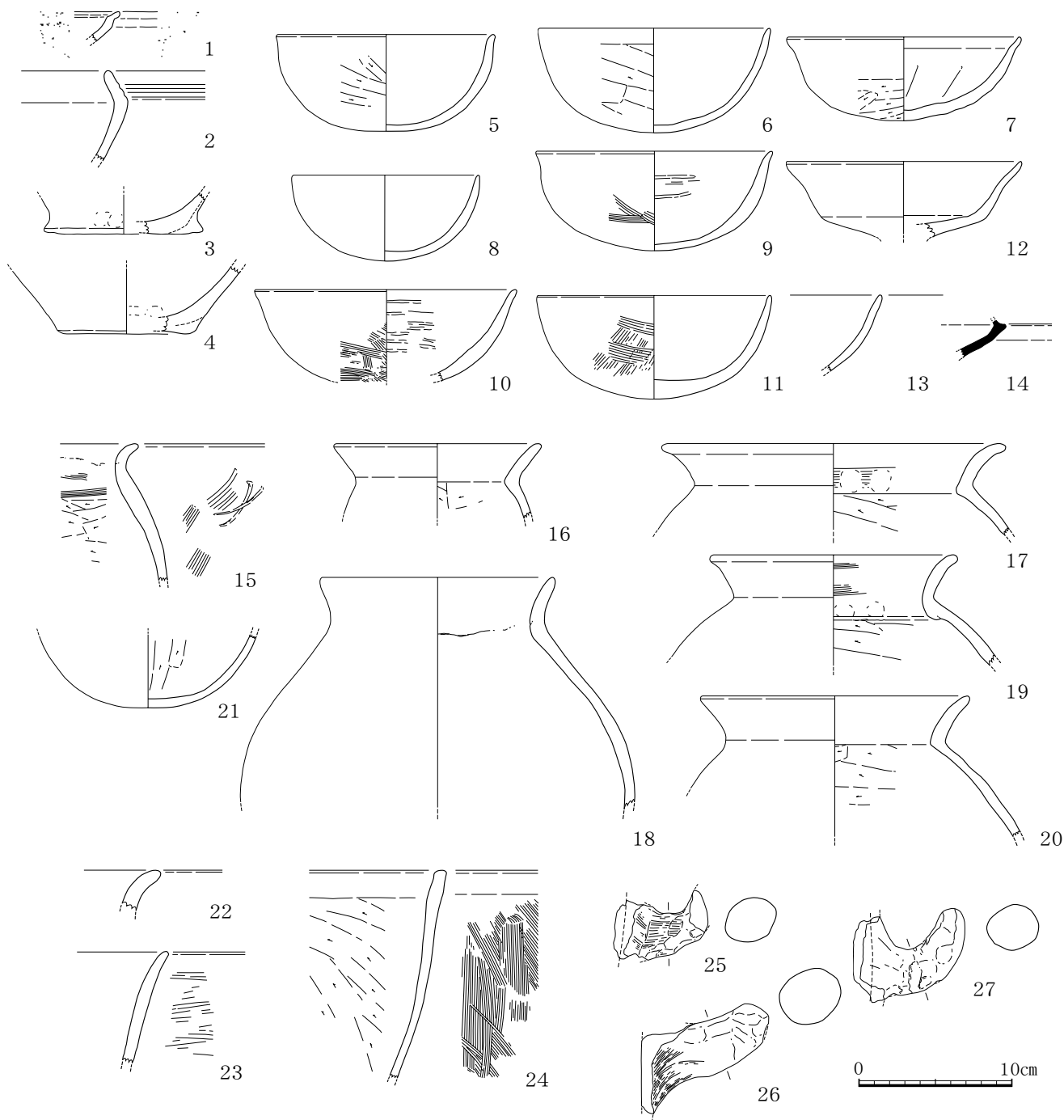


第20図 10号竪穴建物跡、カマド実測図 (1/80、1/40)

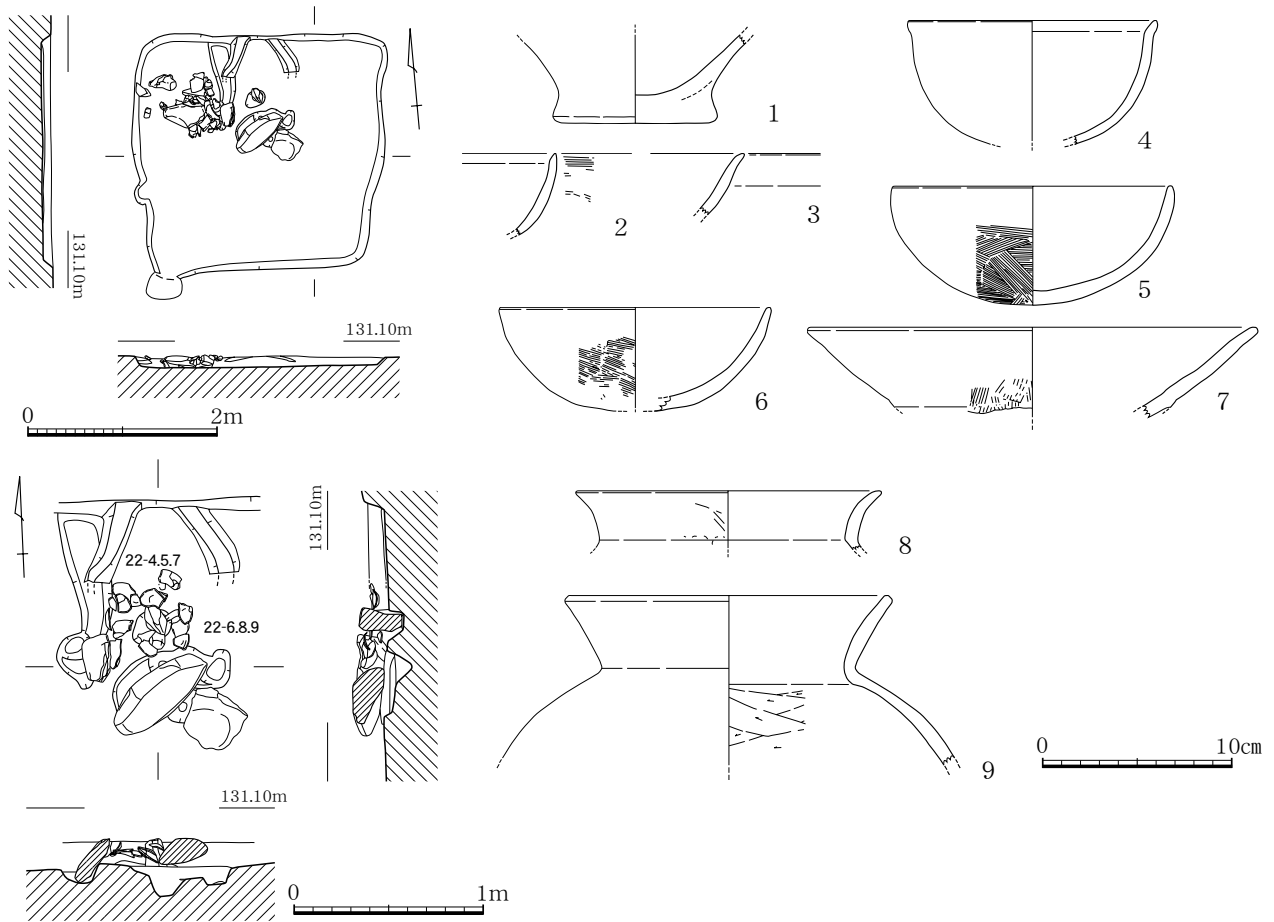
10号竪穴建物跡 (第20・21図 図版9・10)

この竪穴建物跡は北側調査区南東隅で確認され、単独で存在する。平面形はやや歪な方形を呈し、規模は南北軸約5.1m、東西軸約6.0m、床面までの深さは最も残りのよい部分で約35cmを測る。床面には南壁を除き、壁際溝、9個のピットが確認された。これらのピットのうち、位置関係からP 1～P 4の4本が支柱穴になると判断した。なお、支柱穴の深さは床面から40～45cmを測る。

カマドは東壁中央よりやや南に付設され、短い煙道が壁の外に伸びる。左右の袖及び袖石・支脚・天井石が残存していた。なお、天井石は上面からの力で、ほぼ真っ二つに割れた状態で確認された。また、袖の内側には火



第21図 10号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)



第22図 11号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図（1/80、1/40、1/4）

床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約90cm、右袖が約76cm、袖間の幅は奥壁側で約80cm、袖石側で約76cmを測る。また、煙道を含めた長さは約140cmとなる。

遺物は、土師器坏・高坏・甕・甑などが出土した。

11号竪穴建物跡（第22図 図版10・11）

この竪穴建物跡は北側調査区の10号竪穴建物跡の西側で確認され、12号竪穴建物跡に切られる。平面形はほぼ正方形を呈し、規模は南北軸約2.5m、東西軸約2.7m、床面までの深さは最も残りのよい部分で約10cmを測る。床面にはピットや壁際溝等は確認されなかった。

カマドは北壁のほぼ中央に付設されるが煙道は確認できなかった。左の袖石及び支脚と天井石が残存していた。カマドの寸法は、左袖が約75cm、右袖が約83cm、袖間の幅は奥壁側約19cm、袖石側で約65cmを測る。

遺物は、カマド内とその左側を中心に、土師器坏・高坏・甕などが出土した。

12号竪穴建物跡（第23・24図 図版11・12）

この竪穴建物跡は北側調査区の11号竪穴建物跡の南側で確認され、これに切られる。平面形はほぼ正方形を呈し、規模は南北軸東側で約4.8m、東西軸約4.7m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約15cmを測る。床面には東壁、南壁、西壁の一部に壁際溝と10数個のピットが確認された。ピットのうち、その位置関係や深さからP1～P4が主柱穴と判断した。なお、主柱穴の深さは床面から25～40cmを測る。このほか、北西側には細長い土坑状の落ち込みがあるが、この竪穴建物跡に伴うものか、確認できなかった。

また、カマドが北壁のほぼ中央に付設されるが、煙道は確認できなかった。左右の袖の一部と袖石・支脚の抜き取り痕と思われるピットが確認できた。袖石の抜き取り痕から推定できる、カマドの寸法は左袖が約70cm、右袖が約70cm、袖間の幅は奥壁側約68cm、袖石側で約42cmを測り、幅が比較的広い。

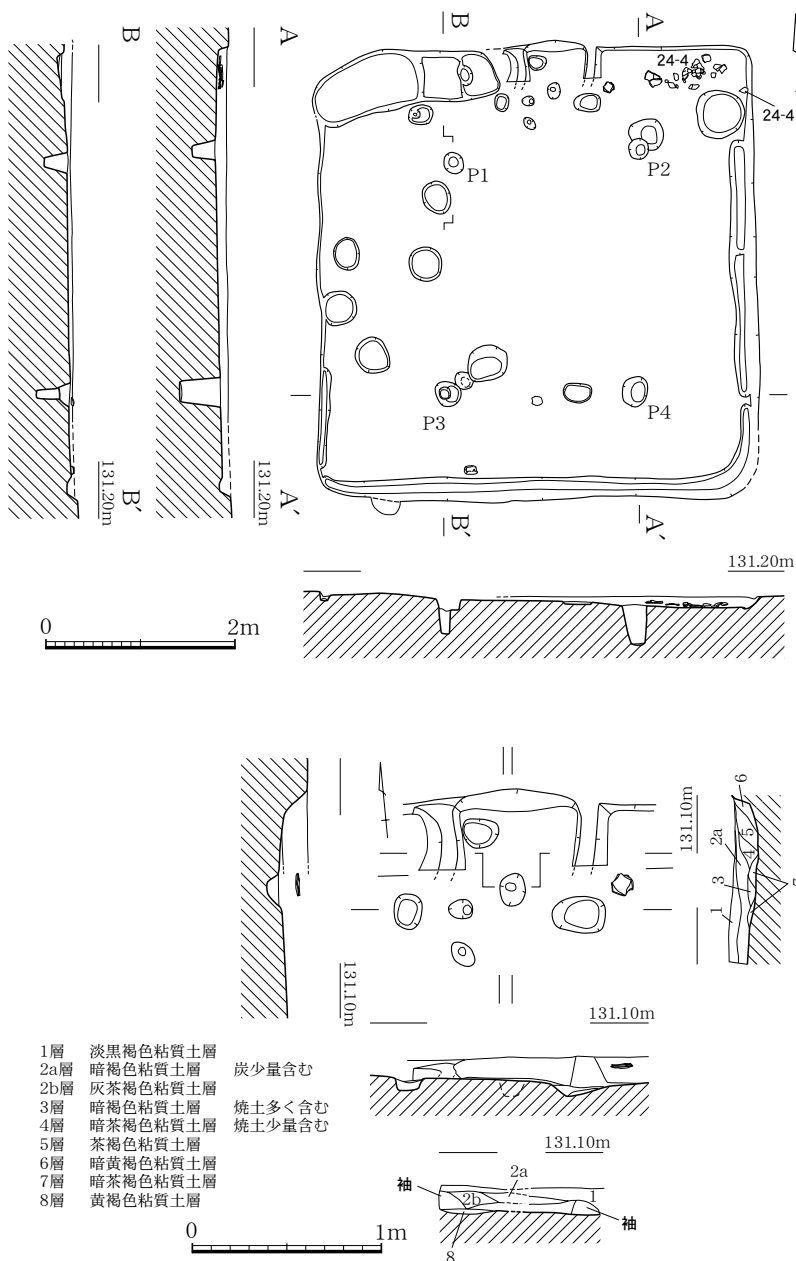
遺物は北東隅の床面近くで、土師器甕・甔、須恵器蓋環が出土している。

13号竪穴建物跡

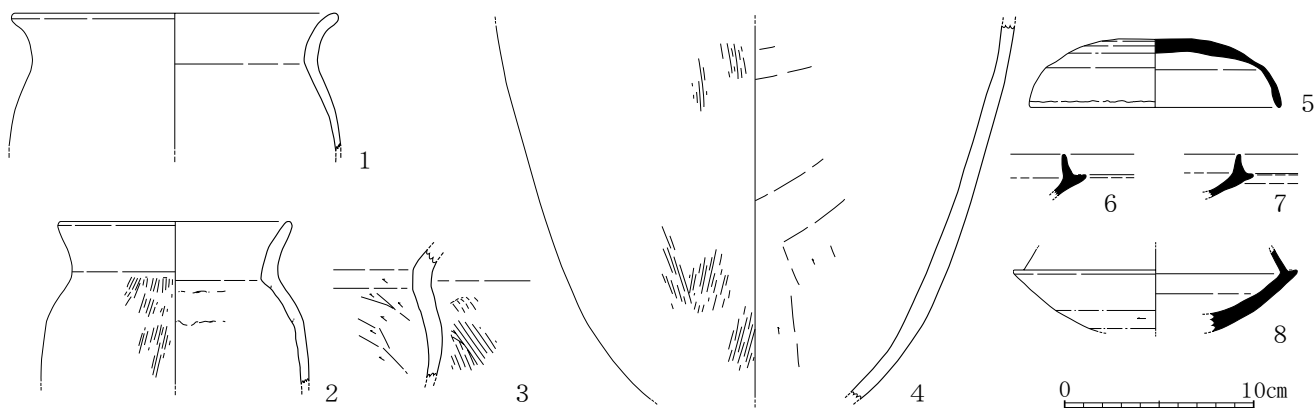
(第25図 図版12・13)

この竪穴建物跡は北側調査区のほぼ中央で確認され、単独で存在する。平面形は方形を呈し、規模は北東-南西軸で約4.6m、北西-南東軸で約4.9mを測り、床面までの深さは残りのよい部分でも5cm程度である。床面には北西壁及び南西壁の一部で壁際溝が掘り込まれている。また、10数個のピットが確認され、このうち、位置関係や深さからP1~P4が主柱穴と判断した。なお、主柱穴の深さは床面から25~35cmを測る。

また、カマドが北東壁の中央に付設されるが、煙道は確認できなかった。左右の袖はともに残存しており、袖の



第23図 12号竪穴建物跡、カマド実測図 (1/80、1/40)



第24図 12号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)

内側には火床面及び支脚の抜取り痕とみられるピットが確認できた。カマドの寸法は左袖が約137cm、右袖が約121cm、袖間の幅は奥壁側が約61cm、袖石側が約64cmを測る。

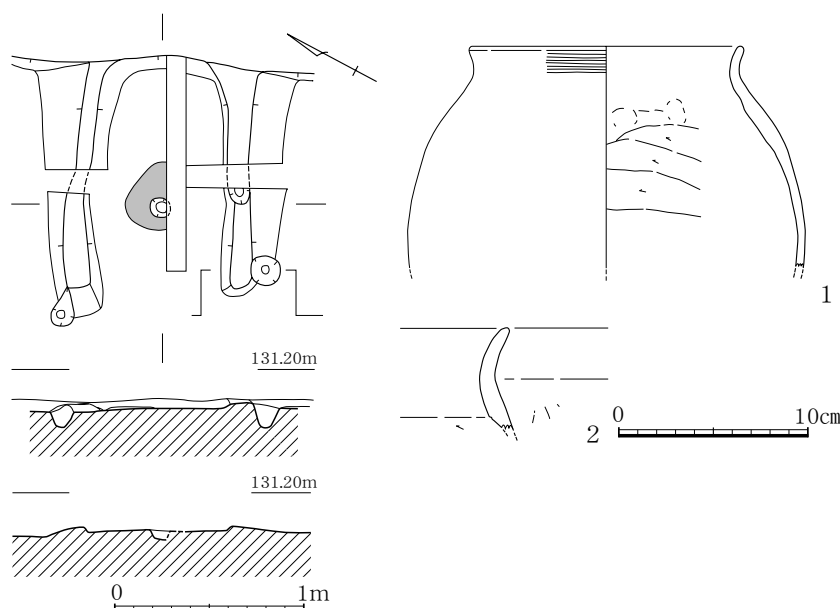
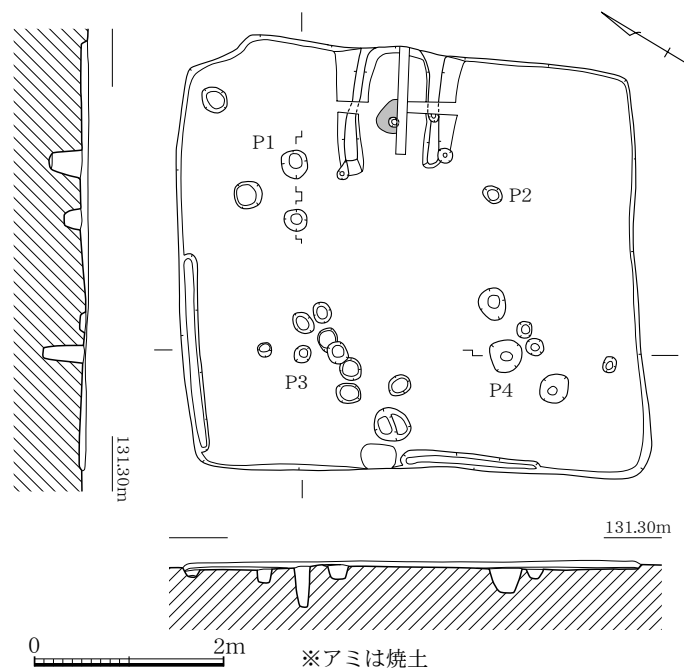
遺物は、土師器甕などが出土している。

14号竪穴建物跡

(第26図 図版13)

この竪穴建物跡は北側調査区の中央南側付近、4号竪穴建物跡の北側で確認され、17号C竪穴建物跡を切り、17号A竪穴建物跡に切られる。平面形は正方形を呈し、規模は北西-東軸約3.1m、北東-南西軸約3.4m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約10cmを測る。床面にはピットや土坑が確認されたが、柱穴など、住居と判断できるようなものはなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏身・甕などが出土している。



16号竪穴建物跡

(第27図 図版14)

この竪穴建物跡は北側調査区の北側で確認され、18号D竪穴建物跡を切り、18号A竪穴建物跡に切られる。平面形は東側が切られているものの、方形を呈すると思われる。規模は北西-南東軸約4.7m、北東-南西軸約4.8mを測り、床面までの深さは約10cmと大きく削平を受けている。床面には南西壁と北東・南東壁の一部に壁際溝と10数個のピットが確認された。これらのピットのうち、位置関係や深さからP1～P4が支柱穴と判断した。なお、床面からの深さは25～50cmを測る。

また、北西壁のほぼ中央にはカマドが付設される。袖は左右とも確認され、袖石及び支脚の抜取り痕と思われるピットが確認された。また、袖の内側には火床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約109cm、右袖が約105cm、袖間の幅は奥壁側約57cm、袖石側で約69cmを測る。

遺物は、土師器甕、須恵器高坏が出土している。

第25図 13号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4)

17号ABC 竪穴建物跡 (第28・29図 図版14・15)

これらの竪穴建物跡は北側調査区の南側で確認され、それぞれの建物跡及び14号竪穴建物跡と切り合う。

17号A竪穴建物跡の平面形は長方形を呈し、規模は北西-南東軸約6.0m、北東-南西軸約4.8m、床面までの深さは約20cmを測る。床面にピットが10数個確認されたが、支柱穴と判断できるものはなかった。

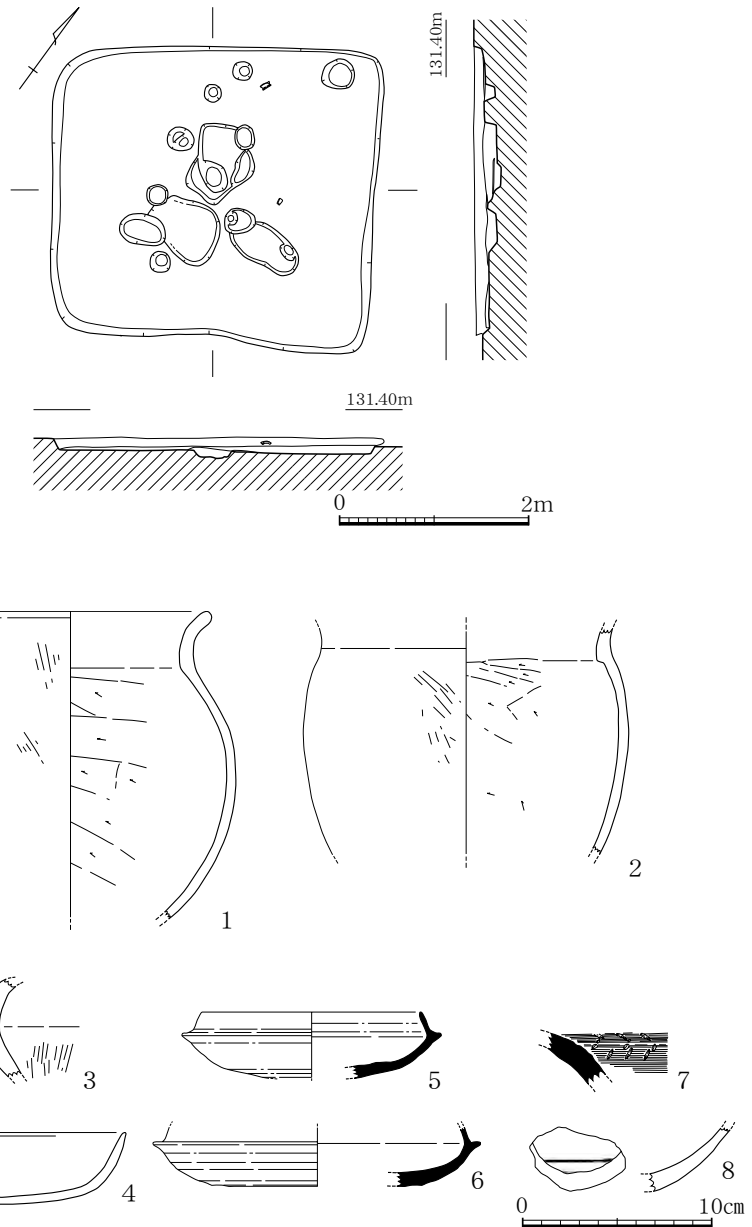
また、北東壁の中央付近にはカマドが付設される。袖は確認されなかったが、煙道の一部と袖石及び支脚の抜取り痕とみられるピットが確認された。カマドの寸法は抜取り痕から奥壁までの長さで左袖が約103cm、右袖が約114cm、袖間の幅は袖石側で約87cmを測る。

17号B竪穴建物跡は17号A竪穴建物跡に切られる。平面形は南東側の壁がやや広がるが、方形を呈していたと思われる。規模は北西-南東軸約5.6m、東壁側で約4.7m、床面までの深さは最も深いところで約10cmを測る。床面にはピットが10個ほど確認されたが、支柱穴と判断できるものはなかった。

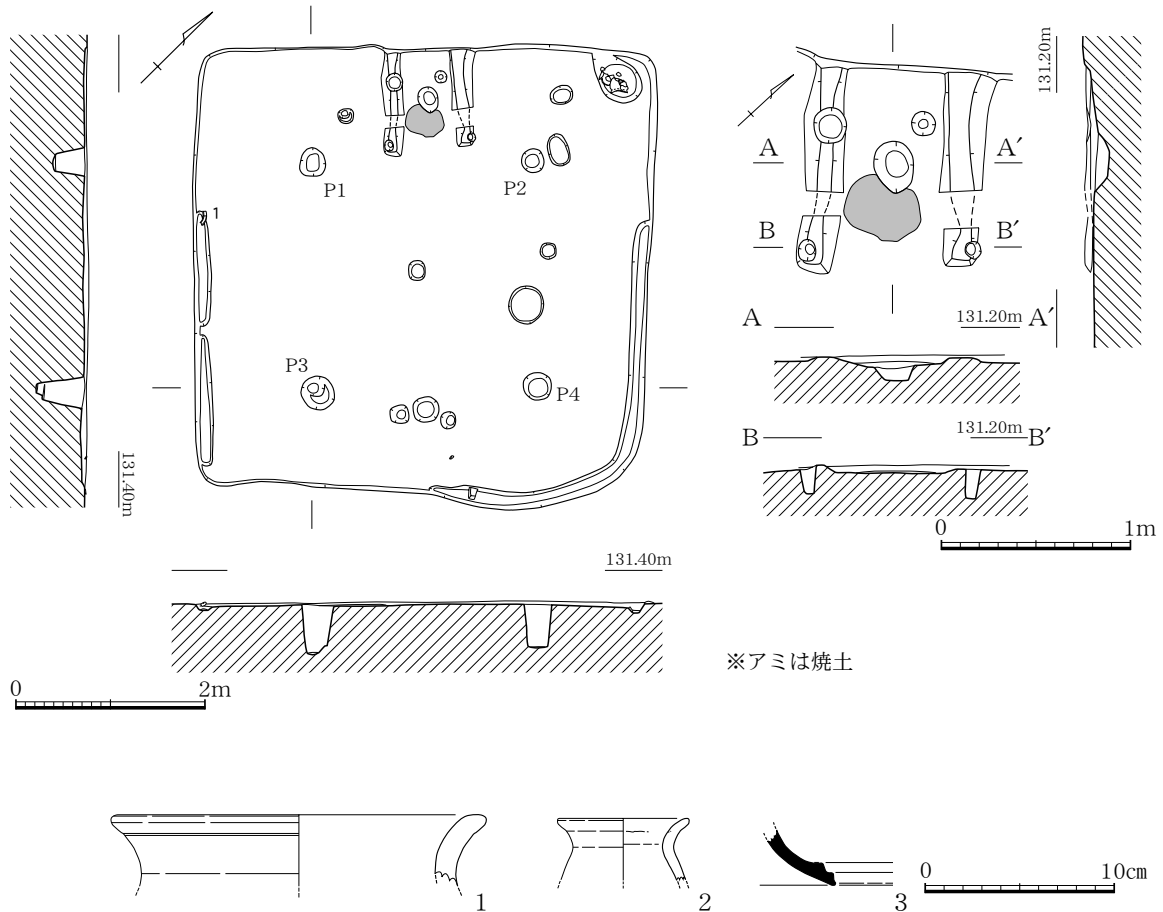
また、北東壁の中央付近に焼土がみられる土坑状の落ち込みを検出した。カマドの可能性も考えられるが、袖や袖石、支脚の痕跡など、明確にカマドと判断できるものがなかった。なお、寸法は北東-南西軸約105cm、北西-南東軸約80cmを測る。

17号C竪穴建物跡は17号B竪穴建物跡を切り、17号A竪穴建物跡に切られる。北側が削平を受けているものの、平面形は方形を呈すると思われる。規模は東西軸約4.0m、南北軸約3.6m + α 、床面までの深さは最も残りのよい部分で約10cmを測る。また、床面にはピットが10個以上確認されたが、支柱穴と判断できるものはなかった。

遺物については、17号B竪穴建物跡を中心に土師器杯・甕・高杯、須恵器蓋杯などが出土している。なお、どの住居からの出土か、判断できなかつたものは、17号竪穴建物跡一括として、報告する。



第26図 14号竪穴建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4)



第27図 16号竪穴建物跡、出土遺物実測図（1/80、1/4）

18号A竪穴建物跡（第30・31図 図版16）

この竪穴建物跡は北側調査区の北側で確認され、16号、18号B・C・D竪穴建物跡を切る。平面形は当初正方形に近い形状を呈するかと思われたが、最終的には長方形を呈する部分もあることがわかった。そのため、一部掘り間違えた可能性と2軒の切り合いもしくは拡張した可能性がある。平面形が長方形になると想定した場合の規模は南北軸約5.1m、東西軸約4.6m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約20cmを測る。また、床面には西壁側及び東壁、南壁の一部に壁際溝があり、ピットは20個以上が確認された。これらのピットのうち、深さや位置関係から、P1～P4が支柱穴になると判断した。なお、支柱穴の深さは床面から25～60cmを測る。

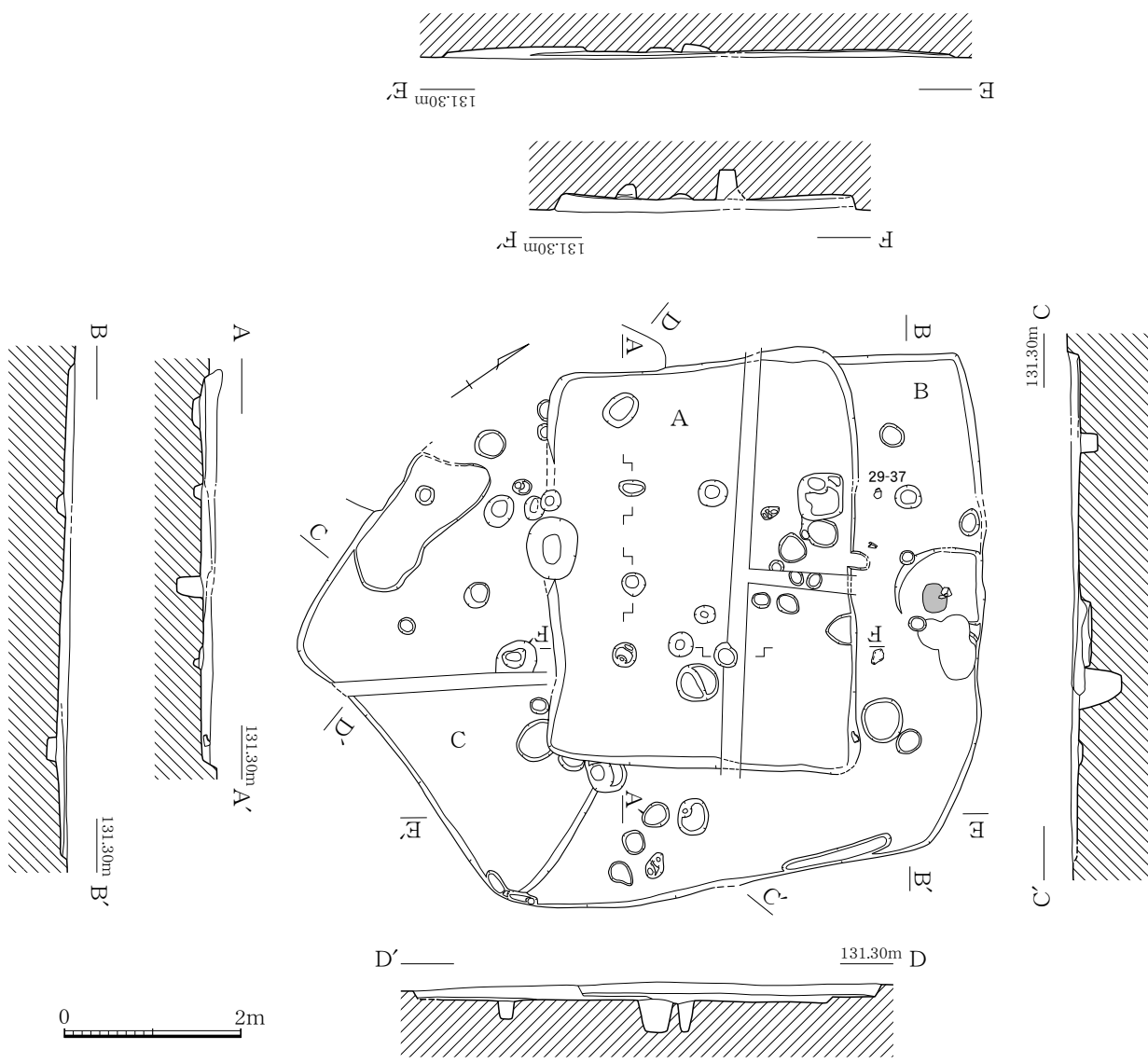
また、北壁の中央付近において、土坑状の落ち込みと焼土を検出し、その内側で石材片などを確認した。検出された位置や石材が出土したことから、カマドの可能性はあるが、袖や袖石・支脚、またその抜取り痕など、カマドと断定できるものは確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕・壺・甑、須恵器蓋坏・蓋・高坏が出土している。

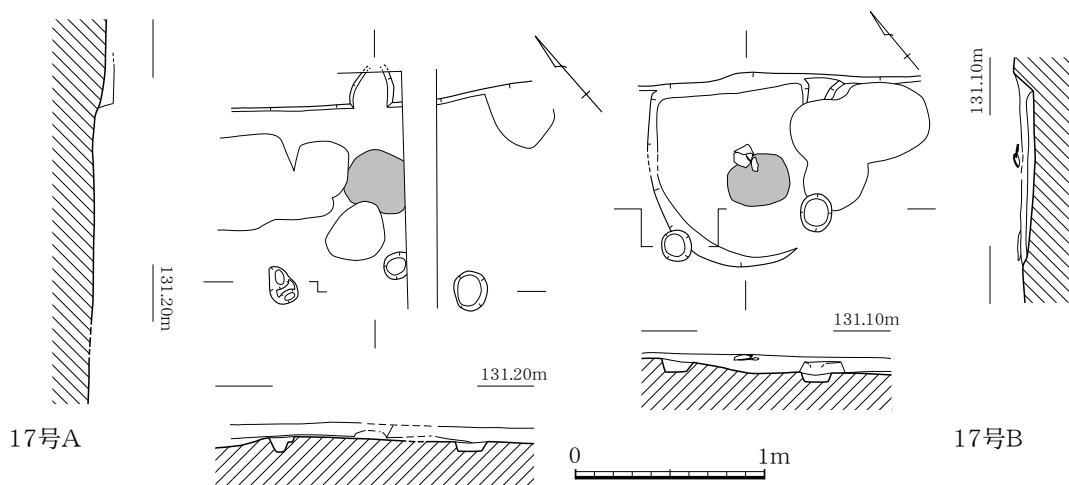
18号B竪穴建物跡（第32・33図 図版17）

この竪穴建物跡は18号A竪穴建物跡の東側で確認され、18号A・C、24号B竪穴建物跡に切られる。平面形は東壁と南壁の一部しか残っていないが、方形を呈すると思われる。規模は東壁で約4.8m、南壁で約4.3m、床面までの深さは最も残りのよい部分で約15cmを測る。床面にはピットは10個前後確認され、位置関係や深さから、P1～P4の4本が支柱穴と判断した。なお、支柱穴の床面から深さは25～45cmを測る。

なお、カマドや炉跡を示すような焼土や炭は確認できなかった。



※アミは焼土

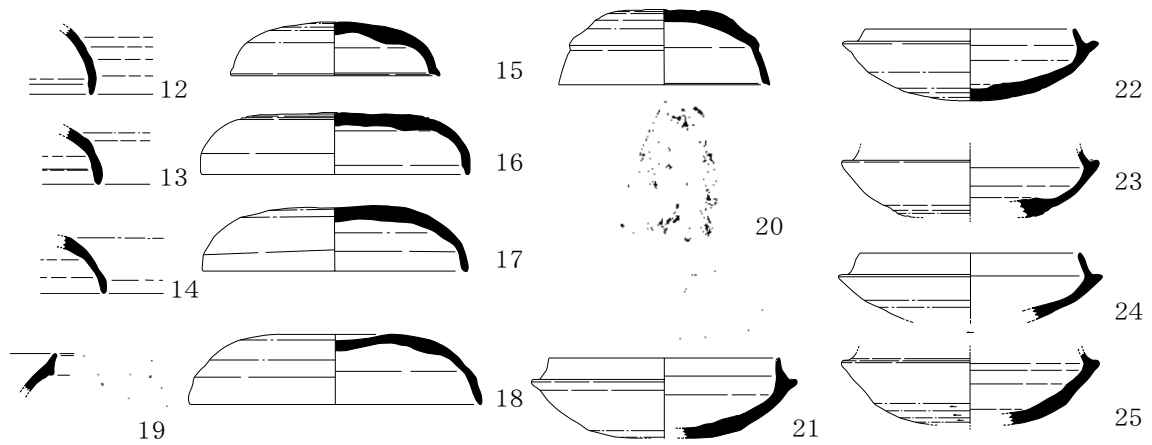
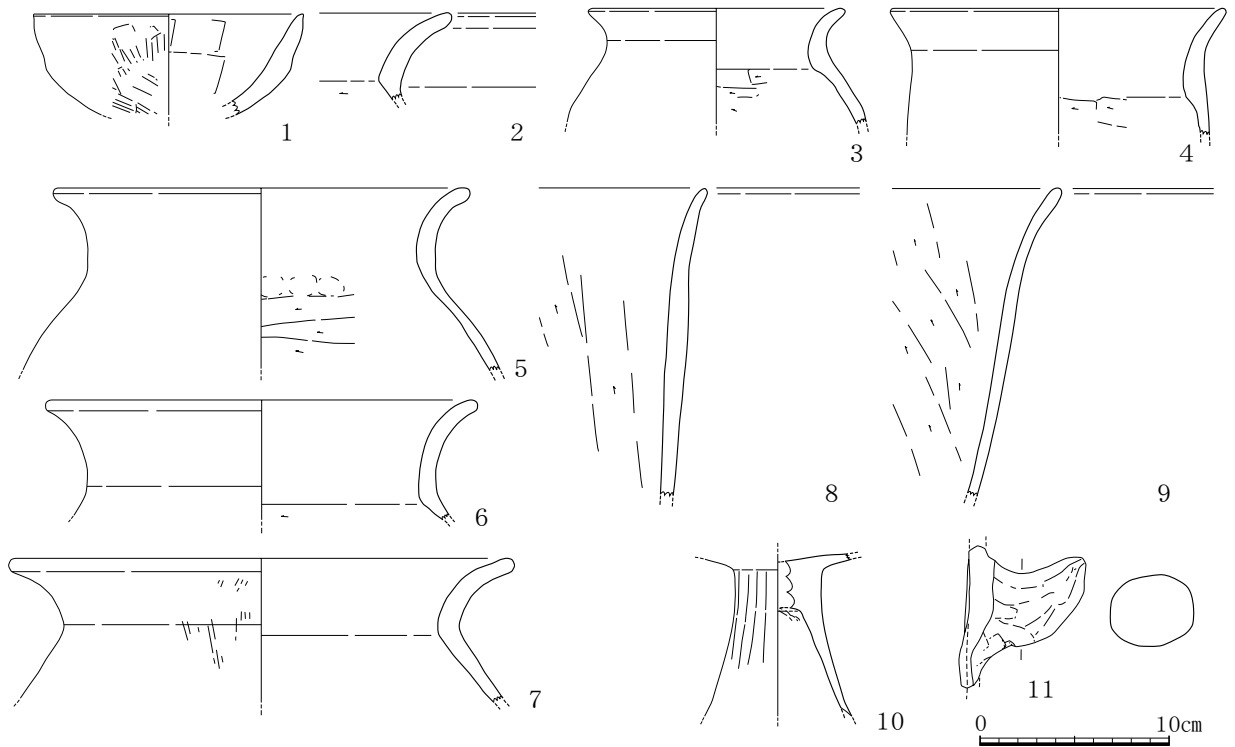


17号A

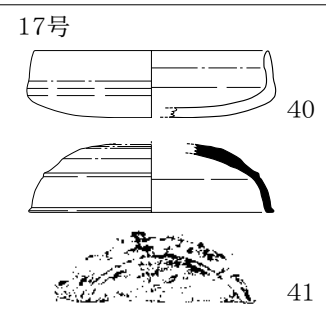
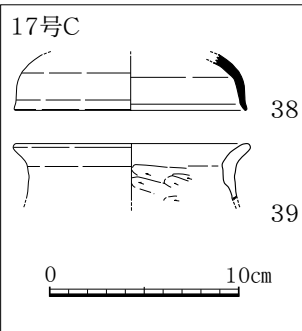
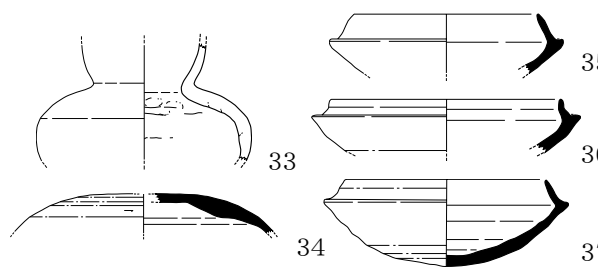
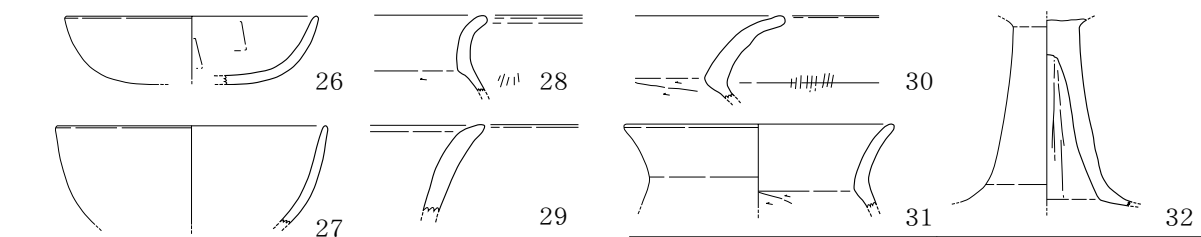
17号B

第28図 17号A・B・C 竪穴建物跡、カマド実測図 (1/80、1/40)

17号A



17号B



第29图 17号A·B·C竖穴建物跡出土遺物実測图 (1/4)

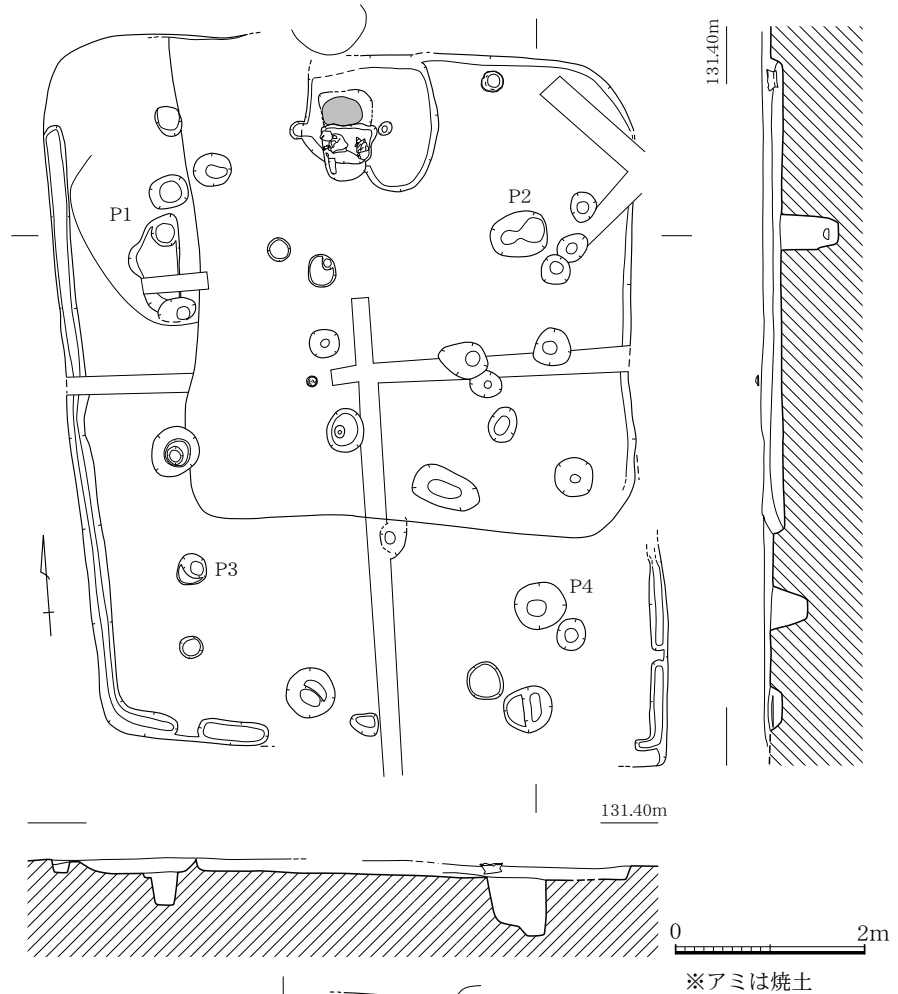
遺物は、土師器坏・甕、須恵器甕・器台などが出土している。

18号C 竪穴建物跡

(第34図 図版17)

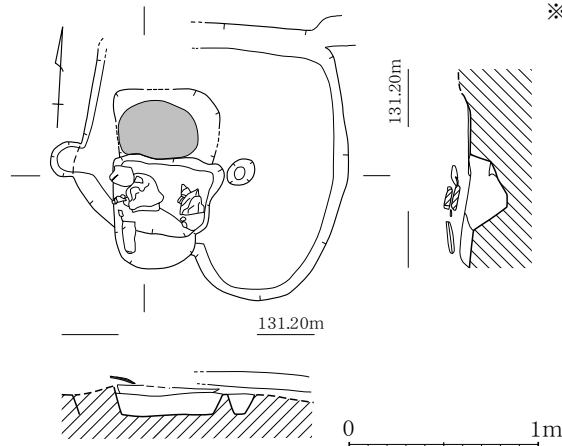
この竪穴建物跡は18号A 竪穴建物跡の北東側で確認され、19号C、24号B 竪穴建物跡に切られる。平面形は西壁と南壁の一部のみが残っている程度だが、方形を呈すると思われる。規模は、西壁で約 $2.9m + \alpha$ 、南壁で約 $2.6m + \alpha$ 、床面までの深さは最も残りのよい部分で約20cmを測る。床面にはピットが数個確認されたが、支柱穴にと判断できるものはなく、また、カマドや炉跡を示すような焼土や炭は確認できなかった。

遺物は出土しなかった。



18号D 竪穴建物跡 (第34図)

この竪穴建物跡は、18号A 竪穴建物跡の北側で確認され、この建物跡と16号竪穴建物跡に切られる。平面形は北壁と東壁の一部が確認されたのみであるが、方形と思われる。規模は、北壁で約 $1.4m + \alpha$ 、東壁で約 $1.0m + \alpha$ 、床面までの深さは約5cmと浅い。床面ではピット等は確認されず、また遺物も出土しなかった。

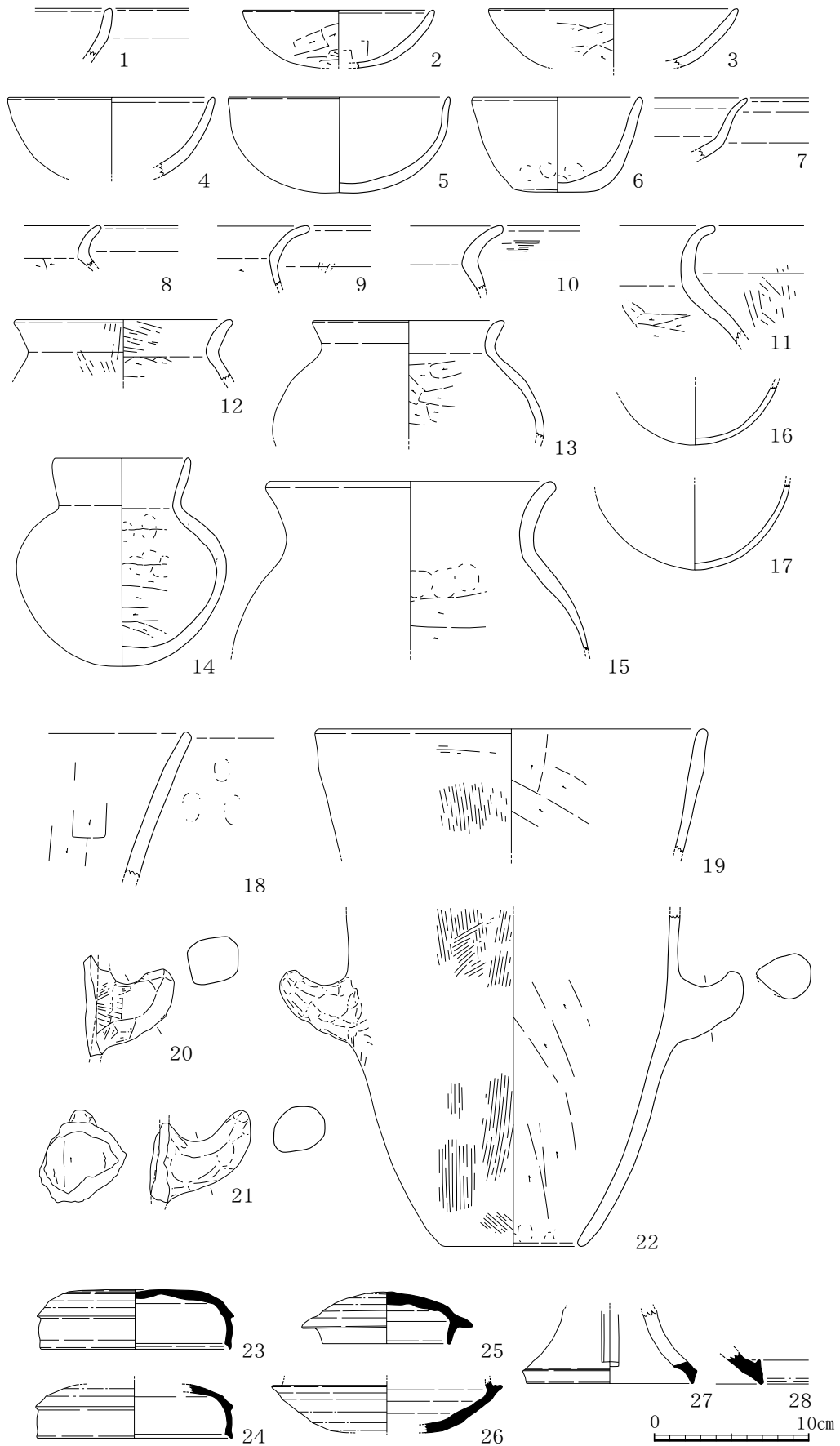


第30図 18号A 竪穴建物跡、カマド実測図 (1/80、1/40)

19号A B C 竪穴建物跡 (第35・36図 図版17・18)

これらの竪穴建物跡は、北側調査区の中央北端で確認され、A B Cの順で切り合い、また18号C 竪穴建物跡に切られる。また、B・C 竪穴建物跡の南東側は調査区外へ広がる。

19号A 竪穴建物跡は、東壁・北壁の一部が残るのみであるが、平面形は方形を呈すると思われる。床面の東側に壁際溝が確認されたほか、数個のピットが見られたが、支柱穴と判断できるものや、焼土・炭など炉跡やカマドの痕跡を示すものは検出されなかった。



第31图 18号A竖穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)

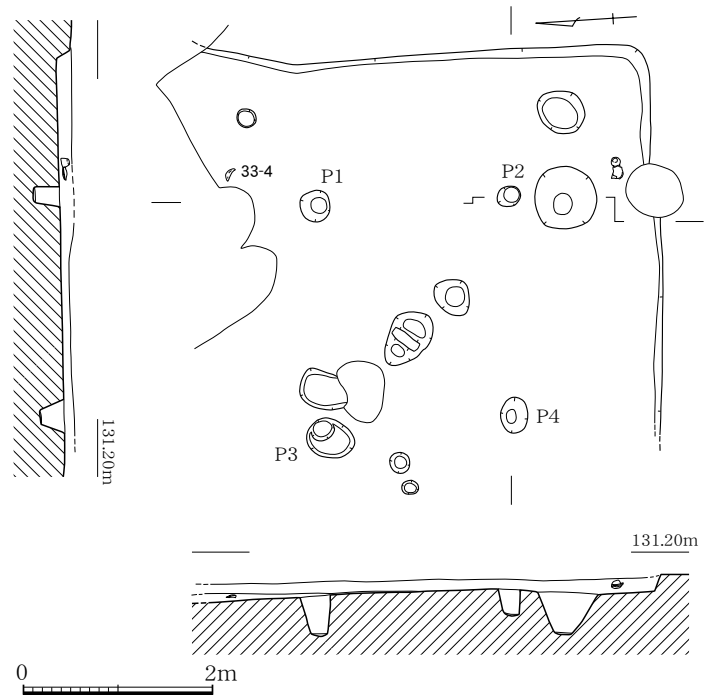
遺物は、土師器甕・甔、須恵器坏身などが出土した。

19号B 竪穴建物跡は北西壁・南東壁の一部のみが残存しているが、平面形は方形を呈すると思われる。床面にはピットが数個確認されたが、支柱穴に判断できるものや、焼土・炭など炉跡やカマドの痕跡を示すものは検出されなかった。

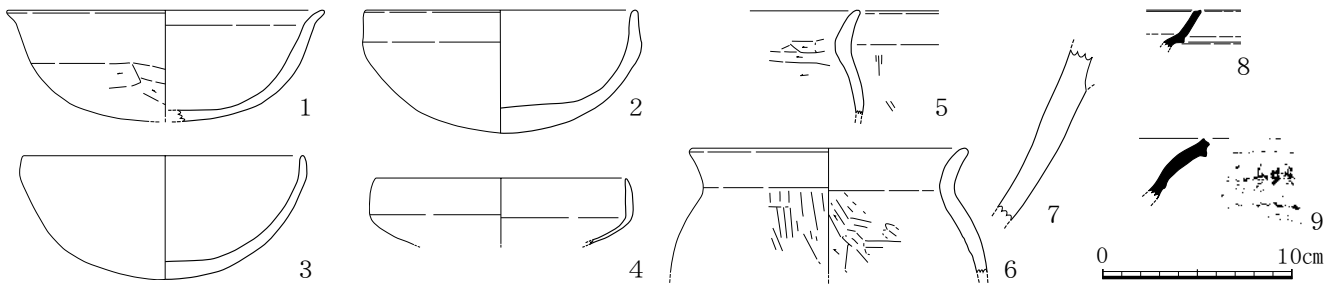
遺物は、出土しなかった。

19号C 竪穴建物跡は南東壁及び北東・南西壁の一部が残存しているが、平面形は方形を呈すると思われる。規模は東西軸約4.7m、南北軸約3.1m + α 、床面まで深さは最も残りの良い部分で約30cmを測る。

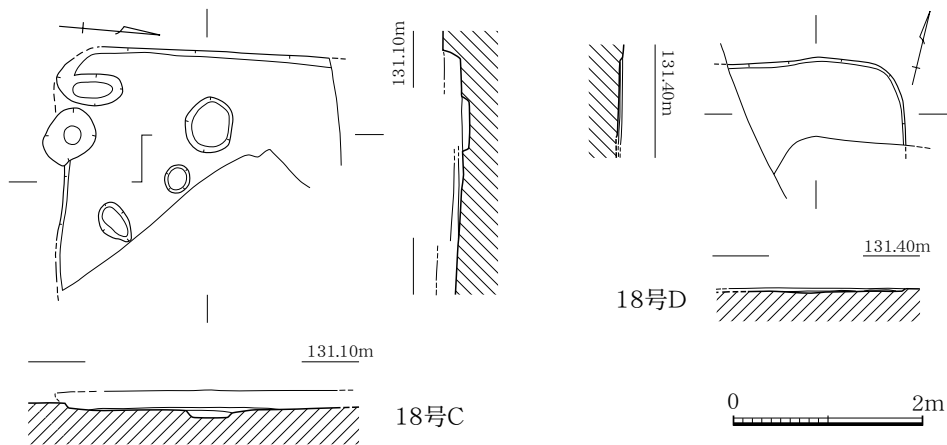
床面には北東側の一部に壁際溝があり、ピットが10個ほど確認された。ピットのうち、その位置関係や深さからP1～P4を支柱穴と判断した。なお、支柱穴の床面からの深さは40



第32図 18号B 竪穴建物跡実測図 (1/80)



第33図 18号B 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)



第34図 18号C・D 竪穴建物跡実測図 (1/80)

～65cmを測る。

また、カマドは南西壁に付設され、短い煙道が壁の外に伸びる。左右の袖はともに一部が確認され、袖石・支脚などが残存していなかったが、その抜取り痕とみられるピットは確認できた。また、袖の内側には火床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約80cm、右袖が約75cm、袖間の幅は奥壁側・袖石側ともに約75cmを測る。また、煙道を含めた長さは約120cmとなる。

遺物は、土師器坏・甕・甑、須恵器坏身・高坏などが出土した。

20号竪穴建物跡 (第37・38図 図版18)

この竪穴建物跡は北側調査区北東側で確認され、27号竪穴建物跡を切る。また、北側は調査区外へ広がるが、平面形は方形を呈すると思われる。規模は南北軸約3.7m+ α 、東西軸約4.9m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約45cmを測る。

床面には、確認された三方の壁に壁際溝があり、ピットが6個確認された。これらのピットのうち、位置関係や深さからP1～P4を支柱穴と判断した。なお、支柱穴の床面からの深さは15～40cmを測る。

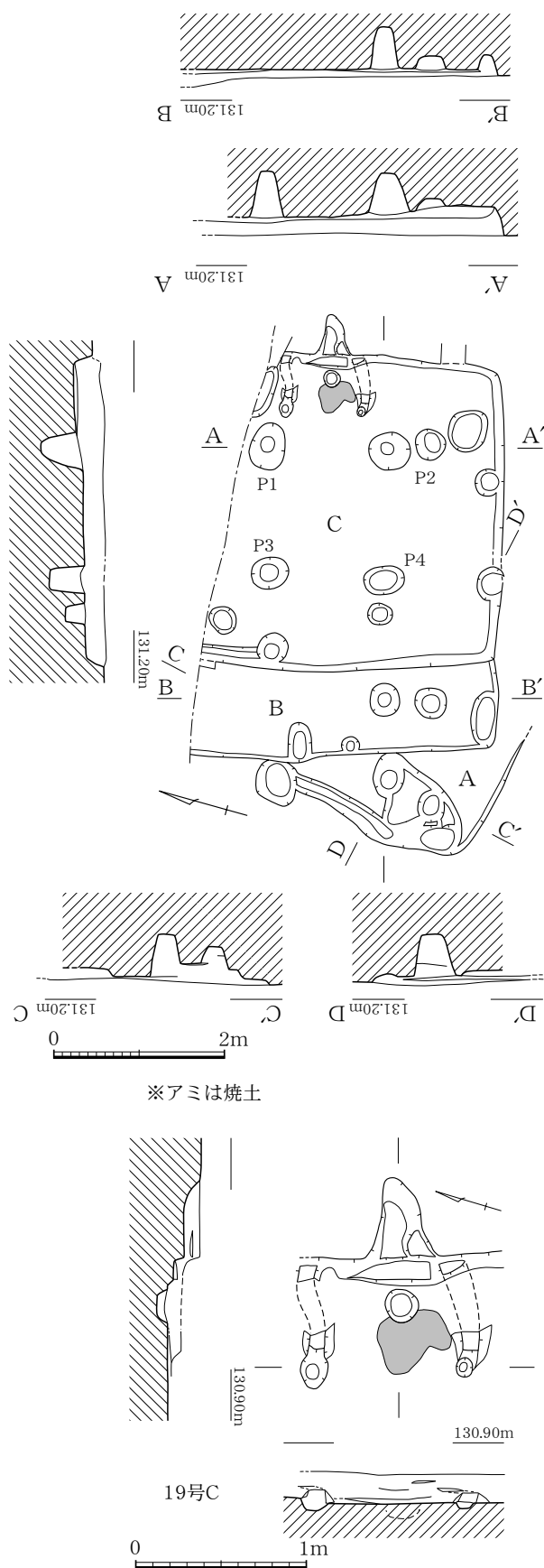
また、この他、床面にはカマドや炉の痕跡を示す焼土や炭などは確認されなかったことから、調査区外となる北壁側にカマドを付設していた可能性がある。

遺物は、土師器坏・高坏・甕・甑、須恵器蓋坏・甕・高坏などが出土した。

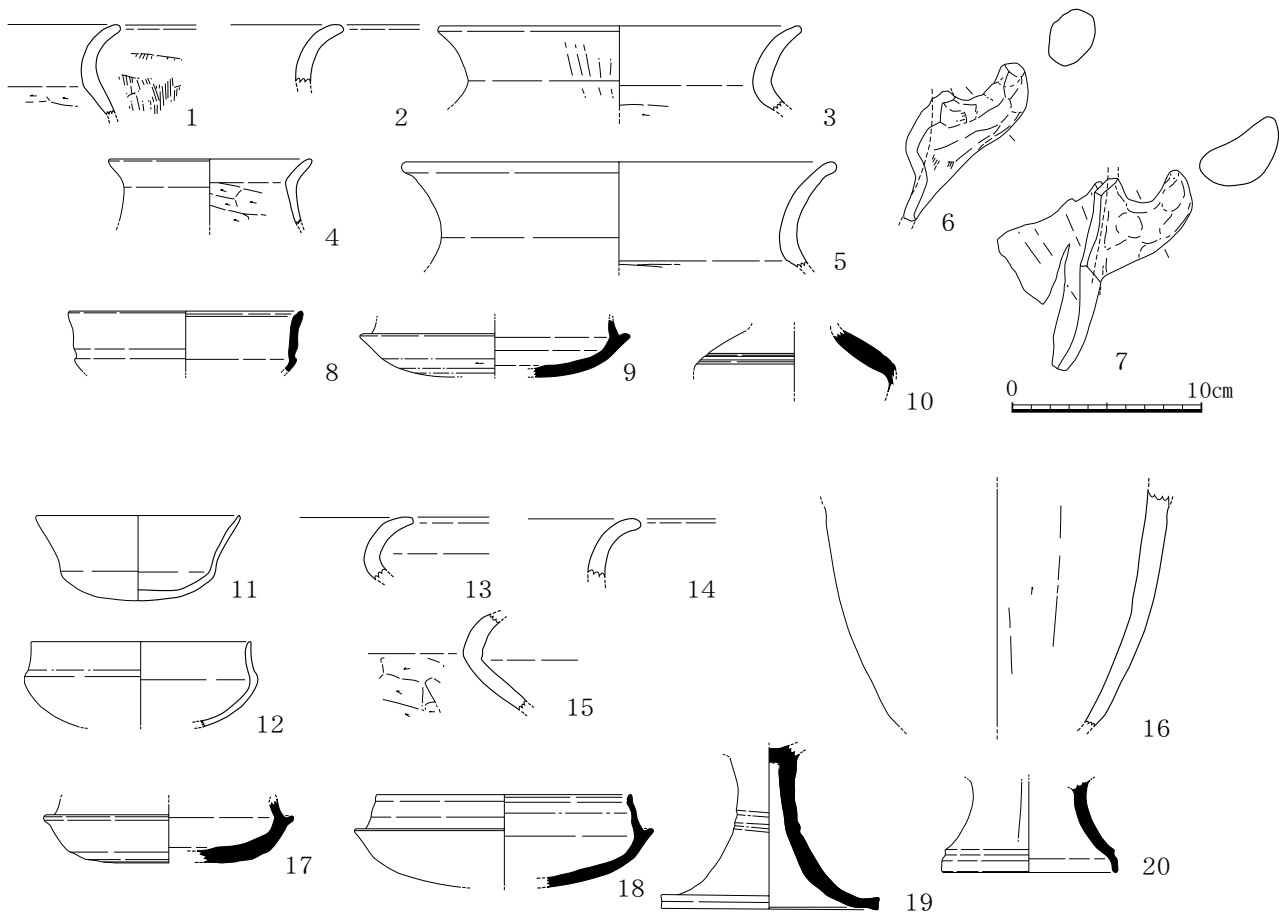
21号竪穴建物跡 (第39・40図 図版19・20)

この竪穴建物跡は北側調査区東側で確認され、22号D竪穴建物跡を切り、22号B竪穴建物跡に切られる。平面形は現状からほぼ正方形を呈すると思われる。規模は南北軸約5.1m、東西軸約4.9m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約25cmを測る。

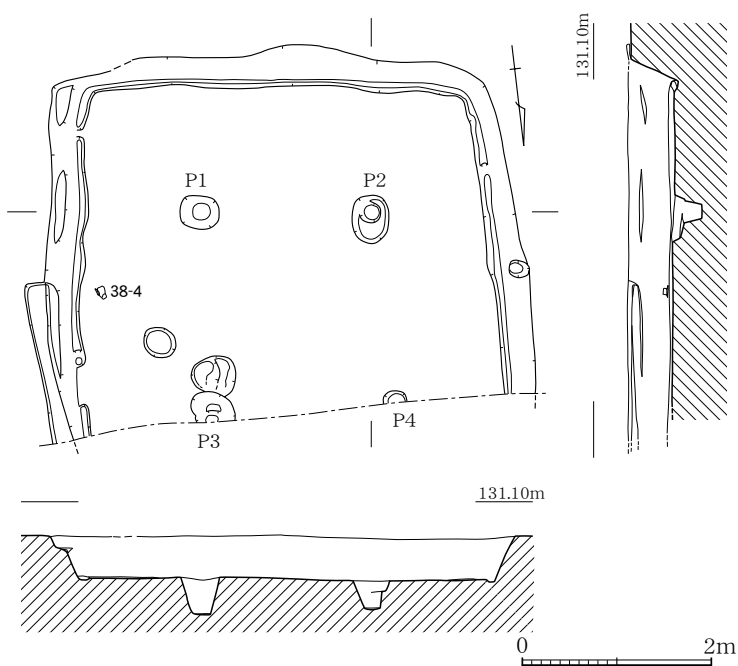
床面には東壁の一部に壁際溝があり、ピットが10個ほど確認された。これらのピットのうち、位



第35図 19号A・B・C竪穴建物跡、カマド実測図 (1/80、1/40)



第36図 19号A・C 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)

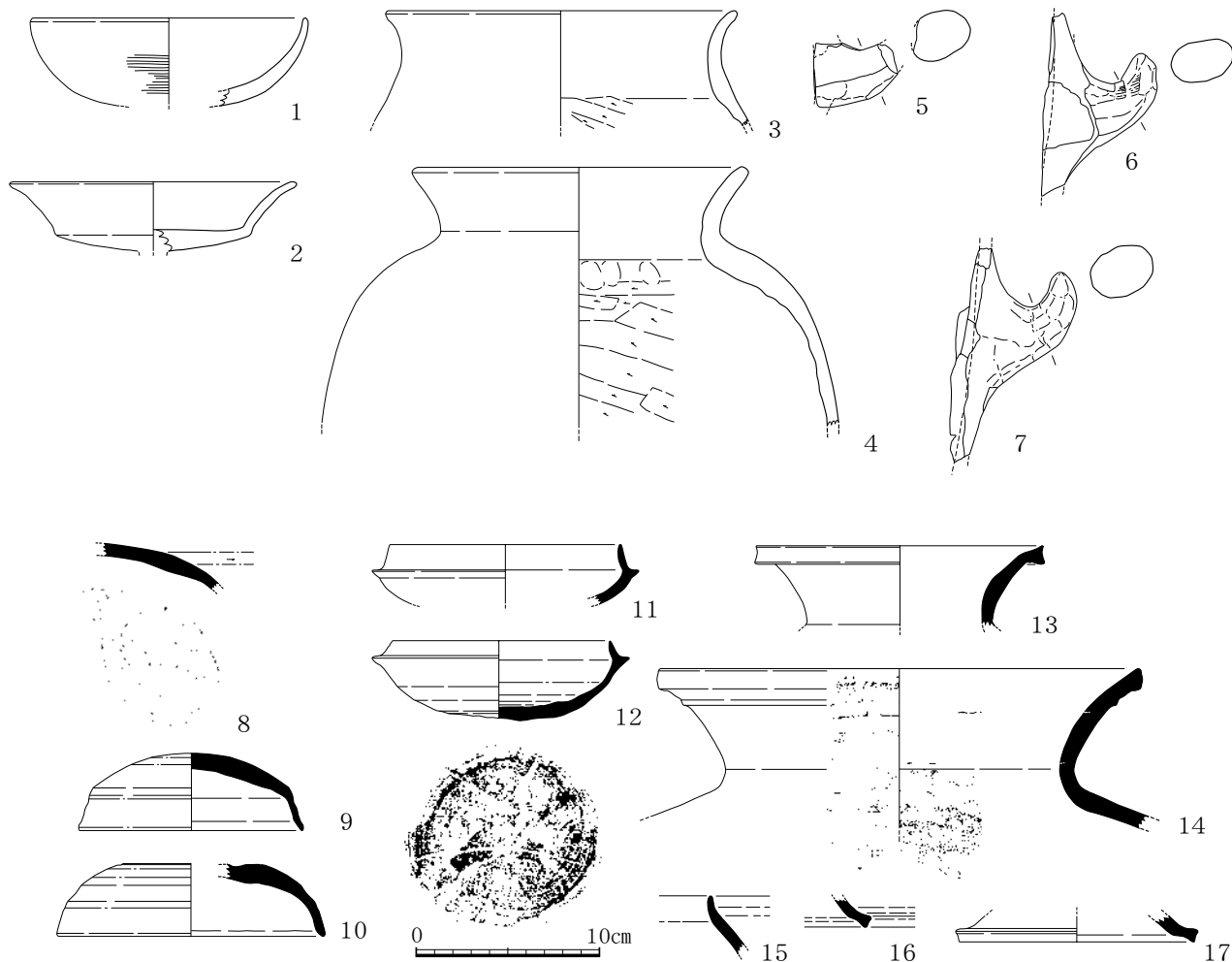


第37図 20号竪穴建物跡実測図 (1/80)

置関係や深さから、P1～P4の4本が主柱穴と判断した。なお、P3については、22号B竪穴建物跡内で確認した。主柱穴の床面からの深さは25～55cmを測る。

また、北壁中央にはカマドが付設され、煙道がわずかに残る。左右の袖及び袖石、支脚などほとんどが残存していた。なお、袖の内側には火床面がみられる。カマドの寸法は左袖が約73cm、右袖が約86cm、袖間の幅は奥壁側で約31cm、袖石側で約50cmを測る。また、煙道を含めた長さは約86cmとなる。さらに袖の内側及び左右の袖の内側において、遺物が多く出土し、これらの一部は床面直上より出土している。

遺物は、土師器坏・高坏・甕・甑、須恵器蓋坏などが出土している。



第38図 20号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)

22号A 竪穴建物跡 (第41・42図 図版20・21)

この竪穴建物跡は北側調査区東側で確認され、21号・22号BCD竪穴建物跡を切り、3・5号掘立柱建物跡に切られる。北壁側をトレンチによる掘り下げで確認できなかったものの、平面形は方形を呈するものと思われる。規模は南北軸約6.2m、東西軸約6.4m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約25cmを測る。

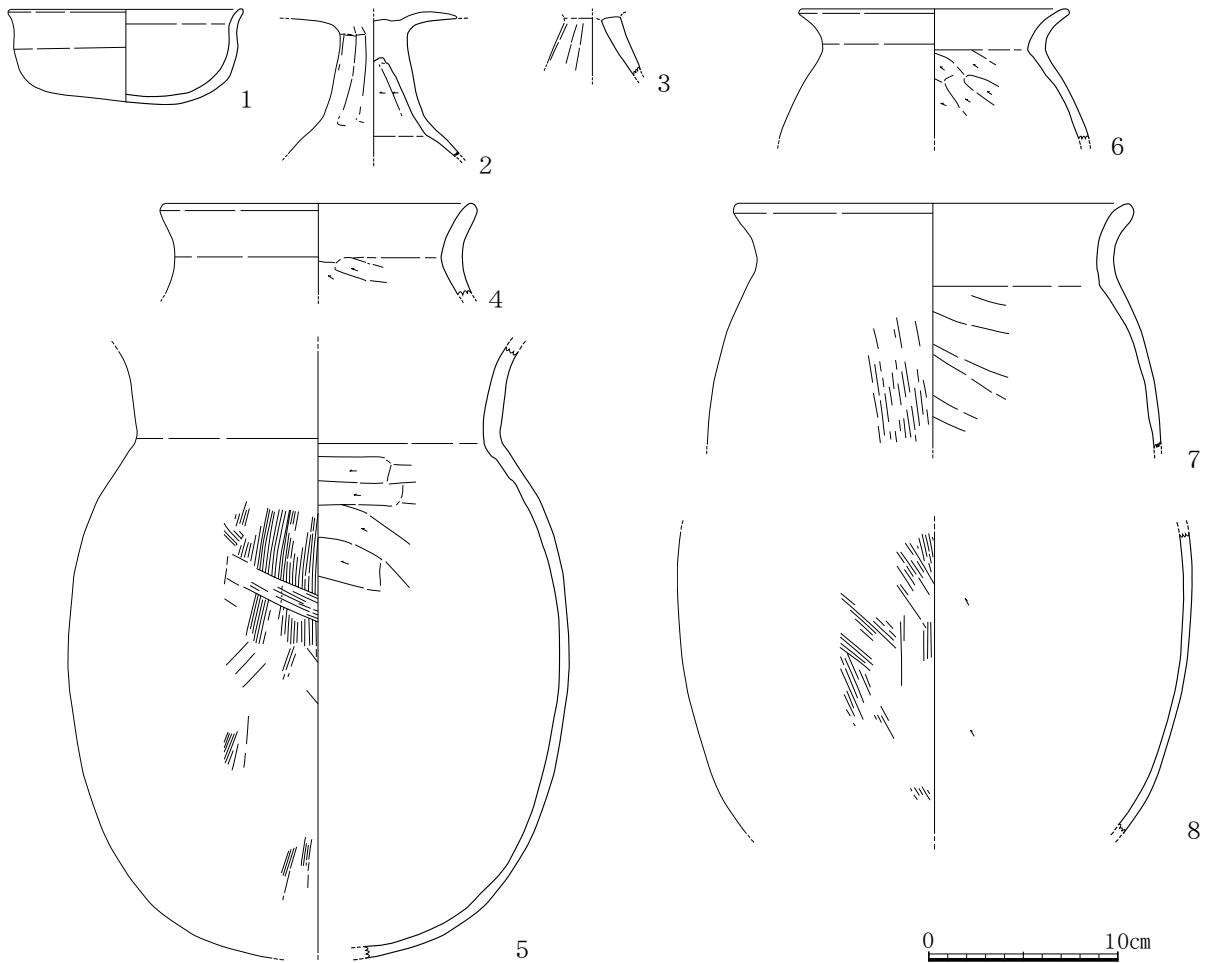
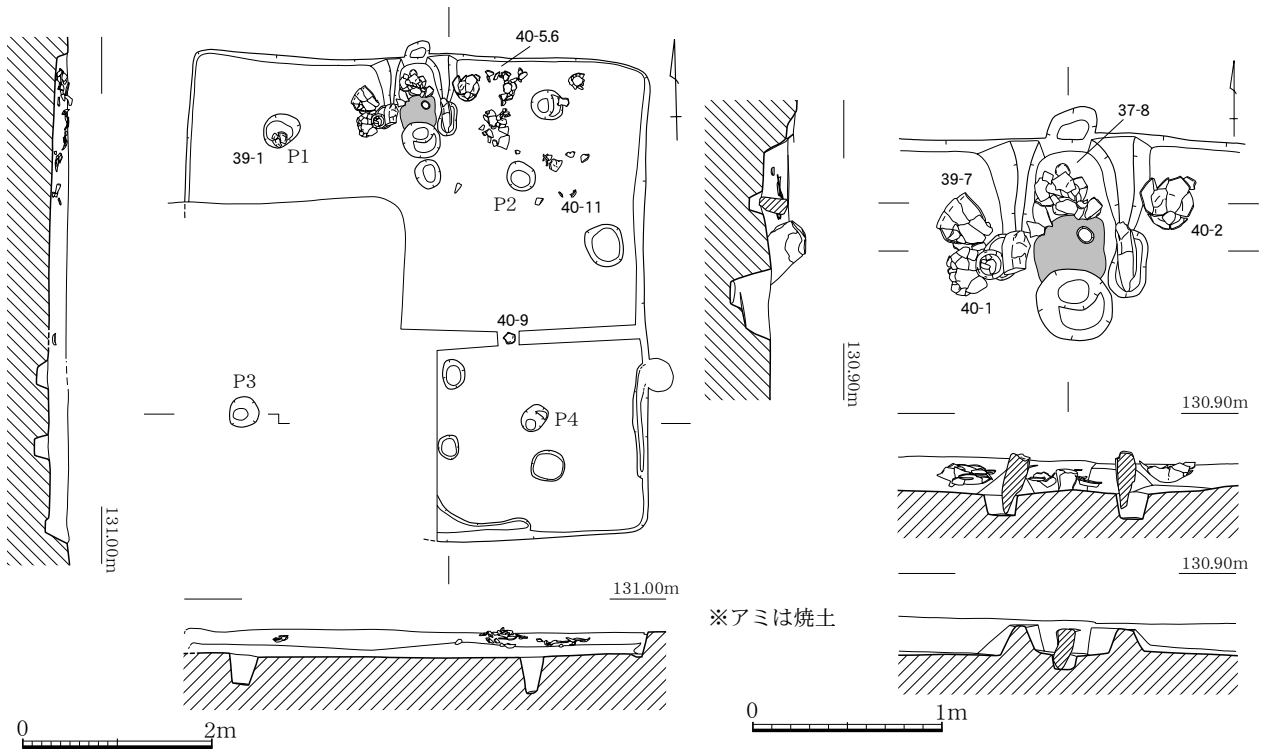
床面には部分的に壁際溝があり、ピットが数10個確認された。確認されたピットの内、位置関係や深さからP1～P4の4本が支柱穴になると判断した。支柱穴の深さは床面から20～40cmを測る。

また、北壁の中央からやや東寄りにはカマドが付設される。前述のように建物跡の北壁が確認できなかったことから、煙道の有無は不明である。左右の袖は内側が残るものの、外側は削平を受けている。袖石は左右とも確認され、その上部には天井石が残っていた。また、袖の内側には火床面が見られる。カマドの寸法は左袖が約90cm + α、右袖は約78cm + α、袖間の幅は奥壁側で約55cm、袖石側で約70cmを測る。

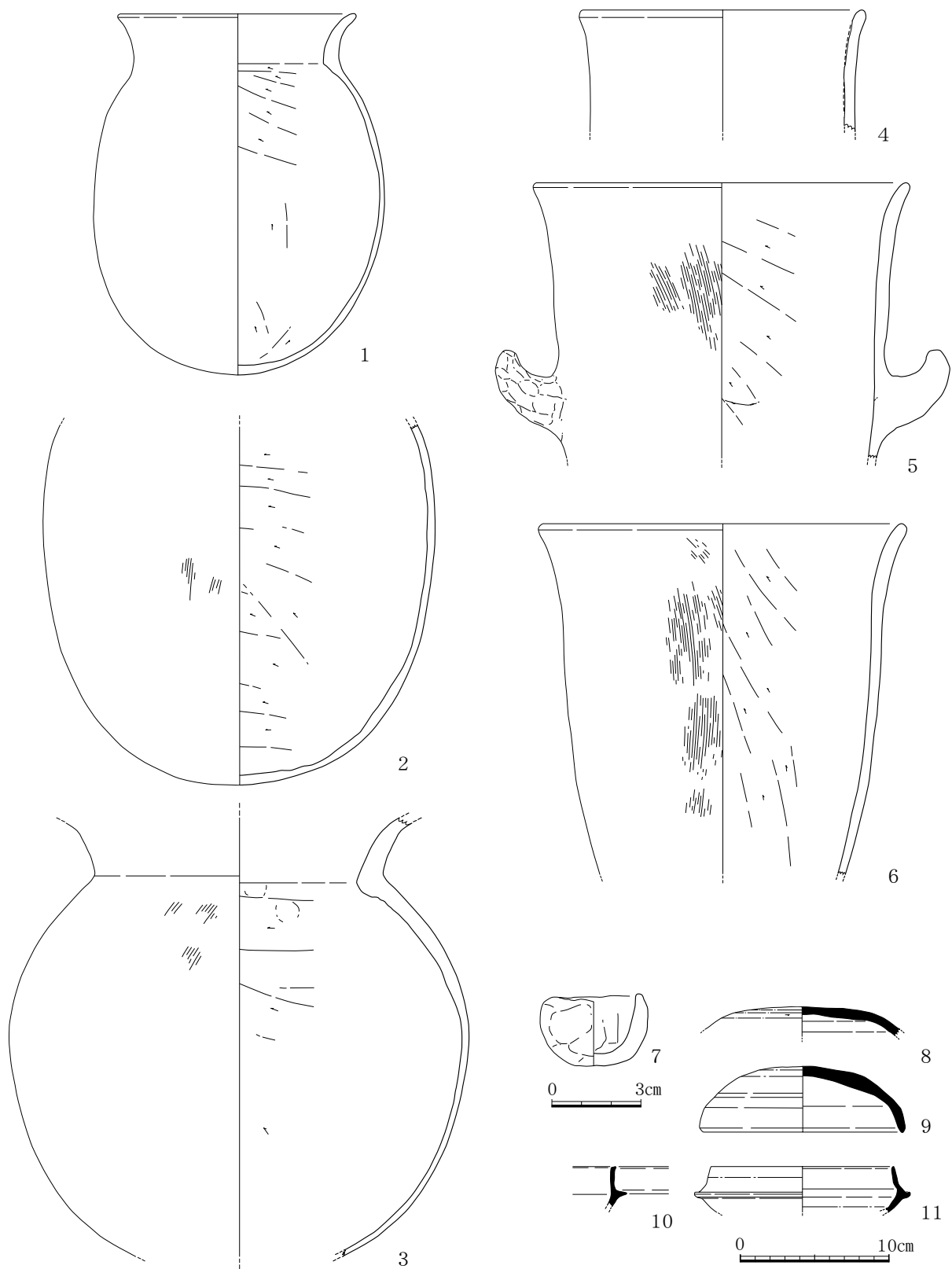
遺物は、土師器坏・高坏・甑が出土している。

22号B 竪穴建物跡 (第43図 図版21)

この竪穴建物跡は22号A竪穴建物跡の北側で確認され、この建物跡に切れ、21号竪穴建物跡を切る。壁は北壁のほか、東西壁の一部が残っているのみであるが、平面形は方形を呈すると思われる。規模は東西軸約6.0m、南北軸が約1.3m + α、床面までの深さは最も残りの良い部分で約30cmを測る。



第39図 21号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図(1) (1/80、1/40、1/4)



第40図 21号竪穴建物跡出土遺物実測図(2) (1/4・7のみ1/2)

床面には壁際溝は見られず、ピットが9個確認されたが、支柱穴と判断できるようなピットはなかった。

カマドは北壁のほぼ中央に付設される。煙道は確認できなかったが、右袖及び支脚とその前面に火床面が確認できた。左袖については、土層観察の結果、焼土が想定される左袖の位置より、大きく外側に確認されたため、住居廃絶時に破壊されたと考えられる。なお、規模は右袖の長さが約98cmを測る。

遺物は、土師器杯・高坏・甕が出土している。

22号C 竪穴建物跡 (第44・45図 図版22)

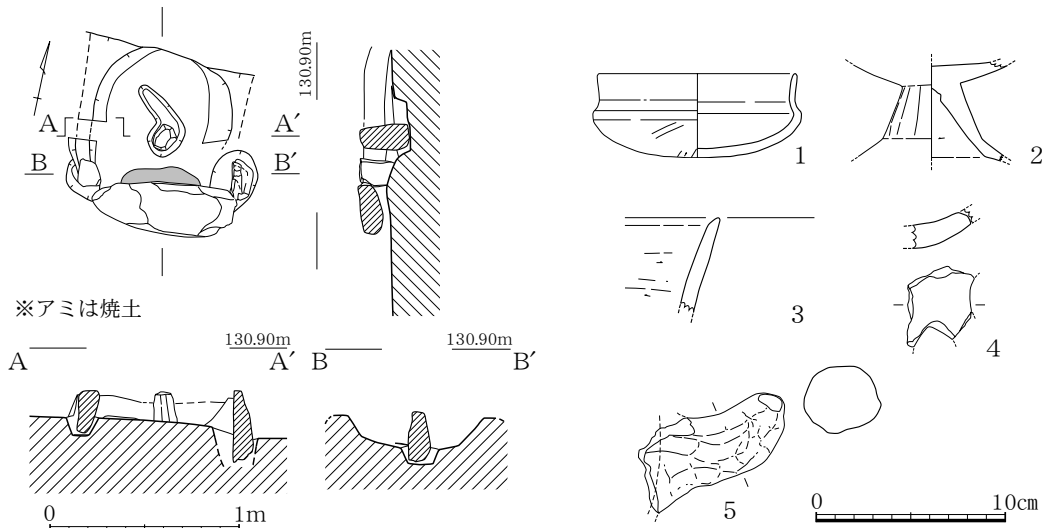
この竪穴建物跡は北側調査区東側の22号A 竪穴建物跡の西側で確認され、この建物跡と5号掘立柱建物跡に切られる。建物跡のほぼ東半分が切られているが、平面形は方形を呈すると思われる。規模は南北軸約5.7m、北壁で約2.6m + α、床面までの深さは最も残りの良い部分で約20cmを測る。

床面には壁際溝が部分的にみられ、ピットが数個確認された。これらのピットと22号A 竪穴建物跡内で確認されたピットの位置関係や深さから、P1～P4の4本が支柱穴と判断した。これにより、西壁からP3までの東西軸の規模は少なくとも4.3mを測る。なお、支柱穴の深さは床面から30～60cmを測る。

カマドは西壁の中央よりやや

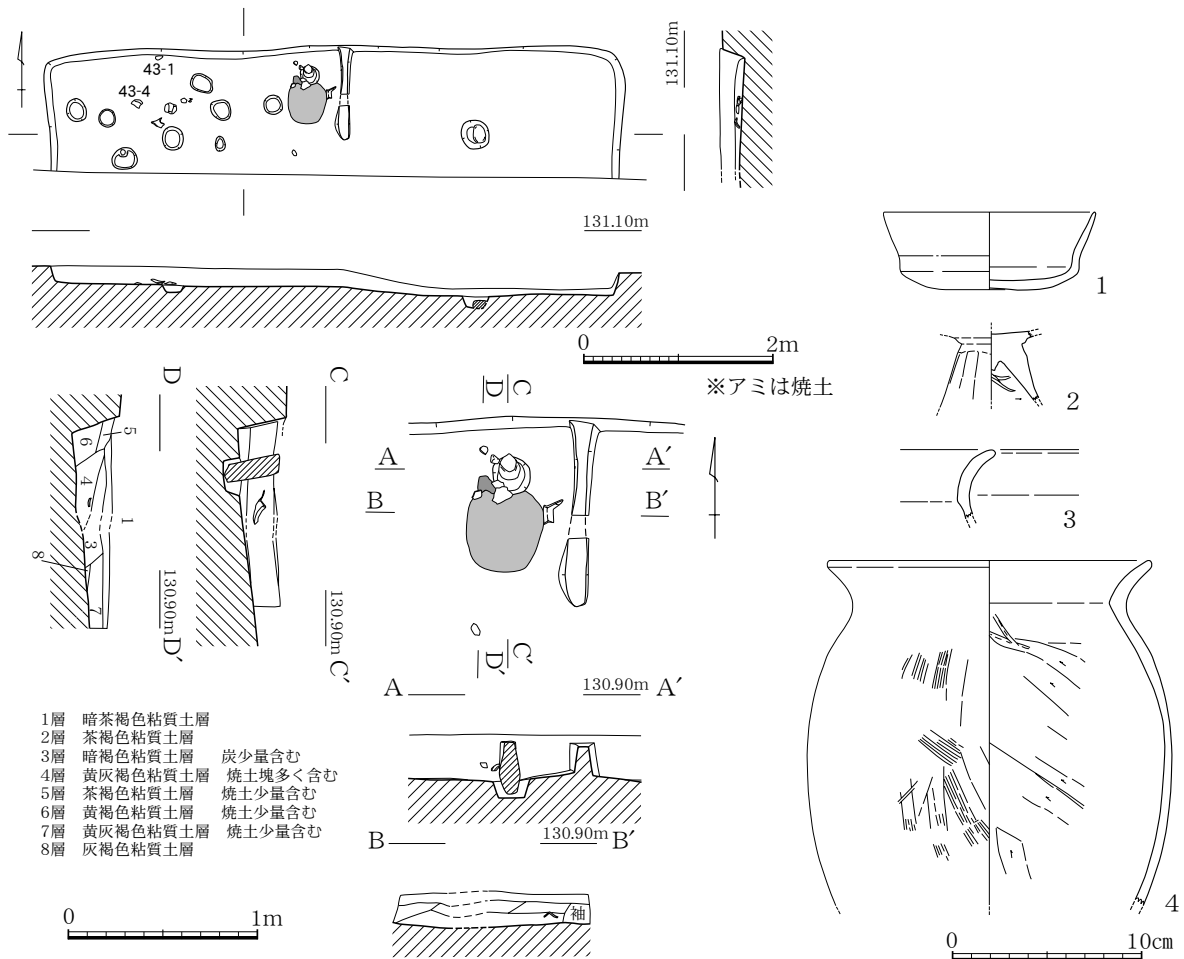


第41図 22号A 竪穴建物跡実測図 (1/80)



※アミは焼土

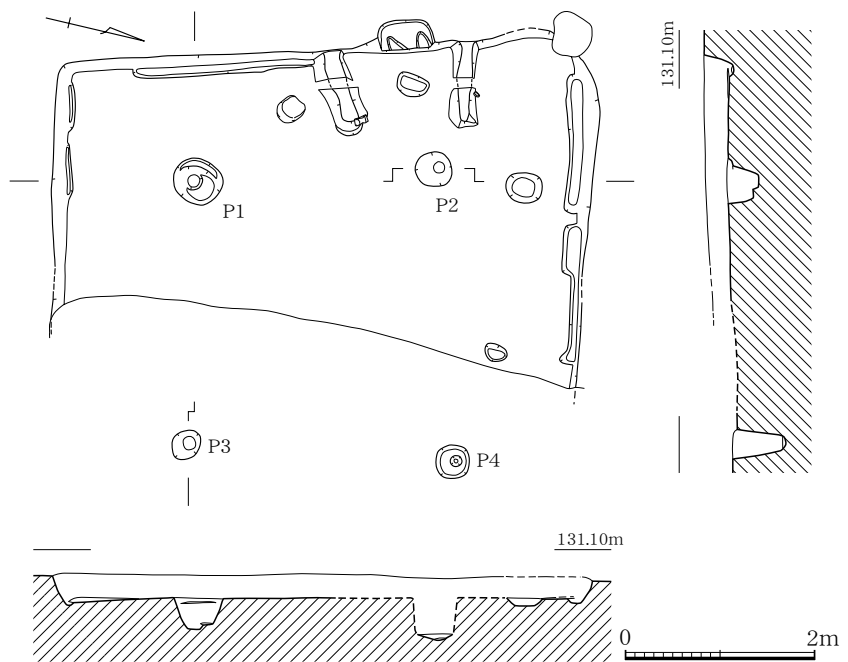
第42図 22号A 竪穴建物跡カマド、出土遺物実測図 (1/40、1/4)



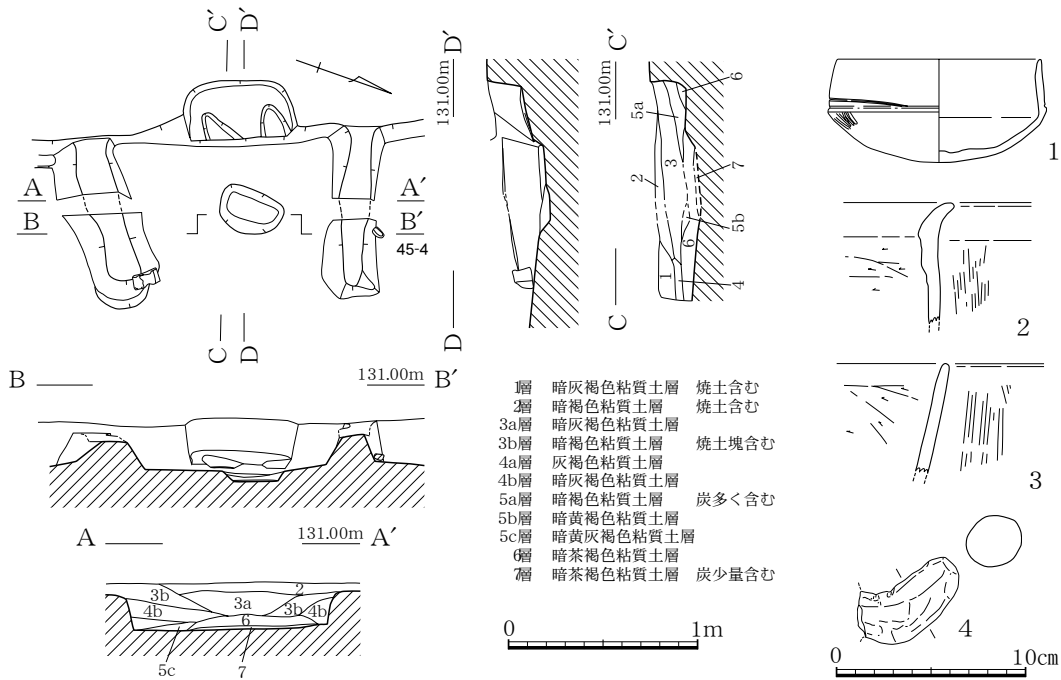
第43図 22号B 竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4)

北側に付設され、壁側には突出部が見られるが、煙道となるかは判断できなかった。袖は左右ともに残り、袖の内側には、支脚の抜取り痕と見られるピットが確認されたが、袖石及び火床面は検出できなかった。カマドの寸法は左袖が約93cm、右袖が約90cm、袖間の幅は奥壁側で約130cm、端部側で約112cmを測る。

遺物は、土師器坏・甗が出土している。



第44図 22号C 竪穴建物跡実測図 (1/80)

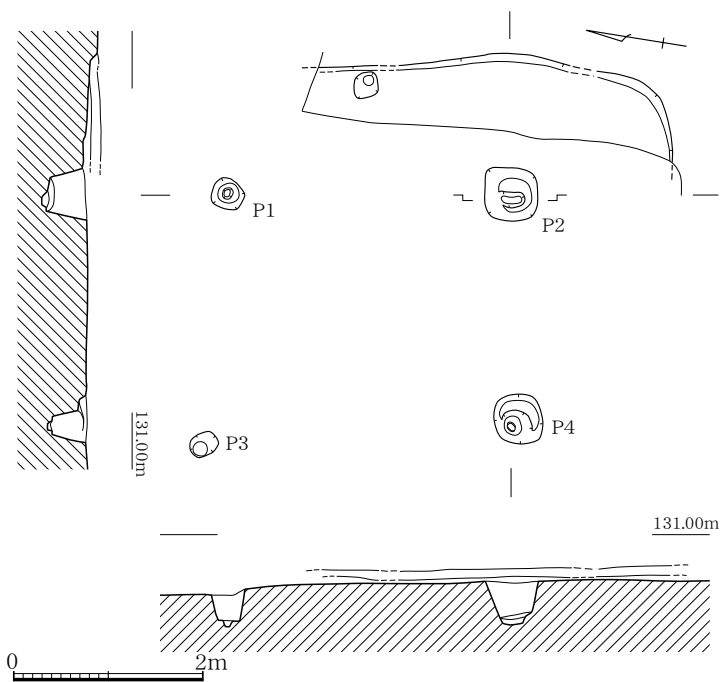


第45図 22号C 竪穴建物跡カマド、出土遺物実測図 (1/40、1/4)

22号D 竪穴建物跡 (第46図 図版22)

この竪穴建物跡は北側調査区東側で確認され、21・22号A 竪穴建物跡に切られる。大部分を他の建物跡に切られているものの、平面形は方形を呈すると思われる。規模は東壁が約3.4mを測るが、22号A 竪穴建物跡内で確認できたP 1～P 4が支柱穴と考えられることから、規模は少なくとも南北軸約4.9m、東西軸約4.1mを測る。また、床面までの深さは東側で約10cmである。なお、支柱穴の深さは40～50cmを測る。

遺物は22号A～D 竪穴建物跡一括出土のものがあるが(第47図 図版46・47)、確実にこの建物跡から出土したと判断できるものはなかった。

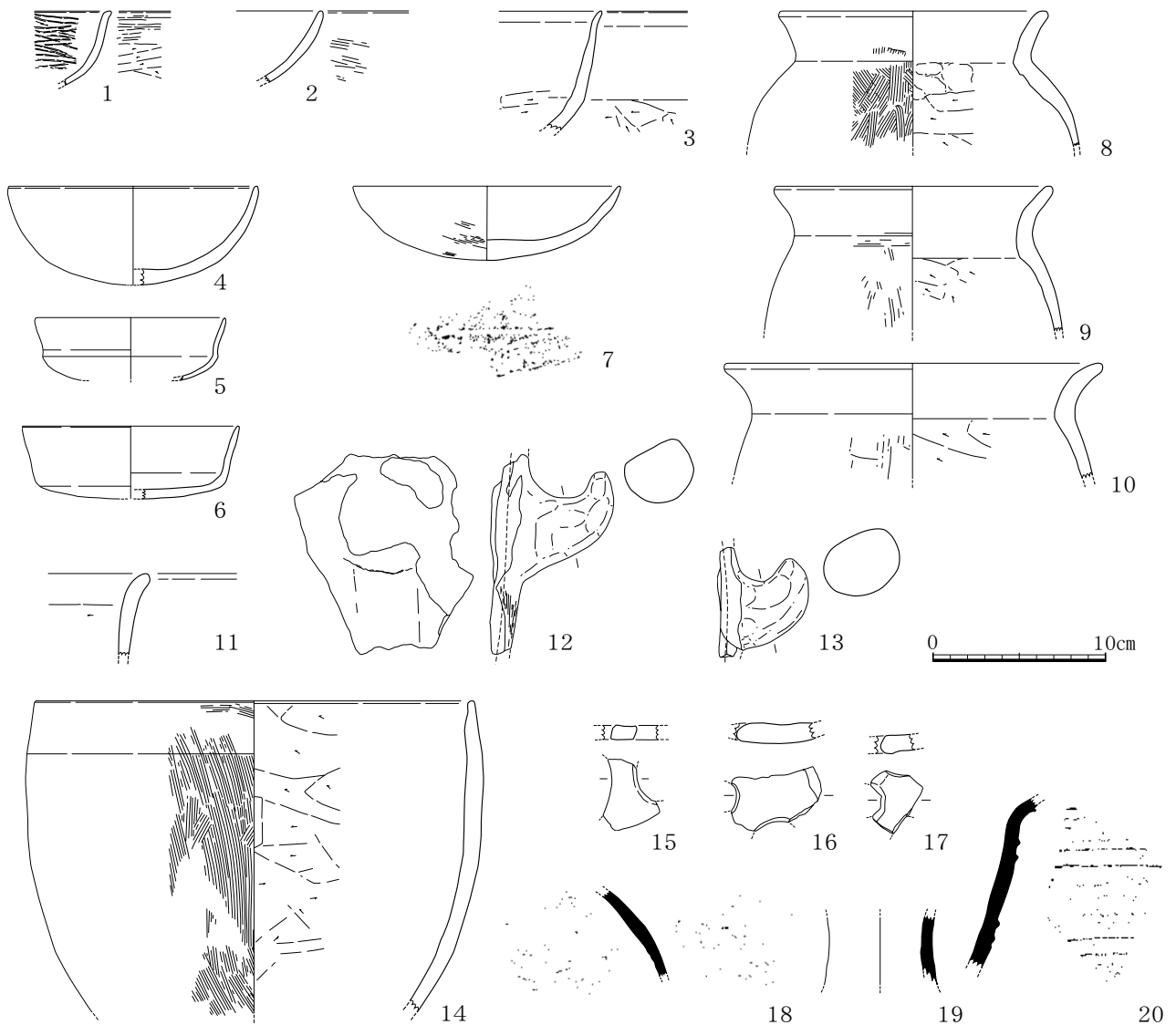


第46図 22号D 竪穴建物跡実測図 (1/80)

23号A 竪穴建物跡 (第48～50図 図版23)

この竪穴建物跡は北側調査区北東側の22号C 竪穴建物跡の北東側で確認され、23号B・C 竪穴建物跡と切り合う。平面的な切り合い関係はC→B→Aの順番となっているが、遺物を検討する限りでは、切り合い関係が逆転することも考えられる。詳細については、後述する。

平面形は方形を呈し、規模は南北軸約4.5m、東西軸約4.8m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約50cmを測る。床面には一部に壁際溝が見られ、ピットが数個確認された。これらのピットのうち、位置関係や深さからP 1～P 4が支柱穴と判断した。なお、支柱穴の深さは20～45cmを測る。この他、P 1付近において、焼土



第47図 22号A・B・C・D 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)

が確認された。この焼土がカマドに伴うものなのか、もしくは23号B 竪穴建物跡に伴うものなのか、判断できなかった。

遺物は、土師器坏・高坏・甕・甌、須恵器坏身・高坏・甕などが出土している。

23号B 竪穴建物跡 (第51・52図 図版23・24)

この竪穴建物跡は23号A 竪穴建物跡の東側で確認され、23号A C 竪穴建物跡と切り合い、27号竪穴建物跡を切る。平面形は方形を呈し、規模は南北軸約5.9m、東西軸約5.2m、床面までの深さは最も残りの良い部分で約30cmを測る。床面には、ほぼ全体にわたって壁際溝が掘り込まれ、ピットが10数個確認された。これらのピットのうち、位置関係や深さからP 1～P 4が主柱穴と判断した。なお、主柱穴の深さは50～55cmを測る。

カマドは東壁のほぼ中央に付設され、約100cmの煙道が確認された。袖は右袖が壁際から約31cmだけ残り、それ以外が確認できなかった。なお、袖石の抜き取り痕とみられるピットは左右ともにみられ、袖の内側には、火床面とその内側に支脚が立った状態で確認された。袖石の抜き取り痕から推定されるカマドの寸法は左袖が約104cm、

右袖が約118cm、袖間の幅は端部側で約45cmを測る。

また土層観察の結果、焼土が袖の位置より外側に見られることから、意図的に破壊されたものと見られ、祭祀行為に伴うものとも考えられる。

遺物はカマドの内側より土師器杯・甕・甌、須恵器甕などが多く出土した。

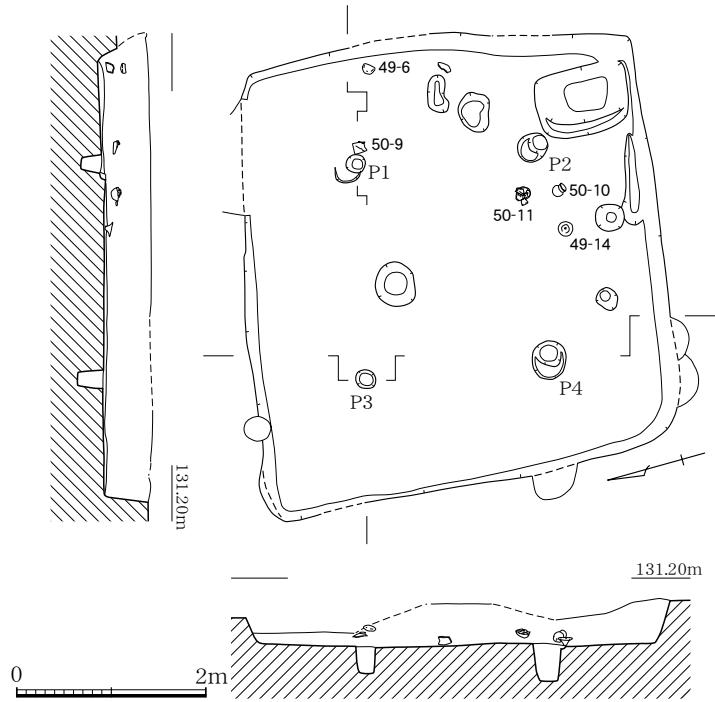
23号C 竪穴建物跡

(第53・54図 図版24・25)

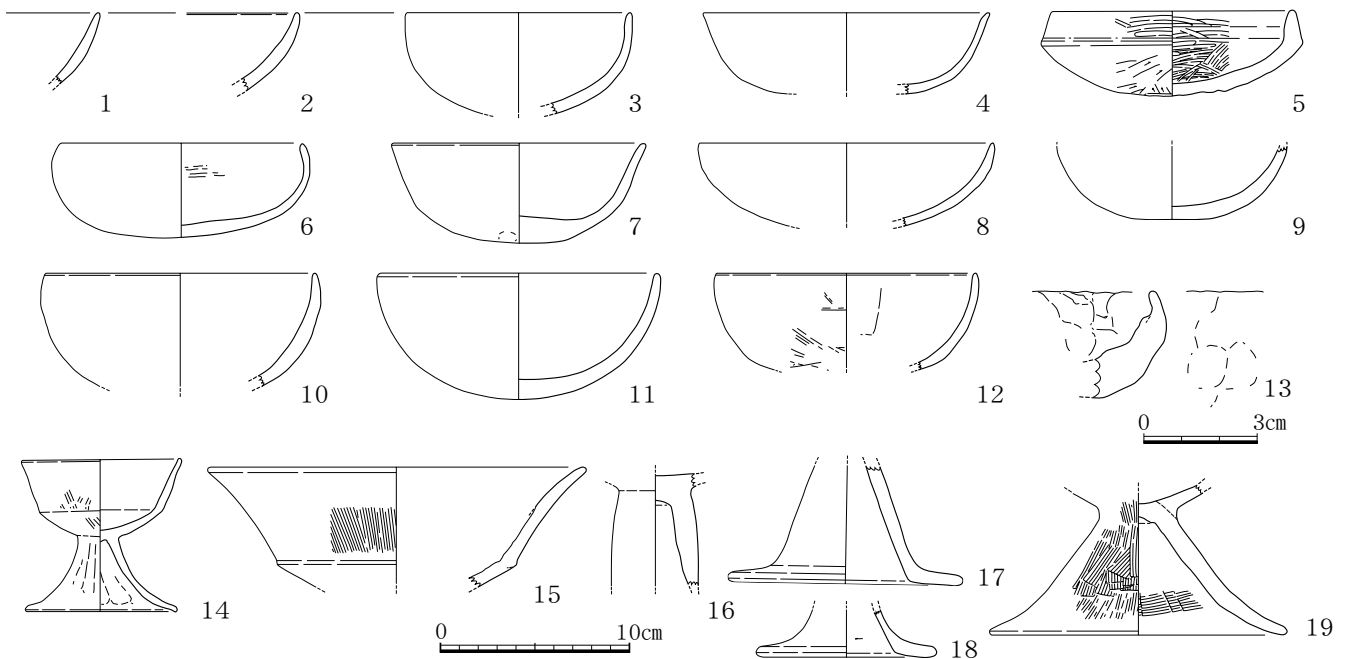
この竪穴建物跡は23号A B 竪穴建物跡の北側で確認され、これらの建物跡と切り合う。平面形は北壁と東西壁の一部しか確認されていないが、方形を呈するとみられる。床面にはピットが5個確認されたが、このうち、P1とP2及び

23号A 竪穴建物跡内で確認されたP3・P4が位置関係や深さから支柱穴になると推定される。よって規模は北壁からP3までの南北軸で約3.5m、北壁側で約5.4mを測る。なお、床面までの深さは約25cmである。

カマドは北壁のほぼ中央に付設されているが、突出部は検出されなかった。袖は両側とも残り、袖石も確認された。袖の内側には火床面・支脚の抜取り痕が確認され、天井石の一部と考えられる石材もあった。カマドの寸法は、右袖が約70cm、左袖が約76cm、袖間の幅は奥壁側が約43cm、端部側で約44cmを測る。



第48図 23号A 竪穴建物跡実測図(1/80)



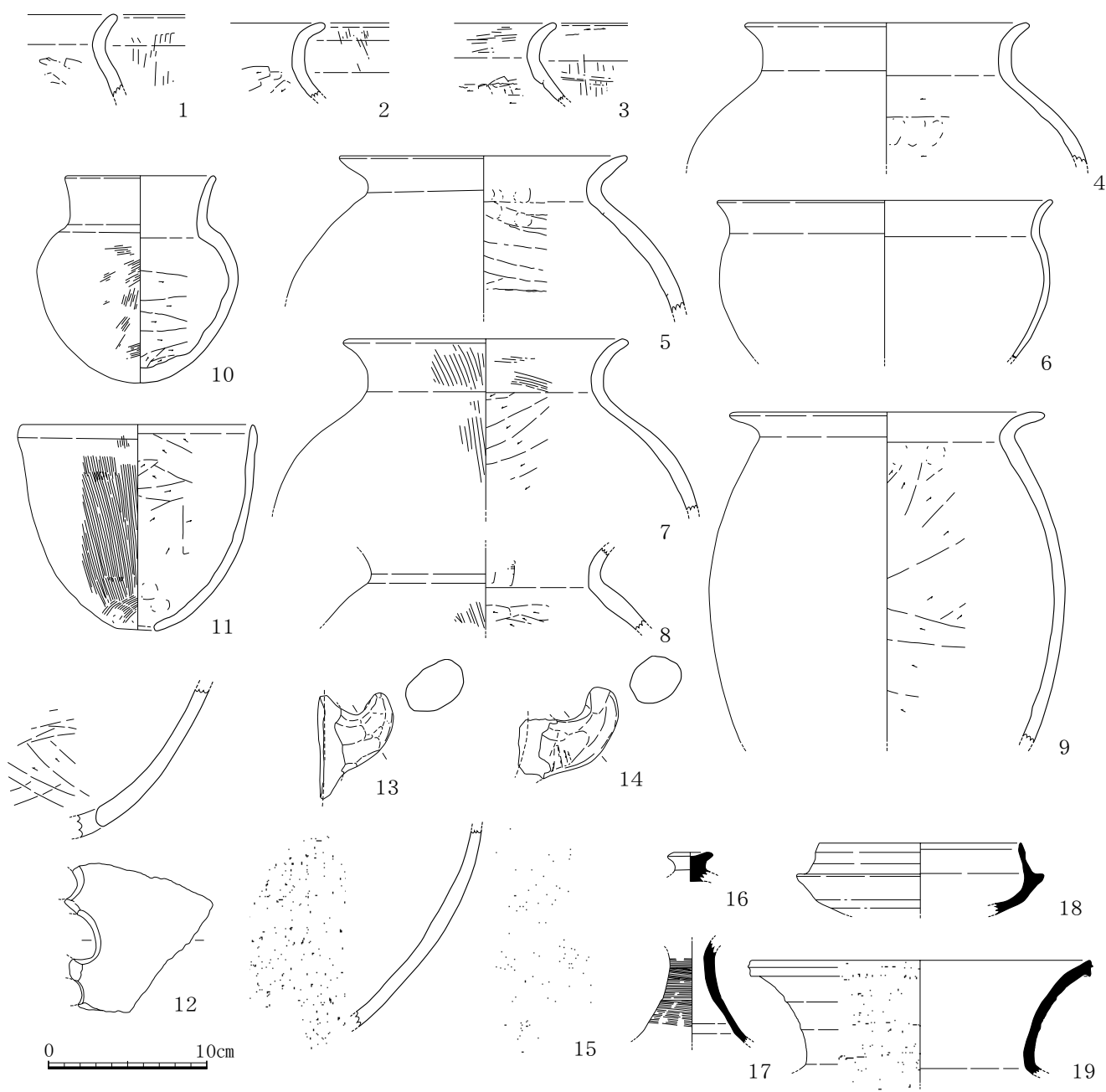
第49図 23号A 竪穴建物出土遺物実測図(1) (1/4)

遺物は、土師器坏・甕・甑、須恵器坏蓋などが出土した。

また、このほか23号A～C竪穴建物跡出土遺物（第55図 図版50）がある。

24号A B竪穴建物跡（第56～58図 図版26・27）

この竪穴建物跡は北側調査区の北側中央付近で確認され、18号B・C、25号竪穴建物跡を切る。切り合い関係は24号B→24号Aになると考えられる。24号A竪穴建物跡はほぼ方形の平面形を呈し、規模は北西－南東軸約3.5m、北東－南西軸約3.6m、検出面からの深さは最も深い部分で約60cmを測る。床面にはピットが10数個確認されたが、支柱穴と判断できるものはなかった。



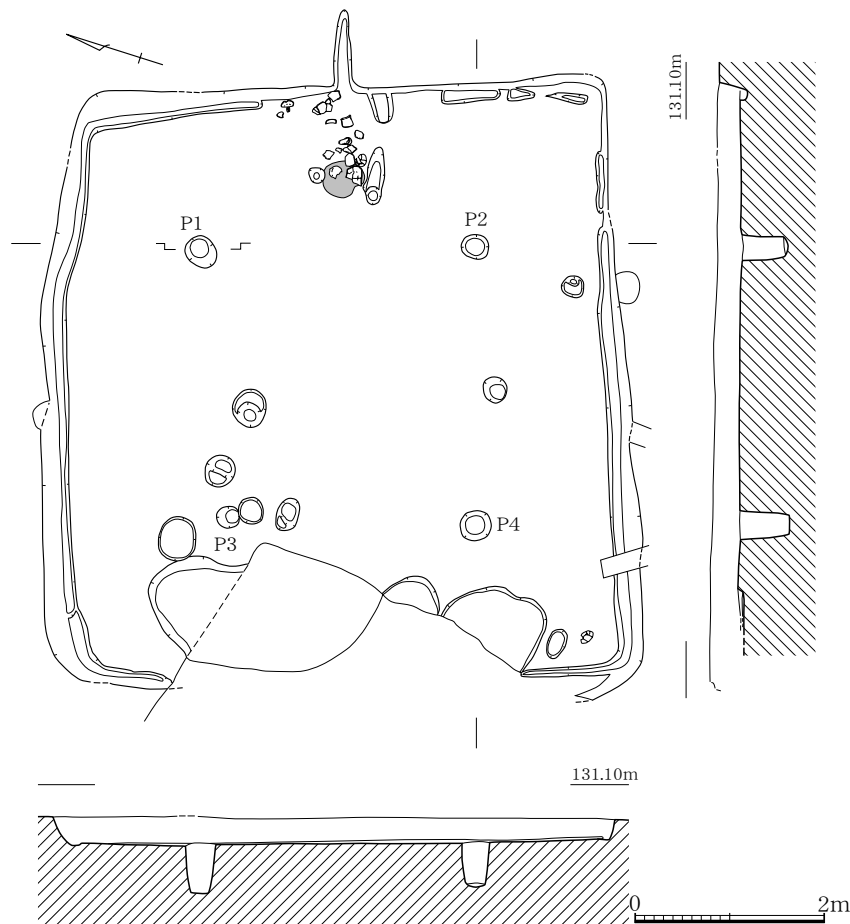
第50図 23号A竪穴建物跡出土遺物実測図(2) (1/4)

カマドは南東壁のほぼ中央に付設され、方形の突出部が確認された。袖は右袖が確認されたが、左袖は奥壁の一部のみしか検出されなかった。袖石は両袖とも残ってなく、抜き取り痕とみられるピット、その内側では、火床面は検出されなかったものの、支脚の抜き取り痕とみられるピットが確認された。袖石の抜き取り痕より推定できるカマドの寸法は右袖が約65cm、左袖が約69cm、袖間の幅は奥壁側が約45cm、端部側で約71cmを測る。

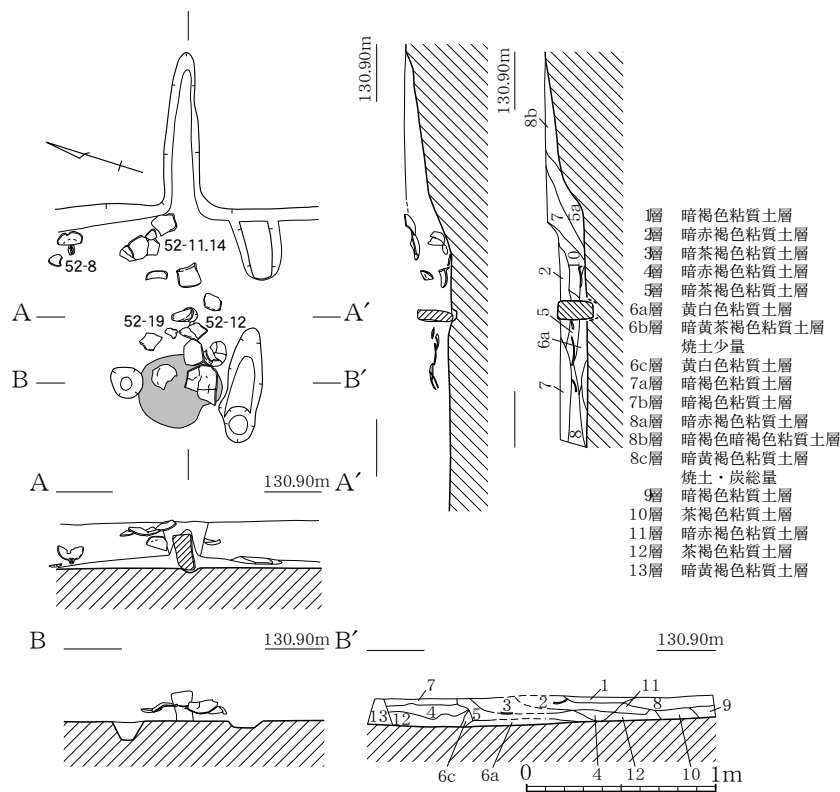
遺物は、土師器杯・甕、須恵器坏身・甕などが出土した。

24号B竪穴建物跡は24号A竪穴建物跡と同様平面形は方形を呈するが、規模は、北西-南東軸約5.0m、北東-南西軸約5.1mと一回り大きく、検出面からの深さは約40cmを測る。床面には一部壁際溝が掘り込まれ、また、ピットが多く確認されたものの、24号A竪穴建物跡との切り合い関係を明確にできなかったことから、どのピットが支柱穴となるか、判断できなかった。

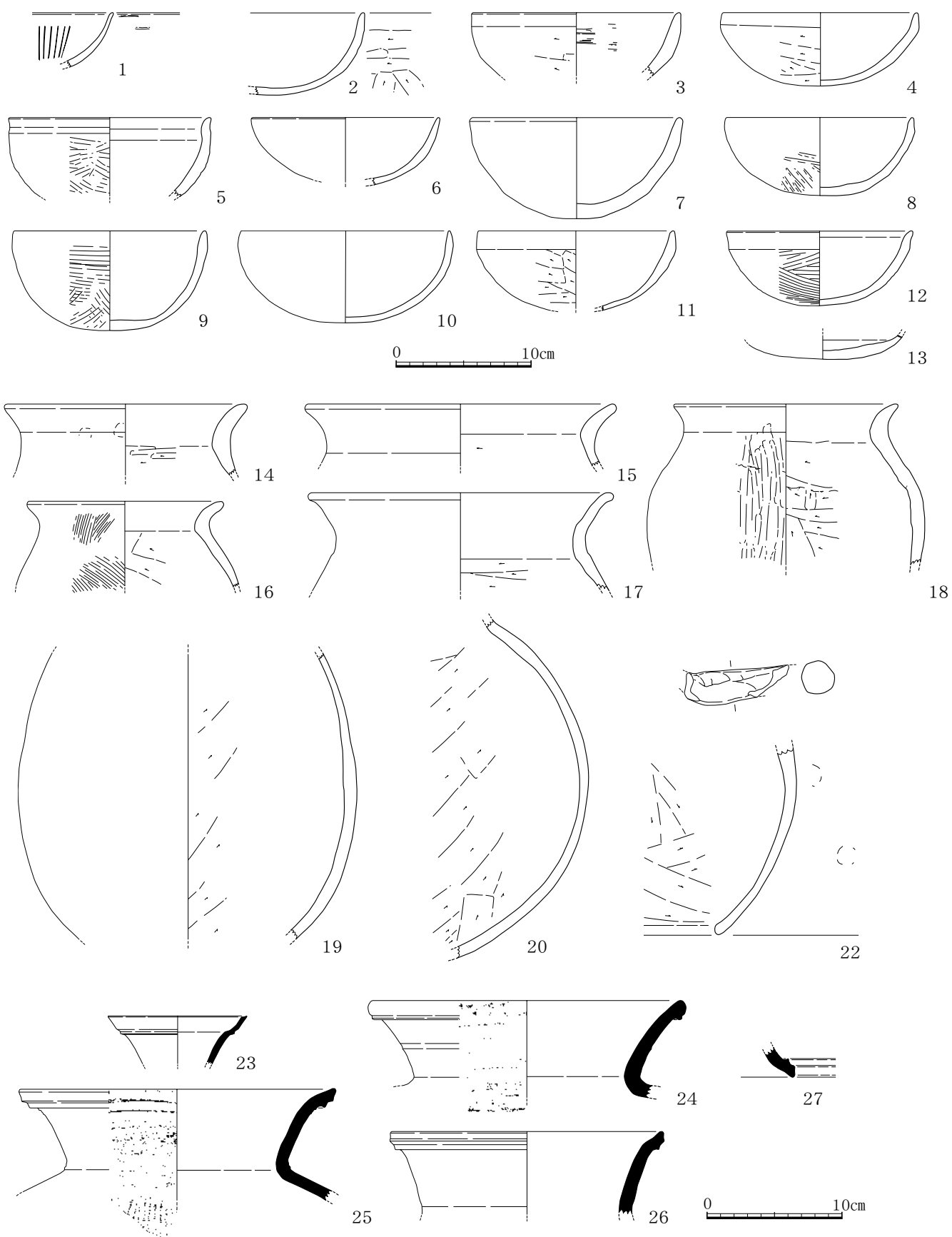
カマドは北西壁のほぼ中央に付設され、半円形の突出部が確認された。袖は左右及び袖石ともに検出できなかったが、袖石の抜き取り痕とみられるピットが確認できた。そのピットの内側には火床面、その中央付近に支脚が直立した状態で見つかった。カマドの寸法は、右袖が約44cm、左袖が約41cm、袖間の幅は端部側で約71cmを測る。



※アミは焼土



第51図 23号B竪穴建物跡、カマド実測図 (1/80、1/40)



第52图 23号B竖穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)

遺物はカマド内部を中心に土師器坏・高坏・甕、須恵器坏蓋・坏身などが出土した。

25号竪穴建物跡

(第59・60図 図版27)

この竪穴建物跡は北側調査区中央の北壁際で確認され、南側は24号A竪穴建物跡に切られ、北側は調査区外へ広がる。平面形は東西の壁の一部しか確認できていないものの、北東隅に建物跡のコーナーがあると見られ、方形を呈すると考えられる。規模は東西軸約4.7m、東壁で約2.5m、検出面からの深さは最も深い部分で約30cmを測る。床面には東側に壁際溝とみられる掘り込みやピット10個ほど確認された。これらのピットの内、P1～P3のいずれか、P4が位置関係から支柱穴になるとみられる、さらに24号A竪穴建物跡内で確認された、P5・P6も支柱穴となる可能性が高く、その場合は、南北軸の規模は約3.3m+ α となる。

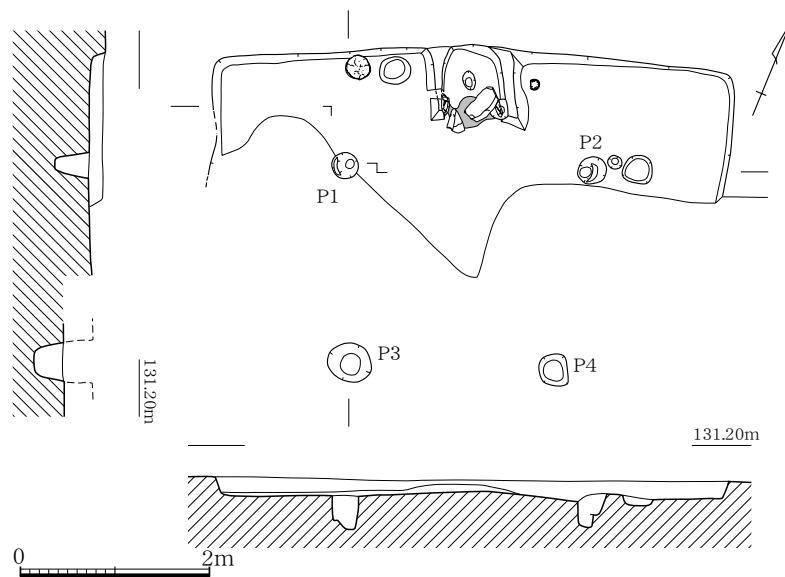
この他、カマドの痕跡を示すような焼土や炭などは検出されなかった。

遺物は土師器坏・甕・高坏などが出土している。

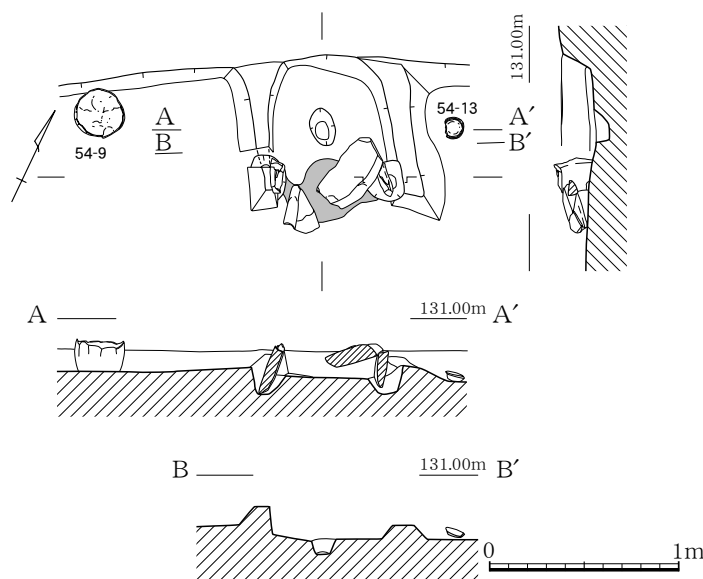
26号竪穴建物跡 (第61図 図版28)

この竪穴建物跡は北側調査区の北東側で確認され、27号竪穴建物跡を切る。平面形は方形を呈し、規模は南北軸約3.5m、東西軸約3.0m、検出面からの深さは最も深い部分で約20cmを測る。床面には東壁から南壁にかけて壁際溝が掘り込まれ、床面には10個ほどのピットが確認された。ただ、支柱穴と判断できるようなピットはなかった。

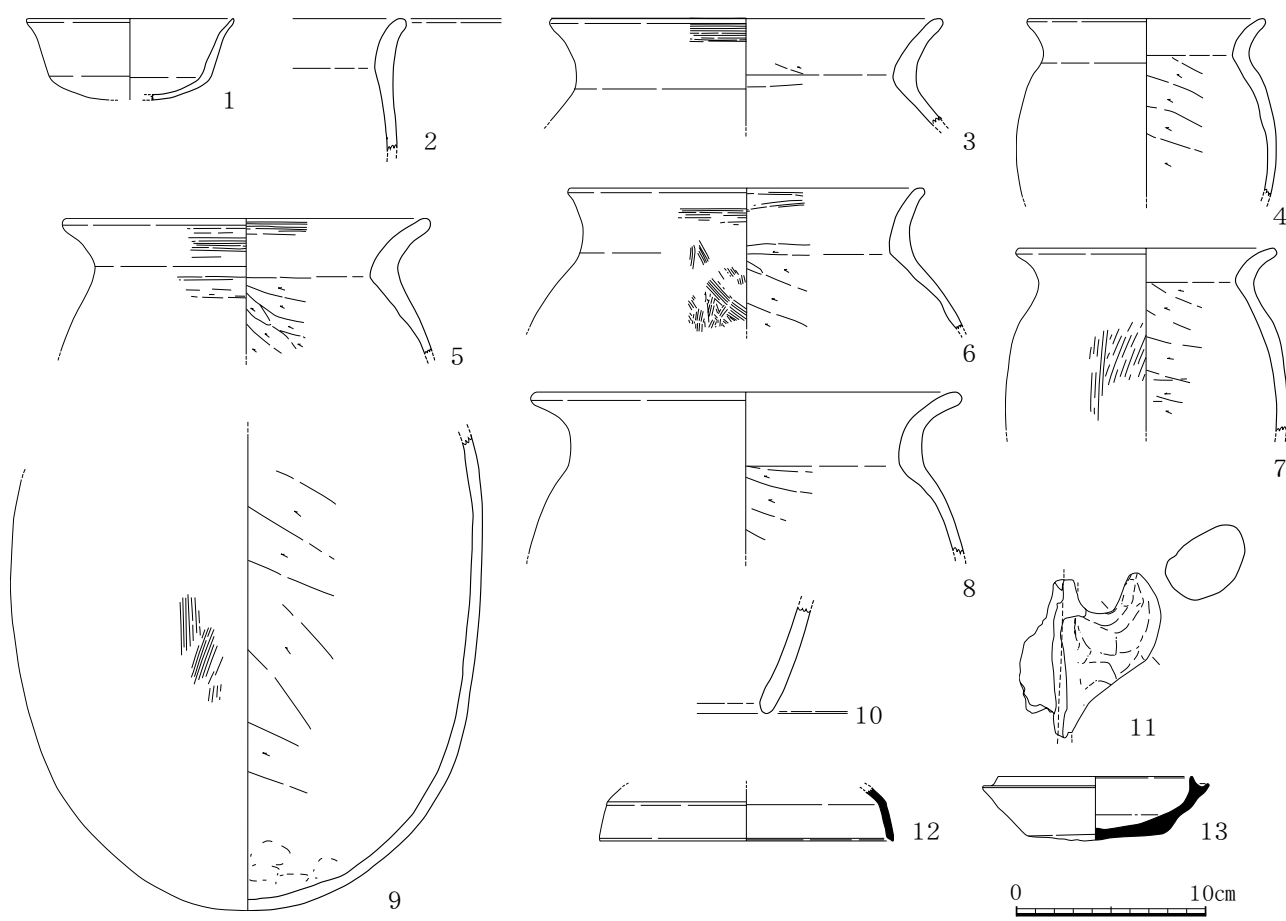
カマドは北壁中央よりやや西寄りに付設される。袖は左袖のみが確認され、袖石の抜き取り痕とみられるピットは左右ともに検出された。両袖の内側には、火床面が2ヶ所検出され、さらに奥壁側に支脚が直立した状態で確



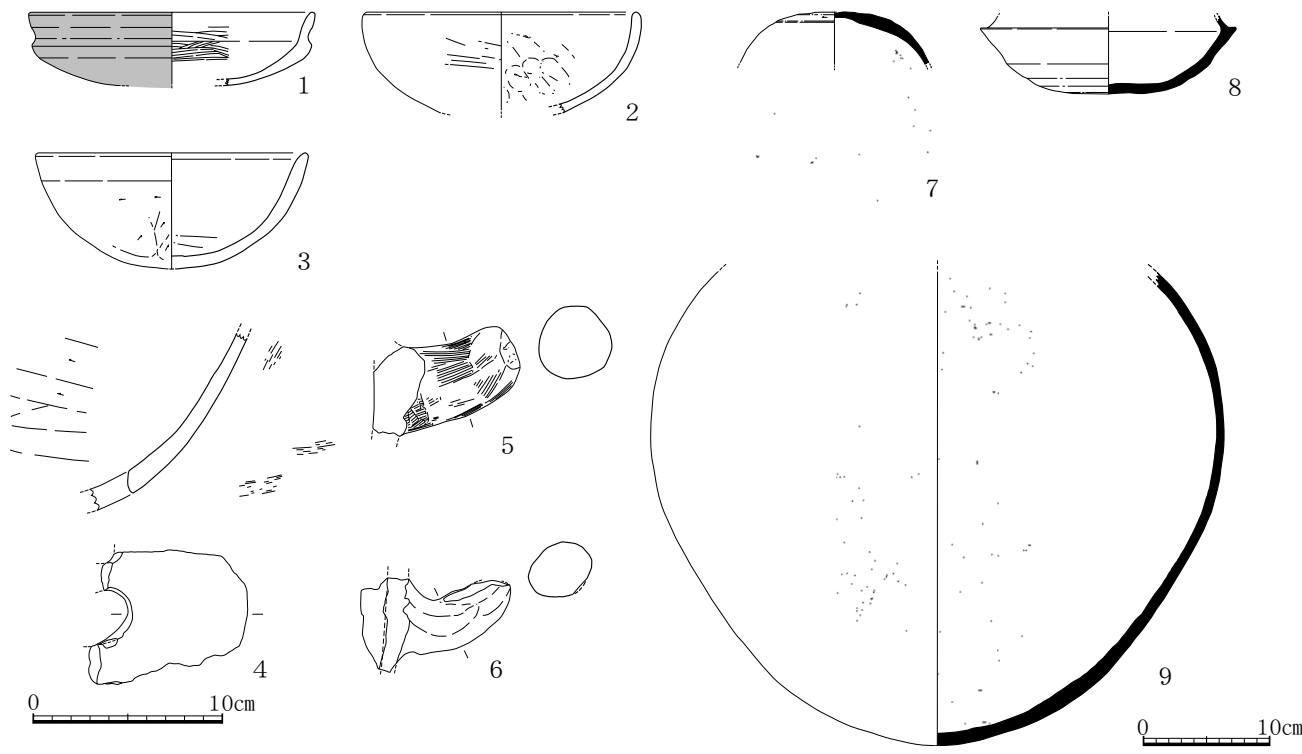
※アミは焼土



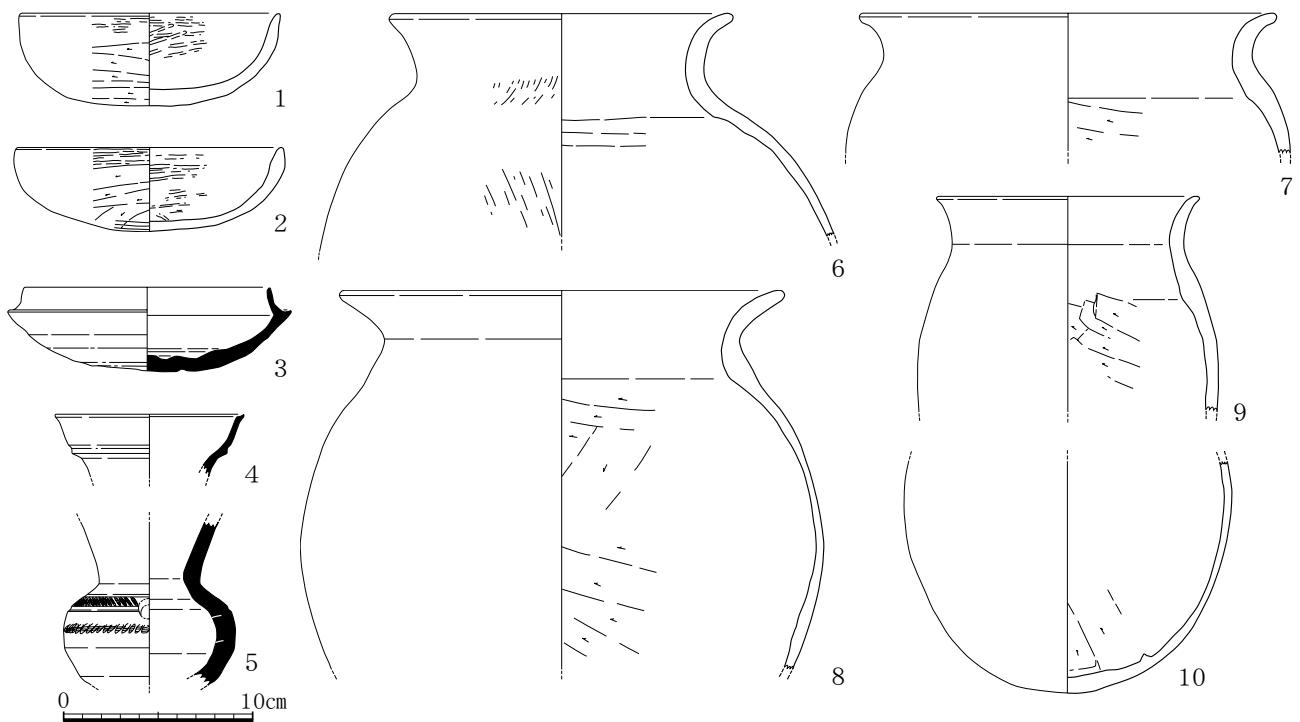
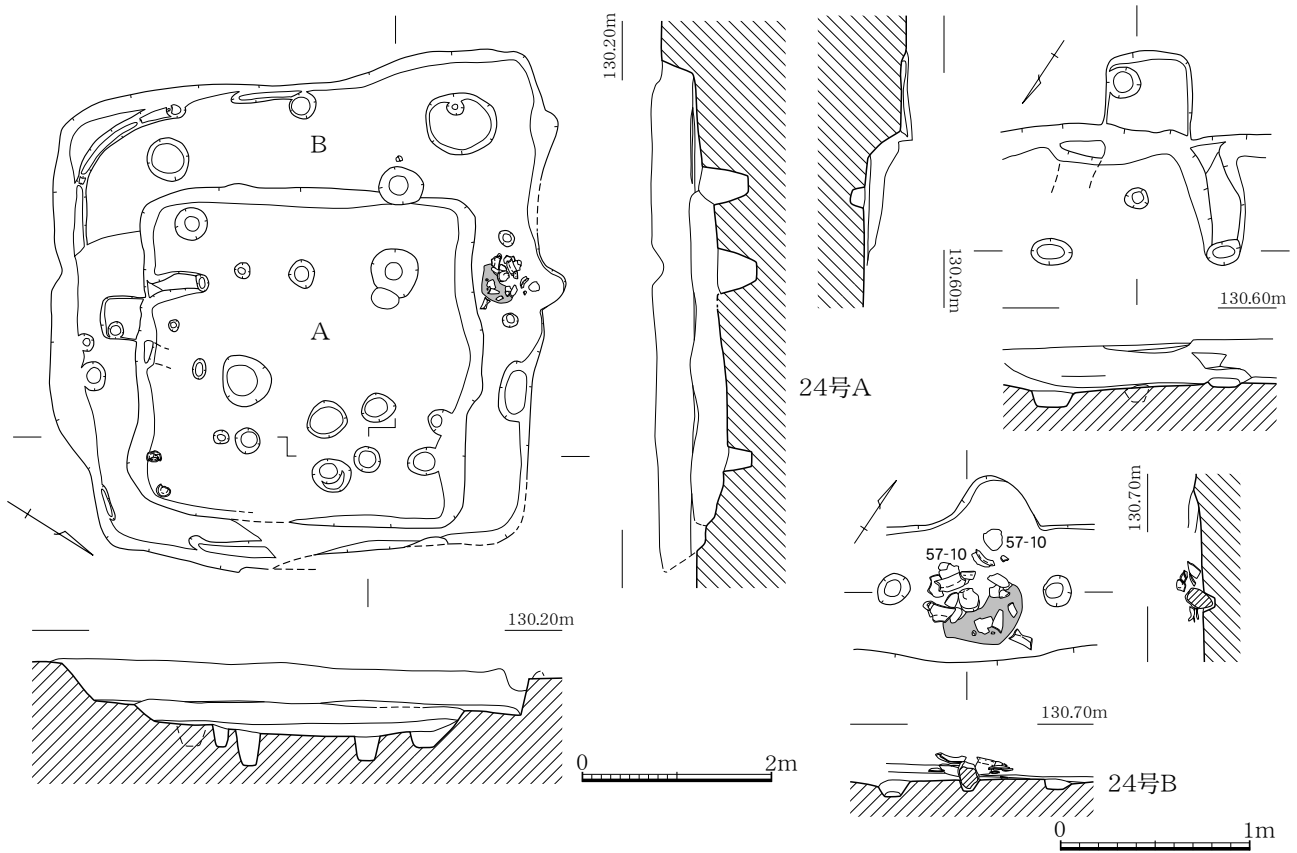
第53図 23号C竪穴建物跡、カマド実測図 (1/80、1/40)



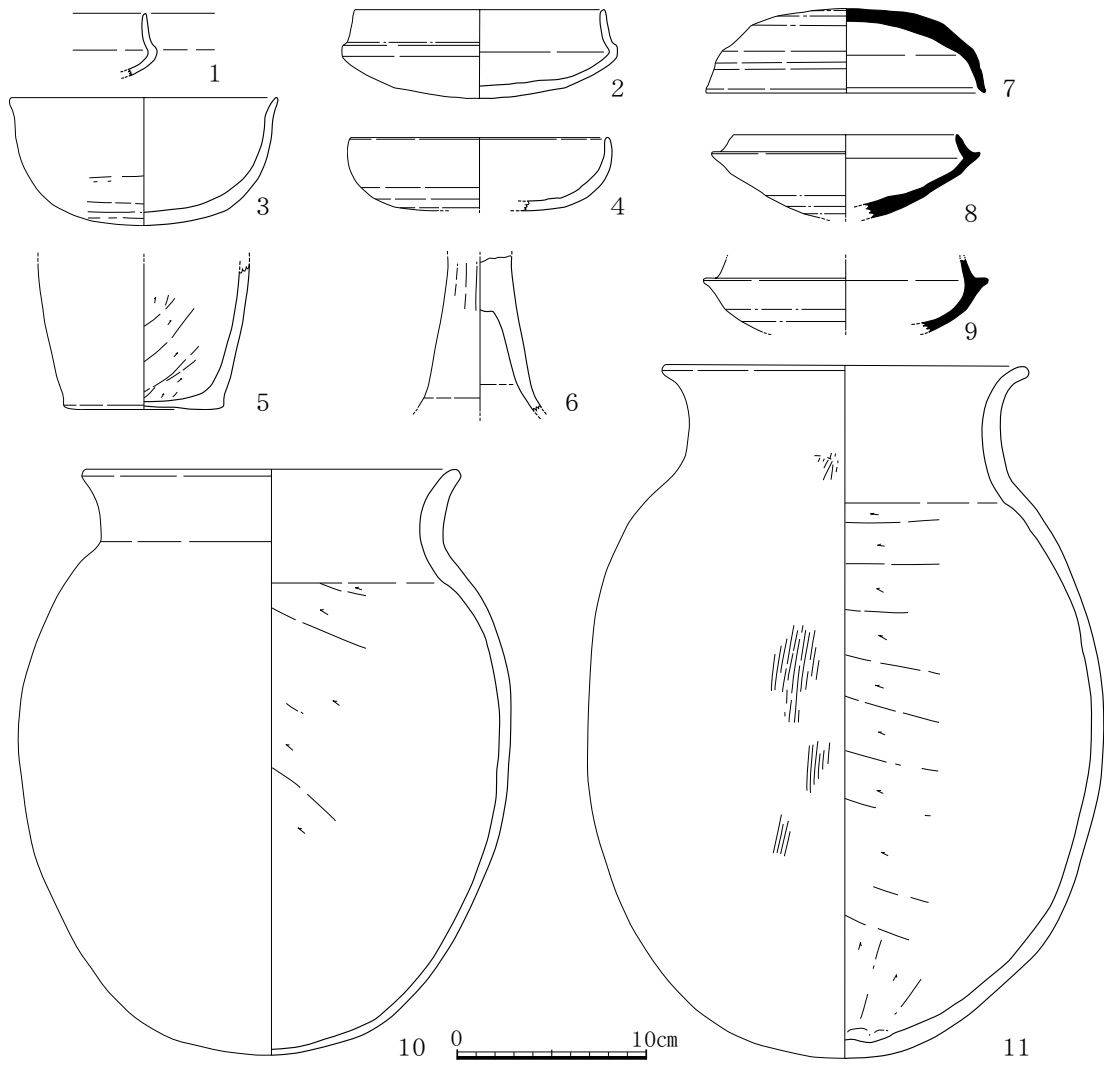
第54図 23号C 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)



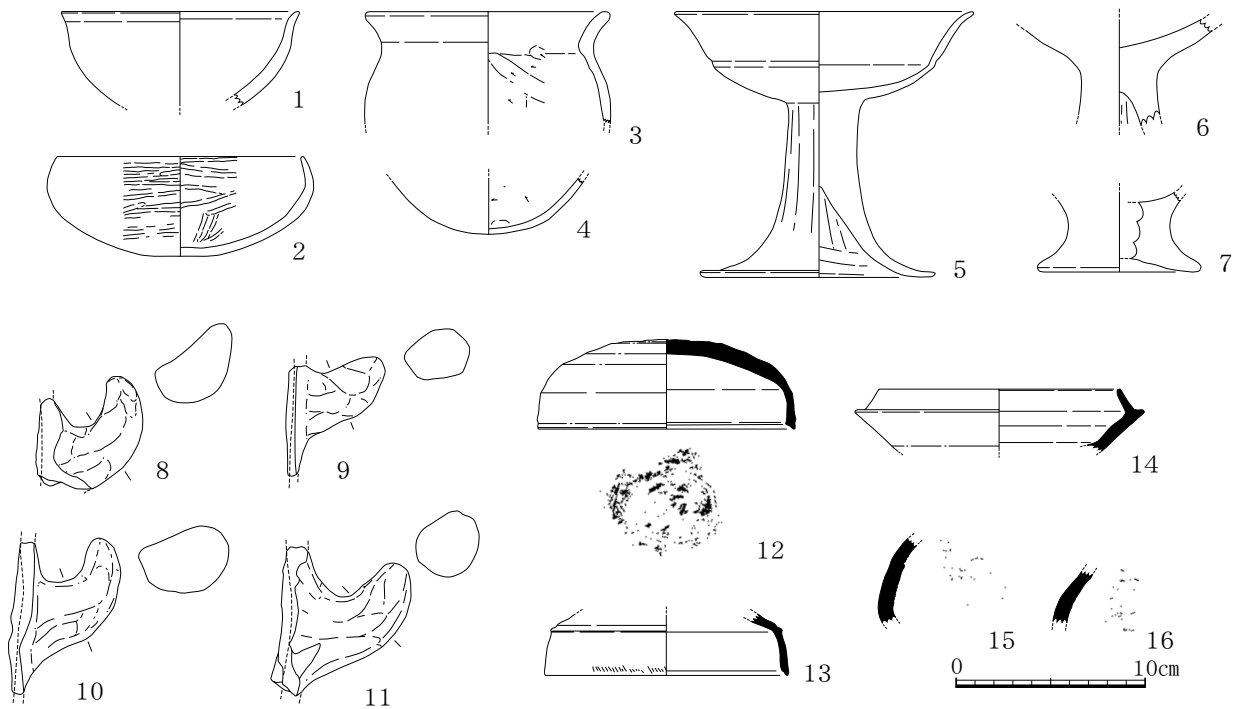
第55図 23号A・B・C 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4・9のみ1/6)



第56図 24号A・B 竪穴建物跡、カマド、24号A 竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4)



第57图 24号B竖穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)



第58图 24号A・B竖穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)

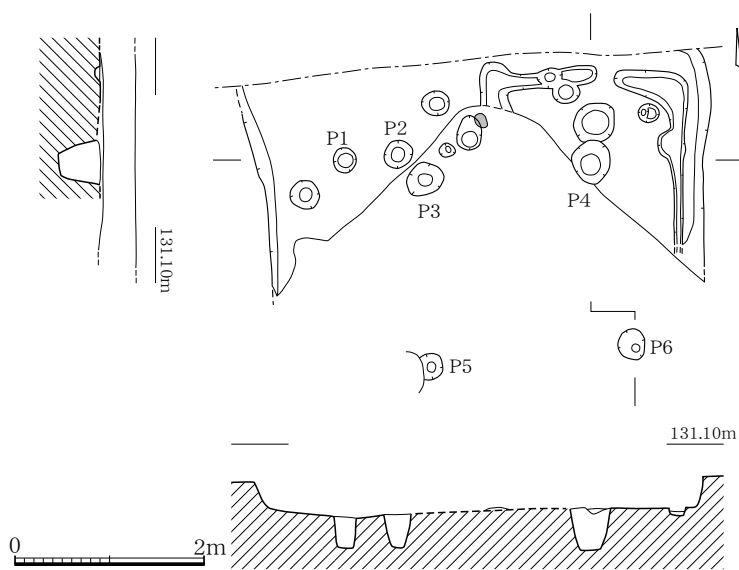
認められた。カマドの寸法は、右袖が約55cm、左袖が約62cm、袖間の幅は奥壁側が約55cm、端部側で約42cmを測る。

遺物は土師器甕・高坏、須恵器甕が出土した。

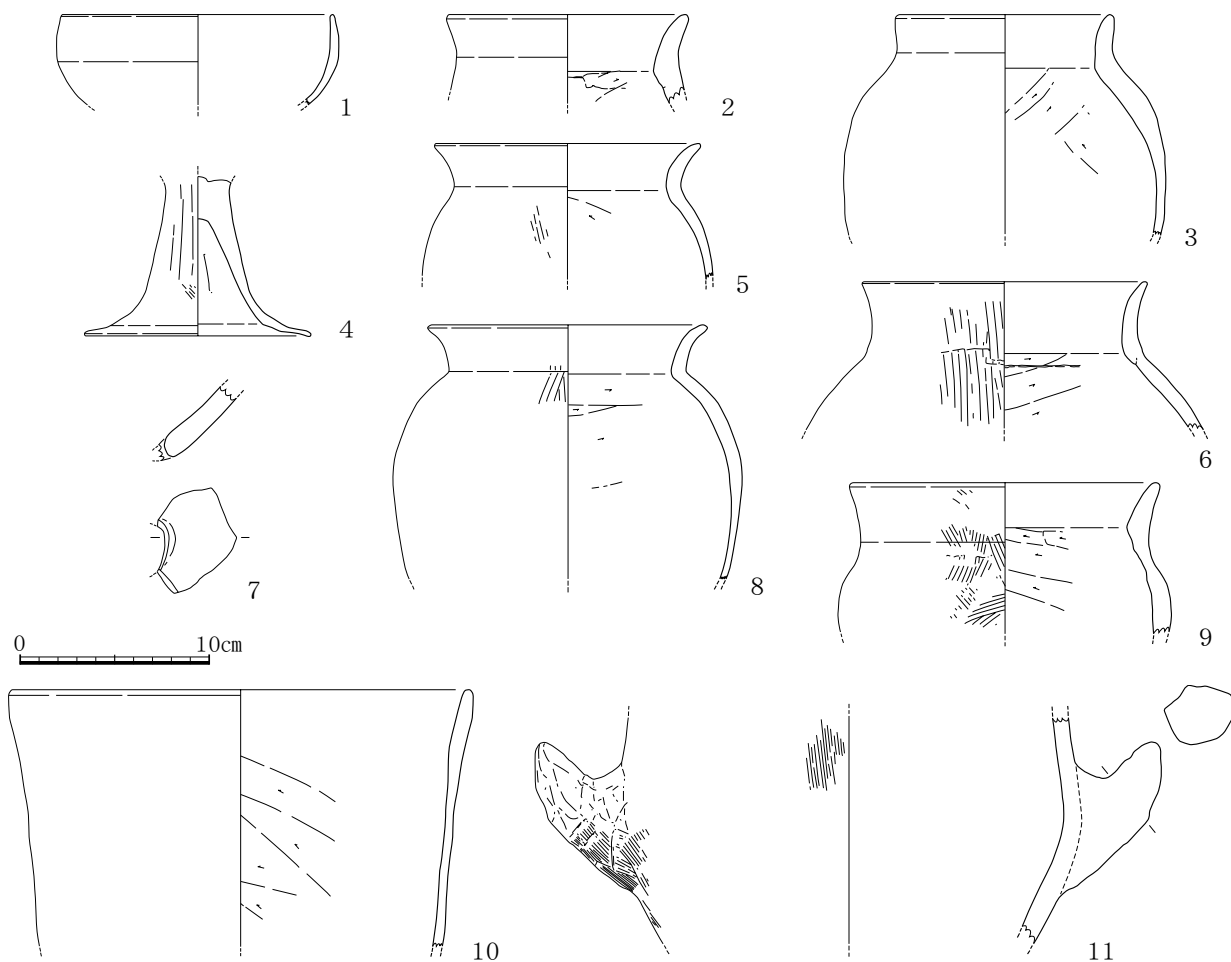
27号竪穴建物跡

(第62・63図 図版29)

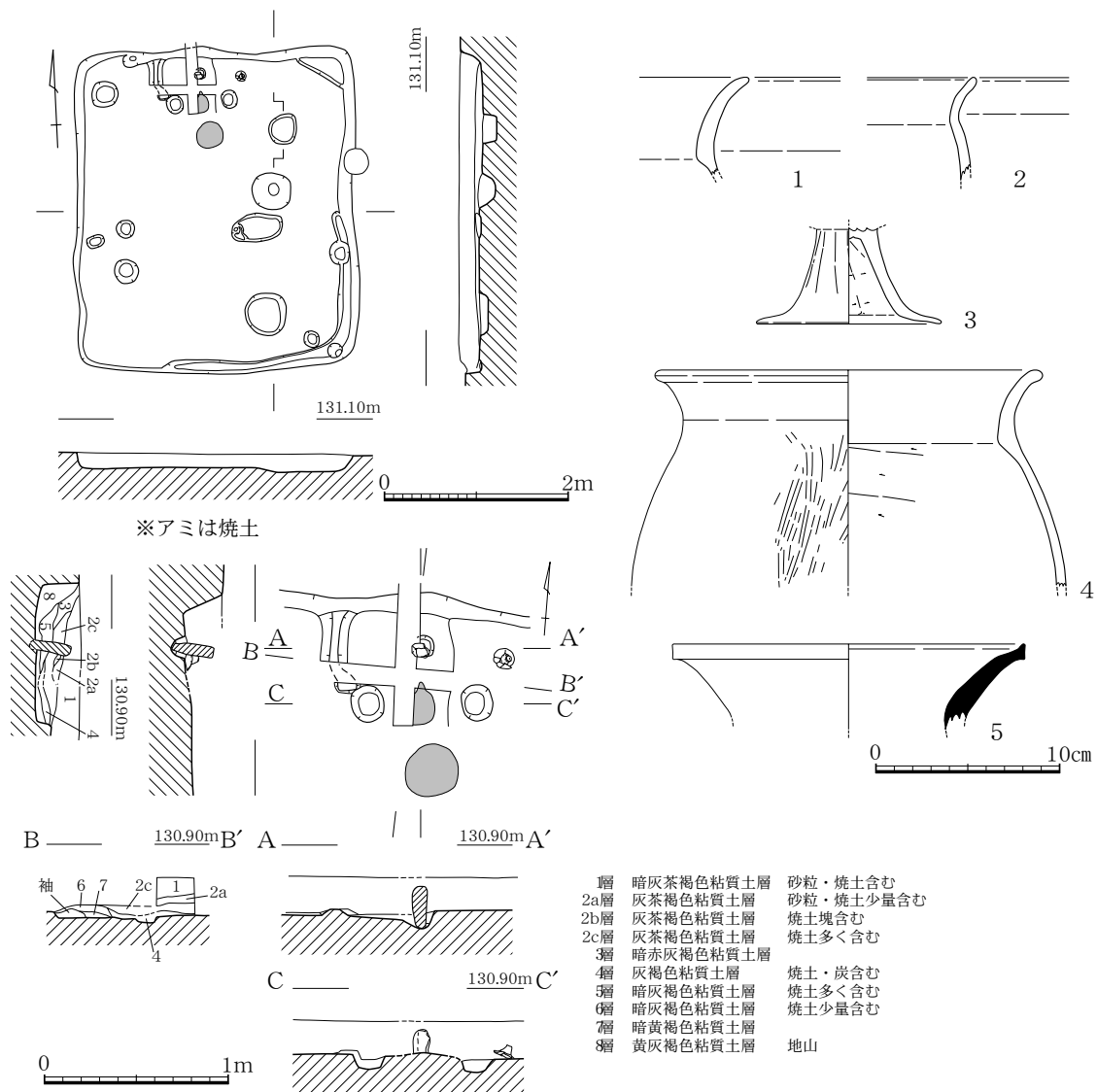
この竪穴建物跡は北側調査区の北東側で確認され、20号・23号B・26号竪穴建物跡に切られる。平面形は長方形を呈するとみられるが、東側のコーナー付近は壁の崩れが大きい。規模は北東-南西軸約5.1m、北西-南東軸約4.2m + α 、検出面からの深さは最も深い部分で約10cmを測る。床面には部分的に壁際溝が掘り込まれ、ピットも数個確認された。確認されたピットの内、P1・P2・P4及び23号



第59図 25号竪穴建物跡実測図 (1/80)



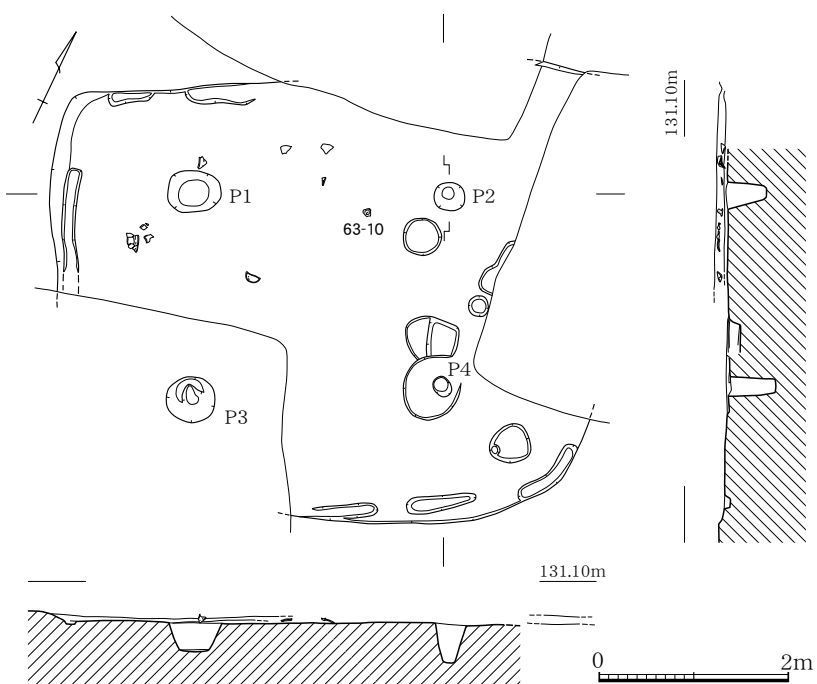
第60図 25号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1/4)



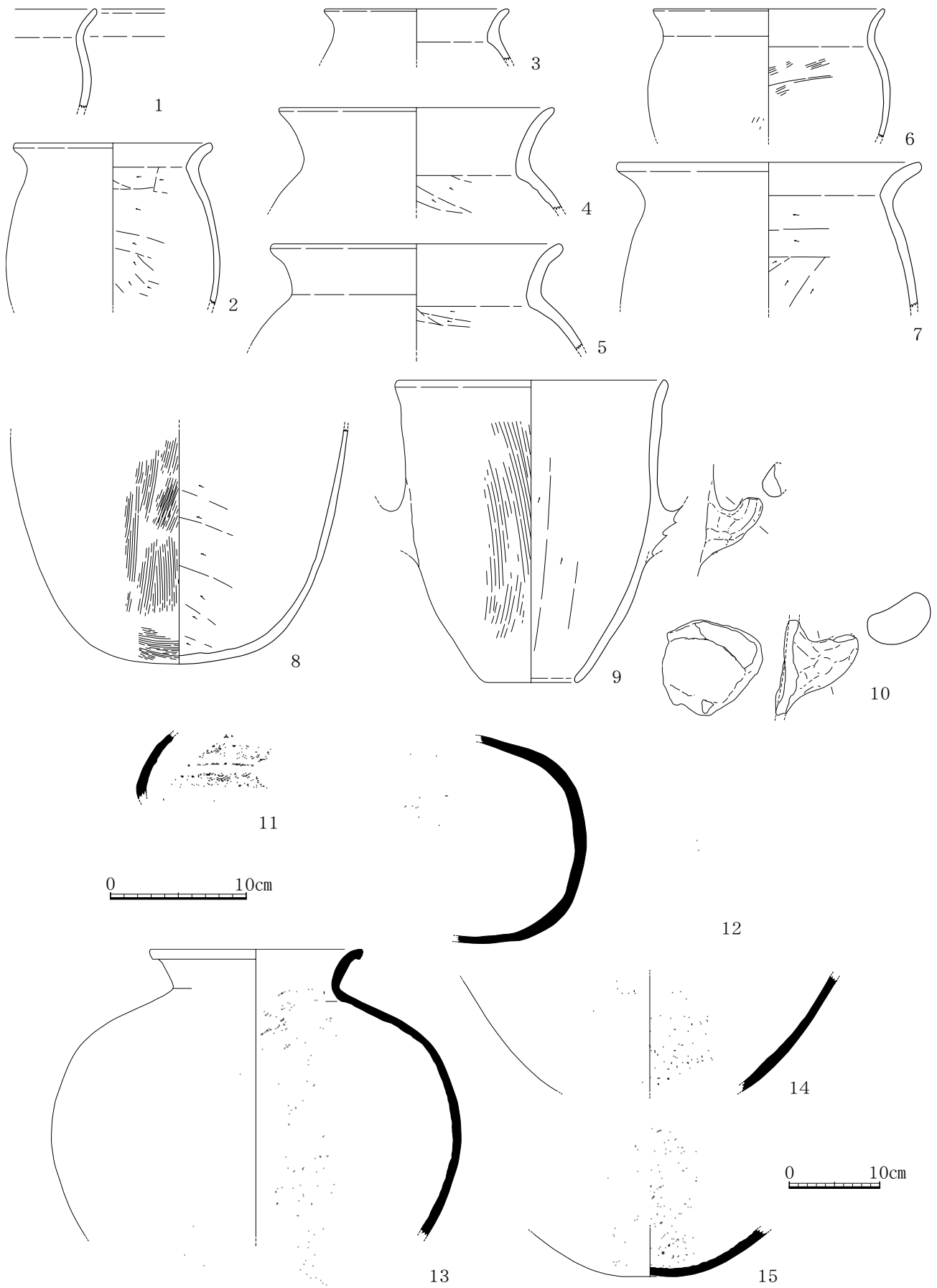
第61図 26号竪穴建物跡、カマド、出土遺物実測図 (1/80、1/40、1/4)

B竪穴建物跡内で検出されたP 3の4本が位置関係や深さから主柱穴になると判断した。この他、カマドや炉跡の痕跡を示すような焼土・炭は検出されなかった。しかし、甗が出土していることから、カマドが付設されていた可能性がある。

遺物は土師器甕・甗、須恵器甕などが出土した。



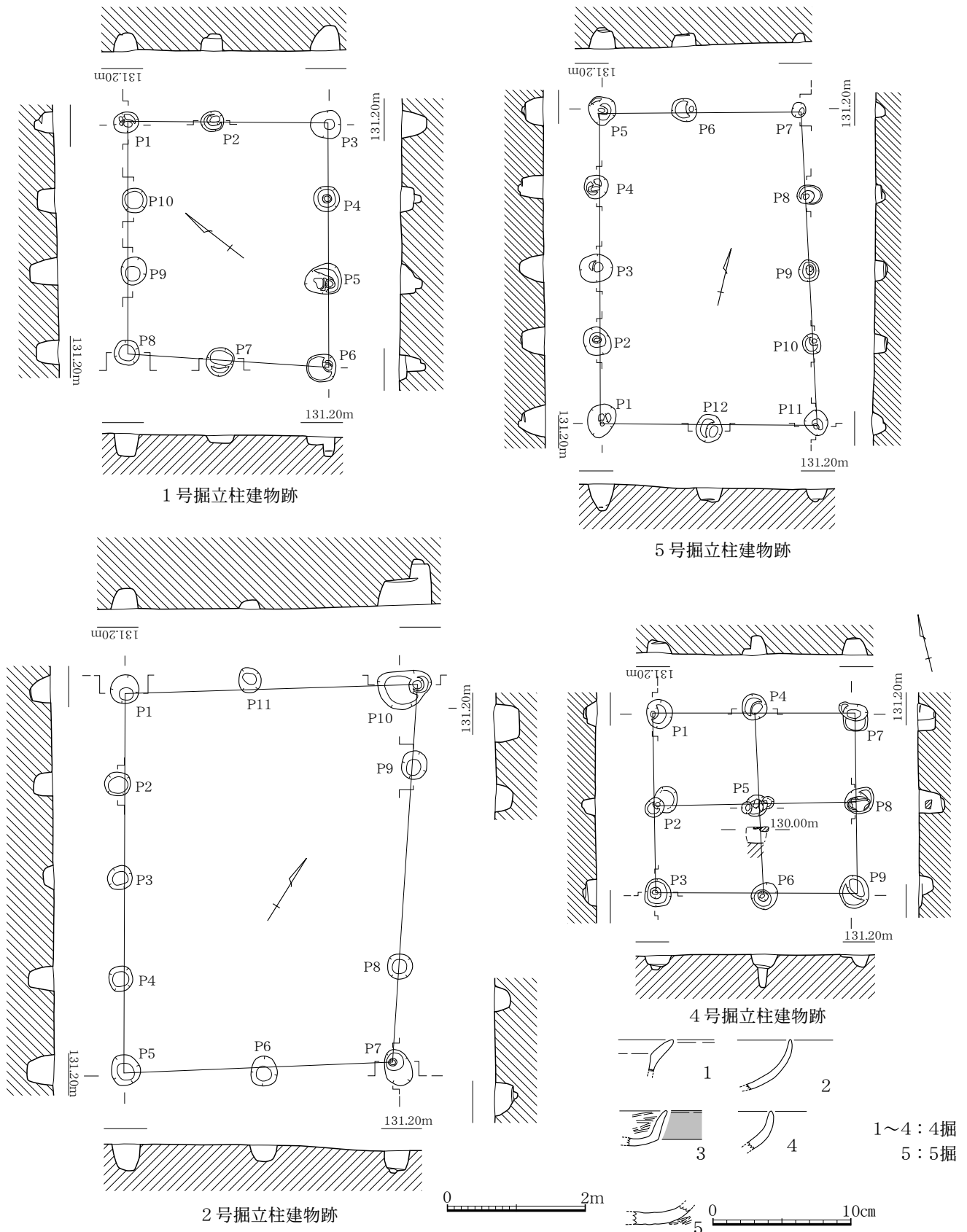
第62図 27号竪穴建物跡実測図 (1/80)



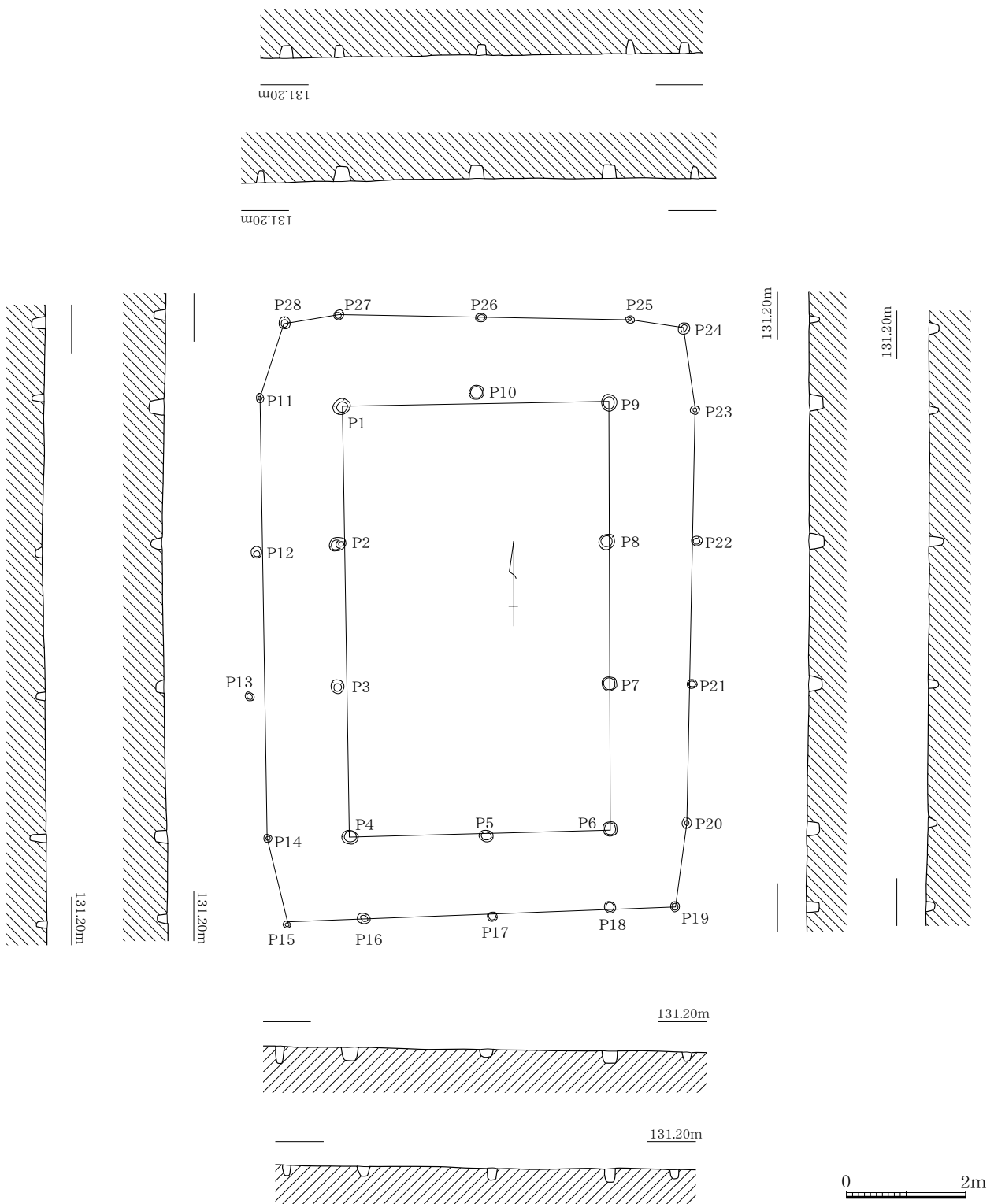
第63图 27号竖穴建物跡出土遺物実測図（1~12：1/4、13~15：1/6）

2. 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は北側調査区で5棟確認された。3号掘立柱建物跡は柱穴の大きさやその配置状況から中世のものと考えられるが、それ以外の4棟は古墳時代から古代にかけてのものと考えられる。



第64図 1・2・4・5号掘立柱建物跡、出土遺物実測図 (1/80、1/4)



第65図 3号掘立柱建物跡実測図 (1/100)

1号掘立柱建物跡 (第64図 図版29)

この掘立柱建物跡は北側調査区の中央付近で確認された、17号B 竪穴建物跡を切る。主軸方向をN-53°-Eに取り、柱間は3間×2間である。規模は柱穴間の心々距離で桁行約3.4~3.5m、梁行約3.0m、柱穴の深さは25~40cmを測る。また、P2、4、5で柱痕跡が確認できた。

遺物は出土しなかった。

2号掘立柱建物跡 (第64図 図版30)

この掘立柱建物跡は、北側調査区のほぼ中央、1号掘立柱建物跡跡の北西側で確認された。主軸方向はN-31°-Wに取り、柱間は4間×2間である。ただし、北東側は中央の柱穴が確認されず、3間となっている。規模は柱穴間の心々距離で桁行約5.5m、梁行約3.9~4.2m、柱穴の深さは15~60cmを測る。また、P7、10で柱痕跡が確認できた。

遺物は出土しなかった。

3号掘立柱建物跡 (第65図 図版30)

この掘立柱建物跡は北側調査区の東側で確認され、22号ABC竪穴建物跡、5号掘立柱建物跡を切る。主軸方向はN-0°-Eとほぼ南北方向を主軸とする。柱間は3間×2間で、その四周には側柱が見られ、四面庇の建物跡であったことが分かる。規模は身舎部分の柱穴間の心々距離で、桁行約7.2m、梁行約4.4~4.5m、底部分まで含むと桁行約9.7~10.1m、梁行約6.5~6.7m、また身舎部分の柱穴の深さは15~25cmを測る。

遺物は出土しなかった。

4号掘立柱建物跡 (第64図 図版30)

この掘立柱建物跡は北側調査区の北東側で確認され、16号竪穴建物跡を切る。主軸方向はN-15°-Eに取り、柱間は2間×2間の総柱建物跡である。規模は柱穴間の心々距離で、桁行約3.6m、梁行約3.2~3.3m、側柱の深さは25~60cmを測る。なお、ほとんどの柱穴で柱痕跡が確認できた。

遺物は土師器坏などが出土している。

5号掘立柱建物跡 (第64図 図版31)

この掘立柱建物跡は北側調査区の東側で確認され、22号ABC竪穴建物跡を切り、3号掘立柱建物跡に切られる。主軸方向はN-14°-Wに取り、柱間は2間×4間である。規模は柱穴間の心々距離で、桁行約5.6~5.7m、梁行約3.7~3.9m、深さは15~50cmを測る。なお、ほとんどの柱穴で柱痕跡が確認できた。

遺物は土師器坏が出土している。

3. 土坑

土坑は南側調査区及び北側調査区中央付近から南側で11基が確認された。ただし、遺物の出土量も少なく、土坑の性格を判断できる材料にも乏しかったことから、単なる落ち込みや攪乱坑の場合もあることを、念のため記しておく。

1号土坑 (第66・69図 図版31)

この土坑は南側調査区の北東隅で確認された。北側は調査区外へ広がっているため、平面形は不明である。底面は東側から西側へ向かって傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約1.4m、短軸約0.8m、検出面からの深さは約25cmを測る。

遺物は土師器椀が出土した。

2号土坑 (第66・69図 図版31)

この土坑は南側調査区の中央北側で確認され、8号竪穴建物跡を切る。平面形は楕円形を呈し、底面はやや舟底状となり、壁は急角度で立ち上がる。規模は長軸約1.2m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約35cmを測る。遺物は土師器甕・椀、須恵器坏身が出土した。

3号土坑 (第66・69図 図版32)

この土坑は北側調査区の南東側で確認された。平面形は細長い円形を呈し、底面は南側で段落ちが見られ、北側から南側に向かって緩やかに傾斜する。規模は長軸約1.9m、短軸約1.4m、検出面からの深さは約15cmを測る。遺物は土師器高坏が出土した。

4号土坑 (第66図 図版32)

この土坑は北側調査区の東側で確認され、5号掘立柱建物跡に切られる。平面形は不定形で、底面は北西側から南東側へ向かって緩やかに傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約1.3m、短軸約0.6m、検出面からの深さは約10cmを測る。遺物は出土しなかった。

5号土坑 (第66図 図版32)

この土坑は北側調査区の東側で確認された。平面形は歪な長方形を呈し、底面はほぼ平坦で、ピットが数個掘り込まれる。壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約1.6m、短軸約0.4m、検出面からの深さは約10cmと浅い。遺物は出土しなかった。

6号土坑 (第66図 図版33)

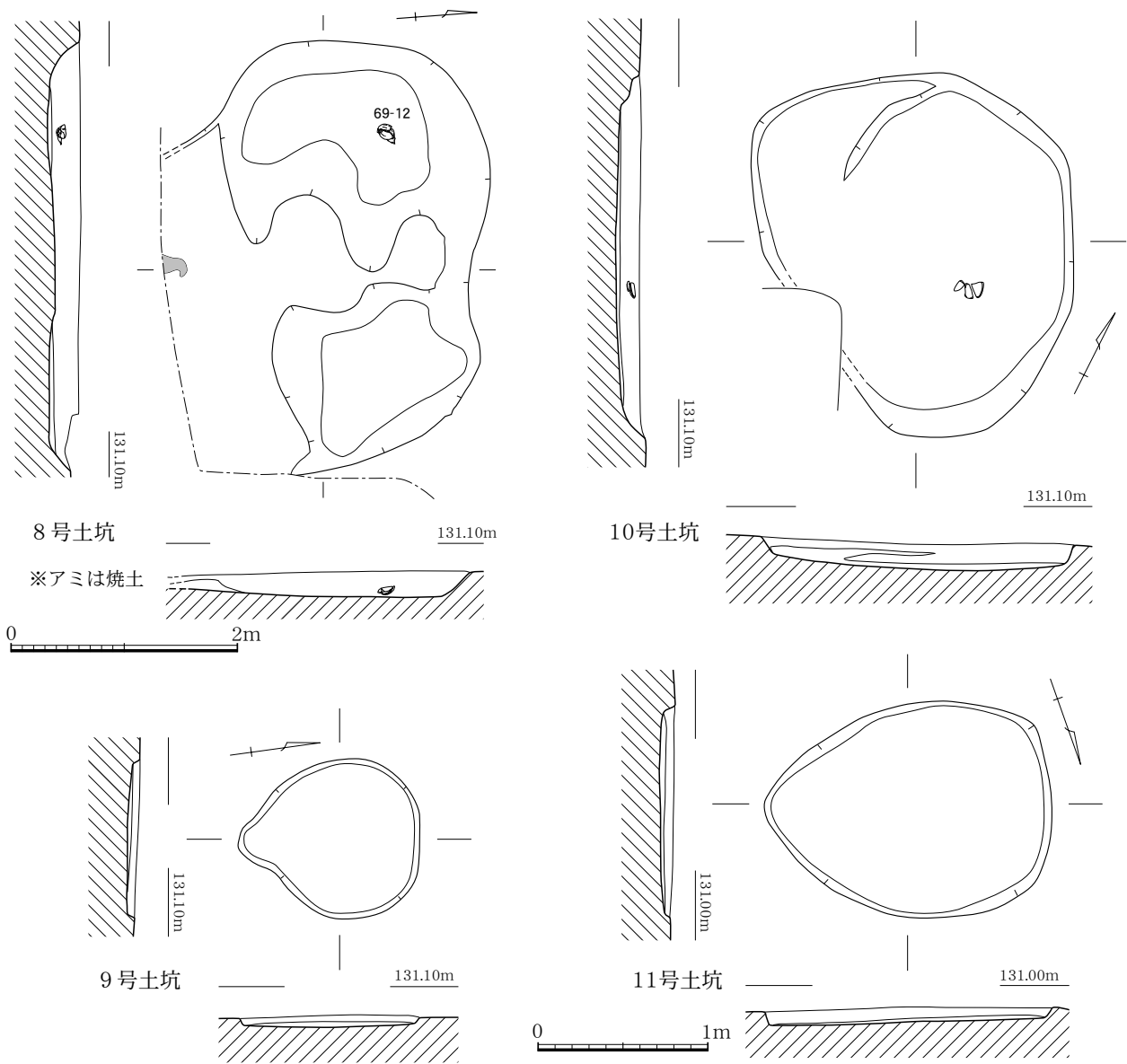
この土坑は北側調査区中央付近、5号土坑の北西側で確認された。平面形は歪な長方形を呈し、底面はほぼ平坦で、ピットが2個掘り込まれる。壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約2.9m、短軸約0.8m、検出面からの深さは約10cmと浅い。遺物は出土しなかった。

7号土坑 (第66・69図 図版33)

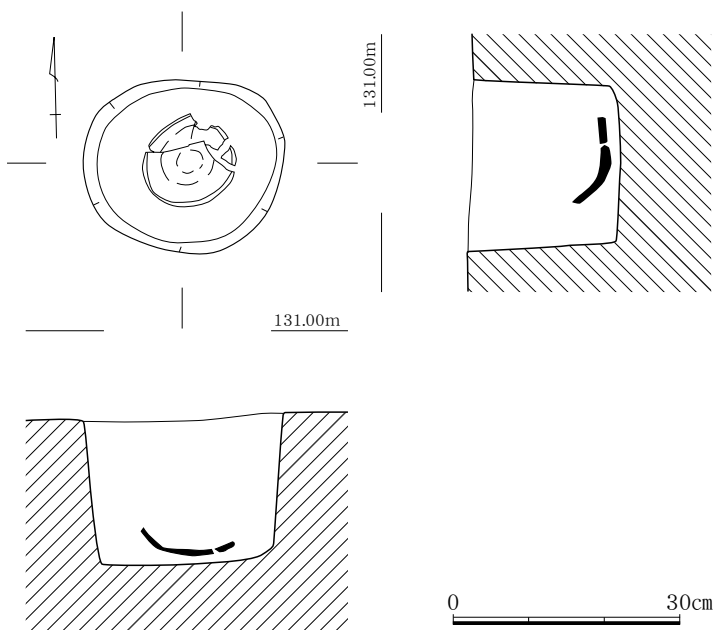
この土坑は北側調査区の南側、2号B竪穴建物跡内で確認された。南側は調査区外へ広がるものの、平面形は歪な楕円形を呈するとみられる。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約 $2.8m + \alpha$ 、短軸約1.2m、検出面からの深さは約5cmと浅い。遺物は土師器甕・椀などが出土した。

8号土坑 (第67・69図 図版33)

この土坑は北側調査区の南東隅で確認され、2号B竪穴建物跡を切る。平面形は不定形で、底面は段落ちがみられるが、ほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約3.8m、短軸約 $2.7m + \alpha$ 、検出面からの深さは約10cmである。遺物は土師器甕・坏などが出土した。



第67図 土坑実測図(2) (1/40・8号のみ1/60)



第68図 ピット実測図 (1/10)

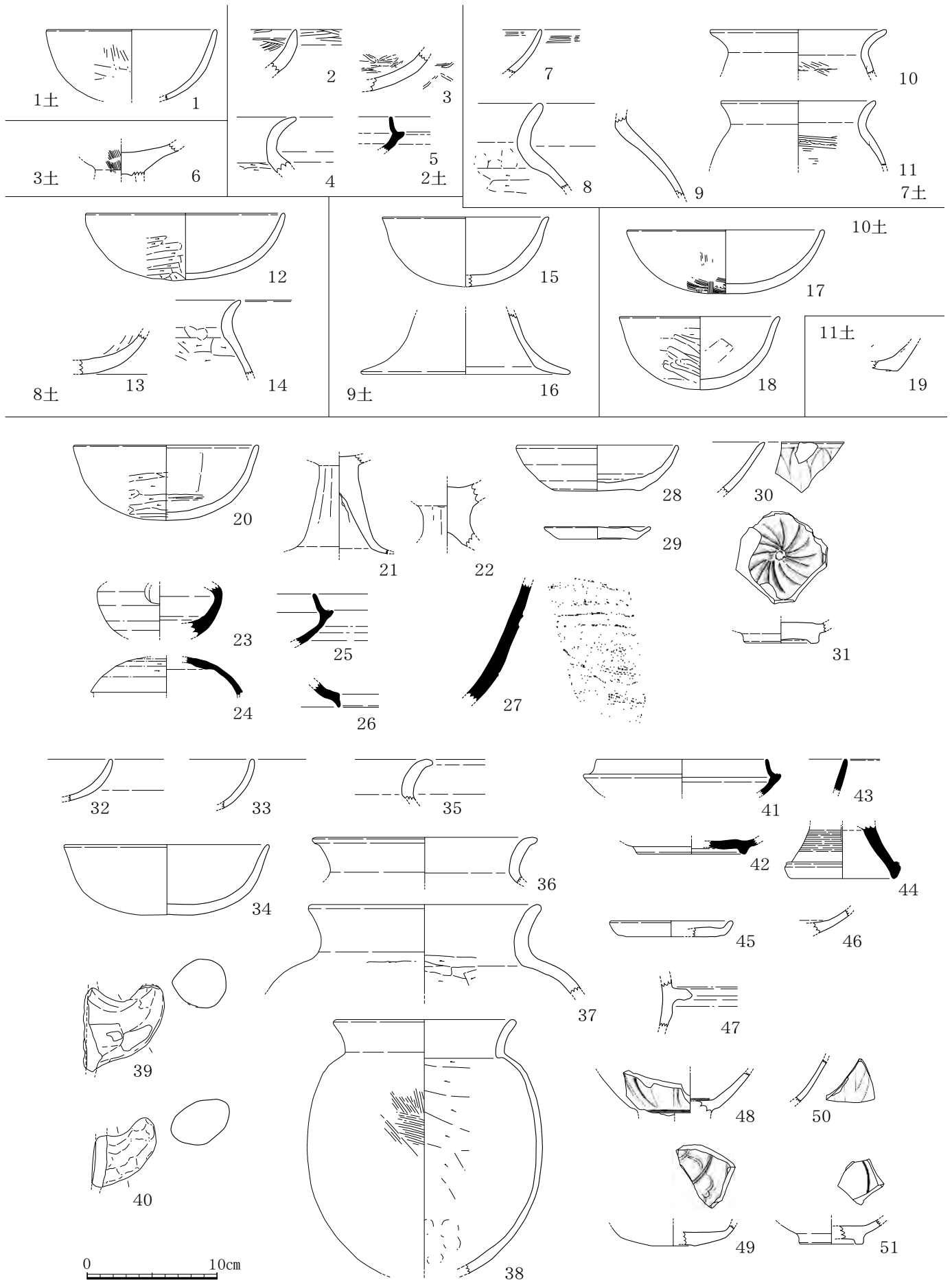
9号土坑 (第67・69図 図版34)

この土坑は北側調査区の南東側、12号竪穴建物跡の東側で確認された。平面形は南側がやや突出する円形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。規模は長軸約1.1m、短軸約1.0m、検出面からの深さは約10cmである。

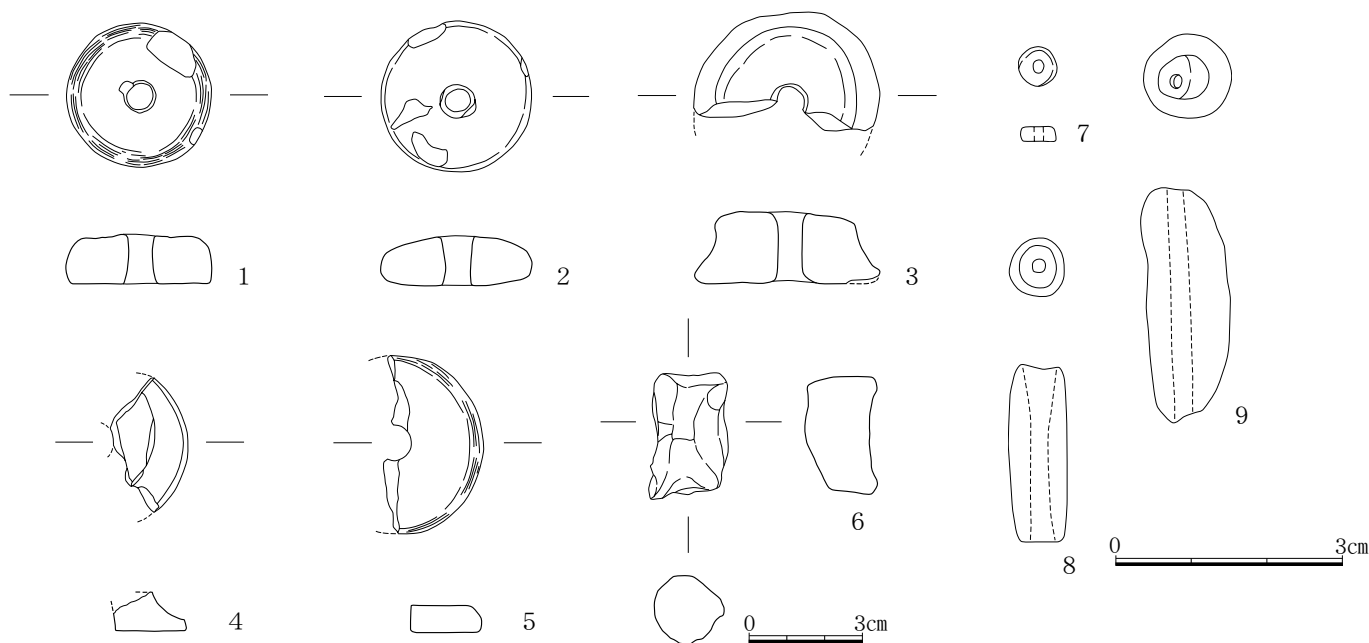
遺物は土師器坏・高坏などが出土した。

10号土坑 (第67・69図 図版34)

この土坑は北側調査区の南東側で確認され、12号竪穴建物跡に切られる。平面形はやや歪な円形を呈し、床面は一部に段落ちが見られ、北西側から南東側へ向かって緩やかに傾斜す



第69図 土坑、ピット、グリッドー括出土遺物実測図 (1/4)



第70図 出土土製品・石製品・玉類実測図 (1~6 : 1/2、7~9 : 1/1)

る。壁は急角度で立ち上がる。規模は長軸約2.0m、短軸約1.8m、検出面からの深さは約20cmである。
遺物は土師器坏が出土した。

11号土坑 (第67・69図 図版35)

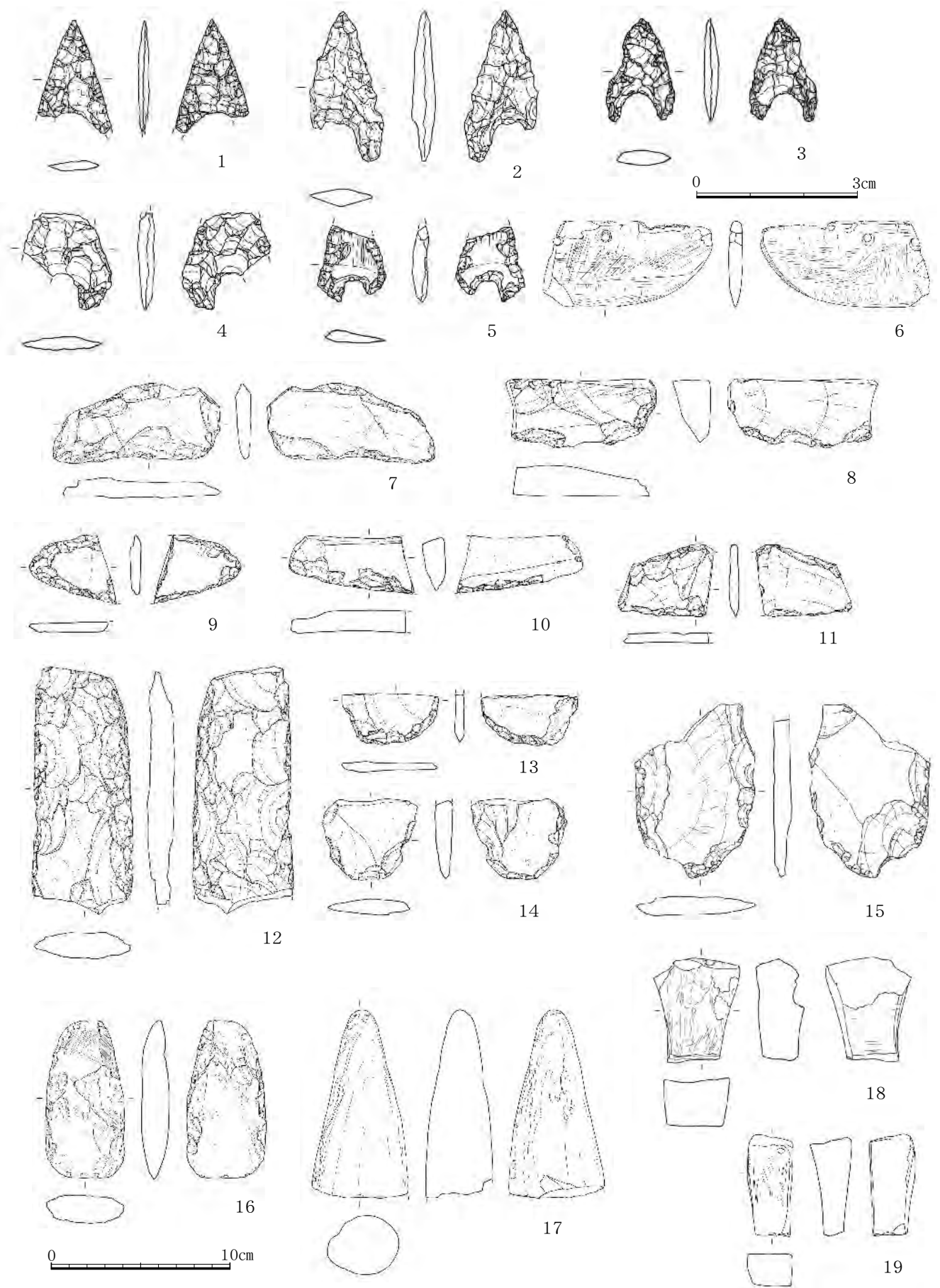
この土坑は北側調査区の南東側、3号土坑の南東側で確認された。平面形はやや歪な円形を呈し、床面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。規模は長軸約1.7m、短軸約1.3m、検出面からの深さは約10cmである。
遺物は土師器坏が出土した。

4. ピット (F8-P1) (第68・69図)

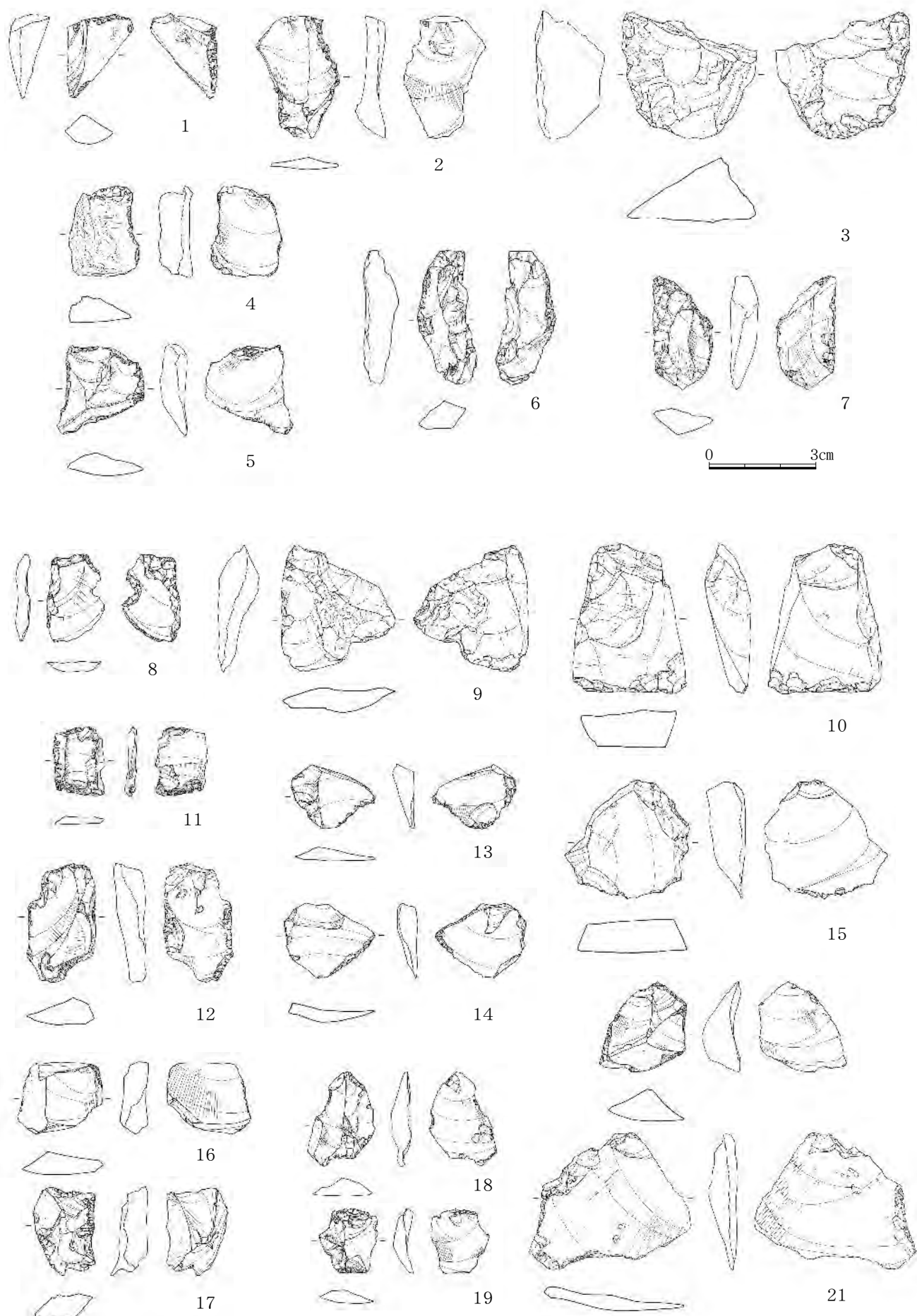
南側調査区のF 8グリッドで確認された。ピットの径23~25cm、検出面からの深さは約20cmを測る。埋土中から、土師質土器坏が正位で据えられ、床面からやや浮いた状態で出土した。こうした出土状況から、流れ込みとは考えにくく、何らかの祭祀に関する遺構の可能性が高いと判断した。

5. その他の遺物 (第69~74図 第10~12表 図版55・56)

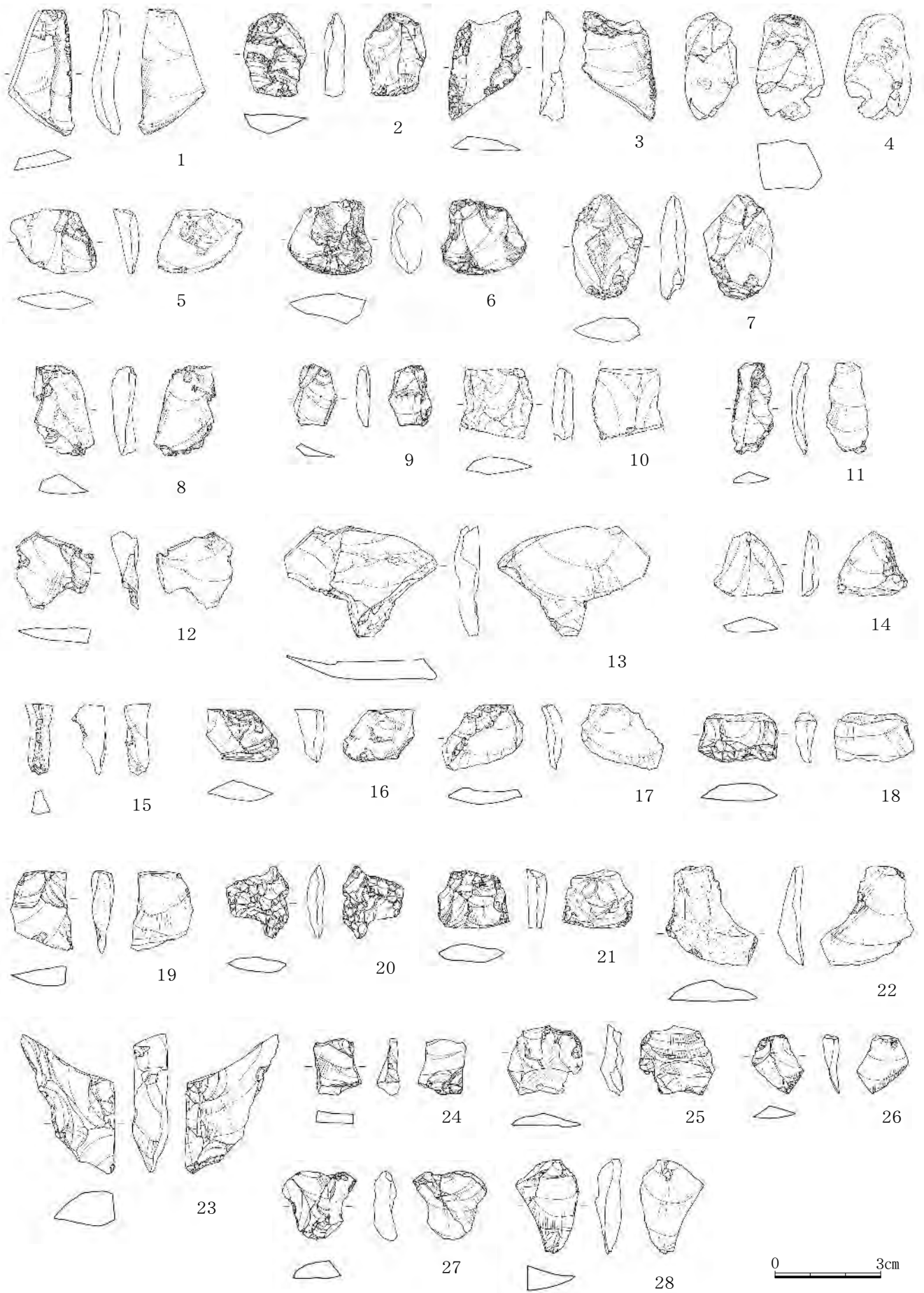
前節までに記述してきた土器のほかに、グリッド一括の出土土器や土製品・石製品、石器が出土しており、第69~74図に示す。詳細については、第10~12表を参照されたい。



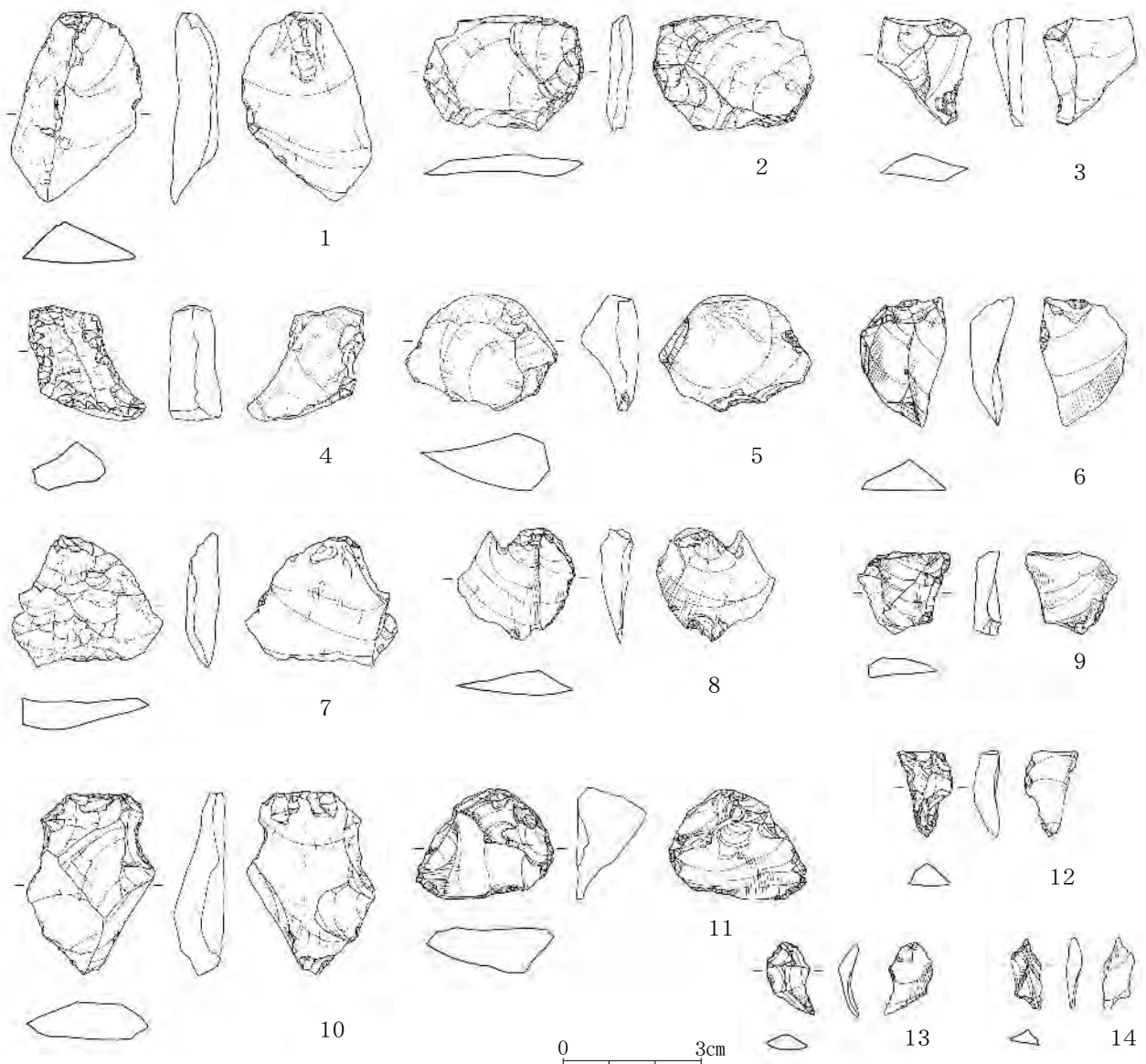
第71图 出土石器实测图(1) (1~5 : 1/1、6~19 : 1/3)



第72图 出土石器实测图(2) (2/3)



第73图 出土石器实测图(3) (2/3)



第74図 出土石器実測図(4) (2/3)

IV 総括

前章までに報告してきたように、本調査では古墳時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが多数確認された。主な時期は古墳時代中期～後期、中世の建物が確認されている⁽¹⁾。特に古墳時代の遺構については、数多く確認されていることから、その変遷や求来里川流域の中での位置づけ等について、考えてみたい⁽²⁾。

集落の変遷

今回の調査で確認された竪穴建物跡のうち、最も古く位置づけられるのは23号A竪穴建物跡である。調査中に切り合い関係を完全に把握できなかったため、平面上の切り合いは23号C→23号B→23号Aとなっているが、23号A竪穴建物がカマドを持たないことや出土した土師器が重藤編年のⅢB期～Ⅳ期の高坏や鉢形甑などが出土しており、中期前半頃と考えられる。

続く中期中頃～後半にかけて、5・27号竪穴建物跡、26号竪穴建物跡、6号A・9号B竪穴建物跡が作られる。まず、5号竪穴建物の出土遺物はⅢB期～Ⅴ期の幅がみられるが、Ⅳ期後半の土師器高坏（第12図5）から、27号竪穴建物からはⅣ期の土師器が出土しており、TK216平行期と考えられる。

26号竪穴建物跡はⅣ期の土師器高坏や壺(第61図3・4)からTK208平行期とみられる。これに続くのは6号A・9号B竪穴建物跡である。6号A竪穴建物跡の遺物については、調査時に6号B竪穴建物跡と混在して取り上げを行ったため、確実な出土位置は押さえられていないが、整理段階でⅤ期の高坏(第15図14)やTK23段階の須恵器坏蓋(第15図15)からおおむね中期後半、Ⅶ期の土師器甕(第15図32・33)やTK43の須恵器坏身から後期後半の2時期に分けられることがわかった。そこで、切り合い関係から6号A→6号Bの順になると判断した。また、9号B竪穴建物跡は、TK23の須恵器坏身(第19図7)から中期後半と判断した。

なお、18号A竪穴建物跡からはⅢB期の壺(第31図14)、TK216～TK208にかけての須恵器坏蓋(第31図23・24)やTK43期の蓋や坏身(第31図25・26)が出土しており、前章で指摘したとおり、2軒存在した可能性が高い。

以上の6、7軒が中期に位置づけられる竪穴建物跡である。続く後期には、その数が一気に増加する。まず、22号C竪穴建物跡から出土した土師器坏(第45図1)は、Ⅵ期とみられることから、後期前半～中頃の幅の中で捉えられる。続いて19号C竪穴建物跡でTK10の須恵器坏身(第36図18)やⅦ期の土師器坏(第36図11・12)が出土している。そして、この建物と同時期か、若干時期が下るとみられるのが、9号A・14号・22号B竪穴建物跡でTK10～MT85の須恵器(第18図21・22、第26図6)やⅥ～Ⅶ期にかけての土師器(第18図13、第26図1、第43図1)から判断でき、さらに17号C・21号竪穴建物跡がMT85～TK43(第29図38、第40図9・11)の時期に比定できる。(24号A竪穴建物は24号B竪穴建物に切られることから、1段階古いと判断)。

後期後半になるTK43段階に最も集落規模が大きくなる。2号A B・3号・6号A・7号・12号・17号B・20号・22号A・24号B竪穴建物跡、4号掘立柱建物跡が、この時期に比定される。これらの竪穴建物跡が出土した遺物をみると、量的に多く、良好なセット関係が掴めそうなのが、3号竪穴建物跡である。土師器では第7図の土師器坏や高坏、第9図1・2の甕や同図7の甑、15～17の須恵器坏身など、この時期に比定できるものである。なお、第9図11の須恵器坏蓋など、古い時期の遺物が見られるものの、これらは、切り合う竪穴建物跡からの流れ込みと考えられる。

続くTK209期からTK217期にかけては、一気にその数は減る。23号C竪穴建物跡からは、Ⅶ期の土師器坏(第54図1)やTK209～TK217の須恵器坏身(第54図13)などから、この時期と判断できる。また、8号竪穴建物跡は7号竪穴建物跡を、1号・5号掘立柱建物跡は17号B竪穴建物跡を切ることから、この時期以降のものである。

以上、本調査区における竪穴建物の変遷を見ていくと、中期前半から中頃にかけてが集落がつくられはじめ、後期前半頃までは一時期に1～2軒程度で推移する。しかし、後期中頃以降、その数は増加し、後期後半になると8軒前後が同時期に存在していた可能性があり、規模が最大になる。その後は、数は減少し、集落は終焉を迎える。

この他、3号掘立柱建物跡は22号A B C竪穴建物跡などを切っているが、時期を決定付けられるような遺物も出土していない。ただし、13～14世紀代の青磁碗などが南側調査区で出土しており、この時期の建物である可能性が高いと考えられる。

求来里川流域における古墳時代集落について

こうした状況を踏まえ、求来里川流域における各遺跡の古墳時代集落の時期との比較を行ったのが、第1表である³⁾。(なお、ここでは、報告書が刊行されている分のみ掲載している)

まず、金田遺跡では前期から数軒の竪穴建物が存在するが、最も多くなるのが、中期前半から中頃(ⅢB～Ⅳ期)である。この要因としては、カマドの導入に代表される、生活様式の大きな変化に伴い、集落規模が大きくなったことが窺える。しかし、中期後半以降はその数が一気に減少し、金田遺跡での集落の営みは停止する。こ

れに対して、対岸に位置する町ノ坪遺跡では、後期前半に集落規模の最大期を迎える。ここでは、中期初頭から一時期に1～2軒程度の竪穴建物が存在していたが、金田遺跡の規模縮小に呼応して、移動があったものと考えられる。

求来里平島遺跡では、金田遺跡と同じく中期中頃に数軒の建物が存在するが、後期前半～中頃にかけて空白期が存在する。この時期は流域全体においても、その数は少なくなるが、後期後半に一気に建物数は増加し、集落規模の最大期を迎えることとなる。その後は、7世紀前半まで数軒の建物が造られ、集落の営みは停止すると思われる。

こうして、集落が展開するエリアは、徐々に求来里川上流域へ移っていく。このことは、これまでも指摘されてきたことであるが、今回改めて、時期別の建物軒数の比較を行うことで、よりその状況が理解し易くなったと考えている。今後は、その他の遺跡の整理・検討を行うことで、古墳時代における求来里川流域の集落展開を明確していきたいと考えている。

註

- (1) 3号掘立柱建物跡からは時期を決定づけるような遺物は出土していないが、ピットやその他の遺物などから、13世紀前半のもの(第69図28・48など)がみられることから、建物跡も同時期と考えておく。
- (2) 土師器の編年は重藤氏(重藤2002・2008・2010)、須恵器の編年は田辺氏(田辺1981)に拠った。
- (3) 各遺構の時期については、報告書に拠った(P4.5参考文献参照)。

参考文献

木村龍生「古墳時代須恵器の実年代観について」『先史学・考古学論究』IV 龍田考古会 2003
 重藤輝行「福岡県における古墳時代中～後期の土師器」『古墳時代中・後期の土師器—その編年と地域性—』第5回九州前方後円墳研究会 2002
 重藤輝行「筑前・筑後の須恵器出現以後の土器」『山口県の古墳時代土器編年を考える』山口県考古学フォーラム 2008
 重藤輝行「北部九州における古墳時代中期の土師器編年」『古文化談叢』第63集 九州古文化研究会 2010
 杉井健「生活様式における中心周辺関係の成立とその意義」『先史学・考古学論究』IV 龍田考古会 2003
 田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981
 中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1995
 若杉竜太「豊後・日田地方における古墳時代中期の一様相」『先史学・考古学論究』V 龍田考古会 2010

第1表 求来里川流域における古墳時代建物変遷表

時期区分		須恵器	土師器	金田遺跡			町ノ坪遺跡B区	求来里平島遺跡				
3期区分	集成編年	田辺	重藤	2次	1,3次			1次B	2次	3次	4次	
前期	前半	1期	I期	31,33								
		2期										
	後半	3期										
		4期 (布留2新) (布留3古)										
中期	初頭	5期 (布留3新)	III A期	35								
		前半	6期 TG232,231 TK73	III B期	38	20	20,26,35	5,11,17	31	23		
	中頃		7期 TK216 TK208	IV期	9,10,25	22	6,7,8,9,10 16,18,22,23 210,212	201,214	19	24	1A,1B	
		後半	8期 TK23 TK47	V期	8		24		20	21,26	20	
	前半		9期 MT15	VI期								
		中頃	TK10		1				2,7,9,11,16,22,27	4,8 15,18	6	
	後半		10期 TK43 TK209	VII期					13	1,5,12,25 13,17		
		終末期	TK217 TK46 TK48									

※数字のみは竪穴建物、掘は掘立柱建物

第2表 出土土器観察表(1)

挿図 番号	遺構		写真 図版	種別	器種	法量:()は復元径・残存高				調整						胎土					色調		備考
	番号 種別	出土 位置等				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	斜 長石	角 閃石	石 英	雲 母	赤 色 粒	白 色 粒	黒 色 粒	砂 粒	焼 成	内面	外面	
第5図1	1	南土		土師器	甕	-	-	-	(2.3)	ナデ	ナデ	○	○	○			良	黄褐色	褐色				
第5図2	1			土師器	甕	-	-	-	(2.9)	ハケ目・ナデ	ナデ	○	○	○		良	淡黄褐色	淡黄褐色					
第6図1	2			土師器	坏	-	-	-	(3.4)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○	○		良	橙色	褐色					
第6図2	2			土師器	坏	-	-	-	(4.8)	ハケ目・ナデ	ナデ	○	○	○		良	黄褐色	褐色					
第6図3	2			土師器	坏	-	-	-	(3.8)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○	○		良	黄褐色	灰黄褐色					
第6図4	2			土師器	甕	-	-	-	(3.5)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	灰黄褐色	淡褐色					
第6図5	2			土師器	皿	-	-	(7.5)	(1.9)	回転ナデ・回転糸切り	回転ナデ	○	○	○		良	褐色	褐色					
第6図6	2			須恵器	坏蓋	-	-	-	(3.4)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○		やや不良	灰色	灰色					
第6図7	2			須恵器	高坏脚部	-	-	-	(3.2)	回転ナデ	ナデ・回転ナデ	○	○	○		良	灰色	灰色					
第6図8	2		36	須恵器	身?蓋?	-	-	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	○	○	○		良	灰白色	灰白色					
第6図9	2		36	須恵器	坏身	-	-	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	○	○	○		良	灰色	灰色					
第6図10	2		36	須恵器	甕	-	-	(17.0)	(6.4)	回転ナデ	回転ナデ	○	○	○		良	灰黑色	灰黑色					
第7図1	3			土師器	鉢	-	-	-	(3.2)			○	○	○		良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色					
第7図2	3	下層		土師器	坏	-	-	-	(3.4)	ミガキ	ミガキ	○	○	○		良	暗黄褐色	黒茶色					
第7図3	3	下層		土師器	坏	-	-	-	(5.4)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○	○		良	淡黄褐色	淡黄褐色					
第7図4	3	下層		土師器	坏	-	-	-	(2.75)	ミガキ?	ミガキ?	○	○	○		やや不良	暗褐色	暗褐色					
第7図5	3	下層		土師器	坏	-	-	-	(3.0)	ナデ・ケズリ	ミガキ	○	○	○		良	にぶい黄褐色	灰黄褐色					
第7図6	3	上層	36	土師器	坏	14.0	-	(2.8)	5.1	ミガキ・ナデ?ケズリ?	ミガキ	○	○	○		良	暗黒茶色	暗黒茶色					
第7図7	3	上層		土師器	坏	(12.4)	-	-	(4.05)	ナデ・ケズリ	ナデ・ミガキ	○	○	○		良	暗赤茶色	暗赤茶色					
第7図8	3	下層	36	土師器	坏	(14.2)	-	-	(4.05)	ミガキ(一部不明瞭)	ミガキ	○	○	○		良	暗赤茶色	暗赤茶色					
第7図9	3	下層	36	土師器	坏	16.8	-	-	(6.5)	ナデ・ケズリ	ミガキ	○	○	○		良	褐色	黄褐色					
第7図10	3	下層	36	土師器	坏	(13.6)	-	-	4.6	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ	○	○	○		良	淡黄褐色	褐灰色					
第7図11	3	下層・カマド	36	土師器	坏	14.6	-	-	4.5	ナデ・ケズリ	ミガキ	○	○	○		良	黄褐色	黄褐色					
第7図12	3	下層	36	土師器	坏	(15.4)	-	-	(3.8)	ナデ?(不明瞭)	ナデ?(不明瞭)	○	○	○		やや不良	淡赤褐色	淡黄褐色					
第7図13	3	下層		土師器	坏	(14.4)	-	-	(6.0)	ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	○	○	○		良	黄褐色	褐色					
第7図14	3	下層		土師器	坏	(13.0)	-	-	5.0	器面摩耗の為不明・器面剥落後摩滅	器面摩耗の為不明	○	○	○		良	褐色	褐色					
第7図15	3	下層	36	土師器	坏	(11.8)	-	-	(4.6)	ミガキ	ミガキ	○	○	○		良	暗茶色	暗赤茶色					
第7図16	3	下層	36	土師器	坏	(13.4)	-	-	(3.0)	ナデ?	ナデ?	○	○	○		良	暗茶色	暗茶色					
第7図17	3	上層	36	土師器	坏	(12.0)	-	-	(4.1)	器面荒れの為不明	器面荒れの為不明	○	○	○		良	褐色	褐色					
第7図18	3	下層	36	土師器	坏	(13.4)	-	-	(4.7)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○	○		良	淡黄褐色	淡黄褐色					
第7図19	3	P5	36	土師器	坏	(14.8)	-	-	4.8	ナデ・ケズリ	ナデ・ミガキ?(不明瞭)	○	○	○		良	褐色	褐灰色					
第7図20	3	下層		土師器	高坏	-	-	-	(4.2)	ハケ目・ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	○	○	○		良	褐色	褐色					
第7図21	3	下層	36	弥生	高坏	-	-	-	(5.1)	ケズリ	ナデ	○	○	○		良	黄灰色	淡黄褐色					
第7図22	3	下層	36	弥生	高坏	-	-	-	(6.6)	ケズリ?(器面剥落の為不明瞭)	ケズリ・器面剥落有り	○	○	○		良	浅黄褐色	浅黄褐色					
第7図23	3	下層		土師器	ミニチュア	-	-	-	(2.8)	ナデ	指ナデ	○	○	○		良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色					
第8図1	3	下層	36	土師器	甕	-	-	-	(3.6)	ナデ	ナデ	○	○	○		良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色					
第8図2	3	下層		土師器	甕	-	-	-	(3.9)	ナデ	ナデ	○	○	○		良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色					
第8図3	3	下層		土師器	甕	-	-	-	(3.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	黒褐色	灰黄褐色					
第8図4	3	下層	36	土師器	甕	-	-	-	(4.2)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色					
第8図5	3	下層		土師器	甕	-	-	-	(4.7)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	にぶい黄褐色	灰黄褐色					
第8図6	3	下層		土師器	甕	-	-	-	(6.5)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	灰黄褐色	褐色					
第8図7	3	下層		土師器	甕	-	-	-	(7.1)	ナデ・工具痕・ハケ目	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○	○		良	灰褐色	褐色					
第8図8	3	下層	36	土師器	甕	-	-	-	(6.2)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	褐灰色	褐色					
第8図9	3	下層		土師器	甕	-	-	-	(5.4)	ナデ	ナデ・工具痕・ケズリ	○	○	○		良	淡黄褐色	淡黄褐色					
第8図10	3	下層	36	土師器	甕	(17.6)	-	-	(5.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	浅黄褐色	浅黄褐色					
第8図11	3	下層	36	土師器	甕	(17.6)	-	-	(5.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	にぶい褐色	にぶい褐色					
第8図12	3	下層		土師器	甕	(13.4)	-	-	(7.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	褐灰色	褐色					
第8図13	3	下層		土師器	甕	(14.1)	-	-	(4.2)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	淡黄褐色	褐色					
第8図14	3	下層		土師器	甕	(16.4)	-	-	(4.9)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	黄褐色	黄褐色					
第8図15	3	下層	36	土師器	甕	(15.0)	-	-	(6.6)	ナデ(不明瞭)	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○	○		良	褐色	褐色					
第8図16	3	下層	36	土師器	甕	(17.2)	-	-	(10.7)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	褐色	褐色					
第8図17	3	下層	36	土師器	甕	(14.4)	-	-	(7.1)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	暗黄褐色	暗黄褐色					
第8図18	3	カマド	36	土師器	甕	11.8	13.5	-	14.1	ハケ目・ナデ? (器面荒れの為不明瞭)	ハケ目・ナデ・ケズリ・指オサエ	○	○	○		良	褐色	にぶい赤褐色					
第8図19	3	下層	36	土師器	甕	14.0	-	-	(10.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	淡黄褐色	淡黄褐色					
第8図20	3	P5,下層	37	土師器	甕	(15.4)	(19.8)	-	(19.4)	ナデ・沈線	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	淡黄褐色	淡黄褐色					
第8図21	3	下層	37	土師器	甕	11.9	15.2	-	(11.2)	ハケ目	ケズリ	○	○	○		良	黒褐色	褐色					
第8図22	3	下層	37	土師器	甕	(11.2)	(13.4)	-	14.8	ナデ・ハケ目	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○	○		良	にぶい褐色	にぶい赤褐色					
第8図23	3	下層	37	土師器	壺?	-	-	(14.0)	-	ナデ?(器面剥落の為不明瞭)	器面剥落の為不明	○	○	○		良	黒褐色	赤褐色					
第8図24	3	下層	37	土師器	壺?	(17.0)	(20.0)	-	(16.3)	ナデ・指オサエ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	暗褐色	暗赤褐色					
第9図1	3	カマド	37	土師器	甕	17.3	28.2	-	34.8	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○	○		良	黄褐色	黄褐色					
第9図2	3	下層・カマド	37	土師器	甕	20.8	29.1	-	34.1	ナデ・ハケ目	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○	○		良	浅黄褐色	浅黄褐色					
第9図3	3	下層		土師器	甕	-	-	-	(5.1)	ナデ・指オサエ	ナデ	○	○	○		良	黒褐色	黒褐色					
第9図4	3	下層		土師器	甕	-	-	-	(4.6)	ハケ目・ヨコナデ	ケズリ・ヨコナデ	○	○	○		良	淡黄褐色	淡黄褐色					
第9図5	3	下層	37	土師器	甕	-	-	-	(14.0)	ヨコナデ・ナデ(一部ハケ目残存)	ヨコナデ・ケズリ	○	○	○		良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色					
第9図6	3	下層	37	土師器	甕or甕	-	-	-	(7.4)	指オサエ・ナデ・ケズリ	ケズリ後ミガキ?	○	○	○		良	褐色	浅黄褐色					
第9図7	3	下層	37	土師器	甕	16.8	-	5.6	20.9	ハケ目・ナデ・指オサエ・ヘラ痕	ハケ目・ケズリ・ナデ	○	○	○		良	灰黄褐色	浅黄褐色					
第9図8	3	下層		土師器	甕	-	-	-	(6.3)	ナデ	ナデ	○	○	○		良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色					
第9図9	3	下層		須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○		良	暗灰褐色	暗灰褐色					
第9図10	3	下層		須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○		良	灰白色	暗灰色					
第9図11	3	下層	37	須恵器	坏蓋	(13.0)	-	-	4.8	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○		良	暗灰色	灰褐色					
第9図12	3	下層		須恵器	坏蓋	(13.0)	-	-	(3.9)	回転ナデ	回転ナデ	○	○	○		良	灰褐色	灰白色					
第9図13	3	上層		須恵器	坏蓋	(15.2)	-	-	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ	○	○	○		やや不良	淡青灰色	灰茶褐色					

第3表 出土土器観察表(2)

挿図 番号	遺構		写 真 図 版	種別	器種	法量:()は復元径・残存高				調整				胎土					焼 成	色調		備 考
	番号 種別	出土 位置等				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	斜 長 石	石 英	赤 色 粒	白 色 粒	黒 色 粒	砂 粒	内面		外面		
第9図14	3堅	上層		須恵器	坏身	-	-	-	(2.8)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・回転ナデのちナデ							やや不良	灰白色	灰白色	6B堅出土分と接合	
第9図15	3堅	下層	37	須恵器	坏身	(12.3)	-	(8.2)	(4.6)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・一部不整方向ナデ						良	灰色	黄灰色			
第9図16	3堅	下層		須恵器	坏身	-	受部(15.0)	-	(2.9)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	灰色	灰色	スカシツ所残存、外面に自然釉、シボリ痕有り スカシ		
第9図17	3堅		37	須恵器	坏身	(12.5)	受部(14.8)	-	(3.3)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	灰色	灰色			
第9図18	3堅	下層		須恵器	高坏	(15.4)	-	-	(3.75)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰褐色	灰褐色			
第9図19	3堅		38	須恵器	高坏脚部	-	-	-	(4.3)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰色			
第9図20	3堅	下層		須恵器	高坏?	-	-	(7.8)	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰色			
第9図21	3堅	上層	37	須恵器	坏身	-	-	-	(2.3)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデのちナデ						良	灰白色	灰色	内面にヘラ記号		
第9図22	3堅	下層		須恵器	甕	-	-	-	(13.8)	回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・ナデ						良	灰色	灰色	6B堅出土分と接合		
第9図23	3堅	上層	38	須恵器	瓶類	-	-	-	(3.2)	カキ目							良	灰色	灰色	当て具痕有り		
第11図1	4堅			土師器	甕	-	-	-	(3.5)	ナデ	ナデ						良	灰黄褐色	灰黄褐色	外面黒斑有り		
第11図2	4堅	カマド		土師器	甕	-	-	-	(4.2)	ナデ	ナデ・ケズリ						良	淡黄褐色	赤褐色			
第11図3	4堅	カマド	38	土師器	甕	(12.3)	(13.6)	-	(9.9)	ナデ・ハケ目?	ナデ・ケズリ						良	淡黄褐色	暗黄褐色			
第11図4	4堅	カマド		土師器	甕	-	-	-	(3.8)	ナデ	ナデ						良	暗黒茶色	暗茶色			
第11図5	4堅	カマド	38	土師器	甕	-	-	-	(12.3)	ハケ目	ケズリ						良	浅黄褐色	浅黄褐色			
第11図6	4堅	カマド	38	須恵器	甕	-	-	-	(5.4)	回転ナデ・タタキ後カキ目	回転ナデ						良	灰色	灰色	当て具痕有り		
第12図1	5堅		38	土師器	坏	(14.8)	-	-	4.9	ナデ・ケズリ	ナデ						良	明褐色	明褐色	内外面スス付着		
第12図2	5堅		38	土師器	坏	(14.3)	-	-	(4.4)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	褐色	灰褐色	外面スス付着、外面黒斑有り		
第12図3	5堅		38	土師器	坏	15.4	-	-	6.0	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ目						良	褐色	淡褐色			
第12図4	5堅		38	土師器	碗	10.4	-	-	7.2	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ						良	淡褐色	赤褐色			
第12図5	5堅		38	土師器	高坏坏部	(18.2)	-	-	(6.9)	ハケ目・ナデ	ナデ・ミガキ?						良	明赤褐色	明赤褐色			
第12図6	5堅		38	土師器	甕	(17.4)	-	-	(10.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ						良	褐色	褐色		一部に粘土塊を貼り付けハケでな てつけたような痕有り、補修痕か?	
第12図7	5堅		38	土師器	甕	-	(25.8)	-	(23.7)	ハケ目	ケズリ						良	赤褐色	暗褐色	外面スス付着		
第15図1	6B堅			土師器	坏	-	-	-	(4.3)	ケズリ	ナデ						良	褐色	赤褐色	内面黒斑有り		
第15図2	6B堅		38	土師器	坏	-	-	-	(5.4)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	淡黄褐色	淡黄褐色	外面スス付着		
第15図3	6B堅			土師器	坏	(14.1)	-	-	(4.7)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	褐色	褐色			
第15図4	6B堅			土師器	坏	(11.4)	-	-	(4.8)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	淡黄褐色	褐色			
第15図5	6B堅			土師器	坏	(13.9)	-	-	(7.5)	ナデ	ナデ・工具ナデ・ヘラ痕						良	淡黄褐色	褐色			
第15図6	6堅		38	土師器	坏	(16.6)	-	-	(5.7)	ナデ?(不明瞭)	ナデ?(不明瞭)						良	淡黄色	褐色			
第15図7	6B堅		38	土師器	坏	(14.2)	-	-	(5.9)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	褐色	褐色	外面黒斑有り、9A堅出土分と接合		
第15図8	6B堅		38	土師器	坏	(15.0)	-	-	(5.2)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	淡黄色	淡褐色	外面スス付着		
第15図9	6B堅			土師器	甕	-	-	-	(3.8)	ナデ	ナデ・ケズリ						良	淡黄褐色	黒褐色			
第15図10	6A堅			土師器	甕	-	-	-	(4.1)	ナデ	ナデ・ケズリ?						良	淡黄褐色	淡黄褐色			
第15図11	6B堅			土師器	甕	(16.2)	-	-	(7.1)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ						良	褐灰色	黄灰色	外面黒斑有り		
第15図12	6B堅		38	土師器	甕	(15.8)	-	-	(8.9)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ						良	灰黄褐色	灰黄褐色			
第15図13	6B堅		38	土師器	甕	(17.2)	-	-	(9.6)	ナデ・ハケ目	ハケ目・ナデ・ケズリ						良	灰黄褐色	黒褐色			
第15図14	6B堅		39	土師器	高坏脚部	-	-	10.4	(4.3)	ナデ・指オサエ	ケズリ・ナデ						良	褐色	褐色			
第15図15	6B堅		39	須恵器	坏蓋	(12.4)	-	-	(4.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	黄灰褐色			
第15図16	6堅			土師器	坏	-	-	-	(3.5)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	淡黄褐色	淡黄褐色	外面黒斑有り		
第15図17	6堅			土師器	坏	-	-	-	(4.5)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	褐色	褐色	外面黒斑有り		
第15図18	6堅		39	土師器	坏	(15.4)	-	-	(4.0)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明						良	淡黄褐色	褐色			
第15図19	6堅		39	土師器	坏	(14.0)	-	-	5.1	ナデ・ケズリ	ナデ・器面剥落有り						良	褐色	褐色			
第15図20	6堅		39	土師器	坏	(14.2)	-	-	4.6	ナデ・ケズリ	ナデ						良	灰黄褐色	灰黄褐色			
第15図21	6堅			土師器	坏	(13.4)	-	-	(4.8)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	褐色	褐色			
第15図22	6堅		39	土師器	坏	(15.4)	-	-	5.4	ナデ・ハケ目	ナデ						良	褐色	黒褐色	外面黒斑有り		
第15図23	6堅		39	土師器	坏	(12.6)	-	-	(5.7)	ナデ・ケズリ	ナデ						良	褐色	褐色			
第15図24	6堅		39	土師器	坏	14.3	-	-	4.7	ナデ・ケズリ(器面荒れの為不明瞭)	器面荒れの為不明						良	褐色	褐色			
第15図25	6堅		39	土師器	坏	(13.8)	-	-	5.9	ナデ・ケズリ	ナデ						良	褐色	褐色			
第15図26	6堅		39	土師器	碗	12.6	-	-	5.8	沈線?・ナデ? (器面荒れの為不明瞭)	ナデ						良	赤褐色	暗黄褐色			
第15図27	6堅		39	土師器	高坏脚部	-	-	(9.4)	(3.0)	不明瞭(ナデ?)	ケズリ						良	浅黄褐色	浅黄褐色	龍泉窯 露胎・傾き不確実		
第15図28	6堅		39	土師器	ミニチュア	(4.5)	-	-	(3.2)	指オサエ	指オサエ						良	褐灰色	にぶい黄褐色			
第15図29	6堅			土師器	甕	-	-	-	(2.6)	ナデ・ハケ目	ナデ						良	淡黄色	灰黄褐色			
第15図30	6堅		39	土師器	甕	-	-	-	(4.6)	ナデ・ハケ目	ナデ・器面剥落有り						良	淡黄褐色	淡黄褐色			
第15図31	6堅			土師器	甕	-	-	-	(5.0)	ナデ	ナデ・ケズリ						良	黒褐色	赤褐色			
第15図32	6堅		39	土師器	甕	-	-	-	(9.0)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ						良	黄褐色	黄褐色	外面黒斑有り		
第15図33	6堅		39	土師器	甕	(14.2)	-	-	(9.0)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ						良	灰黄褐色	灰黄褐色	外面黒斑有り		
第15図34	6堅		39	須恵器	坏身	-	-	-	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰色			
第15図35	6堅		39	須恵器	坏身	-	-	-	(3.2)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	灰褐色	黄灰褐色		自然釉付着	
第15図36	6堅			青磁	碗	-	-	-	(1.3)	-	-						-	淡緑色	淡緑色	龍泉窯		
第15図37	6堅		39	青磁	碗	-	-	-	(3.3)	-	-						-	淡緑色	淡緑色	露胎・傾き不確実		
第16図1	7堅		39	土師器	坏	(11.6)	-	-	(3.7)	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ミガキ						良	黒褐色	黒褐色	黒色処理		
第16図2	7堅	土坑		土師器	坏	(12.0)	-	-	(5.1)	ミガキ?・ナデ(不明瞭)	ミガキ?(不明瞭)						良	褐色	褐色			
第16図3	7堅	土坑	39	土師器	坏	(10.8)	-	(2.4)	4.3	ミガキ	ミガキ						良	暗茶色	暗茶色			
第16図4	7堅			土師器	甕	-	-	-	(4.1)	ナデ	ナデ・ケズリ						良	暗黄褐色	黄褐色			
第17図1	8堅			土師器	坏	-	-	-	(4.1)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ						良	褐色	褐色	内面黒色処理 内外面スス付着		
第18図1	9A堅			土師器	坏	-	-	-	(4.0)	ナデ・ケズリ	ミガキ						良	灰褐色	褐色			
第18図2	9A堅			土師器	坏	(15.0)	-	-	(4.8)	ナデ・工具ナデ	ナデ						良	黄褐色	黒褐色			
第18図3	9A堅			土師器	坏	(13.4)	-	-	(3.6)	ナデ・ケズリ?	ミガキ?						良	褐色	にぶい褐色			
第18図4	9A堅		39	土師器	坏	(14.4)	-	-	(4.9)	ナデ・ケズリ・ハケ目	ナデ						良	褐色	黄褐色			
第18図5	9A堅		39	土師器	坏	14.5	-	-	6.7	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ目						良	褐色	褐色			
第18図6	9A堅		39	土師器	坏	(14.0)	-	-	5.8	ナデ・ケズリ	ナデ・工具痕						良	褐色	褐色			
第18図7	9A堅			土師器	坏	(13.6)	-	-	(4.6)	ナデ	ナデ						良	褐色	褐色			

第4表 出土土器観察表(3)

挿入 番号	遺構		写真 図版	種別	器種	法量:()は復元径・残存高				調整						焼 成	色調		備考	
	番号 種別	出土 位置等				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	斜 長 石	角 閃 石	石 英	赤 色 粒		白 色 粒	黒 色 粒		砂 粒
第18図8	9A堅	カマド	39	土師器	坏	12.3	-	-	6.0	ナデ・ケズリ	ナデ	○					良	淡黄褐色	赤褐色	外面スス付着
第18図9	9A堅			土師器	鉢	(20.4)	-	-	(7.2)	ナデ	ナデ	○				良	黄褐色	黄褐色		
第18図10	9A堅			土師器	甕	-	-	-	(3.6)	ナデ	ナデ・ケズリ	○				良	明赤褐色	明赤褐色		
第18図11	9A堅		40	土師器	甕	-	-	-	(5.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○				良	黄褐色	黄褐色		
第18図12	9A堅	カマド	40	土師器	甕	(13.0)	-	-	(3.7)	ナデ?(摩耗の為不明瞭)	ナデ・ケズリ	○				良	赤褐色	赤褐色		
第18図13	9A堅			土師器	甕	(15.5)	(17.0)	-	(9.1)	ナデ	ナデ・ケズリ	○				良	にぶい赤褐色	暗褐色	203と接合	
第18図14	9A堅			土師器	甕	(14.4)	-	-	(7.7)	ナデ	ナデ・ケズリ	○				良	灰褐色	明赤褐色		
第18図15	9A堅		40	土師器	甕	(11.6)	-	-	(6.9)	ナデ・ハケ面	ナデ・ケズリ	○				良	にぶい黄褐色	黄褐色	外面黒斑有り	
第18図16	9A堅		40	土師器	甕	(16.4)	-	-	(7.8)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○				良	灰黄褐色	灰黄褐色		
第18図17	9A堅		40	土師器	甕	(15.2)	-	-	(5.4)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○				良	褐色	褐色	口縁部黒斑有り	
第18図18	9A堅		40	土師器	甕	(15.4)	-	-	(4.2)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○				良	灰黄褐色	褐色	204と接合	
第18図19	9A堅		40	土師器	壺	-	-	-	(8.7)	ナデ	ケズリ	○				良	黄褐色	赤褐色		
第18図20	9A堅		40	土師器	壺	-	-	-	(5.2)	ナデ	ナデ	○				良	赤褐色	黄褐色		
第18図21	9A堅			須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.4)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ					良	灰色	灰色		
第18図22	9A堅		40	須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.95)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ					良	灰白色	灰白色		
第18図23	9A堅			須恵器	高坏脚部	-	-	-	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ					良	灰色	灰色	外面に自然釉	
第18図24	9A堅		40	青磁	碗	-	-	(5.0)	(2.0)	-	-					-	緑灰色	緑灰色	露胎	
第18図25	9A堅		40	ミニチュア		(3.0)	-	-	2.3	ナデ	ナデ	○				良	にぶい褐色	にぶい褐色		
第19図1	9B堅		40	土師器	坏	13.4	-	-	6.4	ミガキ	ナデ・ミガキ	○				良	褐色	褐色	外面黒斑有り	
第19図2	9B堅		40	土師器	坏	14.0	-	-	6.0	ナデ・ミガキ・ハケ目	ナデ・ミガキ	○				良	褐色	褐色	内外面スス付着	
第19図3	9B堅		40	土師器	坏or鉢	-	-	-	(3.7)	ハケ目・ナデ	ナデ	○				良	にぶい褐色	灰褐色	外面スス付着、傾き・径不確実	
第19図4	9B堅		40	土師器	坏	14.1	-	-	5.9	ハケ目・ミガキ?(不明瞭)	ナデ・ミガキ	○				良	褐色	褐色	外面黒斑有り	
第19図5	9B堅			土師器	坏	-	-	-	(3.8)	ナデ	ケズリ	○				良	灰褐色	にぶい赤褐色		
第19図6	9B堅		40	ミニチュア		(4.0)	-	-	(3.9)	指オサエ・ナデ	指オサエ	○				良	にぶい褐色	にぶい褐色	外面黒斑有	
第19図7	9B堅		40	須恵器	坏身	(13.2)	-	(4.6)	(4.8)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	○				良	暗灰色	暗灰色	口唇内面、尖った工具で調整? 9A堅出土分と接合	
第21図1	10堅		40	縄文	鉢	-	-	-	(2.0)	ミガキ	ミガキ	○				良	黒褐色	黒褐色		
第21図2	10堅			弥生	高坏坏部	-	-	-	(5.9)	沈線(2条)・器面剥落有り	ナデ・器面剥落有り	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色	傾き不確実	
第21図3	10堅		40	縄文	鉢	-	-	(10.2)	(2.7)	指オサエ後ナデ・ナデ	ナデ	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第21図4	10堅			縄文	鉢	-	-	(8.2)	(4.4)	ナデ	ナデ・指オサエ	○				良	暗褐色	明赤褐色		
第21図5	10堅	カマド	40	土師器	鉢	(14.0)	-	-	6.3	ナデ・ケズリ	ナデ・丁寧なナデ	○				良	褐色	褐色	内外面スス付着、外面黒斑有り	
第21図6	10堅		40	土師器	坏	15.0	-	-	6.8	ナデ・ケズリ	器面荒れの為不明	○				良	赤褐色	赤褐色		
第21図7	10堅		40	土師器	坏	15.2	-	-	5.5	ナデ・ケズリ	ナデ・工具痕	○				良	褐色	黄褐色		
第21図8	10堅	カマド	40	土師器	坏	12.1	-	-	5.6	器面荒れの為不明	器面荒れの為不明	○				良	淡黄褐色	黄褐色		
第21図9	10堅		40	土師器	坏	15.4	-	-	6.5	ナデ・ハケ目	ナデ・ミガキ?	○				良	褐色	褐色	外面黒斑有り	
第21図10	10堅		40	土師器	坏	(17.0)	-	-	(5.9)	ナデ・ハケ目	ミガキ	○				良	にぶい褐色	にぶい褐色		
第21図11	10堅		41	土師器	坏	(15.2)	-	-	6.8	ハケ目・ナデ	丁寧なナデ	○				良	明褐色	褐色		
第21図12	10堅			土師器	高坏坏部	(15.3)	-	-	(4.9)	器面摩耗の為不明(ナデ?)	器面摩耗の為不明(ナデ?)	○				良	黄褐色	黄褐色		
第21図13	10堅	カマド		土師器	坏	-	-	-	(5.0)	ナデ?(摩耗の為不明瞭)	摩耗の為不明	○				良	褐色	褐色		
第21図14	10堅		41	須恵器	身?蓋?	-	-	-	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ					良	灰色	黒褐色		
第21図15	10堅		41	土師器	甕	-	-	-	(8.9)	ナデ・工具痕・ハケ目	ナデ・ハケ目・ケズリ	○				良	灰黄褐色	にぶい黄褐色		
第21図16	10堅			土師器	甕	(13.2)	-	-	(4.9)	ナデ?(摩耗の為不明瞭)	ナデ・ケズリ	○				良	黒褐色	赤褐色	内面スス付着	
第21図17	10堅		41	土師器	甕	(22.0)	-	-	(6.0)	ナデ	ハケ目・ナデ・指オサエ・ケズリ	○				良	暗褐色	暗褐色		
第21図18	10堅		41	土師器	甕	(15.1)	-	-	(15.2)	ナデ	ナデ・ケズリ? (器面荒れの為不明瞭)	○				良	赤褐色	淡赤褐色	口縁部黒斑有り	
第21図19	10堅		41	土師器	甕	(15.8)	-	-	(7.3)	ナデ・丁寧なナデ	ハケ目・ナデ・指オサエ・ケズリ	○				良	暗褐色	暗褐色		
第21図20	10堅	床直	41	土師器	甕	17.4	-	-	(9.2)	ナデ	ナデ・ケズリ	○				良	赤褐色	赤褐色	外面黒斑有り	
第21図21	10堅			土師器	甕	-	-	-	(4.8)	丁寧なナデ	ケズリ・ナデ	○				良	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色		
第21図22	10堅			土師器	甕?蓋?	-	-	-	(2.6)	ヨコナデ	ヨコナデ	○				良	にぶい褐色	にぶい褐色		
第21図23	10堅			土師器	甕	-	-	-	(7.3)	ナデ・ハケ目	ナデ	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第21図24	10堅			土師器	甕	-	-	-	(13.6)	ヨコナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第21図25	10堅			土師器	甕or甕	-	-	-	(4.5)	ハケ目・指オサエ	ケズリ	○				良	にぶい黄褐色	黄褐色		
第21図26	10堅		41	土師器	甕or甕	-	-	-	(7.2)	指オサエ・ナデ・ハケ目	ナデ	○				良	黒褐色	暗褐色		
第21図27	10堅		41	土師器	甕or甕	-	-	-	(6.2)	ナデ・指オサエ・指ナデ	ケズリ	○				良	黒色	褐色	内面黒斑有り	
第22図1	11堅			縄文	鉢	-	-	(7.8)	(4.7)	ナデ	ナデ	○				良	にぶい褐色	明褐色		
第22図2	11堅			土師器	坏	-	-	-	(4.3)	ハケ目	ナデ?	○				良	にぶい褐色	灰黄褐色	外面スス付着?	
第22図3	11堅			土師器	坏	-	-	-	(3.3)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	○				良	褐色	褐色		
第22図4	11堅	カマド		土師器	坏	(13.0)	-	-	(6.5)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	○				良	赤褐色	赤褐色		
第22図5	11堅	カマド	41	土師器	坏	14.6	-	-	6.3	ナデ・ハケ目	ナデ	○				良	褐色	褐色		
第22図6	11堅	カマド	41	土師器	坏	(14.2)	-	-	(5.5)	ナデ・ハケ目	ナデ	○				良	明褐色	褐色		
第22図7	11堅	カマド		土師器	高坏坏部	(23.4)	-	-	(4.8)	ナデ・ハケ目・器面剥落有り	器面剥落の為不明	○				良	明赤褐色	明赤褐色		
第22図8	11堅	カマド	41	土師器	甕	(16.0)	-	-	(3.1)	ハケ目・ナデ・指オサエ	器面剥落の為不明	○				良	褐色	褐色		
第22図9	11堅		41	土師器	甕	(16.8)	-	-	(9.0)	ナデ	ナデ・ケズリ	○				良	淡黄褐色	淡黄褐色		
第24図1	12堅	カマド	41	土師器	甕	(16.8)	-	-	(7.0)	ナデ	器面摩耗の為不明	○				良	灰黄色	淡黄褐色	外面黒斑有り	
第24図2	12堅		41	土師器	甕	(12.2)	(14.2)	-	(8.6)	ナデ・ハケ目	ナデ・工具ナデ(ケズリ?)	○				良	灰黄褐色	にぶい褐色		
第24図3	12堅			土師器	甕	-	-	-	(6.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○				良	灰黄褐色	灰黄褐色		
第24図4	12堅	カマド		土師器	甕	-	-	-	(19.8)	ハケ目後ナデ (摩耗の為不明瞭)	ケズリ(摩耗の為不明瞭)	○				良	浅黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着	
第24図5	12堅	カマドPS		須恵器	坏蓋	(13.2)	-	-	3.6	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ	○				良	灰白色	灰褐色		
第24図6	12堅			須恵器	坏身	-	-	-	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ					良	暗灰色	暗灰色		
第24図7	12堅		41	須恵器	坏身	-	-	-	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ					良	灰色	灰色		
第24図8	12堅			須恵器	坏身	-	受部(15.0)	-	(4.3)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ					良	灰色	灰色		
第25図1	13堅		41	土師器	甕	(14.0)	(21.0)	-	(11.7)	ハケ目・ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○				良	暗褐色	にぶい褐色	外面黒斑有り	
第25図2	13堅			土師器	甕	-	-	-	(5.4)	ナデ・工具ナデ	ナデ・ケズリ	○				良	にぶい黄褐色	にぶい褐色		

第5表 出土土器観察表(4)

挿図 番号	遺構		写真 図版	種別	器種	法量：()は復元径・残存高				調整		胎土					焼成	色調		備考		
	番号 種別	出土 位置等				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	斜長石	角閃石	石英	赤色粒	白色粒		黒色粒	砂粒		内面	外面
第26図1	14	堅		41	土師器	甕	(14.4)	(17.5)	-	(16.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○					良	暗褐色	暗褐色	外面環状にスス付着
第26図2	14	堅			土師器	甕	-	(17.2)	-	(12.0)	ナデ?・ハケ目	ナデ?・ケズリ	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		
第26図3	14	堅			土師器	甕	-	-	-	(5.1)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		
第26図4	14	堅		42	土師器	坏	(14.6)	-	-	3.8	丁寧なナデ	丁寧なナデ	○					良	にぶい橙色	にぶい褐色	外面スス付着、傾き・径不確実、17A堅出土分と接合	
第26図5	14	堅		42	須恵器	坏身	(11.6)	-	(4.8)	(3.5)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ			○	○		良	灰白色	灰赤色	内部はやや焼成不良、内面気泡多く赤味おびる	
第26図6	14	堅	P4	42	須恵器	坏身	-	-	(11.2)	(3.2)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ			○	○		良	灰白色	灰白色	17A堅出土分と接合	
第26図7	14	堅			須恵器	壺	-	-	-	(3.7)	カキ目・回転ナデ	回転ナデ			○	○		良	灰褐色	暗黄灰色		
第26図8	14	堅			青磁	碗	-	-	-	(3.4)	-	-						-	黄緑色	黄緑色	同安窯	
第27図1	16	堅		42	土師器	甕	(19.9)	-	-	(3.8)	ナデ・沈線?	ナデ	○	○				良	にぶい褐色	にぶい褐色		
第27図2	16	堅			土師器	壺	(6.8)	-	-	(3.3)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		
第27図3	16	堅		42	須恵器	高坏脚部	-	-	-	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	暗灰色		
第29図1	17A	堅			土師器	坏	(14.2)	-	-	(5.3)	ナデ・工具ナデ	工具ナデ	○	○				良	灰黄褐色	にぶい黄褐色		
第29図2	17A	堅		42	土師器	甕	-	-	-	(4.6)	ナデ・指オサエ?	ケズリ・器面剥落有り	○	○				良	灰白色	灰白色	内面黒斑有り	
第29図3	17A	堅			土師器	甕	(13.2)	-	-	(6.1)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第29図4	17A	堅			土師器	甕	(17.6)	-	-	(6.7)	器面摩耗の為不明	ケズリ	○	○				良	暗褐色	にぶい黄褐色		
第29図5	17A	堅		42	土師器	甕	(21.8)	-	-	(9.7)	ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				良	灰白色	浅黄褐色		
第29図6	17A	堅		42	土師器	甕	(22.2)	-	-	(6.4)	器面剥落の為不明	ケズリ・器面剥落有り	○	○				良	褐色	にぶい黄褐色		
第29図7	17A	堅		42	土師器	甕	(26.2)	-	-	(7.6)	ハケ目(器面摩耗の為不明瞭)	器面摩耗の為不明	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		
第29図8	17A	堅			土師器	甕	-	-	-	(16.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色	外面に黒斑有り	
第29図9	17A	堅		42	土師器	甕	-	-	-	(16.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				良	褐色	褐色		
第29図10	17A	堅		42	土師器	高坏脚部	-	-	-	(8.6)	工具ナデ(器面剥落の為不明瞭)	しぼり痕(器面剥落の為不明瞭)			○			良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第29図11	17A	堅		42	土師器	甕	-	-	-	(7.5)	ナデ	ナデ	○	○				良	淡黄色	淡黄色	工具痕有り	
第29図12	17A	堅			須恵器	坏蓋	-	-	-	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰色		
第29図13	17A	堅			須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.9)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰色		
第29図14	17A	堅			須恵器	坏蓋	-	-	-	(3.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰色		
第29図15	17A	堅	カマド	42	須恵器	坏蓋	(11.1)	-	-	2.9	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ						良	灰色	灰黒色		
第29図16	17A	堅		42	須恵器	坏蓋	(14.1)	-	-	3.3	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰黒色	内面タタキ状の工具痕らしきもの有り	
第29図17	17A	堅		42	須恵器	坏蓋	14.1	-	-	3.5	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・不整方向ナデ						良	黄灰色	暗灰褐色		
第29図18	17A	堅		42	須恵器	坏蓋	(15.5)	-	-	3.75	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						良	暗灰色	暗灰色	天井部の切り離し後、未調整	
第29図19	17A	堅		42	須恵器	器台	-	-	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰色	波状文有り	
第29図20	17A	堅		42	須恵器	坏蓋	(11.2)	-	-	(4.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	不整方向ナデ・回転ナデ						良	灰色	暗灰色		
第29図21	17A	堅		42	須恵器	坏身	(12.1)	受部(4.0)	-	(4.2)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・回転ナデのちナデ						良	灰色	灰色	内面にへう記号	
第29図22	17A	堅		42	須恵器	坏身	(11.0)	-	(4.2)	3.8	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・不整方向ナデ						良	灰白色	灰白色	底面切り離し後未調整	
第29図23	17A	堅		42	須恵器	坏身	-	受部(13.6)	-	(3.6)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	灰色	灰色		
第29図24	17A	堅		42	須恵器	坏身	(11.8)	-	-	(3.5)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	○	○				良	灰白色	灰白色	やや不良	
第29図25	17A	堅		42	須恵器	坏身	-	受部(13.6)	-	(3.7)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・回転ナデのちナデ	○	○				良	灰色	灰色		
第29図26	17B	堅	P1		土師器	坏	(13.2)	-	-	(3.6)	器面荒れの為不明	工具ナデ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第29図27	17B	堅			土師器	坏	(14.2)	-	-	(5.2)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明						良	褐色	褐色		
第29図28	17B	堅			土師器	甕	-	-	-	(4.0)	ナデ・ハケ目?	ナデ・ケズリ	○	○				良	淡黄褐色	淡黄褐色		
第29図29	17B	堅			土師器	甕	-	-	-	(4.6)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		
第29図30	17B	堅			土師器	甕	-	-	-	(4.4)	ハケ目	ケズリ	○	○				良	灰白色	灰白色		
第29図31	17B	堅			土師器	甕	(14.1)	-	-	(4.4)	器面剥落の為不明	ナデ・ケズリ	○	○				良	褐色	褐色	内面スス付着?	
第29図32	17B	堅		43	土師器	高坏脚部	-	-	-	(9.8)	器面剥落の為不明	工具ナデ・ナデ						良	にぶい褐色	にぶい褐色		
第29図33	17B	堅			土師器	小型丸底蓋	-	(11.4)	-	(6.2)	器面摩耗の為不明	指オサエ	○	○				良	褐色	褐色		
第29図34	17B	堅		42	須恵器	坏蓋	-	-	-	(2.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデのちナデ・回転ナデ						良	灰白色	灰色		
第29図35	17B	堅		42	須恵器	坏身	(9.6)	-	-	(3.15)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰褐色	暗灰褐色		
第29図36	17B	堅	P2		須恵器	坏身	(12.1)	-	-	(2.85)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	灰褐色	灰褐色		
第29図37	17B	堅		42	須恵器	坏身	10.6	-	-	4.6	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	灰白色	灰白色	内面に気泡有り	
第29図38	17C	堅			須恵器	坏蓋	(12.2)	-	-	(2.95)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰褐色	灰褐色		
第29図39	17C	堅			土師器	甕	(12.4)	-	-	(3.0)	器面剥落の為不明	ケズリ・器面剥落有り	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい褐色		
第29図40	17	堅		43	土師器	坏	(12.4)	-	(4.0)	3.55	ミガキ?	ミガキ?						良	黄茶色	黄茶色		
第29図41	17	堅		43	須恵器	坏蓋	(13.0)	-	-	(3.6)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ						良	灰白色	灰白色		
第31図1	18A	堅	カマド		土師器	坏	-	-	-	(3.1)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○					良	にぶい黄褐色	灰黄褐色	外面スス付着	
第31図2	18A	堅			土師器	坏	(12.2)	-	-	(3.7)	ナデ・ケズリ	ナデ・工具ナデ						良	灰黄褐色	灰黄褐色		
第31図3	18A	堅			土師器	坏	(16.0)	-	-	(3.8)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○				良	にぶい褐色	にぶい褐色		
第31図4	18A	堅	P4		土師器	坏	(13.2)	-	-	(5.1)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第31図5	18A	堅		43	土師器	坏	(14.2)	-	-	6.2	不明	不明	○	○				良	暗褐色	暗褐色		
第31図6	18A	堅		43	土師器	鉢	10.7	-	5.4	6.1	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	○	○				良	褐色	淡黄色		
第31図7	18A	堅			土師器	坏	-	-	-	(3.9)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○				良	にぶい褐色	褐色		
第31図8	18A	堅	カマド		土師器	甕	-	-	-	(2.6)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第31図9	18A	堅			土師器	甕	-	-	-	(3.8)	ナデ・ハケ目? (器面剥落の為不明瞭)	ナデ・ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい褐色		
第31図10	18A	堅			土師器	甕	-	-	-	(4.2)	ナデ?・ハケ目? (器面剥落の為不明瞭)	ナデ?・ケズリ? (器面剥落の為不明瞭)	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第31図11	18A	堅		43	土師器	甕	-	-	-	(7.6)	ナデ・工具ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第31図12	18A	堅			土師器	甕	(13.8)	-	-	(4.0)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ?・ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい褐色		
第31図13	18A	堅		43	土師器	甕	(12.2)	(17.6)	-	(7.7)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第31図14	18A	堅		43	土師器	壺	8.6	(13.6)	-	13.5	ナデ	ケズリ・ナデ・指オサエ	○	○				良	浅黄褐色	にぶい赤褐色	内面黒斑有り、18B堅出土分と接合	
第31図15	18A	堅		43	土師器	甕	18.2	-	-	(10.9)	ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい褐色		
第31図16	18A	堅		43	土師器	甕	-	-	-	(5.5)	ナデ?(不明瞭											

第6表 出土土器観察表(5)

挿入 番号	遺構 番号 種別	出土 位置等	写真 図版	種別	器種	法量:()は復元径・残存高				調整						胎土		焼 成	色調		備考
						口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	斜 長 石	角 閃 石	石 英	赤 色 粒	白 色 粒	黒 色 粒		砂 粒	内面	
第31図19	18A堅			土師器	甗	(25.0)	-	-	(8.0)	ハケ目・ヨコナデ	ナデ・ケズリ	○	○					良	黄褐色	黄褐色	外面に黒斑有り
第31図20	18A堅		43	土師器	甗	-	-	-	(6.5)	ナデ・ハケ目	ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面に黒斑有り	
第31図21	18A堅		43	土師器	甗or甗	-	-	-	(6.0)	指オサエ・指ナデ	ケズリ	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		
第31図22	18A堅		43	土師器	甗	-	-	(9.0)	(21.5)	ハケ目・指オサエ・指ナデ	ナデ・一部指オサエ・ ナデ・ケズリ	○	○				良	黄褐色	黄褐色	18B堅出土分と接合	
第31図23	18A堅		43	須恵器	杯蓋	(12.4)	-	-	3.9	回転ヘラケズリ・回転ヘラケズリ 後回転ナデ・回転ナデ	弱い回転ナデ						良	灰黄色	灰黄色		
第31図24	18A堅		43	須恵器	杯蓋	(12.7)	-	-	(3.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						良	黄灰色	黄灰色		
第31図25	18A堅		43	須恵器	杯蓋	8.1	-	-	3.4	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						良	黄灰褐色	灰褐色		
第31図26	18A堅	下層	43	須恵器	杯身	-	受部(14.9)	-	(3.9)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	灰色	灰色		
第31図27	18A堅		43	須恵器	高杯	(10.8)	-	-	(4.8)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰茶褐色	暗黄灰褐色		
第31図28	18A堅		44	須恵器	器台or高杯	-	-	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰褐色	灰褐色		
第33図1	18B堅		44	土師器	杯	(16.6)	-	-	5.9	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○				良	褐色	褐色	内外面黒斑有り	
第33図2	18B堅		44	土師器	杯	(14.2)	-	-	6.5	ナデ?(不明瞭)	ナデ?(不明瞭)	○	○				良	褐色	褐色		
第33図3	18B堅		44	土師器	杯	(14.7)	-	-	6.6	ナデ?(不明瞭)	ナデ?(不明瞭)	○	○				良	赤褐色	赤褐色	外面黒斑有り、18A堅出土分と接合	
第33図4	18B堅		44	土師器	杯	(13.3)	-	-	(3.5)	ナデ?	ナデ?	○	○				良	暗褐色	暗赤褐色	外面に黒斑?	
第33図5	18B堅		44	土師器	甗	-	-	-	(5.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				良	褐色	褐色		
第33図6	18B堅		44	土師器	甗	(14.3)	-	-	(6.6)	ナデ・ハケ目	ナデ・工具ナデ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第33図7	18B堅		44	土師器	甗	-	-	-	(9.1)	ナデ	ナデ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	18A堅出土分と接合	
第33図8	18B堅		44	須恵器	甗	-	-	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ						良	褐色	褐色		
第33図9	18B堅		44	須恵器	器台?	-	-	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ						良	黄灰褐色	灰色		
第36図1	19A堅		44	土師器	甗	-	-	-	(4.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				良	淡黄色	にぶい黄褐色		
第36図2	19A堅		45	土師器	甗	-	-	-	(3.1)	ナデ	ナデ	○	○				良	灰黄褐色	灰黄褐色		
第36図3	19A堅		44	土師器	甗	(18.8)	-	-	(4.4)	工具痕?・ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				良	灰黄褐色	灰黄褐色		
第36図4	19A堅		44	土師器	甗	(10.6)	-	-	(3.5)	器面剥落の為不明	ケズリ・器面剥落有り	○	○				良	暗褐色	灰褐色		
第36図5	19A堅		44	土師器	甗	(22.6)	-	-	(5.5)	器面剥落の為不明	ケズリ(工具痕)・器面剥落有り	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		
第36図6	19A堅		44	土師器	甗	-	-	-	(8.4)	ナデ(一部ハケ目?)	ナデ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第36図7	19A堅		44	土師器	甗	-	-	-	(10.5)	指オサエ・指ナデ・ 一部ハケ目残存	内面ケズリ?	○	○				良	黄褐色	黄褐色	外面に黒斑有り	
第36図8	19A堅		44	須恵器	甗	(12.2)	-	-	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ						やや不良	灰白色	灰色	外面に一部ヘラ痕有り	
第36図9	19A堅		44	須恵器	杯身	-	受部(14.2)	-	(3.0)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	灰色	灰色	19C堅出土分と接合	
第36図10	19A堅		44	須恵器	甗?	-	-	-	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ	○	○				良	灰白色	明灰色		
第36図11	19C堅	P2	44	土師器	杯	(10.8)	-	1.6	4.55	ナデ?	ナデ?	○	○				やや不良	黄褐色	褐色		
第36図12	19C堅		44	土師器	杯	(10.6)	-	-	(4.5)	ミガキかナデ	ミガキかナデ	○	○				良	暗褐色	暗褐色		
第36図13	19C堅		44	土師器	甗	-	-	-	(3.3)	器面剥落の為不明(ナデ?)	器面剥落の為不明(ナデ?)	○	○				良	褐色	褐色		
第36図14	19C堅		44	土師器	甗	-	-	-	(3.1)	ナデ	ナデ	○	○				良	灰黄褐色	灰黄褐色		
第36図15	19C堅		44	土師器	甗	-	-	-	(5.1)	ナデ	ナデ・ケズリ(工具ナデ)	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面スス付着	
第36図16	19C堅	カマド	44	土師器	甗	-	-	-	(12.6)	ナデ	ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面に黒斑有り	
第36図17	19C堅		44	須恵器	杯身	-	-	(6.8)	(3.4)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						良	青灰色	灰黒色・灰茶色	25堅出土分と接合	
第36図18	19C堅		44	須恵器	杯身	(13.6)	-	-	(4.9)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	黄灰色	黄灰色	自然釉付着・灰かぶり	
第36図19	19C堅		44	須恵器	高杯	11.5	-	-	(8.6)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰白色	灰白色		
第36図20	19C堅		45	須恵器	高杯	-	-	(9.1)	(4.9)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰色	スカシ1ヶ所残存	
第38図1	20堅		45	土師器	杯	(14.8)	-	-	(4.8)	ハケ目・ナデ?(不明瞭)	ナデ	○	○				良	淡黄褐色	淡黄褐色	内外面黒斑有り	
第38図2	20堅		45	土師器	高杯杯部	(15.4)	-	-	(3.8)	ナデ?(不明瞭)	ナデ?(不明瞭)	○	○				良	褐色	褐色		
第38図3	20堅		45	土師器	甗	(18.8)	-	-	(6.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				良	黒褐色	褐色		
第38図4	20堅		45	土師器	甗	(17.8)	-	-	(14.2)	ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				良	灰黄褐色	淡黄褐色		
第38図5	20堅		45	土師器	甗or甗	-	-	-	(3.5)	ナデ	ケズリ	○	○				良	褐色	褐色		
第38図6	20堅		45	土師器	甗	-	-	-	(9.9)	ナデ(一部ハケ目?)	ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面に黒斑有り	
第38図7	20堅		45	土師器	甗	-	-	-	(11.7)	ナデ・指オサエ・指ナデ	ケズリ	○	○				良	黄褐色	浅黄褐色		
第38図8	20堅		45	須恵器	杯蓋	-	-	-	(2.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデのちナデ						良	灰色	灰色	内面にヘラ記号	
第38図9	20堅		45	須恵器	杯蓋	(12.2)	-	-	4.2	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ						不良	暗黄土色	灰茶色	色調は赤、黄色を帯びるが、 模倣杯ではない	
第38図10	20堅		45	須恵器	杯蓋	(12.5)	-	-	(3.9)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ						良	黄灰褐色	黄灰褐色	口唇内面、尖った工具で調整? 26堅出土分と接合	
第38図11	20堅		45	須恵器	杯身	(12.6)	-	-	(2.25)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰褐色	灰褐色		
第38図12	20堅		45	須恵器	杯身	11.9	-	5.2	4.4	回転ナデその後ナデ・ 回転ヘラケズリ	回転ナデ						良	灰褐色	黄灰色	底面切り離し後未調整	
第38図13	20堅		45	須恵器	甗	(15.6)	-	-	(4.4)	回転ナデ	回転ナデ						良	黄灰褐色	灰黒色	内面一部灰かぶり、外面に沈線有り	
第38図14	20堅		45	須恵器	甗	(26.2)	-	-	(8.7)	回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ・同心円状当具痕後ナデ						良	灰色	灰色		
第38図15	20堅		45	須恵器	甗	-	-	-	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰色	灰色		
第38図16	20堅		45	須恵器	高杯脚部	-	-	-	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰白色	灰白色		
第38図17	20堅		45	須恵器	高杯	-	-	(12.8)	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ						良	灰白色	黄灰褐色	外面に灰かぶり、26堅出土分と接合	
第39図1	21堅		45	土師器	杯	12.3	-	-	5.1	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○				良	淡黄褐色	淡黄褐色	外面黒斑有り	
第39図2	21堅		45	土師器	高杯脚部	-	-	-	(7.3)	工具ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	ケズリ(器面摩耗の為不明瞭)	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色		
第39図3	21堅		45	土師器	高杯脚部	-	-	-	(3.1)	工具ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	器面摩耗の為不明						良	褐色	褐色		
第39図4	21堅		45	土師器	甗	(16.2)	-	-	(4.8)	ナデ?	ナデ?・ケズリ	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		
第39図5	21堅	カマド	45	土師器	甗	-	(26.6)	-	(32.4)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○				良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面黒斑有り	
第39図6	21堅		45	土師器	甗	(14.0)	-	-	(6.9)	器面摩耗の為不明	ケズリ	○	○				良	黒褐色	にぶい褐色		
第39図7	21堅	カマド	45	土師器	甗	20.7	-	-	(13.0)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ?	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		
第39図8	21堅	カマド	45	土師器	甗	-	(27.2)	-	(16.0)	ハケ目・ナデ	ケズリ(器面摩耗の為不明瞭)	○	○				良	淡黄褐色	淡黄褐色		
第40図1	21堅	カマド	46	土師器	甗	15.8	19.6	-	24.3	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○				良	淡黄褐色	淡黄褐色	外面黒斑有り	
第40図2	21堅	カマド	45	土師器	甗	-	(26.4)	-	(24.3)	ナデ	ケズリ・ナデ	○	○				良	淡黄色	淡黄褐色		
第40図3	21堅	カマド	46	土師器	甗	-	(30.8)	-	(29.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○				良	灰黄色	淡黄褐色		
第40図4	21堅	カマド	46	土師器	甗	(18.8)	-	-	(8.2)	ナデ	ナデ	○	○				良	浅黄褐色	浅黄褐色		

第7表 出土土器観察表(6)

挿図 番号	遺構		写真 図版	種別	器種	法量:()は復元径・残存高				調整				胎土				焼成	色調		備考
	番号 種別	出土 位置等				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	斜長石	角閃石	石英	赤色粒	白色粒	黒色粒		砂粒	内面	
第40図5	21	竪	46	土師器	甗	(25.0)	-	-	(18.6)	ハケ目(摩耗の為不明瞭) 指オサエ・指ナデ	ヨコナデ・ケズリ	○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	内外面に黒斑有り、第40図6と同一個体か
第40図6	21	竪	46	土師器	甗	(24.0)	-	-	(23.7)	ヨコナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○					良	黄褐色	黄褐色	内外面に黒斑有り、第40図5と同一個体か
第40図7	21	竪	46		ミニチュア	2.8	-	-	2.4	指オサエ・後ナデ		○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第40図8	21	竪	46	須恵器	蓋	-	-	-	(2.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデのちナデ							良	灰白色	灰白色	
第40図9	21	竪	46	須恵器	坏蓋	13.4	-	-	4.4	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・少し不整方向ナデ							やや不良	明灰色	黄灰褐色	天井部の切り離し後調整が粗い
第40図10	21	竪	46	須恵器	坏身	-	-	-	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ							良	灰褐色	黄灰色	
第40図11	21	竪	46	須恵器	坏身	(12.2)	-	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ							良	灰色	灰色	
第42図1	22A	竪	46	土師器	坏	(10.5)	-	(1.0)	4.45	一部ケズリ	ケズリ?ナデ?	○						やや不良	浅黄白色	浅黄白色	
第42図2	22A	竪	46	土師器	高坏脚部	-	-	-	(5.2)	工具ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	工具痕・ケズリ? (器面摩耗の為不明瞭)	○						良	浅黄褐色	浅黄褐色	
第42図3	22A	竪		土師器	甗	-	-	-	(5.0)	ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第42図4	22	竪	46	土師器	甗	-	-	-	(2.1)	ナデ	ケズリ	○	○					良	黄褐色	黄褐色	多孔(2個残存)・外面に黒斑有り
第42図5	22A	竪		土師器	甗	-	-	-	(6.4)	ナデ	ナデ	○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第43図1	22B	竪	46	土師器	坏	(11.2)	-	(5.0)	(4.1)	ミガキ?ナデ?	ミガキ?ナデ?	○	○					良	暗灰黄色	橙色	
第43図2	22B	竪	46	土師器	高坏脚部	-	-	-	(4.0)	工具ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	工具痕・ケズリ? (器面摩耗の為不明瞭)	○						良	橙色	橙色	
第43図3	22B	竪		土師器	甗	-	-	-	(2.7)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	○						良	黄褐色	黄褐色	
第43図4	22B	竪	カマド	土師器	甗	(17.0)	(19.4)	-	(18.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ・ヘラ痕	○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第45図1	22C	竪	46	土師器	坏	10.8	-	1.1	5.5	ナデ	ナデ	○	○					やや不良	淡赤褐色	淡赤褐色	外面は全体にミガキと思われるが不明瞭
第45図2	22C	竪		土師器	甗	-	-	-	(6.3)	ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○					良	にぶい黄褐色	橙色	
第45図3	22C	竪		土師器	甗	-	-	-	(5.8)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○					良	明赤褐色	明赤褐色	
第45図4	22C	竪	カマド	土師器	甗or甗	-	-	-	(4.6)	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ	○	○					良	不明	明赤褐色	
第47図1	22	竪		土師器	坏	-	-	-	(4.3)	ミガキ・ケズリ	ミガキ	○	○					良	褐灰色	褐灰色	
第47図2	22	竪		土師器	坏	-	-	-	(4.1)	ナデ?・ハケ目	ナデ?	○	○					良	褐色	褐色	
第47図3	22	竪		土師器	坏	-	-	-	(6.9)	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	○	○					良	褐灰色	褐灰色	
第47図4	22	竪		土師器	坏	(14.4)	-	-	(5.7)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○	○					良	褐色	褐色	
第47図5	22	竪	46	土師器	坏	(11.0)	-	-	(3.6)	ナデ?ミガキ?	ナデ?ミガキ?	○						良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第47図6	22	竪	46	土師器	坏	(12.6)	-	(3.8)	4.25	ミガキ?ナデ?	ミガキ?ナデ?	○	○					やや不良	淡褐色	淡褐色	
第47図7	22	竪		土師器	坏	(15.4)	-	-	4.3	ナデ・ハケ目?	ナデ	○	○					良	褐色	褐色	外面へラ記号
第47図8	22	竪	46	土師器	甗	(15.3)	-	-	(7.9)	ナデ・ハケ目	ナデ・指ナデ・ケズリ	○	○					良	灰黄褐色	淡赤褐色	
第47図9	22	竪		土師器	甗	(15.9)	-	-	(8.4)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○					良	黄褐色	黄褐色	
第47図10	22	竪	46	土師器	甗	(21.8)	-	-	(6.7)	ハケ目?(不明瞭)	ケズリ	○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい褐色	
第47図11	22	竪		土師器	甗	-	-	-	(4.7)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○					良	浅黄褐色	黄褐色	
第47図12	22	竪	47	土師器	甗	-	-	-	(11.6)	指オサエ・指ナデ・ハケ目後ナデ	ナデ	○	○					良	にぶい黄褐色	黄褐色	22A竪出土分と接合
第47図13	22	竪		土師器	甗or甗	-	-	-	(6.3)	指オサエ・指ナデ	ケズリ	○	○					良	浅黄褐色	浅黄褐色	
第47図14	22	竪	47	土師器	甗	(25.2)	-	-	(18.1)	ナデ・横方向のナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい黄色	外面に黒斑有り
第47図15	22	竪	47	土師器	甗	-	-	-	(0.9)	ナデ	指オサエ	○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	多孔(2個残存)・外面に黒斑有り
第47図16	22	竪		土師器	甗	-	-	-	(1.2)	ナデ?(摩耗の為不明瞭)	ケズリ	○	○					良	褐色	褐色	多孔(2個残存)・第47図17と同一個体
第47図17	22	竪		土師器	甗	-	-	-	(1.15)	ナデ?	ケズリ	○	○					良	褐色	褐色	多孔(2個残存)・第47図16と同一個体
第47図18	22	竪		須恵器	瓶	-	-	-	(5.0)	タタキのちカキ目	タタキのちナデ							良	灰色	灰褐色	当て具痕有り
第47図19	22	竪	47	須恵器	器台?	-	(3.3)	-	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ							良	暗灰色	暗灰色	波状文
第47図20	22	竪	47	須恵器	器台	-	-	-	(9.9)	回転ナデ	回転ナデ							良	オリープ灰色	灰色	内面に自然釉、外面に波状文有り
第49図1	23A	竪		土師器	坏	-	-	-	(3.7)	器面摩耗の為不明	ナデ?	○						良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第49図2	23A	竪		土師器	坏	-	-	-	(4.1)	器面摩耗の為不明瞭(ナデ?)	器面摩耗の為不明瞭(ナデ?)	○						良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第49図3	23A	竪	47	土師器	坏	(11.8)	-	-	(5.4)	ナデ	ナデ	○	○					良	褐色	褐色	外面黒斑有り
第49図4	23A	竪		土師器	坏	(15.1)	-	-	(4.3)	ナデ	ナデ	○	○					良	褐色	褐色	
第49図5	23A	竪	47	土師器	坏	12.8	-	1.9	4.6	ナデミガキ・ケズリ一部ミガキ	ミガキ	○	○					良	橙茶色	暗褐色	口唇部付近、一部ナデ、内面黒色処理
第49図6	23AB	竪	47	土師器	坏	12.7	-	-	5.0	ナデ	ナデ・ミガキ	○	○					良	褐色	褐色	外面黒斑有り
第49図7	23A	竪	47	土師器	坏	13.3	-	-	5.3	ナデ・指オサエ	ナデ	○	○					良	褐色	褐色	
第49図8	23A	竪	47	土師器	坏	(15.6)	-	-	(4.4)	器面荒れの為不明	器面荒れの為不明	○	○					良	褐色	褐色	
第49図9	23A	竪	47	土師器	坏	-	-	-	(3.9)	ナデ?(不明瞭)	ナデ?(不明瞭)	○	○					良	淡褐色	淡褐色	傾き不確定
第49図10	23A	竪	47	土師器	坏	(14.2)	-	-	(6.0)	器面荒れの為不明	器面荒れの為不明	○	○					良	褐色	褐色	
第49図11	23A	竪	47	土師器	坏	(14.6)	-	-	6.7	ナデ?(不明瞭)	ナデ?(不明瞭)	○	○					良	褐色	褐色	23B竪出土分と接合
第49図12	23A	竪		土師器	坏	(13.6)	-	-	(5.1)	ナデ・ハケ目	工具ナデ	○	○					良	淡褐色	淡褐色	
第49図13	23A	竪		土師器	ミニチュア	-	-	-	(2.8)	ナデ・指オサエ	指オサエ	○	○					良	にぶい褐色	にぶい褐色	傾き不確定
第49図14	23A	竪	47	土師器	高坏	8.3	-	7.9	8.1	ハケ目・ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	○	○					良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第49図15	23A	竪	47	土師器	高坏坏部	(20.0)	-	-	(6.4)	ナデ・ハケ目	ナデ・器面剥落有り	○	○					良	褐色	褐色	第49図19と同一個体か?
第49図16	23A	竪	47	土師器	高坏脚部	-	-	-	(5.9)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○	○					良	褐色	褐色	
第49図17	23A	竪	47	土師器	高坏脚部	-	-	(12.0)	(6.3)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明	○	○					良	褐色	褐色	
第49図18	23A	竪		土師器	高坏脚部	-	-	(9.0)	(2.5)	ナデ	ケズリ・ナデ	○	○					良	褐色	褐色	
第49図19	23A	竪	47	土師器	高坏脚部	-	-	15.6	(7.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ハケ目	○	○					良	褐色	褐色	第49図15と同一個体か?
第50図1	23A	竪	48	土師器	甗	-	-	-	(5.2)	ナデ・ハケ目	ナデ・工具ナデ(工具痕)	○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第50図2	23A	竪		土師器	甗	-	-	-	(4.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○	○					良	黄褐色	黄褐色	
第50図3	23A	竪	48	土師器	甗	-	-	-	(5.0)	ナデ・ハケ目	ナデ(ハケ目)・ナデ・ケズリ	○	○					良	灰黄褐色	灰黄褐色	
第50図4	23A	竪	48	土師器	甗	(17.6)	-	-	(9.0)	ナデ	ナデ・ケズリ・指オサエ	○	○					良	淡黄褐色	淡黄褐色	外面黒斑有り
第50図5	23A	竪	48	土師器	甗	18.1	-	-	(10.0)	ナデ	ナデ・指オサエ・ケズリ	○	○					良	赤褐色	赤褐色	外面環状にスス付着
第50図6	23A	竪	48	土師器	鉢	(21.0)	(20.8)	-	(10.0)	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○	○					良	黄褐色	黄褐色	
第50図7	23A	竪	48	土師器	甗	(17.3)	-	-	(10.8)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ・ケズリ	○	○					良	淡黄褐色	灰黄褐色	外面黒斑有り
第50図8	23A	竪		土師器	甗	-	-	-	(5.2)	ナデ・ハケ目	ナデ(工具ナデ)・ケズリ	○	○					良	灰褐色	淡黄褐色	外面黒斑有り

第8表 出土土器観察表(7)

挿入 番号	遺構 番号 種別	出土 位置等	写真 図版	種別	器種	法量:()は復元径・残存高				調整		胎土						焼成	色調		備考	
						口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	斜長石	角閃石	石英	雲母	赤色粒	白色粒		黒色粒	砂粒		内面
第50図11	23A	竪		48	土師器	甔	14.6	-	2.5	13.0	ナデ・ハケ目・指オサエ	ナデ・ケズリ・指オサエ	○						良	淡黄褐色	淡黄褐色	内外面黒斑有り
第50図12	23A	竪		48	土師器	甔	-	-	-	(9.3)	ナデ(摩耗の為不明瞭)	ケズリ	○						良	黒色	橙色	多孔(3個残存)・内外面に黒斑有り
第50図13	23	竪		48	土師器	甔	-	-	-	(6.7)	ナデ	ナデ	○						良	にぶい黄褐色	橙色	
第50図14	23A	竪		48	土師器	甔	-	-	-	(5.8)	ナデ(工具痕あり)	ケズリ	○						良	黒褐色	灰黄色	
第50図15	23A	竪		48	土師器	甔	-	-	-	(12.5)	平行タタキ	同心円状タタキ	○						良	浅黄褐色	橙色	模倣裏、23B竪出土分と接合
第50図16	23A	竪		48	須恵器	高坏蓋	-	-	-	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ							良	灰褐色	灰褐色	一部、軸
第50図17	23A	竪		48	須恵器	高坏	-	-	-	(6.45)	回転ナデ	回転ナデ							良	暗灰色	灰黒色	内面に自然軸
第50図18	23A	竪		49	須恵器	坏身	(12.6)	-	-	(4.6)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ							良	明灰色	明灰色	
第50図19	23A	竪		49	須恵器	甔	(21.4)	-	-	(7.2)	回転ナデ	回転ナデ・ナデ	○						良	灰色	灰色	
第52図1	23B	竪			土師器	坏	-	-	-	(4.0)	ミガキ?(器面剥落の為不明瞭)	ナデ?	○						良	橙色	橙色	内面暗文
第52図2	23B	竪	カマド		土師器	坏	-	-	-	6.1	ナデ・ケズリ	ナデ	○						良	橙色	橙色	
第52図3	23B	竪	カマド		土師器	坏	(15.4)	-	-	(4.7)	ナデ・ケズリ	ナデ・工具ナデ	○						良	橙色	橙色	
第52図4	23B	竪		49	土師器	坏	14.4	-	-	5.5	ナデ・ケズリ	ナデ	○						良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第52図5	23B	竪	カマド		土師器	坏	(14.8)	-	-	(5.9)	ナデ?・ハケ目	ナデ	○						良	橙色	橙色	
第52図6	23B	竪		49	土師器	坏	13.8	-	-	(5.0)	ナデ・ケズリ? (器面摩耗の為不明瞭)	ナデ	○						良	橙色	橙色	
第52図7	23B	竪	P4	49	土師器	坏	(15.4)	-	-	7.5	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○						良	淡褐色	橙色	
第52図8	23B	竪	カマド	49	土師器	坏	13.7	-	-	5.8	ナデ・タタキ	ナデ	○						良	橙色	橙色	外面黒斑有り
第52図9	23B	竪	カマド	49	土師器	坏	(14.0)	-	-	7.4	ナデ・ハケ目	ナデ	○						良	橙色	橙色	
第52図10	23B	竪		49	土師器	坏	(15.4)	-	-	6.8	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明	○						良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第52図11	23B	竪	カマド	49	土師器	坏	(14.4)	-	-	(5.9)	ナデ・ケズリ	ナデ	○						良	黄褐色	黄褐色	
第52図12	23B	竪	カマド	49	土師器	坏	(13.6)	-	-	5.6	ナデ・ハケ目	ナデ	○						良	橙色	橙色	
第52図13	23B	竪			土師器	坏	-	-	-	(1.8)	ナデ?・回転ヘラ切り?	器面剥落の為不明	○						良	浅黄褐色	浅黄褐色	外面黒斑有り
第52図14	23B	竪			土師器	甔	(17.7)	-	-	(5.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○						良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第52図15	23B	竪			土師器	甔	(22.6)	-	-	(4.6)	ナデ?・器面剥落有り	ナデ?・ケズリ	○						良	浅黄褐色	浅黄褐色	
第52図16	23B	竪		49	土師器	甔	14.3	-	-	(6.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○						良	灰黄褐色	淡黄褐色	内面スス付着
第52図17	23B	竪		49	土師器	甔	(22.0)	-	-	(7.3)	ナデ	ナデ・ケズリ	○						良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第52図18	23B	竪	カマド	49	土師器	甔	(16.5)	(20.6)	-	(12.0)	ナデ・工具ナデ	ナデ・ケズリ	○						良	灰黄褐色	にぶい黄褐色	
第52図19	23B	竪	カマド		土師器	甔	-	(25.1)	-	(21.2)	ナデ	ケズリ	○						良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第52図20	23B	竪	カマド		土師器	甔	-	-	-	(25.2)	ヨコナデ・タテ方向のナデ・ナデ	ケズリ	○						良	橙色	橙色	傾き不確実
第52図21	23B	竪			土師器	甔	-	-	-	(3.0)	ナデ	ナデ	○						良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	脚?
第52図22	23B	竪	カマド		土師器	甔	-	-	-	(13.9)	ナデ・指オサエ	ケズリ	○						良	にぶい赤褐色	橙色	傾き不確実・7mmほどの礫
第52図23	23B	竪		49	須恵器	甔	(10.4)	-	-	(3.55)	回転ナデ	回転ナデ							良	灰黄褐色	灰白色	自然軸、波状文
第52図24	23B	竪		49	須恵器	甔	(22.8)	-	-	(7.2)	回転ナデ	回転ナデ	○						不良	浅黄色	黄灰色	20竪出土分と接合
第52図25	23B	竪		49	須恵器	甔	(23.2)	-	-	(8.3)	回転ナデ・平行タタキ	回転ナデ							良	褐色	灰色	内面に当て具痕有り、 外面に波状文有り
第52図26	23B	竪		49	須恵器	甔	(20.0)	-	-	(6.15)	回転ナデ	回転ナデ	○						良	暗灰色	暗灰色	波状文
第52図27	23B	竪		49	須恵器	高坏脚部	-	-	-	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ							やや不良	灰色	灰色	外面波状文?
第54図1	23C	竪			土師器	坏	(11.0)	-	(3.0)	4.3	ナデ?	ナデ?	○						やや不良	淡褐色	淡褐色	
第54図2	23C	竪		49	土師器	甔	-	-	-	(7.0)	ナデ	ナデ?(不明瞭)・工具ナデ	○						良	浅黄褐色	浅黄褐色	
第54図3	23C	竪		49	土師器	甔	(20.2)	-	-	(5.7)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ・ケズリ	○						良	にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	
第54図4	23C	竪		50	土師器	甔	(12.4)	-	-	(9.5)	ナデ	ナデ・ケズリ	○						良	橙色	黄褐色	内面スス付着
第54図5	23C	竪	カマド	50	土師器	甔	(18.8)	-	-	(7.2)	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ・ケズリ	○						良	にぶい褐色	橙色	
第54図6	23C	竪		50	土師器	甔	(20.6)	-	-	(7.5)	ナデ・ハケ目	ナデ(ハケ目)・ケズリ	○						良	にぶい黄褐色	橙色	
第54図7	23C	竪		50	土師器	甔	(13.4)	-	-	(9.7)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ	○						良	褐色	淡褐色	
第54図8	23C	竪		50	土師器	甔	(22.2)	-	-	(8.6)	ナデ	ナデ・ケズリ	○						良	淡黄褐色	淡黄褐色	23A竪出土分と接合
第54図9	23C	竪		50	土師器	甔	-	-	-	(25.2)	ハケ目・ナデ	ケズリ(器面荒れの為不明瞭)・ナデ・指オサエ	○						良	浅黄褐色	にぶい黄褐色	
第54図10	23C	竪			土師器	甔	-	-	-	(5.7)	ナデ	ナデ	○						良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第54図11	23C	竪		50	土師器	甔	-	-	-	(8.7)	ナデ	ケズリ	○						良	浅黄褐色	浅黄褐色	
第54図12	23C	竪			須恵器	坏蓋	(15.6)	-	-	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ	○						良	明灰色	黄灰褐色	
第54図13	23C	竪	カマド	50	須恵器	坏身	10.2	-	7.4	3.4	回転ナデ	回転ナデ	○						やや不良	灰白色	灰白色	底面切り離し後未調整
第55図1	23	竪		50	土師器	坏	(14.9)	-	-	(4.1)	ナデ?	ミガキ	○						良	暗茶褐色	暗褐色	外面に黒色処理? 20竪、23AB竪出土分と接合
第55図2	23	竪			土師器	坏	(14.2)	-	-	(5.3)	ナデ・ハケ目	ナデ・指ナデ	○						良	褐色	褐色	
第55図3	23	竪	カマド		土師器	坏	(14.2)	-	-	6.1	ナデ・ケズリ	ナデ・工具痕	○						良	褐色	褐色	
第55図4	23	竪			土師器	甔	-	-	-	(9.9)	ハケ目後ナデ	ケズリ	○						良	灰黄褐色	にぶい褐色	外面黒斑有り・多孔(2個残存)
第55図5	23	竪			土師器	甔	-	-	-	(5.9)	ナデ・ハケ目	ナデ	○						良	褐色	にぶい赤褐色	外面に黒斑有り
第55図6	23	竪		50	土師器	甔	-	-	-	(5.0)	ナデ	ナデ	○						良	褐色	にぶい黄褐色	外面に黒斑有り
第55図7	23C	竪		50	須恵器	蓋	-	-	-	(2.7)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・回転ナデのちナデ							良	灰褐色	灰色	内面にヘラ記号
第55図8	23C	竪		50	須恵器	坏身	13.6	-	(3.9)	(4.1)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・不整方向ナデ							良	灰黒色	灰黒色	23B竪出土分と接合
第55図9	23	竪		50	須恵器	甔	-	(45.5)	-	(37.5)	平行タタキ・カキ目	同心円状状で具痕・ナデ	○						やや不良	灰褐色	灰色	
第56図1	24A	竪		50	土師器	坏	13.6	-	-	4.9	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ミガキ	○						良	褐色	褐色	外面黒斑有り
第56図2	24A	竪		50	土師器	坏	14.0	-	-	4.5	ナデ・ミガキ・ケズリ	ナデ・ミガキ	○						良	褐色	褐色	
第56図3	24A	竪		50	須恵器	坏身	(13.0)	-	5.4	4.5	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ							良	灰褐色	灰黒色	内面が渦巻状、底面切り離し後未調整
第56図4	24A	竪		50	須恵器	甔	(10.0)	-	-	(3.35)	回転ナデ	回転ナデ	○						良	黄灰褐色	灰白色	自然軸、波状文
第56図5	24A	竪		51	須恵器	甔	-	(9.1)	-	(8.6)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ							良	灰色(やや赤味)	赤灰褐色	穿孔半分以上欠損
第56図6	24A	竪		51	土師器	甔	(17.6)	-	-	(11.8)	ナデ・ハケ目(不明瞭)	ナデ・ケズリ?(不明瞭)	○						良	黄灰色	淡黄褐色	
第56図7	24A	竪		51	土師器	甔	(21.6)	-	-	(7.4)	ナデ	ナデ・ケズリ	○						良	暗黄褐色	褐色	
第56図8	24A	竪		51	土師器	甔	(23.0)	(27.7)	-	(20.1)	ナデ	ナデ・ケズリ	○									

第9表 出土土器観察表(8)

挿図 番号	遺構 番号 種別 出土 位置等	写真 図版	種別	器種	法量:()は復元径・残存高				調整		胎土					焼成	色調		備考		
					口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	斜長石	角閃石	石英	赤色粒	白色粒		黒色粒	砂粒		内面	外面
第57図3	24B堅		51	土師器	椀	(14.0)	-	-	6.8	ナデ?・工具ナデ?(不明瞭)	ナデ?(不明瞭)							良	淡黄褐色	淡黄褐色	外面黒斑有り
第57図4	24B堅		51	土師器	杯	(13.6)	-	-	3.9	器面摩耗の為不明	器面摩耗の為不明							良	にぶい黄褐色	橙色	
第57図5	24B堅		51	土師器	鉢	-	-	-	(8.5)	ナデ・ケズリ・ヘラ痕有り	ケズリ							良	橙色	褐色	ゆがみ大
第57図6	24B堅		51	土師器	高坏・脚部	-	-	-	(8.2)	工具ナデ(器面摩耗の為不明瞭)	器面摩耗の為不明							良	褐色	褐色	
第57図7	24B堅		51	須恵器	坏蓋	14.8	-	-	4.45	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・不整方向ナデ							やや不良	黄灰白色	灰白色	口縁内面、先端の尖った工具で調整?
第57図8	24B堅			須恵器	坏身	(11.8)	-	-	(4.4)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ・不整方向ナデ							良	暗灰色	灰黒色	
第57図9	24B堅			須恵器	坏身	受部(15.1)	-	-	(3.8)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ							良	暗灰白色	暗灰白色	
第57図10	24B堅	カマド	51	土師器	甕	19.7	26.0	-	30.9	ナデ	ナデ・ケズリ							良	黄褐色	黄褐色	
第57図11	24B堅		51	土師器	甕	18.9	27.3	-	36.6	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ・指オサエ							良	灰黄色	淡黄褐色	外面黒斑有り
第58図1	24堅			土師器	坏	(12.4)	-	-	(5.0)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明							良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第58図2	24堅		51	土師器	坏	(13.0)	-	-	5.3	ミガキ	ミガキ							良	淡褐色	褐色	外面黒斑有り
第58図3	24堅		51	土師器	甕	(12.8)	(13.0)	-	(6.0)	ナデ(器面剥落の為不明瞭)	ナデ(器面剥落の為不明瞭)・ケズリ							良	にぶい黄褐色	にぶい褐色	
第58図4	24堅			土師器	甕	-	-	-	(3.0)	ナデ?	ケズリ・指オサエ							良	褐色	にぶい黄褐色	傾き不確実
第58図5	24堅		51	土師器	高坏	(15.6)	-	-	14.1	ナデ?・ケズリ (器面摩耗の為不明瞭)	ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)							良	褐色	褐色	
第58図6	24堅			土師器	高坏	-	-	-	(5.7)	ナデ?	ナデ?							良	黄褐色	黄褐色	内面黒斑有り
第58図7	24堅			土師器	高坏・脚部	-	-	(8.2)	(4.2)	器面摩耗の為不明	ナデ							良	褐色	褐色	
第58図8	24堅		51	土師器	甕or甗	-	-	-	(6.0)	ナデ	ケズリ							良	浅黄褐色	浅黄褐色	
第58図9	24堅		52	土師器	甕or甗	-	-	-	(6.3)	ナデ	ケズリ							良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第58図10	24堅		52	土師器	甗	-	-	-	(8.1)	ナデ	ケズリ							良	灰黄色	にぶい黄褐色	外面に黒斑有り
第58図11	24堅		52	土師器	甗	-	-	-	(7.9)	ナデ	ナデ							良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第58図12	24堅		52	須恵器	坏蓋	(13.6)	-	-	4.8	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ							良	暗黄灰褐色	暗黄灰褐色	天井部の切り離し後、未調整、灰かぶり
第58図13	24堅		52	須恵器	坏蓋	(12.8)	-	-	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ							良	暗灰色	暗灰色	
第58図14	24堅		52	須恵器	坏身	(12.6)	受部(15.2)	-	(3.3)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ							良	灰色	灰色	
第58図15	24堅		52	須恵器	壺	-	-	-	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ							良	灰色	灰色	外面に波状文有り
第58図16	24堅		52	須恵器	器台	-	-	-	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ							良	灰色	青灰色	外面に波状文有り
第60図1	25堅		52	土師器	坏	(14.2)	-	-	(4.8)	器面摩耗の為不明瞭(ケズリ?)	ナデ							良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第60図2	25堅		52	土師器	甕	(12.5)	-	-	(4.7)	ナデ	ナデ・ケズリ							良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第60図3	25堅			土師器	壺	(11.2)	(17.0)	-	(11.6)	ナデ	ナデ・ケズリ							良	暗褐色	褐色	
第60図4	25堅		52	土師器	高坏・脚部	-	-	(11.9)	(8.4)	ケズリ・ハケ目・ナデ (器面摩耗の為不明瞭)	ケズリ?・ナデ (器面摩耗の為不明瞭)							良	褐色	黄褐色	外面黒斑有り
第60図5	25堅			土師器	甕	(13.8)	-	-	(7.2)	ナデ・ハケ目? (器面摩耗の為不明瞭)	ナデ・ケズリ							良	灰褐色	黄褐色	
第60図6	25堅		52	土師器	甕	(15.0)	-	-	(7.8)	ハケ目・ナデ	ナデ・ケズリ							良	黄褐色	褐色	
第60図7	25堅			土師器	甕	-	-	-	(4.0)	ナデ?	ナデ?							良	褐色	褐色	多孔
第60図8	25堅		52	土師器	甕	(14.4)	(18.4)	-	(13.5)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ							良	黄褐色	黄褐色	
第60図9	25堅			土師器	甕	(16.2)	(17.6)	-	(8.0)	ハケ目・ナデ	ケズリ・器面剥落有り							良	黒褐色	褐色	
第60図10	25堅		52	土師器	甗	(24.2)	-	-	(13.6)	ヨコナデ・ナデ	ナデ・ケズリ							良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面に黒斑有り
第60図11	25堅		52	土師器	甕	-	-	-	(11.9)	ハケ目後ナデ	ナデ							良	褐色	褐色	
第61図1	26堅		52	土師器	甕	-	-	-	(5.3)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明							良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第61図2	26堅			土師器	甕	-	-	-	(5.6)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明							良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面黒斑有り
第61図3	26堅	カマド	52	土師器	高坏・脚部	-	-	9.8	(5.2)	工具ナデ・ナデ?	ケズリ・ナデ?							良	褐色	褐色	
第61図4	26堅		52	土師器	甕	(20.4)	-	-	(11.8)	ナデ・工具ナデ	ナデ・ケズリ							良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	
第61図5	26堅		53	須恵器	甕	(19.2)	-	-	(4.6)	回転ナデ	回転ナデ							良	黄灰色	黄灰色	
第63図1	27堅			土師器	甕	-	-	-	(7.2)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明							良	黄褐色	黄褐色	
第63図2	27堅		53	土師器	甕	(14.4)	(15.8)	-	(11.9)	ナデ	ナデ・ケズリ							良	灰黄褐色	淡黄褐色	
第63図3	27堅		53	土師器	甕	(13.4)	-	-	(3.7)	ナデ	ナデ・ケズリ							良	灰褐色	暗褐色	内面スス付着
第63図4	27堅			土師器	甕	(20.0)	-	-	(7.5)	ナデ	ナデ・ケズリ							良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第63図5	27堅			土師器	甕	(21.0)	-	-	(7.8)	ナデ	ナデ・ケズリ							良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第63図6	27堅		53	土師器	甕	(16.9)	(17.8)	-	(9.5)	器面剥落の為不明(一部ハケ目残存)	器面剥落の為不明(一部ハケ目残存)							良	浅黄褐色	浅黄褐色	
第63図7	27堅		53	土師器	甕	(21.0)	-	-	(10.2)	ナデ	ナデ・ケズリ							良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第63図8	27堅		53	土師器	甕	-	-	-	(17.3)	ハケ目	ケズリ							良	淡黄褐色	淡黄褐色	外面スス付着、26堅出土分と接合
第63図9	27堅		53	土師器	甗	(19.6)	-	(6.4)	21.3	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ							良	淡黄褐色	淡黄褐色	把手有り
第63図10	27堅		53	土師器	甕or甗	-	-	-	(7.0)	指オサエ・ナデ								良	黄褐色	浅黄褐色	
第63図11	27堅	P1	53	須恵器	甗	-	-	-	(4.6)	回転ナデ	回転ナデ							良	黄灰褐色	灰白色	内面一部灰かぶり 23C堅出土分と接合
第63図12	27堅		53	須恵器	横瓶	-	-	-	(20.4)	タタキ後カキ目	ナデ・回転ナデ							良	灰色	灰色	外面にヘラ記号?、内面に一部 当て具痕有り、24B堅出土分と接合
第63図13	27堅		53	須恵器	甕	(23.2)	(45.2)	-	(31.7)	タタキ後カキ目	同心円状タタキ							良	灰色	灰色	
第63図14	27堅		53	須恵器	甕	-	-	-	(12.8)	タタキ後カキ目	同心円状タタキ							良	灰色	灰色	第63図13~15同一個体か?
第63図15	27堅			須恵器	甕	-	-	-	(5.2)	タタキ	同心円状タタキ							良	灰色	褐色	
第64図1	4掘	P3		土師器	小型甕	-	-	-	(2.3)	ナデ	ナデ・ケズリ?(摩耗で不明)							良	赤褐色	赤褐色	
第64図2	4掘	P3		土師器	坏	-	-	-	(3.7)	ナデ?	ナデ?							良	淡赤色	暗赤色	
第64図3	4掘	P3		土師器	坏	-	-	-	(2.5)	恐らくミガキ(不明瞭)	ミガキ							良	黒茶色	黒茶色	黒色処理を施しているか?
第64図4	4掘	P8		土師器	坏	-	-	-	(2.8)	ナデ?(摩耗)部分的に鉄が付着	ナデ?(摩耗)部分的に鉄が付着							良	暗赤茶色	暗赤茶色	傾き不確実、部分的に鉄が付着
第64図5	5掘	P3		土師器	坏?	-	-	-	(1.4)	一部タタキ	ナデ?(摩耗で不明)							良	暗黄褐色	暗赤褐色	
第69図1	1土			土師器	坏	(13.0)	-	-	(5.4)	ハケ目・ナデ?(器面摩耗の為不明瞭)	器面摩耗の為不明							良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第69図2	2土			土師器	坏	-	-	-	(3.4)	ミガキ	ミガキ							良	暗茶色	暗茶色	
第69図3	2土			土師器	坏	-	-	-	(3.0)	ナデ後一部ミガキ	ミガキ							良	にぶい褐色	にぶい褐色	傾き不確実
第69図4	2土			土師器	甕	-	-	-	(4.3)	ナデ	ナデ・ケズリ							良	浅黄褐色	浅黄褐色	
第69図5	2土		53	須恵器	坏身	-	-	-	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ							良	灰色	灰色	
第69図6	3土			土師器	高坏	-	-	-	(2.4)	ハケ・ナデ								良	褐色	褐色	
第69図7	7土			土師器	坏	-	-	-	(3.4)	ハケorミガキ	ハケ・ハケorミガキ							やや不良	赤褐色	赤褐色	

第10表 出土土器観察表(9)

挿図番号	遺構		写真図版	種別	器種	法量:()は復元径・残存高				調整		胎土						焼成	色調		備考
	番号種別	出土位置等				口径	胴部径	底径	器高	外面	内面	斜長石	石英	赤色粒	白色粒	黒色粒	砂粒		内面	外面	
第69図8	7土			土師器	甕	-	-	-	(6.6)	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・指オサエ・ケズリ	○	○					良	浅黄褐色	浅黄褐色	胎土に黒曜石混入
第69図9	7土			土師器	甕	-	-	-	(6.2)	丁寧なナデ	ナデ・ケズリ?不明瞭	○	○					良	にぶい褐色	にぶい褐色	
第69図10	7土			土師器	甕	(13.4)	-	-	(3.5)	ナデ・表面摩擦のため調整不明瞭	ナデ・ハケ目	○	○					良	赤褐色~黒褐色	赤褐色	
第69図11	7土			土師器	甕	(11.9)	-	-	(5.0)	ナデ・表面摩擦のため調整不明瞭	ナデ・ハケ目	○	○					良	黒褐色	赤褐色	
第69図12	8土		54	土師器	坏	15.2	-	-	5.2	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○					良	褐色	褐色	
第69図13	8土			土師器	甕?	-	-	-	(3.1)	?	ケズリ?工具でナデ?	○	○				○	やや不良	暗赤茶色	暗赤色	
第69図14	8土			土師器	甕	-	-	-	(5.8)	ナデ・ハケ目か?	ナデ・ケズリ	○	○					良	赤褐色	赤褐色	
第69図15	9土			土師器	坏	(12.7)	-	-	(5.4)	器面剥落の為不明	器面剥落の為不明		○	○				良	にぶい褐色	にぶい黄褐色	
第69図16	9土			土師器	高坏	-	-	(16.2)		ナデ	ナデ	○	○	○				良	浅黄色	暗褐色	傾き不確実, 10土出土分と接合
第69図17	10土		54	土師器	坏	(14.9)	-	-	4.9	ハケ目・器面剥落有り	ナデ・器面剥落有り	○	○					良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	外面黒斑有り
第69図18	10土		54	土師器	坏	12.2	-	-	5.6	ナデ・ミガキ	ナデ・工具ナデ	○	○					良	褐色	褐色	
第69図19	11土			土師器	坏?	-	-	-	(2.1)	ナデ	ナデ	○	○					良	灰黄褐色	にぶい黄褐色	傾き不確実
第69図20	E8	P6	54	土師器	坏	(14.0)	-	-	5.8	ナデ・ケズリ	工具ナデ	○	○					良	褐色	褐色	外面黒斑有り
第69図21	E4	P3	54	土師器	高坏脚部	-	-	-	(7.5)	工具ナデ(器面摩擦の為不明瞭)	しぼり痕(器面摩擦の為不明瞭)		○					良	褐色	褐色	外面自然釉, 付着物有り 灰かぶり
第69図22	C2	P5	54	土師器	高坏脚部	-	-	-	(4.8)	工具ナデ	ナデ	○	○					良	褐色	明赤褐色	
第69図23	D2	P7	54	須恵器	ハソウ	-	(9.6)	-	(4.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		○					良	灰白色	灰色灰褐色	
第69図24	C7	P1・P2	54	須恵器	坏蓋	-	受部(11.7)	-	(2.8)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ		○					良	灰色	暗灰色	
第69図25	D7	P1	54	須恵器	高坏	-	-	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ		○					良	黄灰褐色	黄灰褐色	
第69図26	F3	P1	54	須恵器	坏身	-	-	-	(3.9)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ				○	○		良	灰黒色(底面)・灰白色	灰黒色(底面)・灰白色	内面に自然釉, 外面に波状文・沈線有り
第69図27	E6	P2	54	須恵器	器台	-	-	-	(9.1)	ナデ	回転ナデ					○		良	オリーブ灰色	灰色	
第69図28	F8	P1	54	土師質土器	坏	12.3	-	6.7	3.5	回転ナデ・回転糸切り・板状圧痕(器面摩擦の為不明瞭)	回転ナデ(器面摩擦の為不明瞭)	○	○					良	淡黄褐色	淡黄褐色	内面スス付着
第69図29	F8	P1	54	土師質土器	皿	8.0	-	6.0	1.0	回転ナデ・回転ヘラ切り・板状圧痕	回転ナデ		○	○				良	黄褐色	黄褐色	
第69図30	E8	P3	54	青磁	碗	-	-	-	(3.9)									-	緑灰色	緑灰色	13C初~前期
第69図31	E8	P4	54	青磁	碗	-	-	5.4	1.6									-	淡緑色	淡緑色	越州窯, 外面路胎
第69図32	E8			土師器	坏	-	-	-	(3.2)	工具ナデ?(不明瞭)	ナデ	○	○					良	褐色	褐色	内面黒斑有り
第69図33	E8			土師器	坏	-	-	-	(3.8)	ナデ・器面剥落有り	ナデ・器面剥落有り	○	○					良	褐色	褐色	
第69図34	E8			土師器	坏	(15.6)	-	-	5.4	ナデ・ケズリ	丁寧なナデ		○	○				良	褐色	褐色	
第69図35	E8			土師器	甕	-	-	-	(3.1)	ナデ	摩擦の為不明	○	○					良	にぶい褐色	にぶい褐色	
第69図36	E8	1		土師器	甕	(17.8)	-	-	(3.5)	ナデ?(不明瞭)	ナデ	○	○					良	浅黄褐色	浅黄褐色	外面スス付着, 黒斑有り
第69図37	E8		54	土師器	甕	(17.2)	-	-	(7.0)	ナデ?・器面剥落有り	ナデ・ケズリ	○	○					良	褐色	浅黄褐色	
第69図38	E8	2		土師器	甕	(13.7)	(18.2)	-	(19.6)	ナデ・ハケ目	ナデ・ケズリ・指オサエ	○	○					良	灰黄色	淡黄褐色	
第69図39	F8			土師器	甕	-	-	-	(6.7)				○	○				良	褐色	褐色	
第69図40	F8			土師器	甕or甕	-	-	-	(5.4)	指オサエ・ナデ	ナデ?(磨耗の為不明瞭)	○	○					良	黒褐色	褐色	
第69図41	F8		54	須恵器	坏身	(13.0)	受部(15.2)	-	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ				○			良	灰色	灰色	スカシ2ヶ所残存
第69図42	F7		54	須恵器	坏	-	-	(8.2)	(1.2)	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ				○			良	灰白色	灰白色	
第69図43	D2			須恵器	瓶類	-	-	-	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ					○		良	灰色	灰色	
第69図44	F7		54	須恵器	高坏脚部	-	-	(7.8)	(4.1)	回転ナデ	回転ナデ				○			良	灰色	灰色	
第69図45	F8			土師質土器	皿	(9.4)	-	(8.0)	1.2	回転ナデ・回転糸切り	回転ナデ		○					良	黄褐色	黄褐色	
第69図46	E8			白磁	皿	-	-	-	(1.8)	-	-							-	灰色	灰色	傾き不確実
第69図47	F8		54	瓦質	羽釜	-	-	-	(3.7)	ナデ	ナデ		○	○				-	灰茶色	暗茶色	龍泉窯, 外面路胎, 線刻有り 鎗蓮弁, 龍泉窯
第69図48	E8		55	青磁	碗	-	-	-	(3.1)	-	-							-	濃緑色	濃緑色	
第69図49	F8		55	青磁	皿	-	-	(3.6)	(1.6)	-	-							-	青緑色	青緑色	
第69図50	F8		55	青磁	碗	-	-	-	(3.4)	-	-							-	青緑色	青緑色	
第69図51	F8			青磁	碗	-	-	(4.8)		-	-							-	黄緑色	黄緑色	同安窯?

第11表 出土土製品・石製品・玉類観察表

挿図番号	出土位置	写真図版	器種	長さ 厚さ (cm)	径・幅 (cm)	孔径 (cm)	重さ (g)	色調	備考
第75図1	24B堅	56	紡錘車	1.30	3.80	0.85	33.09	暗黒色	安山岩製
第75図2	F7	56	紡錘車	1.30	4.00	0.95	32.31	灰白色	滑石製
第75図3	3堅下層	56	紡錘車	1.90	4.90	0.70	23.64	浅黄色	土製
第75図4	4掘P3	56	紡錘車	1.00	-	-	6.81	灰白色	滑石製
第75図5	22堅	56	紡錘車	0.70	4.70	0.95	15.44	暗灰色	滑石製
第75図6	12堅	56	不明土製品	3.15	1.85	-	10.12	黄褐色	指押さえ痕有り
第75図7	9A堅	56	白玉	0.20	0.50	0.14	0.097	白色	碧玉製
第75図8	6堅	56	管玉	2.35	0.75	0.45	1.956	濃緑色	
第75図9	25堅	56	土錘	3.10	1.15	0.20	3.428	淡赤褐色	

第12表 出土石器観察表

挿図番号	写真 図版	出土地点等	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	備考
第71図1	55	2竪 P3	打製石鏃	腰岳産黒曜石	2.10	1.35	0.20	0.50	
第71図2	55	3竪 下層	打製石鏃	腰岳産黒曜石	2.80	1.40	0.45	1.07	
第71図3	55	23竪	打製石鏃	腰岳産黒曜石	1.85	1.25	0.30	0.47	
第71図4	55	一括	打製石鏃	腰岳産黒曜石	1.80	1.65	0.30	0.72	
第71図5	55	F8	剥片鏃	腰岳産黒曜石	1.40	1.30	0.30	0.44	
第71図6	55	23B竪 2	石庖丁	粘板岩	4.75	9.45	0.75	49.22	
第71図7	55	17A竪	石鏃	泥板岩	4.45	9.35	1.15	52.00	
第71図8	55	6B竪 6	横刃形石器	泥板岩	3.85	8.40	2.10	86.60	
第71図9	55	12竪	横刃形石器	泥板岩	3.80	4.85	0.60	13.90	
第71図10	55	3竪	横刃形石器	泥板岩	3.20	7.00	1.25	39.50	
第71図11	55	9A竪	横刃形石器	泥板岩	4.00	5.35	0.55	16.70	
第71図12	55	3竪 7	打製石斧	泥板岩	13.75	5.65	1.55	151.40	
第71図13	55	23B竪	打製石斧	泥板岩	5.35	2.90	0.60	12.58	
第71図14	55	22竪	打製石斧	泥板岩	4.50	5.35	1.00	31.25	
第71図15	55	3竪 9	打製石斧	泥板岩	9.40	6.60	1.05	76.80	
第71図16	55	21竪	磨製石斧	緑色片状岩	8.85	4.45	1.55	103.70	
第71図17	55	21竪 3	磨製石斧	緑質(or砂質)片岩	(10.50)	(5.40)	(3.70)	286.60	
第71図18	55	14竪 1	砥石	石英粗面岩	5.80	4.80	2.70	91.80	
第71図19	55	20竪	砥石	石英粗面岩	5.65	2.55	2.30	41.44	
第72図1	55	F7	スクレイパー	腰岳産黒曜石	2.35	1.85	1.10	2.68	
第72図2	55	22竪	スクレイパー	腰岳産黒曜石	3.40	2.35	0.85	3.37	
第72図3	55	12竪	スクレイパー	石英粗面岩	3.55	3.80	1.90	20.72	
第72図4	55	9A竪	スクレイパー	腰岳産黒曜石	2.55	2.00	0.95	4.84	
第72図5	55	F8	スクレイパー	腰岳産黒曜石	2.55	2.45	0.75	3.60	
第72図6	55	E3 P8	スクレイパー	腰岳産黒曜石	3.75	1.70	1.00	4.59	
第72図7	55	22C竪	スクレイパー	腰岳産黒曜石	3.20	1.65	0.80	3.11	
第72図8	56	12竪	二次加工剥片	姫島産黒曜石	2.45	1.60	0.40	1.41	
第72図9	56	9A竪	使用痕剥片	硅質岩	3.55	3.20	1.15	8.14	
第72図10	56	2竪	二次加工剥片	サヌカイト	4.20	3.20	1.30	17.34	
第72図11	56	23C竪 カマト	楔形石器?	腰岳産黒曜石	1.95	1.45	0.35	0.92	
第72図12	56	23A竪	二次加工剥片	腰岳産黒曜石	3.35	1.95	0.90	4.72	
第72図13	56	6竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	1.80	2.35	0.60	1.72	
第72図14	56	23B竪 カマト	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	2.10	2.55	0.60	2.08	
第72図15	56	6B竪	二次加工剥片	姫島産黒曜石	3.35	3.50	1.10	10.47	
第72図16	56	24B竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	2.00	2.35	0.80	3.32	
第72図17	56	21竪	二次加工剥片	腰岳産黒曜石	2.45	1.75	1.05	3.25	
第72図18	56	10竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	2.65	1.90	0.55	2.04	
第72図19	56	B3 P2	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	1.80	1.65	0.55	1.14	
第72図20	56	6土	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	2.55	2.45	1.10	4.05	
第72図21	56	4竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	3.85	4.55	0.80	7.64	
第73図1	56	一括	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	3.55	1.90	0.80	3.98	
第73図2	56	22竪	楔形石器?	腰岳産黒曜石	2.35	1.80	0.60	1.95	
第73図3	56	22B竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	3.15	2.10	0.70	3.30	
第73図4	56	23竪	原石	黒曜石	3.00	1.95	1.50	9.23	
第73図5	56	24竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	1.85	2.45	0.75	2.26	
第73図6	56	25竪	スクレイパー	腰岳産黒曜石	2.15	2.45	0.90	3.85	
第73図7	56	23A竪	楔形石器?	姫島産黒曜石	3.00	2.00	0.70	3.79	
第73図8	56	3竪 下層	使用痕剥片	黒曜石	2.55	1.70	0.70	2.51	
第73図9	56	3竪 上層	剥片	小国産?黒曜石	1.75	0.25	0.40	0.72	
第73図10	56	F7 P5	使用痕剥片	サヌカイト	2.05	2.10	0.65	2.92	
第73図11	56	9A竪	剥片類	腰岳産黒曜石	2.60	1.20	0.50	0.95	
第73図12	56	22竪	剥片類	腰岳産黒曜石	2.20	2.20	0.80	2.07	
第73図13	56	3竪	剥片類	サヌカイト	3.15	4.35	0.70	6.85	
第73図14	56	12竪	剥片類	安山岩	1.85	2.00	0.50	1.58	
第73図15	56	9A竪	剥片類	腰岳産黒曜石	2.00	0.80	1.00	0.96	
第73図16	56	22竪	剥片類	腰岳産黒曜石	1.45	2.05	0.85	1.70	
第73図17	56	12竪	剥片類	サヌカイト	1.85	2.35	0.60	2.00	
第73図18	56	22竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	1.40	2.25	0.60	1.48	
第73図19	56	23A竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	2.25	1.80	0.65	2.09	
第73図20	56	22竪	二次加工剥片	ハリ質安山岩	2.05	1.75	0.50	1.58	
第73図21	56	25竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	1.65	2.00	0.55	2.18	
第73図22	56	23A竪	二次加工剥片	ハリ質安山岩	2.80	2.60	0.70	3.35	
第73図23	56	23B竪	二次加工剥片	姫島産黒曜石	3.95	2.65	1.00	7.68	
第73図24	56	F8	二次加工剥片	腰岳産黒曜石	1.60	1.35	0.65	1.20	
第73図25	56	21竪	楔形石器?	腰岳産黒曜石	1.95	2.15	0.65	2.03	
第73図26	56	20竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	1.65	1.45	0.45	0.63	
第73図27	56	3竪	使用痕剥片	姫島産黒曜石	1.95	2.10	0.65	2.27	
第73図28	56	22B竪 カマト	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	2.65	1.85	0.75	2.32	
第74図1	56	6B竪	剥片類	姫島産黒曜石	4.10	2.80	10.05	8.01	
第74図2	56	11竪	楔形石器?	サヌカイト	2.50	3.50	0.55	4.95	
第74図3	56	17A竪	使用痕剥片	姫島産黒曜石	2.30	2.00	0.70	2.16	
第74図4	56	9A竪	使用痕剥片?	石英	2.50	2.55	1.15	6.91	
第74図5	56	6竪	使用痕剥片	ハリ質安山岩	2.50	3.30	1.25	6.74	
第74図6	56	20竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	2.80	1.90	0.95	3.05	
第74図7	56	20竪	剥片類	玉髄	2.85	3.30	0.70	5.53	
第74図8	56	3土	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	2.45	2.60	0.70	2.87	
第74図9	56	18B竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	1.80	2.00	0.60	1.70	
第74図10	56	E2 P5	二次加工剥片	サヌカイト	3.95	2.80	1.10	9.45	
第74図11	56	26竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	2.40	3.00	1.50	6.64	
第74図12	56	12竪	二次加工剥片	姫島産黒曜石	1.85	1.20	0.55	0.92	
第74図13	56	23A竪	使用痕剥片	姫島産黒曜石	1.55	1.05	0.45	0.35	
第74図14	56	2竪	使用痕剥片	腰岳産黒曜石	1.55	0.70	0.35	0.22	



A地点調査区全景（南から）



調査区全景（北東から）



1号竪穴建物跡発掘状況（東から）



3号竪穴建物跡発掘状況（西から）



3号竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



3号竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



3号竪穴建物跡遺物出土状況

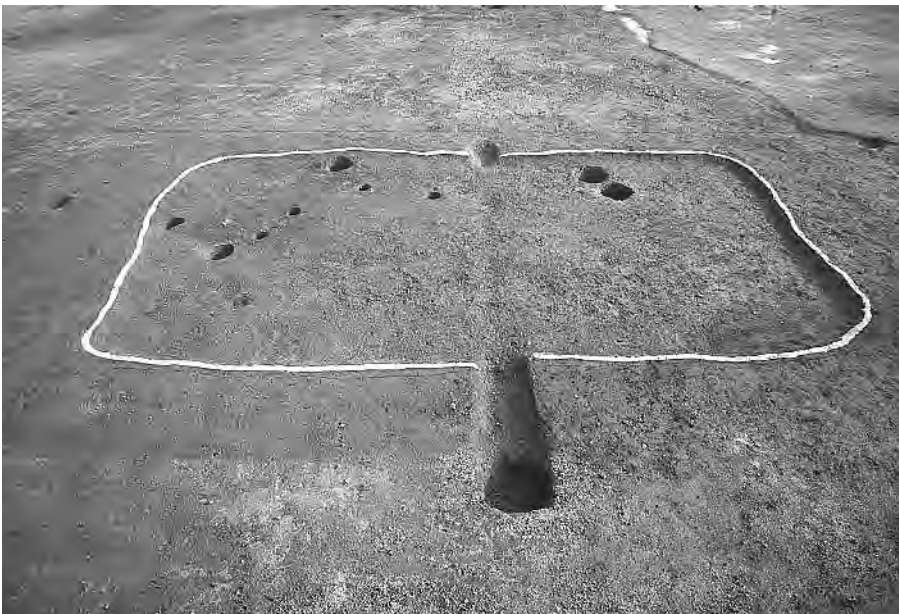


4号竪穴建物跡発掘状況（南から）

写真図版 4



4号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）



5号竪穴建物跡発掘状況（北から）



5号竪穴建物跡遺物出土状況



6号A B 竪穴建物跡
発掘状況（南から）



6号A 竪穴建物跡遺物出土状況



6号B 竪穴建物跡発掘状況（東から）



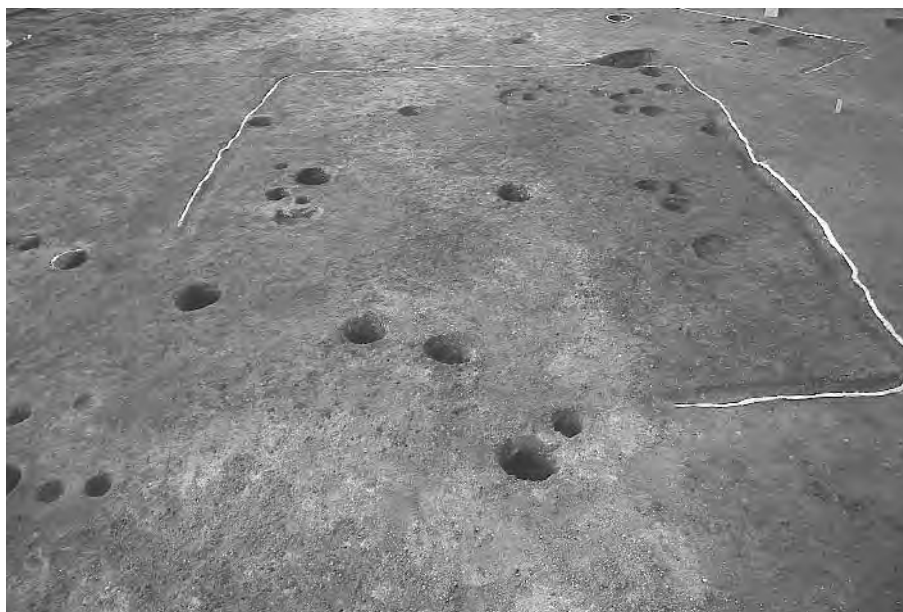
7号竪穴建物跡発掘状況（南西から）



7号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南西から）



7号竪穴建物跡遺物出土状況



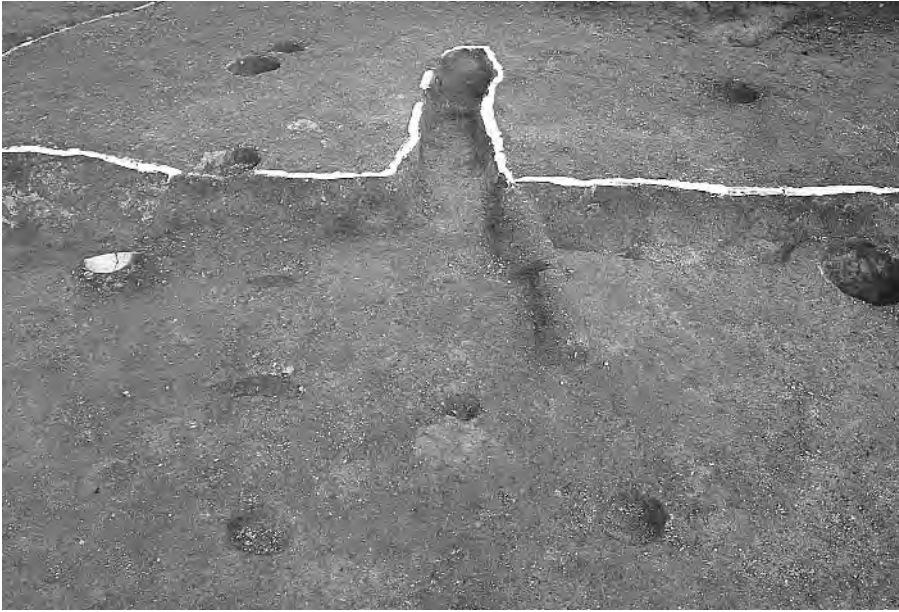
8号竪穴建物跡完掘状況（南から）



8号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）



9号A竪穴建物跡発掘状況（西から）



9号A 竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



9号A 竪穴建物跡遺物出土状況



9号B 竪穴建物跡発掘状況（東から）



10号竪穴建物跡発掘状況（西から）



10号竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



10号竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



10号竪穴建物跡遺物出土状況



11号竪穴建物跡発掘状況（南から）



11号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）



11号竪穴建物跡
カマド遺物出土状況



12号竪穴建物跡発掘状況（南から）



12号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）



12号竪穴建物跡遺物出土状況



13号竪穴建物跡発掘状況（南西から）



13号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南西から）



13号竪穴建物跡遺物出土状況



14号竪穴建物跡発掘状況（南西から）



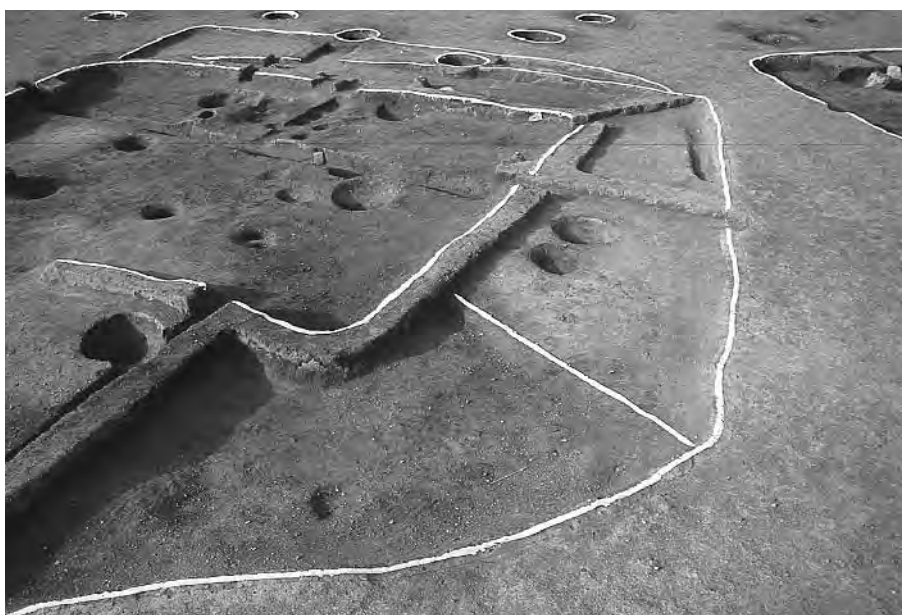
14号竪穴建物跡遺物出土状況



16号竪穴建物跡発掘状況（南東から）



16号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南東から）



17号A B C竪穴建物跡
発掘状況（南東から）



17号 A B C 竪穴建物跡
発掘状況（南から）



17号 A 竪穴建物跡
カマド発掘状況（南西から）



17号 B 竪穴建物跡
カマド遺物出土状況



18号A 竪穴建物跡発掘状況（南から）



18号A 竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）



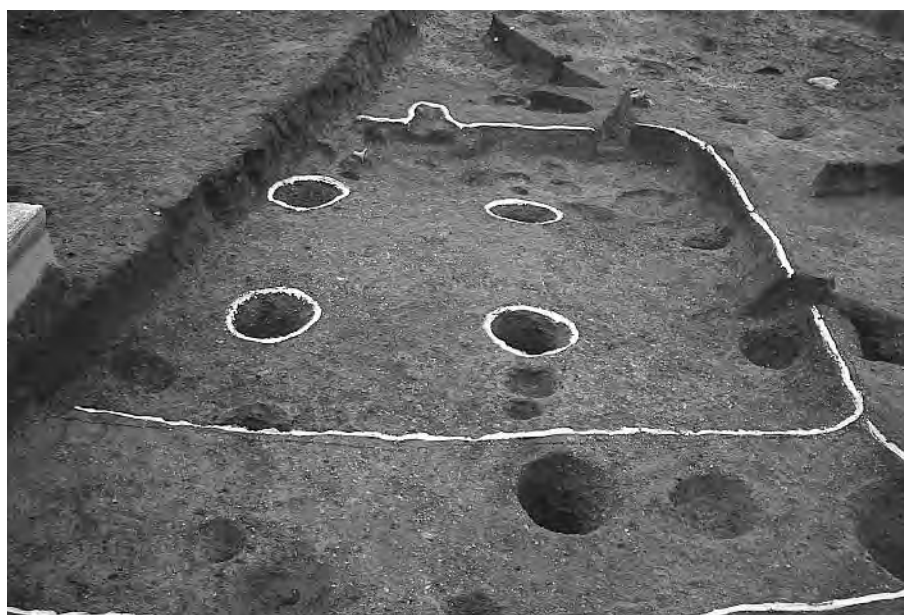
18号A 竪穴建物跡遺物出土状況



18号B 竪穴建物跡発掘状況（西から）



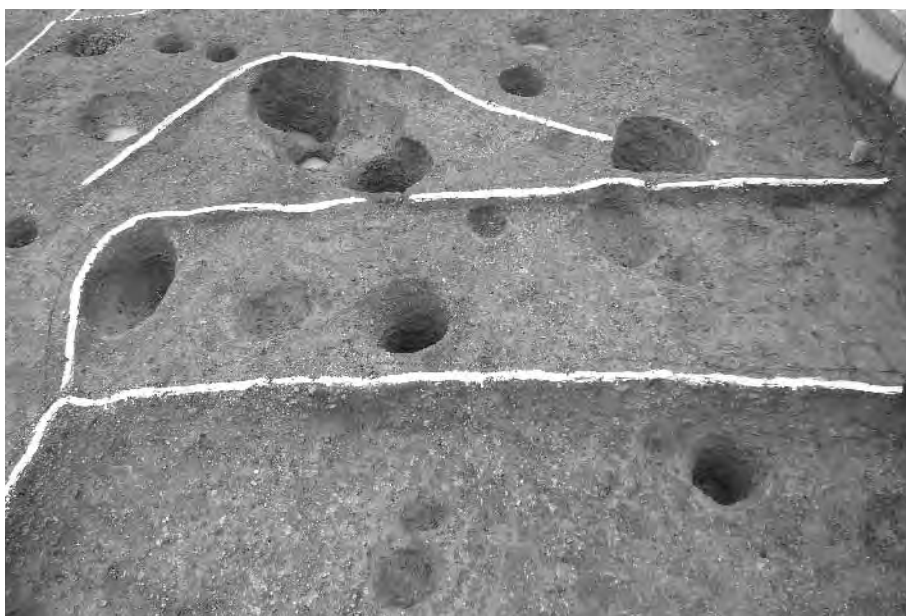
18号C 竪穴建物跡発掘状況（東から）



19号A B C 竪穴建物跡
発掘状況（西から）



19号A 竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



19号B C 竪穴建物跡発掘状況（東から）



20号 竪穴建物跡発掘状況（北から）



21号竪穴建物跡発掘状況（南から）



21号竪穴建物跡遺物出土状況



21号竪穴建物跡カマド
発掘状況（南から）



21号竪穴建物跡
カマド遺物出土状況（南から）



22号A竪穴建物跡発掘状況（南から）



22号A竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）



22号 A 竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）



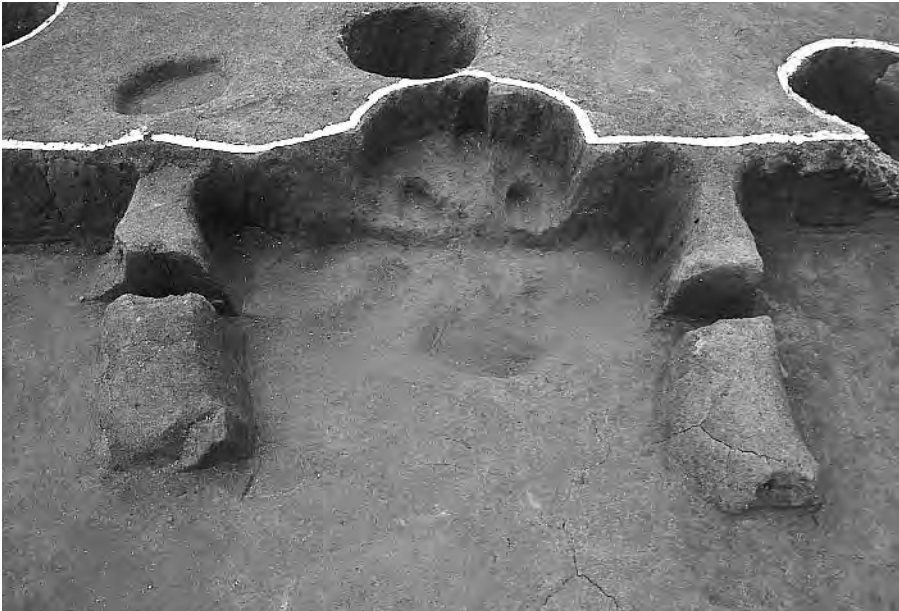
22号 B 竪穴建物跡発掘状況（南から）



22号 B 竪穴建物跡カマド
遺物出土状況



22号C 竪穴建物跡発掘状況（東から）



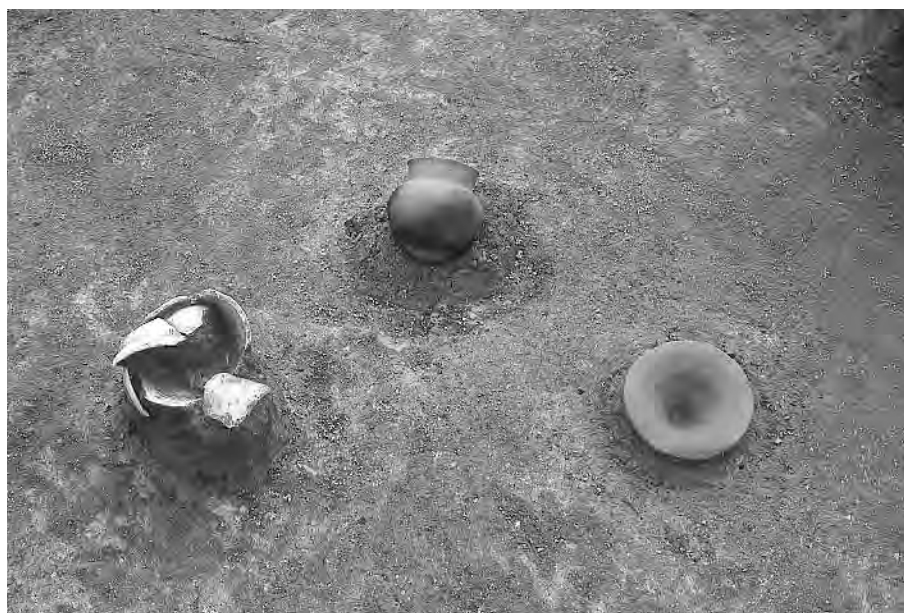
22号C 竪穴建物跡
カマド発掘状況（東から）



22号D 竪穴建物跡発掘状況（西から）



23号A 竪穴建物跡発掘状況（南から）



23号A 竪穴建物跡遺物出土状況



23号B 竪穴建物跡発掘状況（西から）



23号B 竪穴建物跡
カマド発掘状況（西から）



23号B 竪穴建物跡
カマド遺物出土状況



23号C 竪穴建物跡発掘状況（南から）

23号C 竪穴建物跡遺物出土状況



23号C 竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）

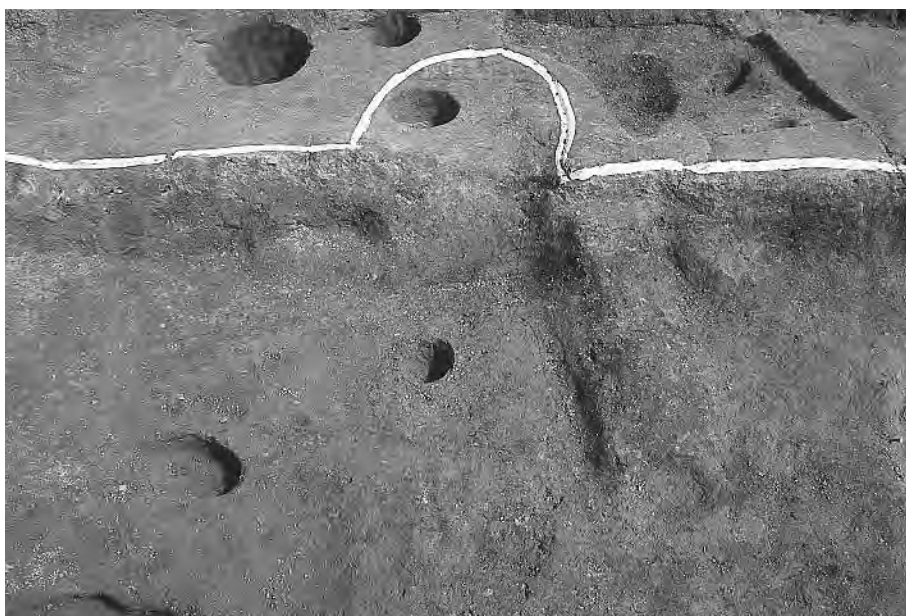


23号C 竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）





24号A 竪穴建物跡発掘状況（北西から）



24号A 竪穴建物跡
カマド発掘状況（北西から）



24号A 竪穴建物跡遺物出土状況



24号A B 竪穴建物跡
発掘状況（南東から）



24号B 竪穴建物跡
カマド遺物出土状況



25号竪穴建物跡発掘状況（南から）



26号竪穴建物跡発掘状況（南から）



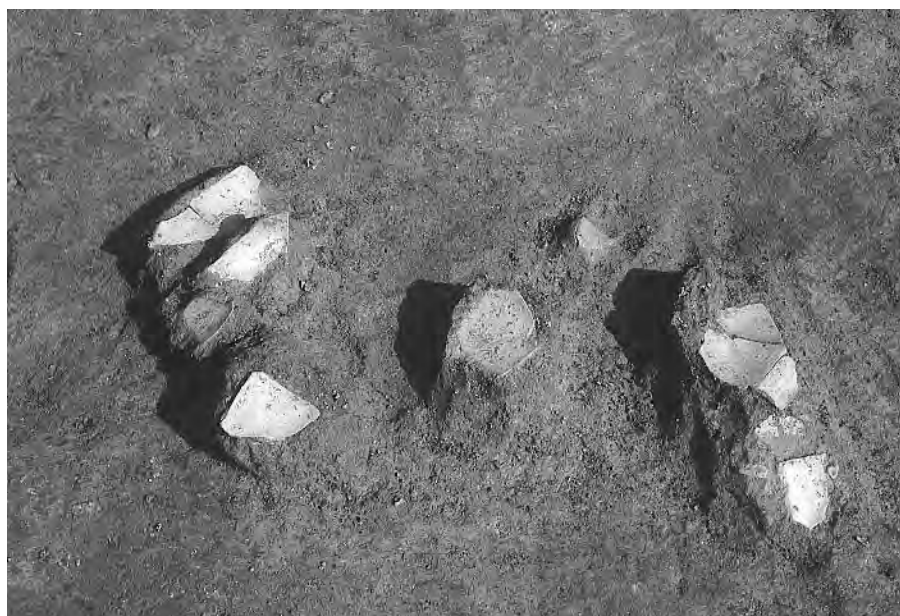
26号竪穴建物跡
カマド発掘状況（南から）



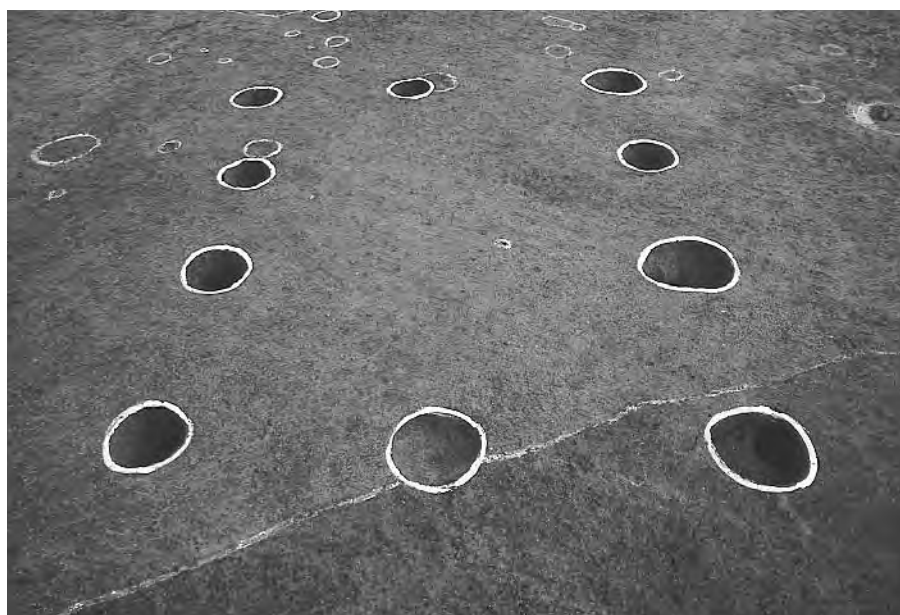
26号竪穴建物跡
カマド遺物出土状況



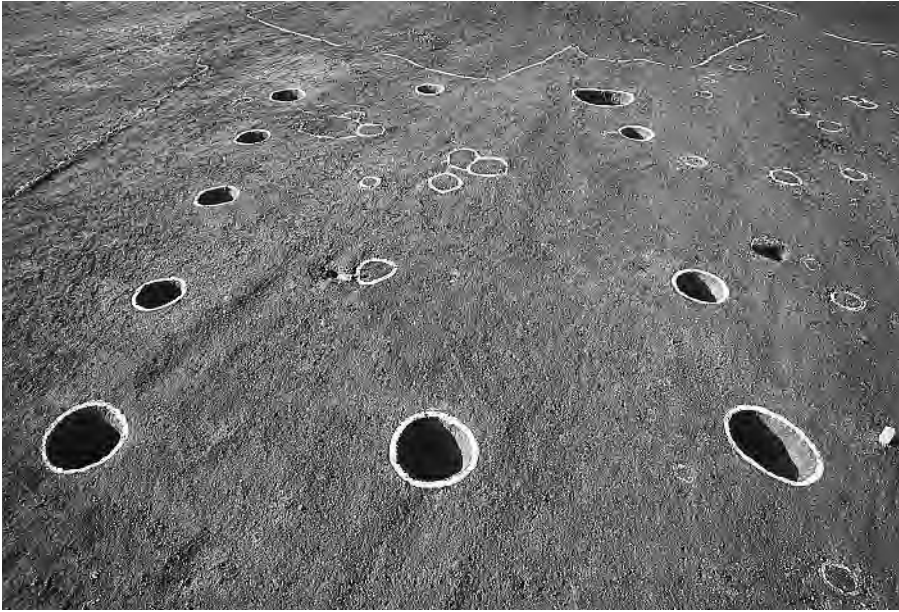
27号竪穴建物跡発掘状況（西から）



27号竪穴建物跡遺物出土状況



1号掘立柱建物跡発掘状況（南西から）



2号掘立柱建物跡発掘状況（南東から）



3号掘立柱建物跡発掘状況（南西から）



4号掘立柱建物跡発掘状況（東から）



5号掘立柱建物跡発掘状況（南から）



1号土坑発掘状況（北から）



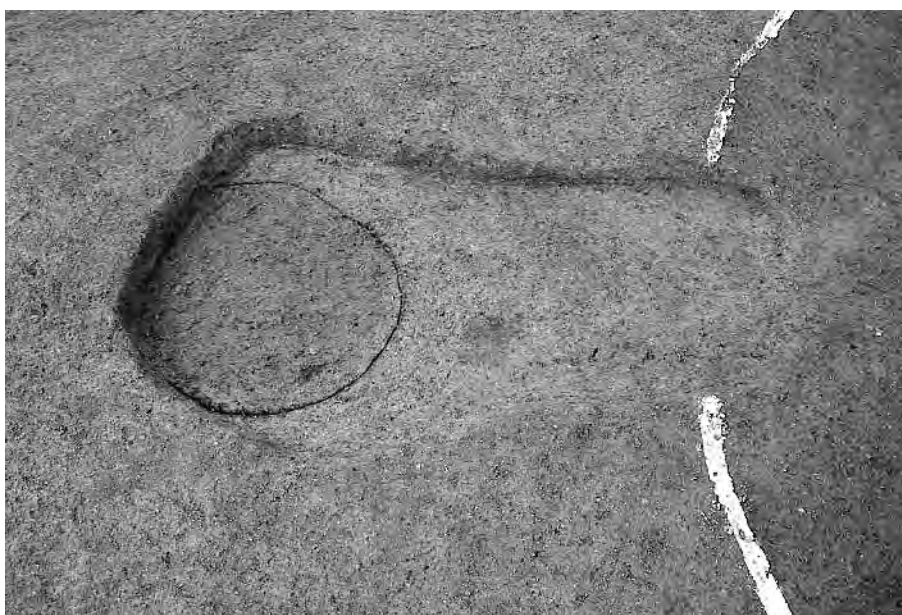
2号土坑発掘状況（南東から）



3号土坑発掘状況（東から）



4号土坑発掘状況（南西から）



5号土坑発掘状況（北東から）



6号土坑発掘状況（南から）



7号土坑発掘状況（東から）



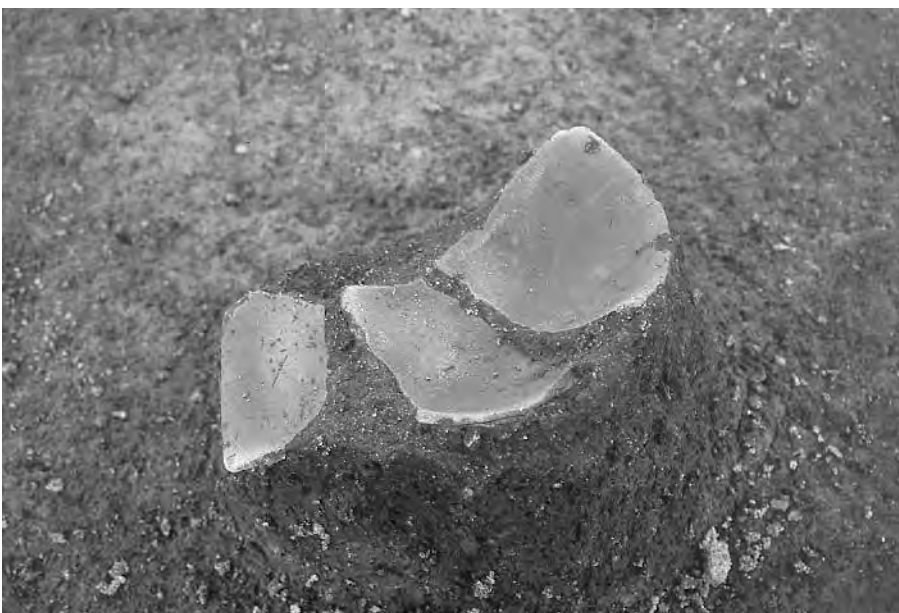
8号土坑発掘状況（東から）



9号土坑発掘状況（東から）



10号土坑発掘状況（北から）



10号土坑遺物出土状況

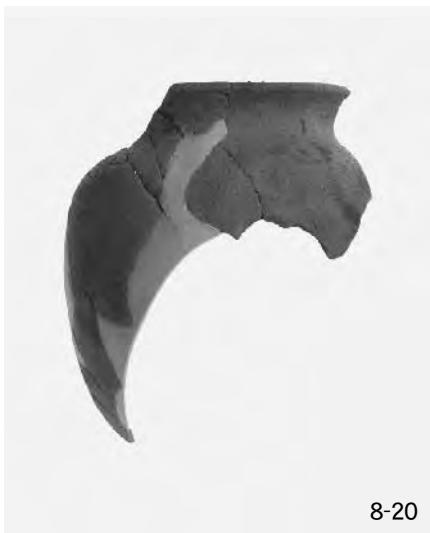


11号土坑発掘状況（北から）



B地点全景（西から）





8-20



8-21



8-22



8-23



8-24



9-1



9-2



9-5



9-6



9-11



9-21



9-7



9-15

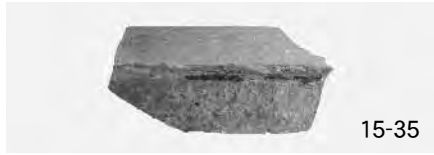
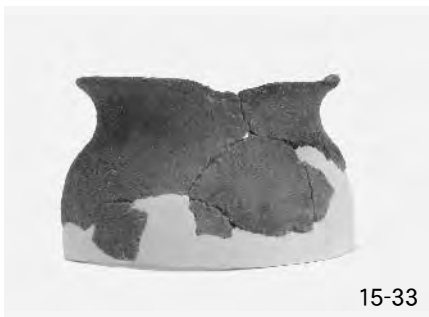
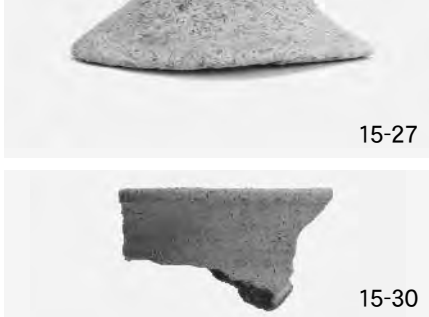


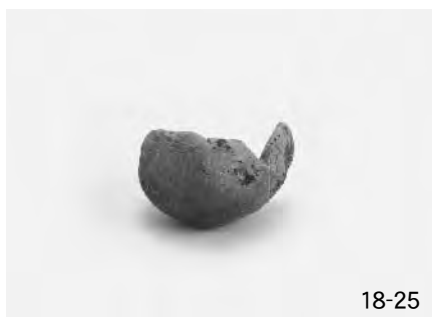
9-17



9-21

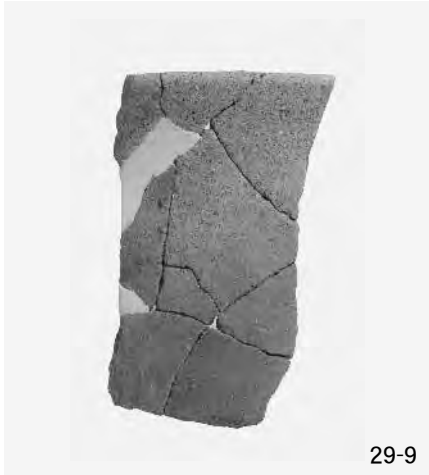








写真图版42





29-32



29-40



29-41



31-6



31-5



31-11



31-14



31-13



31-15



31-16



31-20



31-20



31-21



31-22



31-25



31-23



31-26

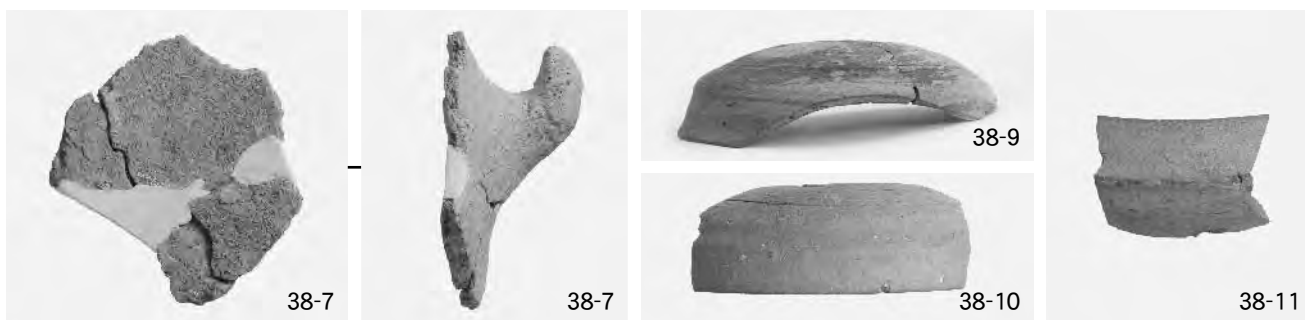
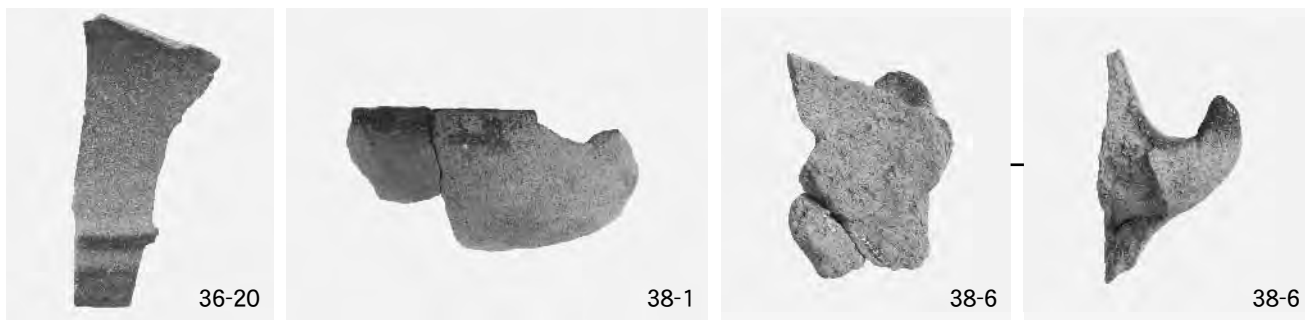


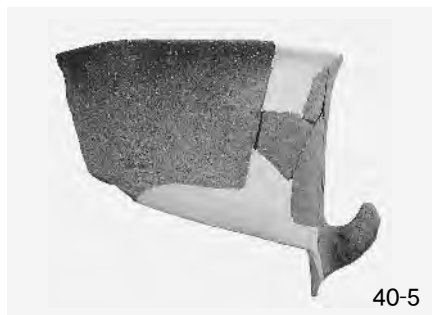
31-24



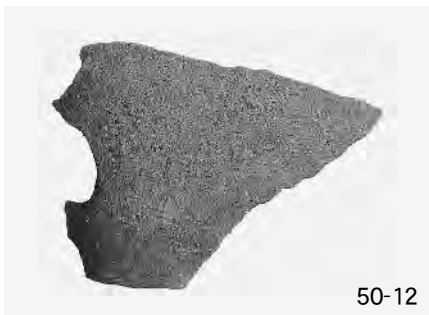
31-27

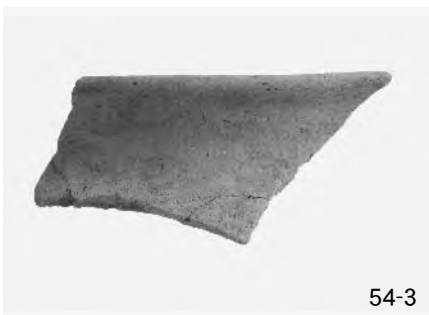
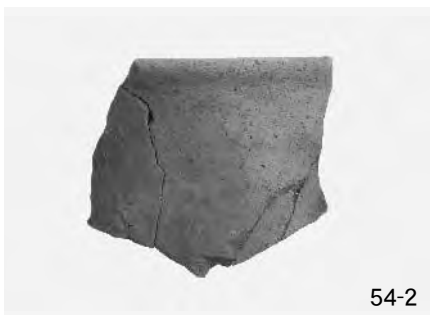
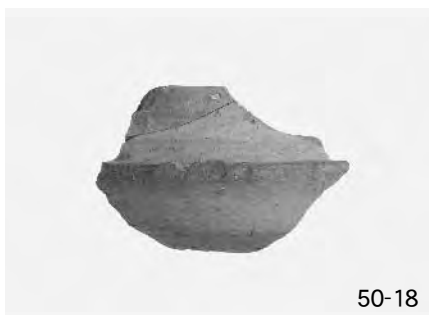






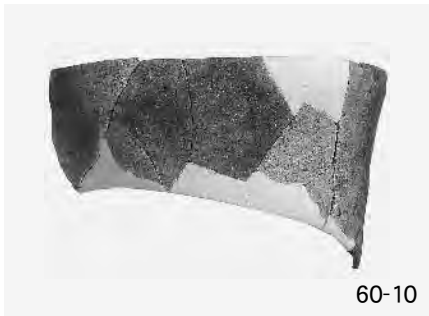
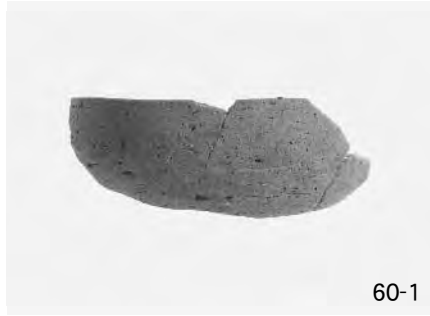
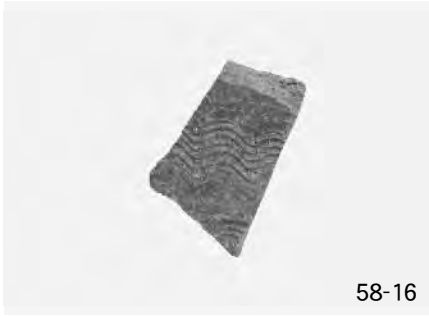


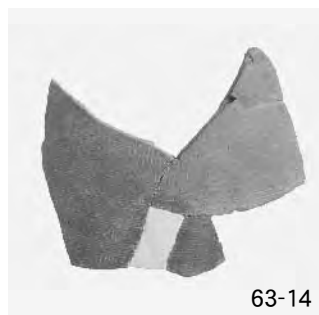
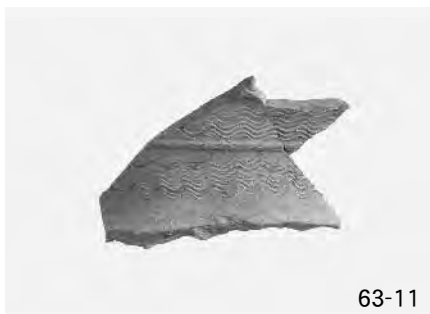
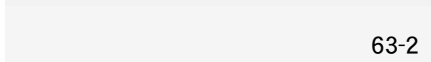
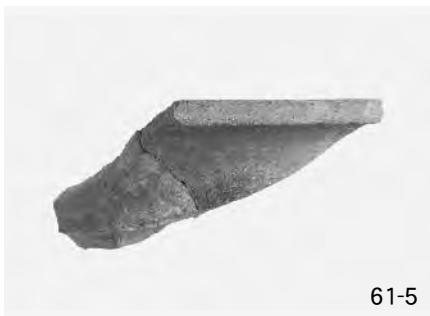














69-12



69-17



69-18



69-20



69-21



69-27



69-23



69-26



69-24



69-25



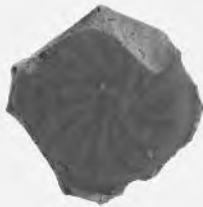
69-30



69-28



69-29



69-31



69-37



69-39



69-38



69-40



69-41



69-44



69-47



69-42



69-48



69-49



69-50



70-1



70-2



70-3



70-4



70-5



70-6



70-7



70-8



70-9



71-1



71-2



71-3



71-4



71-5



71-6



71-7



71-8



71-9



71-10

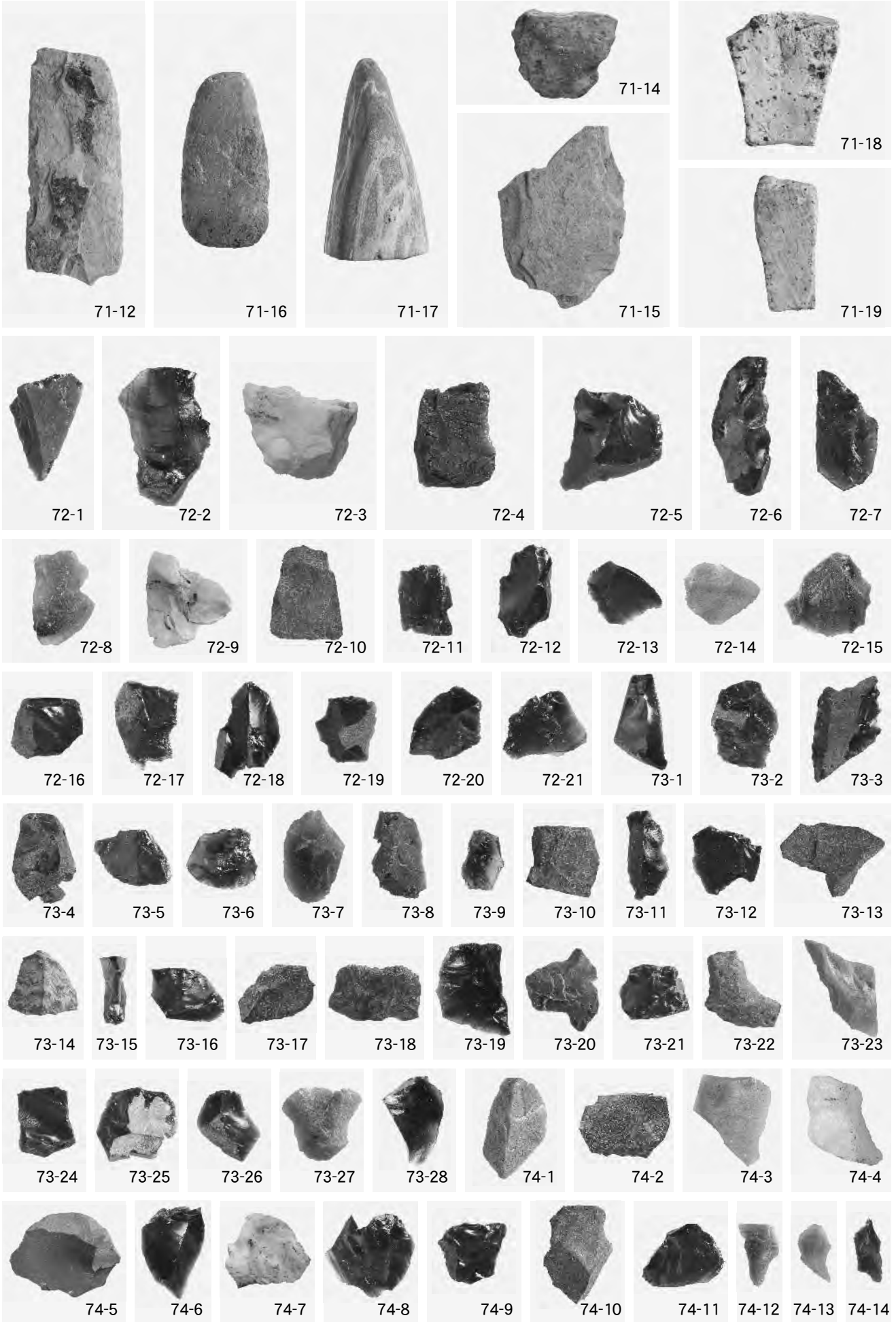


71-11



71-13

写真图版56



報告書抄録

ふりがな	くくりのいせき4 くくりひらしまいせき4じのちょうさ
書名	求来里の遺跡IV 求来里平島遺跡4次の調査
副書名	県営経営体育成基盤整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	(4)
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第102集
編著者名	若杉竜太
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-0077 日田市南友田町516-1 0973(24)7171
発行年月日	2012年3月21日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くくりひらしまいせき 求来里平島遺跡 4次	おおいたけんひたし 大分県日田市 おおあざくくり 大字求来里 あざちやくく 字着来	44204-6	204194	33° 18' 43"	130° 58' 2"	20051121 ～ 20060324	A 地点 2,845 m ² B 地点 608 m ²	圃場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
求来里平島遺跡 4次	集落	古墳 中世	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 土坑	土師器・須恵器 石器（石鏃、石鎌等） 紡錘車・土錘 管玉・小玉	日田盆地内では、 初例となる黒色 処理を施した土 師器坏が出土。

要約	<p>遺跡は日田盆地東部を流れる求来里川左岸の沖積地上に位置する。今回の調査では古墳時代中期～後期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡から構成される集落が確認された。これらの建物跡からは、須恵器や土師器が出土したが、中でも模倣坏といわれる土師器坏が多数見られ、特に黒色処理を施した坏については、日田盆地では初例となるものであり、注目される。</p> <p>本遺跡では古墳時代後期に集落規模の最大期を迎えるが、求来里川流域では、弥生時代中期から古墳時代後期にかけて、ほぼ継続的に集落が営まれていたことが判明しており、小地域での集落展開を考える上では興味深い地域といえる。</p> <p>また、小規模ではあるが、中世の建物やピットが確認されており、市内の他の中世期の遺跡との関連を考えていく必要がある。</p>
----	--

求来里の遺跡Ⅳ

—求来里平島遺跡 4 次の調査—

2012年 3月21日

編 集 日田市教育庁文化財保護課
〒877-0077 大分県日田市南友田町516-1

発 行 日田市教育委員会
〒877-8601 大分県日田市田島 2-6-1

印 刷 尾花印刷株式会社
〒877-0026 大分県日田市田島本町 8-8



日 田 市